

ニジェール国  
中等教育省  
初等教育・識字・国語推進・市民教育省

ニジェール国  
みんなの学校：  
住民参加による教育開発プロジェクト  
フェーズ2（第2期）  
事業完了報告書

令和3年6月  
(2021年)

独立行政法人  
国際協力機構（JICA）

アスカ・ワールド・コンサルタント株式会社  
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構

人間
JR
21-024

# 目次

地図

写真

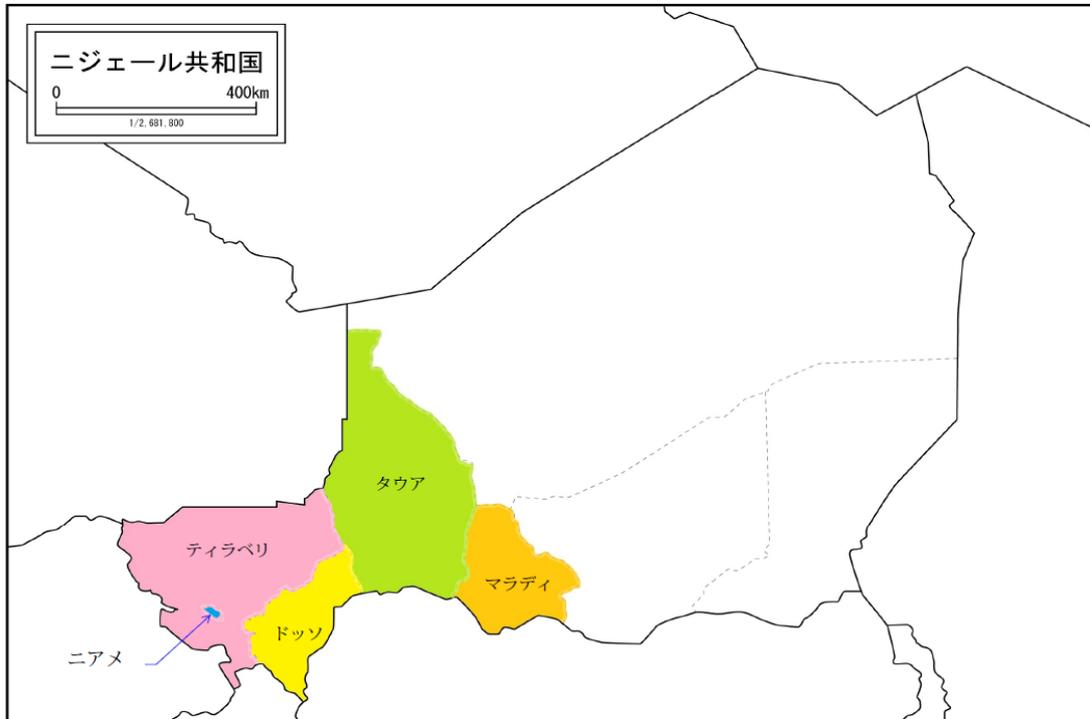
略語表

1. プロジェクトの概要（背景・経緯・目的） .....	1
1.1 プロジェクトの背景・経緯 .....	1
1.2 プロジェクトの目的 .....	2
2. プロジェクト活動内容（業務フローチャートに沿って記述） .....	3
2.1 全体に係る業務 .....	3
2.1.1 ワークプランの作成 .....	3
2.1.2 ワークプランの説明・協議 .....	3
2.1.3 開発パートナー等とのワークプランの共有 .....	3
2.1.4 プロジェクト実施体制の整備（関係者の職務、役割分担の明確化） .....	4
2.1.5 プロジェクト実施に必要な機材の調達及び管理 .....	5
2.1.6 ベースライン調査の実施、プロジェクト開始時の現状及び課題の把握 .....	5
2.1.7 エンドライン調査の実施（ミッドライン調査含む） .....	6
2.1.8 プロジェクト進捗報告書・プロジェクト事業完了報告書の作成・協議等 .....	6
2.1.9 プロジェクト終了に向けたマニュアルや機材の引き渡し .....	6
2.1.10 その他の全体に係る業務 .....	7
2.2 【成果1に係る業務】 COGES-ES の普及に係る活動 .....	14
2.2.1 詳細計画の策定（活動 1-1）、ベースライン調査の実施（活動 1-2） .....	14
2.2.2 研修マニュアル及びガイドの策定 .....	15
2.2.3 各種研修の実施 .....	15
2.2.4 モニタリング体制の整備 .....	18
2.2.5 エンドライン調査の実施、戦略・政策の策定 .....	22
2.3 【成果2に係る業務】 質のミニマム・パッケージの普及に係る活動 .....	36
2.3.1 研修マニュアル及びガイドの改訂（活動 2-1） .....	37
2.3.2 ベースライン調査の実施（活動 2-2） .....	38
2.3.3 各種研修の実施支援 .....	41
2.3.4 統合された質のミニマム・パッケージの開発 .....	47
2.3.5 エンドライン調査の実施、戦略・政策の策定 .....	55

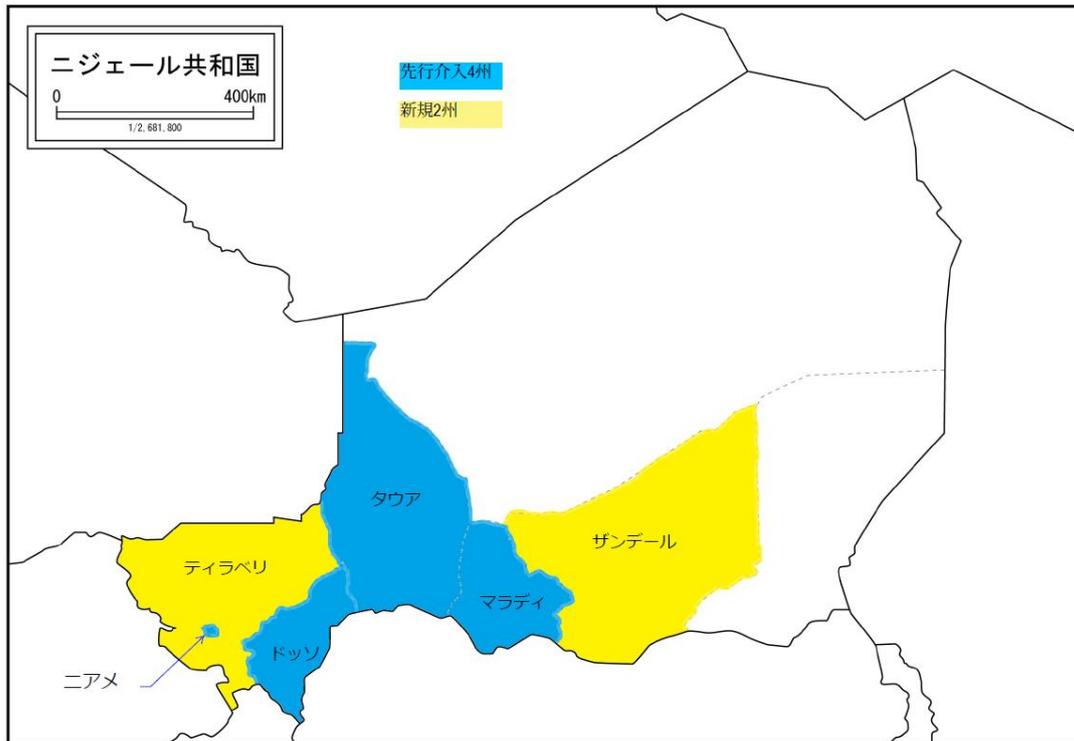
3. プロジェクト実施運営上の課題・工夫・教訓（業務実施方法、運営体制等） .....	64
3.1 安全対策措置下のプロジェクト運営管理・活動進捗.....	64
3.2 PDM の枠組みを超えたプロジェクト目標達成、成果拡大への努力とその評価体制	64
3.3 外部資金の活用及び他の開発協力機関との連携 .....	65
3.4 カウンターパート省による費用負担の未執行.....	66
3.5 女子就学促進モデルの開発に係る取り組み .....	66
4. プロジェクト目標の達成度 .....	67
4.1 プロジェクト目標全般について.....	67
4.2 指標 1: プロジェクト対象地域の 80%の前期中等学校において、学校運営委員会によ って策定された学校活動計画が実施される .....	67
4.3 指標 2: プロジェクト対象地域の 80%の COGES-ES 連合が活動計画を実施する。	67
4.4 指標 3: プロジェクト対象地域の 80%の小学校において、学校運営委員会によって策 定された質のミニマム・パッケージに基づく活動計画が実施される。 .....	68
4.5 指標 4: 70%以上の学校において、補習活動が 150 時間以上実施される。 .....	68
4.6 指標 5: 70%以上の学校において、女子と男子の補習活動への出席率が 80%以上とな る。 .....	69
4.7 指標 6-1: 60%の 2 年生（CP）児童がプロジェクトが開発した算数テストで 50%以上 の点数を得る。 .....	69
4.8 指標 6-2: 70%の 4 年生（CE2）児童がプロジェクトが開発した算数テストで 50%以上 の点数を得る。 .....	69
4.9 指標 6-3: 60%の 2 年生（CP）児童がプロジェクトが開発した識字（読み書き）テス トで 50%以上の点数を得る。 .....	69
4.10 指標 6-4: 70%の 4 年生（CE2）児童がプロジェクトが開発した識字（読み書き）テ ストで 50%以上の点数を得る。 .....	70
5. 上位目標の達成に向けての提言 .....	70
6. 添付資料.....	73

## 地図

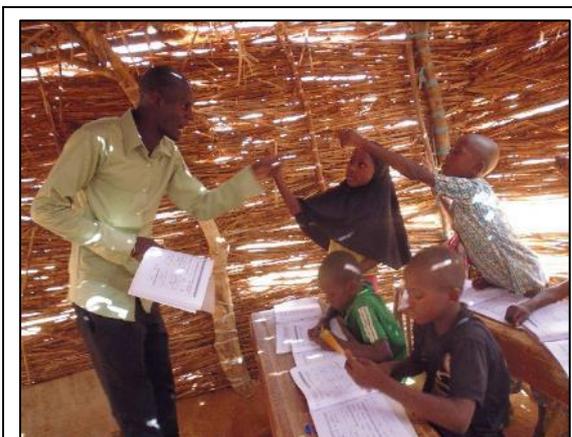
初等分野対象地域：5州（ティラベリ州、マラディ州、タウア州、ドゥソ州、ニアメ市全域）



中等分野対象地域：6州（タウア州、ドゥソ州、ニアメ市、マラディ州、ティラベリ州、ザンデル州）内



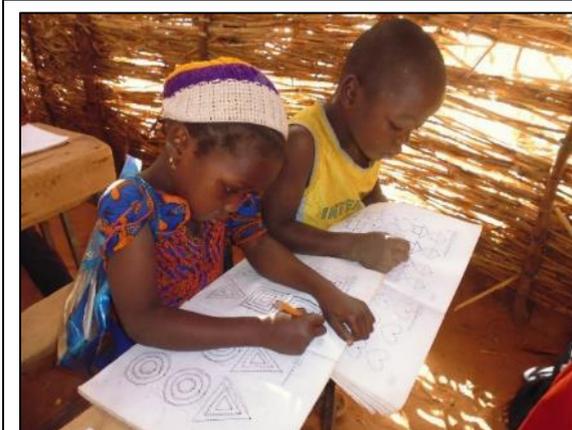
## 写真



【初等】質のミニマム・パッケージ（読み書き）活動（2016/2017 学年度読み書きモデルパイロット）



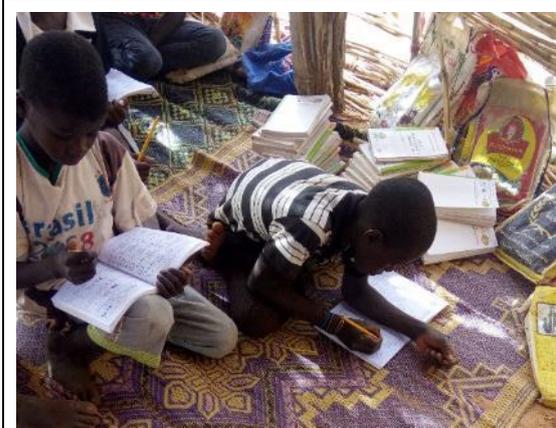
【中等】活動計画策定・リソース管理研修グループワーク（2017年ドッソ州）



【初等】質のミニマム・パッケージ（算数）活動（2017/2018 学年度読み書き・算数統合型モデルパイロット）



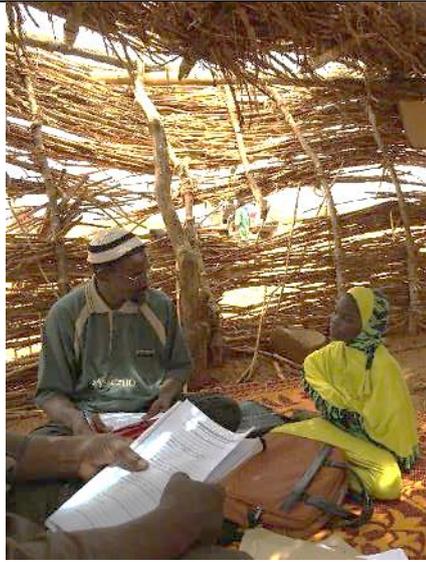
【中等】中等 COGES 連合設置・連合事務局メンバー選挙総会



【初等】ティラベリ州質のミニマム・パッケージ（算数）3500校普及（2018年）



【初等】インド NGO Pratham TaRL アプローチ研修・実習活動（2018年8月）



【初等】PMAQ 統合モデルパイロット活動にかかる聞き取り調査の様子 (2017年6月)



【中等】「機能する中等 COGES」モデル・計画策定・リソース管理・中等 COGES 連合設置現場研修 グループワークの様子 (2019年ティラベリ州)



【初等】PMAQ 統合モデルパイロット活動 読みの活動の様子 (2019年ティラベリ州)



【中等】ニアメ中等 COGES 連合総会 (2019年)



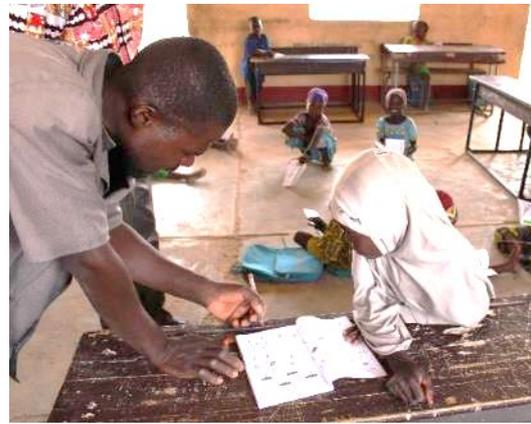
【初等】PMAQ（読み書き・算数）統合モデルパイロット活動（2019年ティラベリ州）



【初等】女子就学促進「全国8州教育フォーラムキックオフセミナー」開会式（2019年）



【初等】「学力向上プログラム」へのPMAQ統合にかかる教員研修の様子（2020年タウア）



【初等】算数副教材を使用した補習活動の様子（2021年マラディ州）



【初等】マラディ州CGDES代表に対する活動計画策定に係る研修(2021年)



【中等】ザンデール州教育フォーラム開催の様子（2021年ザンデール州）

## 略語表

略語	正式名称	日本語
AG	Assemblée Générale dans une communauté	住民集会
ASER	Annual Status of Education Report	年次教育状況報告書 (NGO プラサムによる年次調査名)
CA/ER	Cours d'Appui et Exercices de Remédiation	補習活動
CEA	Centre d'Éducation Alternative	オルタナティブ教育センター
CGDES	Comité de Gestion Décentralisée des Etablissements Scolaires	(初等) 学校運営委員会
COGES または COGES-ES	Comité de Gestion des Etablissements Scolaires d'Enseignement Secondaire	中等学校運営委員会
C/P	Counterpart	カウンターパート
DAGE	Direction d'Appui à la Gestion de l'Ecole	(初等) 学校運営支援局
DAGESS	Direction d'Appui à la Gestion des Etablissements Scolaires du Secondaire	中等学校運営支援局
DDEP/A/PLN/EC (DDEP)	Direction Départementale de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues nationales et de l'Education Civique	県初等教育・識字・国語推進・市民教育事務所
DDES	Direction Départementale de l'Enseignement Secondaire	県中等教育事務所
DGDE	Division Gestion Décentralisée de l'Ecole	(初等) 学校分権化課
DGDES	Division de Gestion Décentralisée des Etablissements Secondaires	中等学校分権化課
DPC/SS/EE	Direction de la Participation Communautaire, de la Santé Scolaire et de l'Education Environnementale	コミュニティ参加、学校保健、環境教育局
DREP/A/PLN/EC (DREP)	Direction Régionale de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues nationales et de l'Education Civique	州初等教育・識字・国語推進・市民教育事務所
DRES	Direction Régionale de l'Enseignement Secondaire	州中等教育事務所
FCC	Fédération Communale des CGDES	CGDES 連合
FDC	Fédération Départementale des COGES-ES	中等 COGES 連合
FCFA	Franco de la Communauté Financière Africaine	セーファーフラン (ニジェール通貨単位)
GDE	Gestion Décentralisée des Etablissements	学校分権化
GPE	Global Partnership for Education	教育のためのグローバルパートナーシップ

IESFA	Inspection de l'Enseignement Secondaire Franco-Arabe	中等教育フランコアラブ視学官事務所
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
J-PAL	The Abdul Latif Jameel Poverty Action Lab	アブドゥルラティフジャミール貧困アクションラボ（団体名）（固有名詞）
LIRE	Learning Improvement for Results in Education	（世銀プロジェクト名）
MEP/A/PLN/EC (MEP)	Ministère de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique	初等教育・識字・国語推進・市民教育省（省略：初等教育省）
MES	Ministère des Enseignements Secondaires	中等教育省
NGO	Non Governmental Organisation	非政府組織
PAAQ	Plan d'Actions Axé sur la Qualité	質に焦点を当てた活動計画
PAEQ	Projet d'Appui à une Education de Qualité	質の教育支援プロジェクト
PASEC	Programme d'analyse des systèmes éducatifs de la CONFEMEN	仏語圏アフリカ共通学力テスト
PDDE	Programme Décennal de Développement de l'Education	教育開発 10 カ年計画
PDM	Project Design Matrix (Cadre Logique du Projet)	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PFR	Point Focal Régional	州中等 COGES 監督官もしくは州 CGDES 監督官
PFD	Point Focal Départemental	県中等 COGES 監督官もしくは県 CGDES 監督官
PMAQ	Paquet Minimum Axé sur la Qualité	質のミニマム・パッケージ
PME	Partenariat Mondial pour l'Éducation	教育のためのグローバルパートナーシップ
PMN	Programme de Mise à Niveau	学力向上プログラム
PMAQ-PMN	Intégration du Paquet Minimum Axé sur la Qualité dans le Programme de Mise à Niveau	質のミニマム・パッケージの学力向上プログラムへの統合
PO	Plan d'Opération / Plan of Operations	活動計画
PTF	Partenaire Technique et Financier	技術・財政パートナー
TaRL	Teaching at the Right Level	
TBS	Taux Brut de Scolarisation	粗就学率

# 1. プロジェクトの概要（背景・経緯・目的）

## 1.1 プロジェクトの背景・経緯

ニジェール政府は「教育開発 10 カ年計画（2002-2012）（Programme Décennal de Développement de l'Education : PDDE）」において教育のアクセス、質、システムの改善を目標に掲げた。同時期に施行されていた地方分権化政策により地域行政の権限が拡大したことにより、適切に設置、運営される学校運営委員会が、地域レベルの教育開発を推進する役割を担うことになった。

JICA は、同国において技術協力プロジェクト住民参画型学校運営改善計画（2004 年～2006 年）（通称：みんなの学校プロジェクト）及び同プロジェクトのフェーズ 2（2007 年～2012 年）を通じ、初等教育段階における機能する学校運営委員会モデルの確立、全国普及を支援した。かかる成果をもとに、技プロ「みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト」（2012 年～2016 年。以下、前プロジェクト）において、JICA は教育のアクセス及び質改善を目指し、基礎教育（初等教育・前期中等教育）における住民参加型の教育開発のためのモデル開発を支援した。前プロジェクトで開発された教育開発モデルとして、学校運営委員会によるフォーラム・アプローチ、質のミニマム・パッケージ（Paquet Minimum Axé sur la Qualité: PMAQ）及び補助金有効活用モデル、前期中等学校における機能する学校運営委員会モデルがある。質のミニマム・パッケージに関しては、ティラベリ州の小学校約 180 校を対象に、算数ドリルを用いた住民参加型の補習活動が実施され、そのうち 39 校を対象に行われた 2014 年の調査で、全ての学校において算数の学力テストの平均点が向上したことが確認された。また、前期中等学校における機能する学校運営委員会モデルに関しては、前プロジェクトにおいてドソン州及びニアメ市における試行を経て、同国中等教育省により承認された。これらの成果をうけ、ニジェール国初等教育・識字・国語推進・市民教育省（以下、「初等教育省」）はティラベリ州における質のミニマム・パッケージ普及のための支援を、また、同国中等教育省は前期中等学校における機能する学校運営委員会の全国展開をわが国に要請した。本プロジェクトは、これら要請をもとに一件の総合プロジェクトとして実施されたものである。

同国の教育事情について述べると、まず初等教育総就学率は、63.5%（2009/2010 年度）から 74.2%（2014/2015 年度）に向上しているが、未だ低い水準にあり、特に男女格差が大きい。初等教育の質については、2014 年の仏語圏アフリカ共通学力テスト（PASEC）において、同国は調査対象の 2 年生及び 6 年生において言語・算数ともに全 10 カ国中最下位であった。2 年生において算数の十分な知識を習得していた児童は 27.8%、仏語では 9.8%であり、6 年生においてはそれぞれ算数が 7.6%、仏語では 8.5%と、同国における児童の学習達成度は非常に低い。初等教育においては、アクセスが改善しつつある一方で、子どもの学びの改善が喫緊の課題となっている。また、前期中等教育総就学率は 29.5%であり、総就学率のジェンダー平等指数は 0.7 と低い（2014/2015 年度）。州別の総就学率は、ザンデル州が 19.5%、ティラベリ州が 19.7%と全国平均に比べて低く、地域間の格差が大きい。前期中等教育修了率は 17.8%（2014/2015 年度）と前年度の 13.7%より改善しているが、依然として極めて低い状況であり、前期中等教育では、アクセス・修了率の向上等が大きな課題である。

## 1.2 プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、初等教育段階において学校運営委員会（Comité de Gestion Décentralisée des Etablissements Scolaires : CGDES）の活動を通じて子どもの学びの改善を支援し、前期中等教育段階において機能する中等学校運営委員会（Comité de Gestion des Etablissements Scolaires: COGES-ES）モデルの改善・普及を支援することにより、上記の課題解決を図ることと定められた。

### 上位目標

プロジェクト対象地域において地方分権化による学校運営を通じて基礎教育のアクセスと質が向上する。

### プロジェクト目標

プロジェクト対象地域において、基礎教育のアクセス及び質の改善に資する住民参加型の教育開発モデルが機能する。

### 期待される成果

成果1：前期中等学校における機能する学校運営委員会モデルが、対象州の前期中等学校及び中高併設校において普及される。

成果2：対象州の小学校において質のミニマム・パッケージが普及される。

## 1.3 プロジェクトの対象地域

### 成果1（前期中等教育）

対象地域：【6州】ドッソ州、ニアメ市、マラディ州、タウア州、ティラベリ州、ザンデール州内公立・私立中学校および中高併設校全校（約1700校）

本プロジェクトは、ニジェール中等教育省の「機能する COGES-ES モデル」全国普及を支援するため、JICA の安全対策措置にて「業務渡航・一般渡航ともに禁止」とされているアガデス州・ディッファ州を除く6州（公立・私立中学校および中高併設校合計約1700校）を対象とした。ただし、ニジェール国全体で機能する COGES-ES 活動を促進するため、アガデス州、ディッファ州の監督官も研修や監督官会議の参加対象者とする。同モデルの全国普及に際しては、まず2017/2018年度に4州（ドッソ、ニアメ、マラディ、タウア。以下、「先行介入4州」という。）で同モデルの普及および COGES-ES 連合の試行を実施した上で、2019/2020年度に残りの2州（ザンデール州、ティラベリ州。以下、「新規2州」という。）へと段階的に拡大した。

### 成果2（初等教育）

対象地域：【5州】ティラベリ州、マラディ州、タウア州、ニアメ市、ドッソ州内全小学校（約13,500校）

プロジェクト開始当初の計画では、ティラベリ州の約3,500校を対象とした質のミニマム・パッケージ普及のみが予定されていたが、経済社会開発無償によるマラディ州約3500校への普及が決まり、質のミニマム・パッケージの普及を合計7000校で行った。

またティラベリ州内の101校においては、PMAQ（読み書き・算数）統合モデルのパイ

ロット活動を行った。

更に、2020/2021 学年度にはニジェール政府からの要請によって、タウア州約 3300 校、ニアメ市約 800 校、ドッソ州約 2400 校を対象として、「学力向上プログラム (Programme de Mise à Niveau: PMN)」への質のミニマム・パッケージ統合 (PMAQ-PMN) にかかる活動が追加となり、対象校は合計約 13,500 校と拡大した。

## 2. プロジェクト活動内容（業務フローチャートに沿って記述）

### 2.1 全体に係る業務

#### 2.1.1 ワークプランの作成

日本国内で入手可能な資料・情報を整理し、また、従前のプロジェクトや直前の経験を抽出するかたちで、プロジェクト実施の基本方針・方法、実施体制案、業務工程計画等を作成し、第 1 期は 2017 年 3 月に、第 2 期は 2018 年 10 月にワークプランを取りまとめた。また、2019 年 10 月に行われた運営指導調査により、2020 年 6 月からのプロジェクト履行期間の延長が決まったことを受け、延長期間のワークプランを 2020 年 7 月に取りまとめた。

#### 2.1.2 ワークプランの説明・協議

第 1 期は、プロジェクト開始直後の 2017 年 1 月に合同調整委員会 (Joint Coordination Committee : JCC) 会合を中等教育省、初等教育省と続けて開催し、同委員会メンバーへ JICA 支援概要を説明した上で、ワークプランに基づきニジェール側の関係者と役割分担や負担事項、実施体制を確認し、協議を経て確定した。ワークプラン案の詳細については、JCC 会合開催後にカウンターパート (Counterpart: C/P) と共有・協議しながら最終化を図り、2017 年 4 月に最終版を JICA 本部、ニジェール支所、C/P と共有した。

第 2 期は、2018 年 10 月に初等教育省大臣、中等教育省大臣に対し、JICA の支援概要を個別に説明し、また JCC 会合を、2019 年 2 月に中等教育省、初等教育省においてそれぞれ開催し、第 2 期の活動及び JICA 支援概要を同委員会のメンバーへ説明した上で、ワークプランに基づきニジェール側の関係者と役割分担や負担事項、実施体制を確認した。また、第 2 期延長期間についても、コロナ禍で渡航や JCC 会合の開催が困難であったものの、メール等によりワークプラン案を C/P と共有・協議しながら最終化を図り、2020 年 7 月上旬に最終版を JICA 本部、ニジェール支所、C/P と共有した。

#### 2.1.3 開発パートナー等とのワークプランの共有

第 1 期は、2017 年 2 月に世界銀行ニジェール支所の教育担当者を訪問し、プロジェクト概要を説明した上で、成果 2 (初等教育) に関連し、教育のためのグローバルパートナーシップ (Global Partnership for Education: GPE)、コモンファンドの「質の教育支援プロジェクト (Projet d'Appui à une Education de Qualité: PAEQ)」から資金支援を受けた質のミニマム・パッケージ関連活動の進捗状況、本プロジェクトによる質のミニマム・パッケージ読み書きパイロット活動の状況を説明し、今後の取り組みにかかる意見交換を行った。特に、「質のミニマム・パッケージ算数・読み書き統合モデル」の普及展開にかかる展望を共有し、その実現へ向けた準備を進めていくことで合意した。

第2期は、2018年10月には世界銀行のワシントン本部から出張で来二中のニジェール教育担当者と協議を持ち、プロジェクト概要および活動を説明した。特に、PAEQ支援により実施した「質のミニマム・パッケージ（算数）」普及の結果と、統合型のパイロット活動状況について説明し、今後の取り組みに関する意見交換を行った。さらに、「質のミニマム・パッケージ算数・読み書き統合モデル」の普及展開について、2020年に世界銀行が開始する新プロジェクトとの連携の可能性を協議し、その実現へ向けた協議を継続していくことで合意した。他方、ドナー副議長である UNICEF 教育責任者とも同10月に協議を行い、質のミニマム・パッケージ関連の活動に係る協議を実施した。

第2期の延長期間中、2020年6月に UNICEF に対しプロジェクト概要と活動内容について詳しく説明を行う機会を持った。特に PMAQ の「学力向上プログラム (PMN)」への統合活動 (PMAQ-PMN) の実施に関して、以前より PMAQ に深い理解を示していた UNICEF の教育担当者と連携を見据え協議を行った。当初の計画では、全国 (8 州) の小学校で算数の介入のみを予定していたが、教育省と議論を進める中で、算数に加え読み書きを入れる強い要望があったため介入州を削減することで調整し、最終的には、本プロジェクトがタウア州、ニアメ市、UNICEF がドッソ州を担当する運びとなった。

#### 2.1.4 プロジェクト実施体制の整備（関係者の職務、役割分担の明確化）

第1期は、2017年1月開催の第1回合同調整委員会において、本プロジェクトの実施に携わる関係者の職務と役割分担を周知し、事務次官をはじめとする JCC メンバーによって承認された。そして中等教育省では、2017年6月に開催された「機能する中等 COGES 普及計画・改訂モジュール承認セミナー」において、中央・地方の関係者と機能する中等 COGES モデルの普及に従事する各関係者の役割分担が協議され、その明確化が図られた。

第2期の期間中、本プロジェクトの活動に携わる関係者の役割について、初等教育省とは2019年2月開催の第4回合同調整委員会において、事務次官をはじめとする JCC メンバーと協議を行い、また中等教育省とは、2018年11月開催の先行介入4州中等 COGES 監督官経験共有会合において、各アクターの役割分担にかかる協議が行われ、明確化が図られた。

第2期の延長期間中は、コロナ禍の影響により遠隔支援によって活動が再開されたが、2020年6月に中等教育省で、また翌7月には初等教育省で、それぞれ関係局の局長、課員とウェブ会議を行い、延長フェーズ期間中の活動内容や、各アクターの役割分担にかかる協議、明確化を図った。なお、初等教育省においては、プロジェクト延長による対象地域の拡大に伴い、全8州事務所長を初等教育の JCC に招致した。

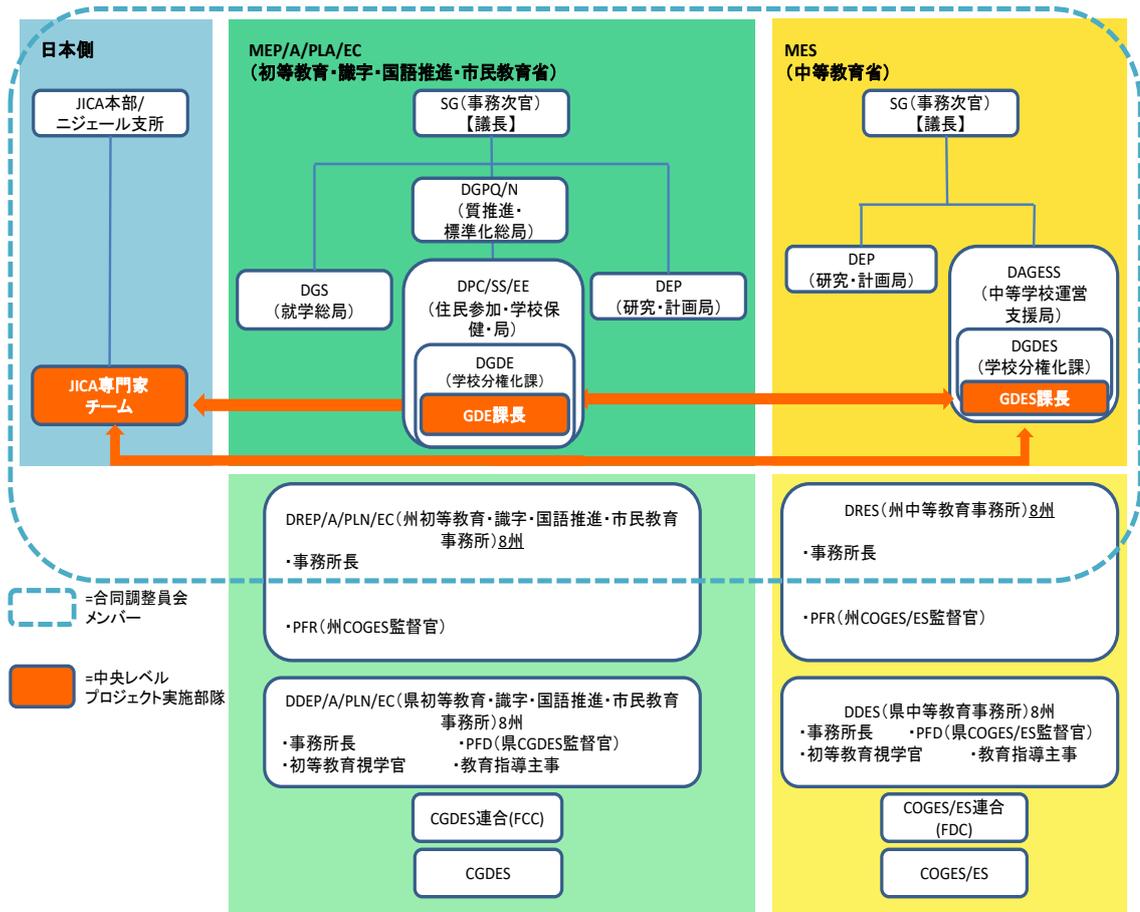


図1：プロジェクト実施体制図（2021年3月現在<sup>1)</sup>）

### 2.1.5 プロジェクト実施に必要な機材の調達及び管理

本プロジェクト実施のため、以下の機材を調達し、プロジェクト事務所等で使用した。また、プロジェクト実施期間中は、ニジェール支所から事業用車両2台の貸与を受けた。いずれも適切に管理使用し、プロジェクト終了時にJICAニジェール支所に返却した。

- ・ラップトップコンピューター（4台）
- ・プリンター兼コピー機スキャナー（2台）
- ・コピー機（大型）（1台）
- ・小型プリンター（携帯型）（1台）
- ・発電機（1台）
- ・プロジェクター（1台）
- ・クーラー（1台）

### 2.1.6 ベースライン調査の実施、プロジェクト開始時の現状及び課題の把握

ニジェール中等教育省、省・州教育事務所を含む教育行政と、各地の学校関係者に対するヒアリングを行い、前期中等教育における学校運営の現状と課題を把握した。また、

<sup>1</sup> 2021年4月に初等教育省と中等教育省は統合され、国民教育省となったが、事務次官以下の再編は2021年4月30日現在行われていないため、表示は省庁再編以前の名称のままである。

初等教育についても同様にヒアリングを行い、初等教育における学習に関し、現状及び課題を確認した。さらに、ローカルコンサルタントを活用し、PDM 指標をもとに、文献調査、中央・地方教育行政および学校現場関係者へのヒアリング、算数学力テスト（初等）を含む本プロジェクトに係るベースライン調査を実施し、調査結果をとりまとめ、報告書を作成・提出した。なお、当該ベースライン調査は、ジェンダーの観点を踏まえて計画・実施した。

※ベースライン調査結果（サンプル数と調査対象地域詳細を含む）は、2.2.1（中等）及び2.3.2（初等）を参照

### 2.1.7 エンドライン調査の実施（ミッドライン調査含む）

#### <ミッドライン調査>

ミッドライン調査を実施し、（中等）第1次介入グループ（先行介入4州）と第2次介入グループ（新規2州）における介入効果を比較した。当初2018年5～6月の実施が予定されていたが、第2次介入時期の延期に伴い、2019年5～6月に変更された。

初等教育については、第1回ミッドライン調査を2017年12月～2018年1月（PAEQにおけるティラベリ州3500校での「質のミニマム・パッケージ・算数」活動の開始前）、第2回を2018年4～6月（当該活動開始後）に実施し、対象45校の学校現場関係者へのヒアリングと全児童に対する学力テストを通じて行われた。

#### <エンドライン調査>

中等教育については、当初2020年2～3月を予定していたが、第2期契約の延長に伴いプロジェクト終了前の2021年1～2月に変更し、実施した。ただし、2020年11月にティラベリ州全域の危険レベルが「4」となり、渡航禁止となったため、ティラベリ州の対象者は人数を減らし、ニアメに招致して聞き取り調査を行った。

他方初等教育については、当初2020年2～3月の実施を予定していたが、同様の理由により、プロジェクト終了前の2021年1～2月に時期を変更した。しかし、初等教育調査はティラベリ州の45校における児童への学力試験実施が調査の重要な項目であったため、上述の通りティラベリ州全域の危険レベルが「4」となり、渡航禁止となったことを受け、エンドライン調査は中止となった。

※ミッドラインおよびエンドライン調査結果（サンプル数と調査対象地域詳細含む）は、2.2.5（中等）及び2.3.5（初等）を参照

### 2.1.8 プロジェクト進捗報告書・プロジェクト事業完了報告書の作成・協議等

第1期契約期間終了時の2018年8月にプロジェクト進捗報告書を、また第2期契約期間終了時の2021年6月にプロジェクト事業完了報告書を作成し、関係者と共有した。なお、報告書以外でも成果の共有に努め、特に女子就学促進にかかる成果については2021年1月～3月にかけて、JICA女子教育タスクチームとの共有を随時おこなった。

### 2.1.9 プロジェクト終了に向けたマニュアルや機材の引き渡し

機材については、プロジェクト終了時（2021年5月）に支所へ返却した。また、プロジェクト期間中に作成した研修マニュアル・ガイド・児童用ドリルについては、ツ

ル承認ワークショップや合同調整委員会の機会を活用し、ニジェール教育省へ引き渡した。

## 2.1.10 その他の全体に係る業務

### a) 合同調整委員会 (Joint Coordinating Committee : JCC) 会合の開催

プロジェクトの円滑かつ効果的な運営のため、JCC を設置、コロナ禍で日本からの遠隔支援を余儀なくされた期間を除き、約半年に 1 回程度会合を開催し、プロジェクトの運営計画や方針に関する重要事項に係る意思決定をした他、プロジェクトの進捗や懸念事項、成果の発現につながる提案等を関係者間で共有・協議し、その結果を適宜業務計画に反映させた。各 JCC 会合における協議内容は表 1 の通りである。

表 1 : JCC 会合協議内容

回	実施年月	対象	主な協議内容
1	2017 年 1 月 21 日	初等	①プロジェクト概要 (目標、構成、Project Design Matrix (PDM)、Plan of Operation (PO)、②全体的な活動内容、③ワークプラン概要共有、直近 6 か月の具体的な活動を提案、協議、承認、④1 月 17 日に両省の事務次官により合意署名された「プロジェクト旅費(日当・宿泊・交通費) 規定改定版」の説明。
	2017 年 1 月 21 日	中等	①プロジェクト概要 (目標、構成、PDM、PO 等)、②全体的な活動内容、③ワークプラン概要共有、直近 6 か月の具体的な活動を提案、協議、承認、④1 月 17 日に両省の事務次官により合意署名された「プロジェクト旅費(日当・宿泊・交通費) 規定改定版」の説明。
2	2017 年 9 月 5 日	初等	①活動進捗評価、②「CGDES 活動モニタリング中央ワークショップ (ANASAC)」の結果共有、③7 月に開催した「インド NGO Pratham との経験共有セミナー」にかかる結果共有、④今後 6 か月の活動計画承認、⑤プロジェクト PDM 指標にかかる協議・承認。
	2017 年 9 月 11 日	中等	①活動進捗評価、②主な活動結果共有、③今後 6 か月の活動計画承認、④プロジェクト PDM 指標にかかる協議・承認
3	2018 年 7 月 18 日	中等	①プロジェクト活動総括、②主な活動結果共有、③今後 6 か月の活動計画承認
	2018 年 7 月 18 日	初等	①プロジェクト活動総括、②主な活動結果共有、③今後 6 か月の活動計画承認、④今後の「質のミニマム・パッケージ普及」をどのように進めていくかについての協議 (初等教育省住民参加・学校保健・環境教育局学校分権化課の活動として盛り込む方針で合意したもの、資金源の目途がついていない点で依然として普及への目途はたっていない。今後、初等教育省関係者と共に各種ドナー等への働きかけと動向への注視が不可欠。)
4	2019 年 2 月 6 日	中等	①2018/2019 年度中等 COGES・COGES 連合活動計画状況共有、②プロジェクト活動総括、③今後 6 カ月の活動計画共有・承認
	2019 年 2 月 6 日	初等	①プロジェクト活動総括、②今後 6 カ月の活動計画共有・承認、③プロジェクト活動の広報・普及へ向けた JICA の取り組みからの情報共有
5	2019 年 8 月 8 日	中等	①プロジェクト活動総括、②活動計画、③新規 2 州への機能する中等 COGES・COGES 連合モデルの普及、④モニタリング体制構築にかかる支援、⑤中等 COGES 連合活動総括と経験蓄積についての協議

	2019年8月8日	初等	①マラディ州への質のミニマム・パッケージ算数普及準備支援、②「学力向上プログラム (PMN)」と質のミニマム・パッケージ統合パイロット活動の実施承認、③質のミニマム・パッケージモデル承認、④プロジェクト活動評価・経験蓄積、⑤UNICEF との連携関連活動：女子就学促進フォーラム開催、Relance pedagogique Programme への質のミニマム・パッケージ統合活動支援についての協議
6	2021年4月	中等	①プロジェクト活動総括、②女子就学改善（退学率削減、進級率向上）にかかる優良事例の共有、③ザンデル州教育フォーラム補習活動強化事例の共有、④政策提言ワークショップの提言内容共有、⑤今フェーズ中に作成・改訂したマニュアル・ツールの引き渡し
	2021年4月	初等	①政策提言アトリエの成果の報告、②プロジェクト活動総括、③州教育フォーラムの結果の共有、④今後の取り組みに向けた協議（PMAQ 及び州教育フォーラムの更なる普及、教育省のモニタリング費用負担に関する議論、CGDES の機能度を計測するための今年度のデータ回収等）

詳細は各回の議事録参照（別添⑥-1～⑥-12）

#### b) 日本国内の会議及び現地会議

本プロジェクトに関連した会議に日本国内、現地ともに適宜出席し、会議資料及び議事録を作成（または作成を支援）し、関係者間の共有を行った。なお、会議の開催時は、方針や主要課題等を説明する際には、要点を明瞭かつ簡潔に説明したり、極力視聴覚機材を活用したりするなど、議論が円滑に進むよう努めた。

#### c) 広報活動

業務実施にあたっては、本協力の意義、活動内容及びその成果をニジェール国及びわが国双方の国民各層に正しく理解してもらえるよう、プロジェクトの活動や成果を可視化し、効果的な広報に務めてきた。また、同プロジェクトに関する既存のウェブサイトや JICA が開設する技術協カウェブサイトのコンテンツの中で、活動の進捗状況等をプロジェクトニュースとして発信するとともに、各種セミナー等でプロジェクトの成果発表を積極的に行った。ニジェール国内においても、2016年に作成されたみんなの学校プロジェクト群の広報ビデオをセミナーで活用した他、規模の大きい研修や経験共有セミナーは、開会や閉会の場面に合わせて取材してもらい、そうした様子がテレビで放映されるなど、本プロジェクトの協力の意義やアプローチが同国国民に伝わり理解されるよう努めた。

#### d) モニタリングシートの作成・協議

案件開始当初の R/D、その後改訂された R/D 署名時に合意された PDM 及び PO に基づき、モニタリングシートに記載すべき内容を検討し、JICA 本部（人間開発部基礎教育第二チーム）に報告した。なお、実際のシート作成については、6カ月に一度、C/P と共同でプロジェクトの投入や活動の進捗、さらに成果を確認し、モニタリングシートを作成し、2017年6月、12月、2018年6月、2019年2月、8月、2020年2月、11月に JICA に対して提出された。

e) 他国との経験共有・グローバルな学び合い

JICA が実施する西アフリカ地域を中心とした「住民参加による学校運営改善プロジェクト」に加え、インドの NGO Pratham による取り組みなど、各国の多様な事例の共有や新たなアプローチを検討、試行するため、これらに関連した経験共有セミナーやワークショップなどを開催し、また参加機会を捉え、本プロジェクトの成果・教訓の積極的な共有や発信を行った。具体例として以下に示す。

第 1 期

① 第 1 回 JICA-Pratham 経験共有セミナー(インド)(2017 年 7 月)

2017 年 7 月 17 日から 1 週間にわたり、インドのバラナシおよびデリーを訪問し、インド NGO の Pratham が実践している児童の基礎的な読み書き計算能力の改善への取り組みと、JICA みんなの学校プロジェクト群の「経験共有セミナー」を開催した。ニジェール国の初等教育課程局長ならびに学校運営支援局(当時)学校分権化課(2 名)に加え、JICA 本部からみんなの学校群の担当者が、またマダガスカル及びニジェールからプロジェクト関係者が参加した。前半は Pratham が介入している学校での活動視察(Learning Camp、Community Library 等)や住民集会への参加、Pratham 介入外の学校視察を行い、後半は、互いの活動経験共有のワークショップを行った上で、今後の連携の可能性について協議した。

なお、当ワークショップを通して得た学びをもとに、NGO Pratham が取り組む“Leaning Camps”アプローチのニジェールにおける適用可能性と効果を見極めるため、同アプローチをベースとした「10 日間集中読み書き速習活動」の試行を行った。

【「10 日間集中読み書き速習活動」の試行】

Pratham が実施する“Learning Camps”は、3 年～6 年の児童を対象とし、授業時間内の毎日 90 分間、10 日間を 1 タームとして計 40 日間、能力別のグループごとに、テキストの音読、音韻演習、単語遊び、文字書き演習などを Pratham のアニメーター(および村落ボランティア)が指導する方法で、様々な参加型活動を通して児童が能動的に読み書きの基礎を学ぶという取り組みである。

ニジェールにおいて試行された「10 日間集中読み書き速習活動」では、Pratham が実施するアプローチに近づけるため、3～6 年生のみを対象に、授業時間の午後 90 分間を使い、10 日間に渡り実施した。なお、活動のファシリテーターは中央学校分権化課のメンバーならびにプロジェクトスタッフが担った。また、初日に児童を能力別グループに振り分けるために使用し、最終日には児童の達成度を測るためにも使用した読力計測ツールは、Pratham が開発した Annual Status of Education Report (ASER) アセスメントツールをベースとして、ニジェールの状況に合わせて改訂したものを使用した。

初日・最終日は学力テスト、2 日目はファシリテーターおよびサポートを務めた教員へのデモンストレーション日としたため、実質能力別グループでの活動は 7 日間という短期間であったが、児童の変化は顕著であった。まず、通常の授業とは全く異なる形態かつ外部者による活動に初めは戸惑っていた児童も、ほんの数日で見違えるほど活発になり、児童の参加率は連日ほぼ 100%(各グループ各日欠席 1-2 名程度)であった。また、読み書きの面でも、日々の成長が目に見えるほど飛躍的であった。

具体的な成果としては、初日(1日目)に実施した読みテストにおいて、対象の3～6年生中約6割の児童がアルファベット文字すら読めない「ビギナー」レベル、その他4割も僅かアルファベット文字の識別ができる「文字」レベルであり、単語が読める児童は全体のわずか3.7%に過ぎなかったが、最終日(10日目)には、ビギナーレベルの児童は当初の半分の30%に減少し、アルファベット文字を読める児童は5割になり、約2割の児童が単語を読めるようになった(「単語レベル」3.7%→19.8%へ上昇)。そして、3.7%の児童がフレーズもしくは文章を読めるレベルにまでに昇格した。

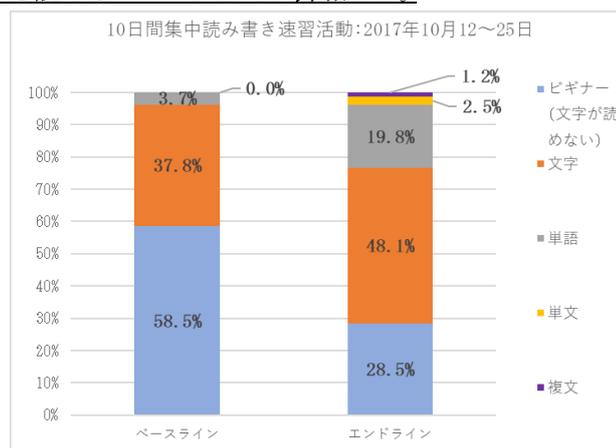


図2:「10日間集中読み書き速習活動」ベースライン・エンドライン読み力テスト結果比較

表2:「10日間集中読み書き速習活動」読み力テスト学年別結果

プレテスト : 2017年10月12日					
レベル	ビギナー	文字	単語	単文	複文
3年生	15	4	0	0	0
4年生	12	10	1	0	0
5年生	13	3	0	0	0
6年生	8	14	2	0	0
全体	48	31	3	0	0
%	58.5%	37.8%	3.7%	0%	0%
ポストテスト : 2017年10月25日					
レベル	ビギナー	文字	単語	単文	複文
3年生	15	4	0	0	0
4年生	5	13	2	2	0
5年生	3	12	1	0	0
6年生	0	10	13	0	1
全体	23	39	16	2	1
%	28.4%	48.1%	19.8%	2.5%	1.2%
変化	-30.1%	+0.3%	+16.1%	+2.5%	+1.2%

その一方で、3年生の児童の反応にも変化はみられたが、上記の通り、テスト結果は改善していない。その原因の一つとして、スタート時点で同じ「ビギナーレベル」であっても、

文字の概念すらない児童と、少しは文字の認識がある児童との差異が激しく、能力別グループとしての活動が有効に機能しておらず、ビギナーレベルにすら追いついていない児童が同グループ内に多数いたことが挙げられる。この点から、大半がビギナーレベルからのスタートとなるニジェールの文脈においては、ビギナーレベルのさらなる細分化が必要である点が確認された。また、プロジェクトとしては今後1、2年生も含めたモデルを目指すことから、今後の改良点として、ビギナーレベルに達しない、「初期(イニシャル)」レベルを設定することとした。

※セミナー日程・プレゼン資料別添参照（別添-⑦-1）

### ② 第2回 JICA-Pratham 経験共有セミナー(マダガスカル)(2018年2月)

2018年2月19日～23日の5日間、マダガスカルにて「JICA - Pratham 経験共有セミナー」が開催された。ニジェールからも、初等教育省学校運営支援局(当時)の局長を含む3名、初等教育課程局長、ティラベリ州教育事務所長の計5名が邦人コンサルタントとともに参加した。具体的なセミナー構成は、マダガスカルみんなの学校プロジェクトの「現場視察」(住民集会、質のミニマム・パッケージ・読み書き、算数活動)と、Pratham、JICA 本部、ニジェールおよびマダガスカルみんなの学校プロジェクト関係者、それぞれが活動の経験共有を行う「ワークショップ」の二部で構成された。当該セミナーは、2017年7月にインドで開催された経験共有セミナーの2回目という位置づけであり、Pratham の活動視察や協議を通して得た「学び」を基に、ニジェール・マダガスカル両国にて改訂をすすめた「質のミニマム・パッケージ」読み書きパイロット活動の結果を共有し、今後の当該モデル改善へ向けて、当該分野において高い知見と絶対的な成果を生み出してきた Pratham 側から様々な助言を得ることを一つの目的としていた。また、児童の基礎学力の具体的改善という目的を共有する、JICA みんなの学校プロジェクトと Pratham が高い相乗効果を生む活動モデルを生み出すため、両者連携の方向性と具体化にかかる協議も進められた。

※セミナー日程・プレゼン資料別添参照（別添-⑦-2）

### ③ インド Pratham 講師ニジェール招聘(2018年7～8月)

上記のセミナーにおいて協議された「JICA と Pratham との活動連携」の枠組みの中で、「質のミニマム・パッケージモデル」を強化、改善させるために、2018年7月19日～8月3日の期間、Pratham から2名の講師を招聘した。『児童の基礎学力改善 Pratham アプローチ研修ワークショップ』を7月20日～8月2日の間に開催し、中央講師の育成を通じて習熟度別学習手法( Teaching at the Right Level: TaRL )を学び普及させることを目的としていた。

当該ワークショップへの参加者は、本プロジェクトが取り組む「質のミニマム・パッケージ」の改善モデル開発と普及に従事する初等教育省中央・地方(州・県)の関係者の17名である。初等教育省住民参加・学校保健・環境教育局学校分権化課から6名、質のミニマム・パッケージ普及・統合モデル開発を行っているティラベリ州および同州コロ県から11名に絞り込み、プロジェクト第2期での「質のミニマム・パッケージ」のモデル改善に繋げると共に、ニジェール国内での Pratham 式 TaRL 手法

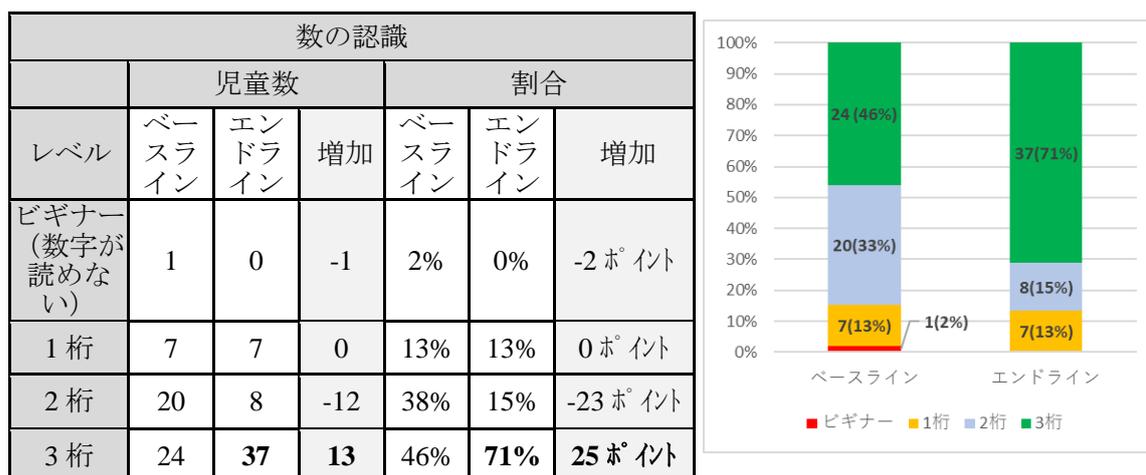
を推進する将来の中央講師を育成することを目的とした。Pratham の取り組みは、教員から児童への一方通行的な教授型の「授業」ではなく、児童の「能動的学習」を促す様々な「活動」のコンビネーションを通して、児童自ら基礎学力を身に付けていくものである。前半 8 日間は、Pratham 講師の指導により組み入れるべき「活動」の内容を講師・参加者間での実践を交えて学び、後半 7 日間は現場実践として、実際の学校にて児童を相手に参加者が Pratham のアプローチの活動を実践した。特にこの後半期間は、参加者が実践を通して手法を身に付けるという意味だけではなく、未来の教員研修講師として、今後現場で教員が面することが予想される様々な事態を体感し、今後の指導・サポートに必要な対応策を検討する貴重な機会でもあった。ニジェールが夏季休暇中であったことから、本来 Pratham が求める期間（通常 15 日～20 日）の現場実践期間を確保することはできなかったものの、全日程を通して参加者の意欲は大変高く、非常に積極的な参加の下、質の高い研修が実施された。また、(初日と最終日はアセスメントのみため) 僅か 5 日間の活動実践ではあったものの、児童の学習意欲を刺激する TaRL 手法の様々な活動によって、児童の非常に意欲的な参加も得られ、算数・読み共に改善が見られた。なお、現場実践の前後に実施した児童アセスメントも Pratham が実施している ASER を用いて行った。

Pratham TaRL アプローチ研修の概要および、研修内の現場実践における ASER 式児童アセスメント結果は以下の通り。

#### ➤ 『数の認識』

3 桁の数字を認識(読める)児童の割合が 46%から 71%に上昇した。

表 3・図 3：Pratham 式 TaRL 手法研修 数の認識ベースライン・エンドラインテスト結果比較



#### ➤ 『四則計算』

四則すべてにおいて改善が見られたが、特に足し算においては、できる児童の割合が 54%から 75%にまで上昇

<算数四則計算テスト結果>

表 4:Pratham 式 TaRL 手法研修 四則計算ベースライン・エンドラインテスト結果比較

四則計算						
	«できる»児童数			«できる»児童割合		
	ベー スラ イン	エン ドラ イン	増加	ベー スラ イン	エン ドラ イン	増加
足し算	28	39	11	54%	75%	21ポイント
引き算	14	22	8	27%	42%	15ポイント
掛け算	11	18	7	21%	35%	13ポイント
割り算	6	13	7	12%	25%	13ポイント

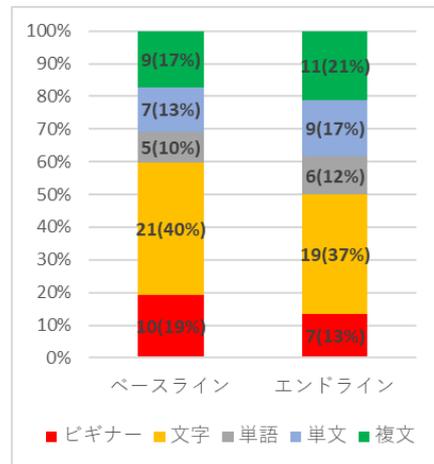
➤ 『読み』

当初 3～6 年の全児童中 60%を占めていた「ビギナー」および「文字(レター)」レベルの児童が 10%減の 50%に減少。「文(パラグラフ)」「文章(ストーリー)」レベルの児童の割合は 30%から 38%にまで上昇。

<読みテスト結果>

表 5・図 4:Pratham 式 TaRL 手法研修 読みベースライン・エンドラインテスト結果比較

読み						
	児童数			割合		
レベル	ベー スラ イン	エン ドラ イン	増加	ベー スラ イン	エン ドラ イン	増加
ビギナー (文字が 読めない)	10	7	-3	19%	13%	-6ポイント
文字	21	19	-2	40%	37%	-4ポイント
単語	5	6	1	10%	12%	2ポイント
単文	7	9	2	13%	17%	4ポイント
複文	9	11	2	17%	21%	4ポイント



第 2 期

④ 第 3 回 JICA-Pratham 経験共有セミナー(ボツワナ)(2019 年 9 月)

2019 年 9 月 5～8 日の 3 日間、The Abdul Latif Jameel Poverty Action Lab (J-PAL) および Pratham の支援により、TaRL アプローチを導入するアフリカ各国の関係者が集まる「TaRL Africa Community Workshop」がボツワナ首都にて開催された。当会合は、TaRL アプローチを導入する各国現場関係者間の技術的協議が中心となるため、JICA

本部からの打診に基づき、プロジェクトからナショナルコンサルタントを派遣した。しかしながら、参加層が J-PAL や UNICEF、もしくは外部から支援を受けたローカル NGO であり、「普及や広域展開」という視点よりも、パイロットレベルの活動の中で、講師・メンター育成、現場研修、ツール、モニタリング・メンタリング等の分野における課題の協議に留まるか、教育法の議論や問題の解決策としての直近の手厚い「研修強化、メンタリング強化」であった。他方、ニジェールが抱える、質と資源と普及のトレードオフや技術を習得した教員の質の確保などの問題解決に向けた示唆に直接結びつけづらい内容であり、また、参加国は英語圏のみ、使用言語は英語のみのワークショップの中で、唯一の仏語人材の派遣となったため、協議内容の理解が十分でなかったことも否めない。

⑤ 本邦課題別研修「住民参加による教育開発」(日本)(2020年2月)

徳島大学が実施する課題別研修「住民参加による教育開発」コースの中で、ガーナ、モザンビーク、マリからの研修生に対して「機能する学校運営委員会モデル」のセッション(2020年2月3～7日の5日間)が行われ、プロジェクトに従事する邦人コンサルタントが講師として、また、プロジェクトのナショナルコンサルタント3名が、ニジェールの経験共有を行うために参加し、プロジェクトの成果・教訓を共有した。特に「機能する学校運営委員会モデル」の導入を始めている国の参加者からは、都市部における住民総会への参加率の低さや学校運営委員会における予算管理など、具体的な直面する課題が共有され、ニジェールにおいてはどのように解決を図ったのか共有された。

※セミナープレゼン資料別添参照(別添-⑦-3)

## 2.2 【成果1に係る業務】COGES-ESの普及に係る活動

### 2.2.1 詳細計画の策定(活動1-1)、ベースライン調査の実施(活動1-2)

ニジェール国における前期中等教育段階の現状と課題を踏まえ、機能する中等 COGES モデルの普及へ向けて、2017年4月～5月にニジェール中等教育省学校運営支援局学校分権化課と協議の上、詳細計画案を策定した。その上で、2017年6月に開催された「機能する中等 COGES モデル普及計画・改訂モジュール承認ワークショップ」において、中央・地方の関係者(中央局長、州教育事務所長、県教育事務所長、視学官、州 COGES 監督官、県 COGES 監督官、中等 COGES 連合)と同案を共有し、協議の上承認へと至った。

ベースライン調査は、学校運営を含む前期中等教育の現状と課題を把握するため、2017年3月から、介入6州を対象に、文献調査ならびに中央・地方の教育省関係者(中央局、州・県教育事務所長、州・県 COGES 監督官)、および現場レベルの関係者(教員、保護者、生徒等学校関係者)への聞き取り等を通じて実施し、調査分析結果をベースライン調査報告書(仏文)として取りまとめた。

※ベースライン調査結果については、ミッドライン調査、エンドライン調査結果とともに活動1-13に記載。

## 2.2.2 研修マニュアル及びガイドの策定

### a) 研修マニュアル及びガイド案の作成（活動 1-3）

【第 1 期 2016/2017 年度～2017/2018 年度】

中等教育省関係者とともに、前フェーズで開発された「住民参加を通じた民主的中等 COGES の設置」、「質の改善にかかる学校活動計画の策定」、「補習活動実施ガイド」、「リソース管理」および「中等 COGES 連合の設置」のモジュール全 5 種に係る改訂を行った。まず前フェーズで試行した中等 COGES および COGES 連合代表者への聞き取りを実施するとともに、前年度の活動総括状況に係る情報を収集し、後述の承認ワークショップの討議内容・改訂方針に沿って改訂した。

【第 2 期 2018/2019 年度～2019/2020 年度】

2019/2020 年度の新規 2 州介入に合わせ、第 1 期に改訂した研修マニュアル及びガイドなど、全 5 種を再度見直し、特に、2018/2019 年度に実施された各種会合、活動モニタリング、回収されたデータや情報をもとに、先行介入 4 州の中等 COGES および COGES 連合の成果、現状、課題等の経験を踏まえ改訂した。

### b) 研修マニュアル等のツール及び普及計画の承認ワークショップの開催（活動 1-4）

【第 1 期 2016/2017 年度】

2017 年 6 月に中等教育省による「機能する中等 COGES 普及計画・改訂モジュール承認ワークショップ」が開催された。ワークショップにおいて、参加した関係者（中央局長、全 8 州教育事務所長、各州県教育事務所長・視学官代表、全 8 州の州 COGES 監督官、各州県 COGES 監督官代表、中等 COGES 連合代表等）約 75 名と改定内容案を共有し、承認を得た。

【第 2 期 2019/2020 年度】

2019/2020 年度の新規 2 州への同モデル普及開始前の 2019 年 9 月に、「機能する中等 COGES 普及計画・改訂モジュール承認ワークショップ」が開催された。ワークショップにおいて、新規介入 2 州（ティラベリ州、ザンデール州）および追加研修対象となるニアメ市の 3 州教育事務所長、3 州県教育事務所長／フランコアラブ視学官の代表、3 州中等 COGES 監督官、3 州県 COGES 監督官代表と改定内容案および普及研修計画を共有し、承認を得た。

## 2.2.3 各種研修の実施

### a) 民主的 COGES-ES 設置、学校活動計画の策定、資金管理、COGES-ES 連合の設置に係る講師研修の実施（活動 1-5）

機能する中等 COGES モデルの普及においては、モデル導入にかかる関係者能力強化研修をカスケード式で行うことから、州・県中等 COGES 監督官を民主的 COGES-ES 設置の講師として育成した。なお、当活動については、安全管理規定により直接介入できない 2 州（アガデス、ディッフア）の州・県 COGES 監督官も参加者に含め、ニジェール国全体の COGES-ES 活動の促進を図った。

< 民主的 COGES-ES 設置研修内容 >

8 州の州・県 COGES 監督官を対象とした「民主的 COGES-ES 設置研修」は、2 日間にわたり以下の表 6 のとおり実施された。研修 1 日目は中等教育省中央の中等学校運営支援局・学校分権化課およびプロジェクトコンサルタント（再委託）を講師として研修を実施し、2 日目には模擬研修として参加者が講師として現場研修をシミュレーションする構成とした。

< 計画策定・リソース管理・中等 COGES 連合設置研修内容 >

8 州の中等 COGES 監督官に対する「計画策定」、「リソース管理」、「中等 COGES 連合設置」にかかる講師研修では、4 日半に渡るプログラムに取り組んだ。

研修では、個々人の能力差による影響を最小限に抑え、現場研修における適正な質の確保と均一化を図るため、マニュアル以外にも、研修内容の要点をまとめたレジユメの配布や、研修の進行に沿った統一的な補助教材の作成支援、講師研修でのシミュレーションを通じた実践の徹底に取り組んだ。

第 1 期、第 2 期における研修実施状況は以下の通り。

表 6：2017/2018 年度、2019/2020 年度、講師研修実施状況

実施年月	対象州	内容
2017 年 9 月		『民主的 COGES-ES 設置』: 州・県中等 COGES 監督官 36 名受講
2017 年 10 月	ドッソ州、ニアメ市、マラディ州、タウア州	『計画策定、リソース管理、COGES-ES 連合』: 州・県中等 COGES 監督官 37 名受講 (県教育事務所増設により 9 月時より県 COGES 監督官 1 名増加)
2019 年 9～10 月	ティラベリ州、ザンデール州、アガデス州、	『民主的 COGES-ES 設置』: 州・県中等 COGES 監督官 50 名受講
2019 年 11 月	ディッフア州、先行介入 4 州の COGES 関連研修未受講の新任監督官	『計画策定、リソース管理、COGES-ES 連合』: 州・県中等 COGES 監督官 50 名受講

**b) 民主的 COGES-ES 設立に係る研修、学校活動計画及び資金管理に係る研修の実施 (活動 1-6、活動 1-7)**

**c) COGES-ES 連合設置に係る研修の実施 (活動 1-8)**

活動 1-5 の講師研修を受講した州・県中等 COGES 監督官が講師となり、各校の校長および教員代表に対して研修を実施した。まず、民主的 COGES-ES 設置に係る研修を 1 日間実施した後、各校において COGES-ES が設置された。そして、COGES-ES の設置が確認できた学校に対して、学校活動計画及び資金管理、および中等 COGES 連合設置に係る研修を 3 日間実施した。各州における初回の研修は、中央およびプロジェクト関係者がモニタリングし、その後の改善へ向けた微調整を行いつつ、教訓を抽出し、それらを共有することで研修の均一化、統一化に取り組んだ。

第2期、 第2期における研修実施状況は以下の通り。

表7：2017/2018年度、2019/2020年度、現場研修実施状況

実施年月	対象州	内容
2017年9月 下旬～10月 上旬	ドゥソ州、ニアメ市、 マラディ州、タウア州	『民主的 COGES-ES 設置』: 先行介入 4 州公立・私立中学および中高併設校合計 1065 校対象(各校 2 名参加: 校長・教員代表)
2017年11月 上旬～12月 上旬		『計画策定、リソース管理、中等 COGES 連合設置』: 民主的 COEGS 設置済みの先行介入 4 州合計 942 校対象(各校 4 名参加: COGES 委員長・会計・校長・教員代表)。
2019年10月 中旬～10月 下旬	ティラベリ州、ザンデール州	『民主的 COGES-ES 設置』: 新規介入 2 州公立・私立中学および中高併設校合計 503 校対象(各校 2 名参加: 校長・教員代表)
2019年11月 下旬～12月 下旬	ティラベリ州、ザンデール州、ニアメ市	『計画策定、リソース管理、中等 COGES 連合設置』: 民主的 COEGS 設置済みの 3 州合計 617 校対象(各校 4 名参加: COGES 委員長・会計・校長・教員代表)。

第1期および第2期の研修実施後、2019/2020年度時点で、対象6州には1,649のCOGESが設置され、COGES設置率は96.8%となった。また、同年度の学校活動計画策定率は92.0%となり、目標値であった80%を上回った。

表8：2019/2020年度中等COGES民主的設置状況

州	州内学校数	中等 COGES 設置数 (注1)	設置率	分析活動計画数	回収率 (注2)	策定率 (注3)
ドゥソ州	286	285	99.7%	282	98.9%	98.6%
マラディ州	341	334	97.9%	332	99.4%	97.4%
ニアメ市	270	233	86.3%	181	99.3%	97.7%
タウア州	301	296	98.3%	294	77.7%	67.0%
ティラベリ州	261	261	100.0%	255	97.7%	97.7%
ザンデール州	245	240	98.0%	223	92.9%	91.0%
<b>6州合計</b>	<b>1704</b>	<b>1649</b>	<b>96.8%</b>	<b>1567</b>	<b>95.0%</b>	<b>92.0%</b>

\* (注1) COGES 設置済み学校数

\* (注2) 設置済み COGES 数に対する回収率 (COGES 未設置かつ研修未受講の学校は母数として含まず)

\* (注3) 対象州内学校数に対する学校活動計画策定率

第1期および第2期の研修実施後、2020年2月までに対象6州内の55域(県・地区)に59の中等COGES連合設置が完了した。COGES連合の設置は通常1県につき1連合であるが、県の広さや県内の特質に鑑み、ドゥソ州、マラディ州、タウア州については1県内に複数のCOGES連合が設置された。なお、対象6州内中等COGESの連合加入率平均は99.7%であり、中等COGES連合への期待が伺われる。

表 9 : 2019/2020 年度中等 COGES 連合設置および活動計画策定状況

	中等 COGES 数	県・地区数	中等 COGES 連 合設置数	加入中等 COGES 数	加入率
ドゥソ州	285	8	9	283	99.3%
マラディ州	334	9	11	334	100.0%
ニアメ市	233	5	5	231	99.1%
タウア州	296	11	12	295	99.7%
ティラベリ州	261	11	11	260	99.6%
ザンデール州	240	11	11	240	100.0%
<b>全国 6 州合計</b>	<b>1649</b>	<b>55</b>	<b>59</b>	<b>1643</b>	<b>99.6%</b>

## 2.2.4 モニタリング体制の整備

### a) COGES-ES モニタリング及び技術的助言に係るワークショップの開催(活動 1-9)

第 1 期、第 2 期を通じて、モニタリング及び技術的助言に係るワークショップとして、中等 COGES 監督官会議を開催した。中等県教育事務所長 (DDES) ・中等フランコアラブ視学官 (IESFA) の参加が有効と考えられる場合には、参加者を拡大したモニタリング会合を実施した。中等 COGES 監督官会議の開催内容は以下の通り。

表 10 : 中等 COGES 監督官会議協議内容

回	実施年月	対象州	主な協議内容
<b>【第 1 期】</b>			
1	2017 年 10 月	先行介入 4 州 (2 州ずつ (ニアメ・ドゥソ、マラディ・タウア) の合同会議をニアメにて開催)	今後のモニタリング体制構築へ向けて、中等 COGES モニタリングにかかる中等 COGES 監督官会議の意義・内容、COGES 監督官の役割、中等 COGES モニタリングにかかるプロジェクト支援説明にかかる協議、能力強化に取り組んだ他、中等 COGES 設置研修結果総括など、具体的な活動状況の情報収集、問題と解決策、今後の活動の方向性にかかる協議を行った。
2	2018 年 1 月	先行介入 4 州 (各州州都開催)	中等 COGES・COGES 連合の活動進捗状況にかかる情報収集、問題点および対策、今後の活動予定、COGES 連合設置に係る戦略を協議した。
3	2018 年 3 月	先行介入 4 州 (各州州都開催)	中等 COGES・COGES 連合の活動進捗状況にかかる情報収集、COGES 監督官のモニタリング支援能力強化のための実践的なケーススタディを実施した。
4	2018 年 5 月	先行介入 4 州拡大会合* (各州州都開催)	4 州への介入開始後から現在までの活動総括共有、今後の改善へ向けた戦略協議に取り組んだ。
5	2018 年 7 月	先行介入 4 州 (各州州都開催)	2017/2018 年度の中等 COGES・COGES 連合の活動総括を議題として取り組んだ。
<b>【第 2 期】</b>			
6	2018 年 11 月	先行介入 4 州 (ニアメでの合同会合)	2018/2019 年度中等 COGES・COGES 連合活動開始へ向け、対象 4 州の COGES 監督官を一同に集めた合同会合を開催した。

7	2019年1月	先行介入4州 (各州州都開催)	2018/2019年度の中等 COGES・COGES 連合活動立ち上げ状況にかかる評価(COGES 活動計画策定状況総括など)を行い、モニタリングシステムの確立と安定化へ向けて、年度初めの監督官としての業務年間計画にかかり標準モデルを共有、協議を行った。
8	2019年4月	先行介入4州拡大合* (各州州都開催)	現場教育行政官の COGES 活動にかかる理解の促進と、COGES モニタリング支援の強化を図った。
9	2019年7月	先行介入4州 (各州州都開催)	中等 COGES 監督官による COGES および連合活動モニタリング・支援活動の質向上の必要性に鑑み、通常の半日会議から1.5日延長した2日間とし、モニタリング能力強化研修を組み込んだ。2日間会合の主な議題は、①市内中等 COGES・COGES 連合活動状況総括、②中等 COGES 監督官モニタリング結果報告、③市内の中等 COGES・COGES 連合が抱える問題の抽出と解決策の協議、④今後の活動予定と年度初めの COGES 活動立ち上げに係る確認点の整理、⑤モニタリングガイドの共有・概要説明、⑥中等 COGES・COGES 連合モニタリング能力強化のためのケーススタディの実践、協議。
10	2019年11月	3州 (ニアメでの合同会合)	2019/2020年度介入の3州(ティラベリ州、ザンデル州、ニアメ市)に対して、3州合同の中等 COGES 監督官モニタリング会合をニアメにて開催し、10月に実施した中等 COGES 設置にかかる研修およびその後の設置状況の総括、評価を行った。
11	2020年1月	8州 拡大合* (アガデス州、ディッファ州は近隣州会合に参加。その他の州は州都開催)	3日間にわたるモニタリング関連ワークショップを開催した。一連のワークショップにおいては、新規対象校の研修およびその後のプロセス進捗確認を含む、中等 COGES・COGES 連合の活動進捗状況にかかる情報収集、経験共有、問題点および対策、今後の活動予定にかかり協議を行った。また、今後の全国的な中等 COGES 連合の能力強化を視野に入れ、COGES 監督官のモニタリング支援能力強化のための実践的な研修ワークショップを併せて実施した。また、各州県教育事務所長 (DDES) およびフランコアラブ視学官 (IESFA) を参加者として含めた拡大合を最終日に開催し、現場教育行政官の COGES 活動にかかる理解の促進と、COGES モニタリング支援の強化を図った。その他、一連のモニタリングワークショップを通して、中等分野関係者と初めて開催する州教育フォーラム実施へ向け、フォーラム・アプローチ、戦略の共有と共に、具体的なフォーラム内容や準備にかかる協議を行った。
12	2020年9月	8州 拡大合* (アガデス州、ディッファ州は近隣州会合に参加。その他の州は州都開催)	中等 COGES・COGES 連合の活動進捗状況にかかる情報収集、経験共有、問題点および対策、今後の活動予定にかかり協議を行った他、2020年3月と6月に実施された、女子就学促進初等・中等合同州教育フォーラムの活動誓約の実施状況フォローアップを行った。
13	2021年1月	8州 (ティラベリ州、アガデス州、ディッファ州は近隣州会合に参加。その他の州は州都開催)	中等 COGES・COGES 連合の活動進捗状況にかかる情報収集、経験共有、問題点および対策、今後の活動予定にかかり協議を行った他、全州で実施した初等・中等合同州教育フォーラムの結果の共有と優良事例に係る協議、ザンデル州教育フォーラム結果の共有、ザンデル州以外の各州における校外学習時間の増加を目指した戦略策定支援を行った。

14	2021年3月	8州(ティラベリ州、アガデス州、ディッファ州は近隣州会合に参加。その他の州は州都開催)	中等 COGES・COGES 連合の活動進捗状況にかかる情報収集、経験共有、問題点および対策にかかり協議を行った他、2021年3月に実施した経験共有アトリエの内容を共有し、教育の質改善にかかる戦略策定支援を行った。
----	---------	---	---

\*中等 COGES 監督官に加え、中等県教育事務所長 (DDES)・中等フランコアラブ視学官 (IESFA) へと参加者を拡大したモニタリング会合

## b) COGES-ES 活動のモニタリングガイドの作成 (活動 1-10)

### 【第1期】

初等分野での経験や、先行介入4州の COGES-ES および COGES-ES 連合の関係者からのヒアリングを通じた優良事例や多様な経験を収集し、COGES-ES 活動モニタリングガイドの作成を開始した。しかし、中等 COGES 監督官のモニタリング活動に対する国や県からの費用配分はなく、移手段の確保も十分な目途が立たなかった。

入手可能なリソース、特に資金面と関係者のキャパシティーや、中等 COGES、COGES 連合の実践と経験を踏まえて体制案を練り上げる必要があったことから、ガイドの完成は第2期に持ち越された。

### 【第2期】

中等 COGES・COGES 連合、および中等 COGES 監督官の現状とキャパシティー、関係者状況を踏まえ、第1期に着手された COGES-ES 活動モニタリングガイドが2018年10月に完成した。2019年7月の中等 COGES 監督官会議(活動 1-9)においては、ガイドの内容が共有、説明されるとともに、ガイドに基づくケーススタディが紹介、活用され、COGES 監督官のモニタリング能力強化研修が実施された。

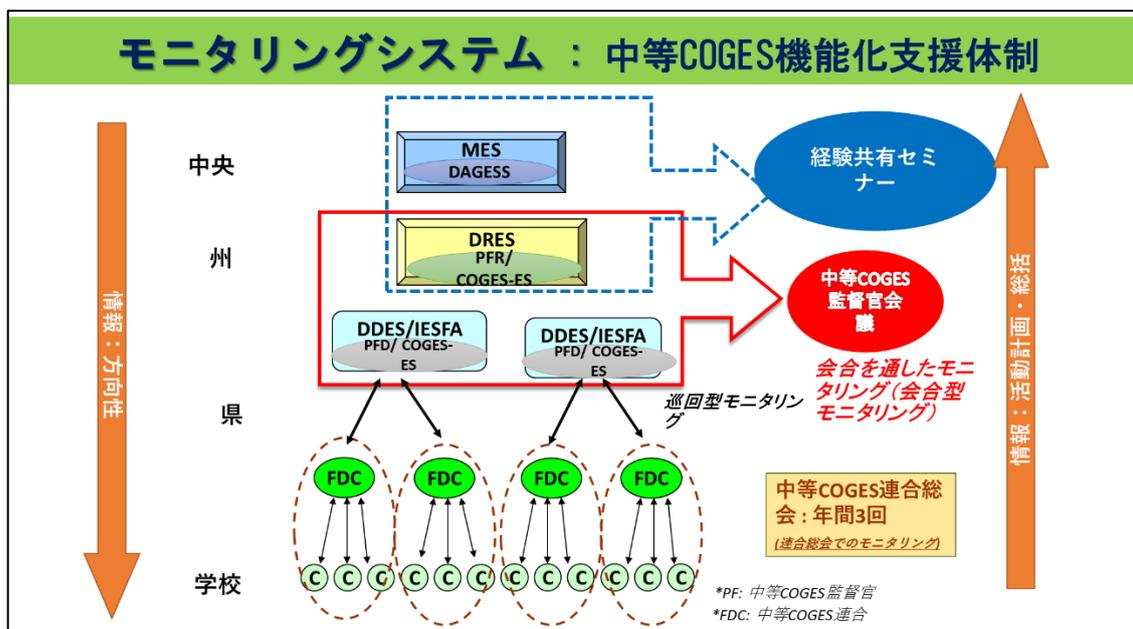


図5：中等モニタリング体制

### c) 機能する COGES-ES 連合のモデル承認 (活動 1-11)

#### 【第 2 期】

2019 年 8 月上旬に、中等教育省中央局、および全国 8 州の地方分散化組織関係者(州・県教育事務所長、視学官)、州・県中等 COGES 監督官、2017/2018 年度先行介入 4 州の中等 COGES 連合の代表者の参加の下、「機能する中等 COGES 連合モデル承認ワークショップ」を開催した。ワークショップ参加者により、プロジェクトが先行介入 4 州で実証を行ってきた「中等 COGES 連合モデル」が承認され、同ワークショップにて承認された中等 COGES 連合の設置、役割・責務、機能にかかる省令案が新規 2 州介入前に発令された。

### d) 機能する COGES-ES に係る情報共有 (活動 1-12)

#### 【第 1 期】

##### 2018 年

2017/2018 年度先行介入 4 州(ドッソ、マラディ、ニアメ、タウア)介入一年目の終盤となる 2018 年 7 月に「機能する中等 COGES モデル普及における COGES、中等 COGES 連合活動経験共有セミナー」の開催支援をおこなった。セミナーでは、中央局長、全 8 州の州教育事務所長ならびに州 COGES 監督官、教育分野開発パートナー等約 50 名の参加者と共に、2017/2018 年度の中等 COGES モデル普及活動の実施状況と成果の確認、COGES 設置後の中等 COGES 活動評価を行い、課題の抽出とその解決へ向けた今後の各自の役割と責務に係る協議を行った。

協議が進む中で、中等 COGES・COGES 連合の発展を妨げる可能性のある一番の課題、そして懸念材料が「モニタリング」であることが確認された。まず、COGES の状況を把握するために必要なデータの回収や分析に係る中等 COGES 監督官の能力強化、次に COGES 監督官のみでは解決できない学校現場の問題に対する視学官・県教育事務所長等の積極的な支援など、ソフト面の強化が強調された。さらに、モニタリング体制が未整備であるという課題も指摘され、特に、COGES 監督官がモニタリングする際の移動手段が確保されていない点、本来中等教育省が負担すべきモニタリング費用(燃料費等)の確保が論点として提起された。当問題への対応に関しては、依然として目途がついておらず、代替案がなければ、議論は堂々巡りになることは必ずである。

#### 【第 2 期】

##### 2019 年

2019 年 8 月に、先行介入 4 州を含む、全国の 2018/2019 年度中等 COGES・COGES 連合活動総括を共有・評価し、今後の方向性を協議するため、中等教育省中央局、および全国 8 州地方分散化組織関係者(州・県教育事務所長、視学官)、州・県中等 COGES 監督官、先行介入 4 州の中等 COGES 連合の代表者を集めた「中等 COGES・COGES 連合活動経験共有セミナー」を開催した。特に、先行介入 4 州以外の州関係者との共有を通し、機能する中等 COGES モデル・連合モデルの有効性への理解を促進することで、来学年度の新規 2 州へのモデル導入ならびに、中等 COGES 連合モデルの国家承認への布石とした。

## 2020年

2020年2月に、中等教育省中央局、全国8州の州教育事務所長、州中等COGES監督官、教育分野開発パートナーなどを集めた「中等COGES・COGES連合活動経験共有セミナー」が開催された。当セミナーでは、2019/2020年度に新規に介入が開始された2州における「機能する中等COGESモデル」導入結果や、2019/2020年度の全国における中等COGES・COGES連合活動の実施状況を共有、評価し、今後の方向性について協議が行われた。また、同セミナーは、2020年3月に初等教育省と合同で実施される全国8州の州教育フォーラム開催準備として、上記COGES-ESにかかる情報共有とともに、みんなの学校プロジェクトが取り組んできた住民参加による教育開発アプローチ、戦略、経験など初等教育関係者と共有するため、合同セミナーの形で実施された。

## 2021年

2021年3月に、中等教育省中央局、および全国8州州教育事務所長、州中等COGES監督官、教育分野開発パートナーを集めた「中等COGES・COGES連合活動経験共有セミナー」が開催された。当セミナーでは、中学1年生の退学率と進級率を大幅に改善した8州中等教育フォーラムの結果と優良事例の共有、補習強化と学力改善をテーマとして実施中のザンデール州教育フォーラムの経過報告、2019/2020学年度の中等COGES・COGES連合活動実績の共有、評価が行われた。また、女子就学を継続的に促進するための戦略について中等教育省中央局、州教育事務所長、州監督官に分かれてグループ討議が行われ、補習活動の強化とモニタリング委員会設置の推奨を含む提言が採択された。

### **2.2.5 エンドライン調査の実施、戦略・政策の策定**

#### **a) エンドライン調査の実施（活動1-13）**

##### ＜ミッドライン調査＞

第1次介入グループ（先行介入4州）と第2次介入グループ（新規2州）間での介入効果を比較するため、新規2州への介入開始前に小規模の「ミッドライン調査」を実施した。当初ミッドライン調査は、2017/2018学年度末の実施を予定していたが、第2次介入グループ（新規2州）への介入時期が1年延期されたことに伴い、2018/2019学年度末となる2019年6月に現場で調査を実施した。

##### ＜エンドライン調査＞

第1次介入グループ（先行介入4州）と第2次介入グループ（新規2州）へのすべての介入完了後に効果を測定するため、2021年1月に現場で調査を実施した。ただし、2020年11月に危険地図の改訂によりティラベリ州全域がレベル4となり、再委託先団体による移動も不可能になったため、ティラベリ州の学校関係対象者は人数を減らし、ニアメ市へ移動してもらった上でアンケート調査が実施された。

2017年3月に実施したベースライン調査（活動1-2）、およびミッドライン、エンドライン調査（活動1-13）の結果は以下の通り。

(1) 調査対象・方法・調査項目

対象	①教育省中央レベル：中等学校分権化課（DGDES）、計画局（DEP）、統計局（DS）、計3名 ②教育省州レベル：介入6州（ニアメ、ドッソ、マラディ、タウア、ティラベリ、ザンデル）の中等州教育事務所長（DRES）、中等州 COGES 監督官（PFR）の計12名 ③教育省県レベル：6州内（各州2名程度）中等県教育事務所長（DDES）、フランコアラブ視学官（IESFA）、中等県 COGES 監督官（PFD）の計27名（エンドライン調査では計22名） ④学校：6州の中学校30校（各州5校）：校長、COGES-ES 長（COGES がない場合には保護者会代表（APE））、教員、生徒、保護者・住民の計330名（エンドライン調査では計284名）		
調査方法・手法	関係者聞き取り調査および文書・データ収集		
調査項目	教育省関連	<b>DGDES/DAGESS-MES、DEP、DS</b> (中央)	①学校運営委員会にかかる政策の変遷と現状および教育省内体制、②教育省学校運営委員会支援関連活動実施状況、③学校運営委員会設置および活動実施状況、③教育統計（男女別）、④学校分権化政策支援ドナー・パートナー（地方自治体等含む）動向・支援状況、⑤教育省学校分権化政策関連予算状況
		<b>DRES、PFR</b> (州)	①管轄州内学校運営委員会および連合設置状況と活動実施状況、②COGES-ES や PFD に対するモニタリング・支援実施状況（回数・内容）、③DRES、PFR への学校モニタリング関係予算配分状況、④バイク・車両の有無、⑤コンピューターなどの機材配備状況、⑥州内教育行政官会議の有無（回数・内容）、⑦学校分権化政策支援ドナー・パートナー（地方自治体等含む）動向・支援状況、⑧教育統計（男女別）
		<b>DDES/IESFA、PFD</b> (県)	①管轄内学校運営委員会および連合設置状況と活動実施状況、②学校や COGES-ES に対するモニタリング・支援状況（回数・内容）、②DDES/IESFA、PFD への学校モニタリング関係予算配分状況、③バイク・車両の有無、④コンピューターなどの機材配備状況、⑤州内教育行政官会議の有無（回数・内容）、⑥校長会議の有無（回数・内容）⑦学校分権化政策支援ドナー・パートナー（地方自治体等含む）動向・支援状況、⑧教育統計（男女別）
学校	①学校運営委員会（中等 COGES の設置状況（設置の有無、選出方法、メンバー、各役割の理解））、②住民集会回数と内容・参加メンバー・人数、③学校活動計画状況（有無、策定方法、内容、実施状況、活動計画の目的の理解）、④住民動員の状況、⑤補助金の状況、⑥会計管理手法、⑦ドナー・パートナー（地方自治体含む）支援の状況、⑧外部モニタリング・支援（有無、回数、内容）、⑩教育統計（男女別）：生徒数、カテゴリー別教員数、留年数、中退数、進級率と修了試験（Brevet d'Etudes du Premier Cycle: BEPC）合格率		

(2) 主な調査結果

1. 調査対象校概要

【学校区分】

ベースライン調査、ミッドライン調査

➤ 30校中 農村部13校(43%)、都市郊外6校(20%)、都市部11校(37%)

公立	私立	通常	フランコアラブ	中学校	中高併設
27	3	26	4	18	12

エンドライン調査

➤ 28 校中 17 校(61%)農村部、1 校(4%)都市郊外、10 校(36%)都市部

公立	私立	通常	フランクアラブ	中学校	中高併設
26	2	24	4	17	11

【生徒数】

ベースライン調査 30 校 (2016/2017 年度)

生徒数	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
男子	4,928	2,798	1,911	2,078	<b>11,715</b>
女子	4,002	2,253	1,768	1,562	<b>9,585</b>
合計	8,930	5,051	3,679	3,640	<b>21,300</b> (1 校平均 710 名)
女子の割合 (%)	44.8%	44.6%	48.1%	42.9%	<b>45.0%*</b>

\*女子率が最も低いのはタウア州の 34%、高いのはザンデール州 54%

ミッドライン調査 30 校 (2017/2018 年度)

生徒数	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
男子	4351	2414	1886	1965	<b>10616</b>
女子	5530	2141	1603	1602	<b>10876</b>
合計	9881	4555	3489	3567	<b>21492</b> (1 校平均 716 名)
女子の割合 (%)	56%	47%	46%	45%	<b>51%*</b>

\*女子率が最も低いのはタウア州の 37%、高いのはニアメ州 71%

エンドライン調査 28 校 (2019/2020 年度)

生徒数	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
男子	3682	2002	1480	1656	<b>8820</b>
女子	3679	2256	1662	1513	<b>9110</b>
合計	7361	4258	3142	3169	<b>17930</b> (1 校平均 640 名)
女子の割合 (%)	49.98%	52.98%	52.90%	47.74%	<b>49.28%*</b>

\*女子率が最も低いのはマラディ州の 43%、高いのはニアメ市 61%

【留年率】

ベースライン調査 30 校 (2015/2016 年度-2016/2017 年度間)

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
男子留年率	21.2%	17.7%	17.9%	29.8%	21.3%
女子留年率	18.0%	15.1%	13.3%	23.2%	17.3%

\* 国全体での平均は 20%程度

ミッドライン調査 30 校 (2016/2017 年度-2017/2018 年度間)

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
男子留年率	25.5%	28.7%	25.0%	40.8%	29.0%
女子留年率	17.3%	25.6%	20.4%	37.0%	22.3%

\* 国全体での平均は 18%程度

エンドライン調査 28 校 (2018/2019 年度-2019/2020 年度間)

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
男子留年率	29.0%	23.2%	27.3%	37.9%	28.8%
女子留年率	25.9%	21.3%	24.5%	36.2%	26.1%

【退学者数】

ベースライン調査 30 校 (2015/2016 年度)

退学率 (30 校合計)	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
退学率 (男子)	5.5%	2.8%	2.0%	2.4%	3.7%
退学率 (女子)	6.1%	3.6%	1.4%	2.0%	4.0%
合計	5.8%	3.1%	1.7%	2.3%	3.8%

ミッドライン調査 30 校 (2017/2018 年度)

退学率 (30 校合計)	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
退学率 (男子)	9.9%	4.1%	2.5%	1.1%	5.6%
退学率 (女子)	5.0%	3.2%	1.7%	1.0%	3.6%
合計	7.2%	3.6%	2.1%	1.1%	4.6%

エンドライン調査 28 校 (2019/2020 年度)

退学率 (30 校合計)	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
退学率 (男子)	4.8%	4.6%	3.1%	1.6%	4.1%
退学率 (女子)	4.9%	3.1%	3.5%	0.9%	3.9%
合計	4.8%	3.8%	3.3%	1.3%	4.0%

【中学卒業試験合格率】

ベースライン調査 30 校

30 校合計	2014/2015		2015/2016	
	男子	女子	男子	女子
中学 4 年生人数	817	703	1377	1127
卒業試験受験登録者数	907	703	1354	1113
卒業試験受験者数	804	701	1346	1102
合格者数	471	381	528	369
<b>合格率 (%)</b>	<b>58.6%</b>	<b>54.4%</b>	<b>39.2%</b>	<b>33.5%</b>
全国合格率 (%)	49.1%	41.7%	32.9%	26.9%

ミッドライン調査 30 校

30 校合計	2016/2017		2017/2018	
	男子	女子	男子	女子
中学 4 年生人数	1634	1281	1634	1281
卒業試験受験登録者数	1770	1388	1770	1388
卒業試験受験者数	1764	1378	1764	1378
合格者数	535	378	535	378
<b>合格率 (%)</b>	<b>30.3%</b>	<b>27.4%</b>	<b>30.3%</b>	<b>27.4%</b>
全国合格率 (%)	31.9%	27.5%	31.9%	27.5%

エンドライン調査 28 校

28 校合計	2018/2019		2019/2020	
	男子	女子	男子	女子
中学 4 年生人数	1766	1461	1766	1461
卒業試験受験登録者数	1764	1496	1764	1496
卒業試験受験者数	1778	1471	1778	1471
合格者数	591	446	591	446
<b>合格率 (%) (注)</b>	<b>33.2%</b>	<b>30.3%</b>	<b>33.2%</b>	<b>30.3%</b>

(注) エンドライン調査が行われた 2019/2020 年度は、教育統計が発行されておらず、エンドライン調査時点での全国合格率データはなし。

2. 中等 COGES 設置状況

【COGES 有無】

- 聞き取り対象者は校長、教員、保護者、COGES/保護者会メンバー。
- 聞き取り対象者が全員一致して「COGES がある」と回答したのはベースライン調査 30 校中 26 校(86.7%)、ミッドライン調査 30 校中 27 校(90.0%)、エンドライン調査では回答があった 24 校中 23 校(95.8%)であった。

#### 【メンバー選出方法】

- 聞き取り対象者は校長、COGES／保護者会メンバー。
- 主要メンバー（代表、秘書、会計）の選出方法について、ベースライン、ミッドライン調査では、約70%以上の調査対象校が「コンセンサス」もしくは「挙手」と答えており、「選挙」と答えたのは30%程度であったが、エンドライン調査においては、代表と会計については約70%が、秘書については約50%の調査対象校が、「選挙」と回答した。
- どの調査においても、聞き取り対象が校長であるケースは、「選挙」と答える率が常に高く、2～3校で校長とCOGESメンバー間の回答の相違がみられたが、ベースライン調査、ミッドライン調査時と比べて、エンドライン調査では選挙を実施したと回答した割合が着実に増えた。

### 3. 学校活動計画

#### 【活動計画策定状況】

##### ベースライン調査

- 30校中23校（77%）の校長が、2015／2016年度、2016／2017年度とも、学校活動計画を策定していると回答している。COGESメンバーの場合は、少し数字が下がるものの、少なくとも21校（70%）において、学校活動計画が存在すると回答している。
- 両者が両学年度とも、策定していないと回答したのは30校中2校（7%）。

##### ミッドライン調査

- 29校中24校（83%）の校長が2017／2018年度、2018／2019年度共に学校活動計画を策定しているとしており、その数はCOGESメンバーの場合も24校である。
- 一方で、両者が一貫して両学年度共に策定していないと回答しているのは1校（3%）のみ。

##### エンドライン調査

- 26校中20校（77%）の校長が2018／2019年度、2019／2020年度共に学校活動計画を策定しているとしており、その数はCOGESメンバーの場合は19校（70%）にまで下がるものの、少なくとも7割の学校では学校活動計画が例年存在するとの回答した。
- 両学年ともに策定していないと回答した校長は26校中0校であったが、COGESメンバーは26校中3校（7%）が策定していないと回答したか無回答であった。

#### 【活動計画内容】

対象COGES中の7割以上において実施されている活動（校長回答）は以下のとおり。（割合が高い順番に列挙。）

#### ベースライン調査

- 演習およびテストの印刷（コピー）
- 教室及び机備品等の建設・修繕
- 教員・生徒出席モニタリング

#### ミッドライン調査

- 演習およびテストの印刷（コピー）
- 補習授業の実施
- 模擬試験の実施
- 教員研修支援
- 教室及び机備品等の建設・修繕

#### エンドライン調査

- 補習授業の実施
- 演習およびテストの印刷（コピー）
- 模擬試験の実施
- 優秀生徒への賞与
- 教室及び机備品等の建設・修繕

#### 【学力改善活動（補習学習活動）】

#### ベースライン調査

- COGES 学校活動計画以外の活動も含め、補習学習活動を実施している学校は対象 30 校中 25 校（83%）。一方、1～3 年生を補習の対象としている学校は少なく、ほとんどの学校は、卒業試験の受験者を対象に補習を実施している。

学年	補習実施 COGES 数	割合
1 年生	10	33.3%
2 年生	11	36.7%
3 年生	14	46.7%
4 年生	25	83.3%

- なお、上記活動を実施運営しているのは校長もしくは教員であり、COGES として関与しているケースは 3 校のみ。

#### ミッドライン調査

- COGES 学校活動計画内で計画している活動でないものも含め、補習・強化学習を実施している学校は対象 30 校中 25 校（83%）。ベースライン調査時と比べ、1～3 年生を補習の対象としている割合が増加した。

学年	補習実施 COGES 数	割合
1 年生	14	46.7%
2 年生	13	43.3%
3 年生	15	50.0%

4年生	22	73.3%
-----	----	-------

- 上記活動の実施運営は、6割が校長もしくは教員であり、4割がCOGESとして関与している。

#### エンドライン調査

- COGES 学校活動計画内で計画している活動でないものも含め、補習・強化学習を実施した学校は回答があった対象26校中22校（85%）。

学年	補習実施 COGES 数	割合
1年生	17	60.1%
2年生	16	57.1%
3年生	16	57.1%
4年生	19	67.9%

- 上記活動の実施運営は、8割が校長もしくは教員であり、2割がCOGESとして関与している。

#### 4. リソース管理・資金調達

##### 【資金調達状況】

#### ベースライン調査

- 対象30校において聞き取りをおこなった2015/2016年度および2016/2017年度の計画、調達、支出額は以下の通り。

	2015/2016 (Fcfa)	2016/2017 (Fcfa)
COGES 当たりの計画額平均	1,046,815	1,479,165
COGES 当たりの調達額平均	748,645	853,500
COGES 当たりの支出額平均	795,280	859,980

#### ミッドライン調査

- 対象30校において聞き取りをおこなった2017/2018年度および2018/2019年度の計画、調達、支出額は以下の通り。

	2017/2018 (Fcfa)	2018/2019 (Fcfa)
COGES 当たりの計画額平均	1,515,578	1,777,927
COGES 当たりの調達額平均	1,199,645	1,709,236
COGES 当たりの支出額平均	1,052,477	1,168,343

#### エンドライン調査

- 対象28校において聞き取りをおこなった2019/2020年度の計画、調達、支出額は以下の通り。

	2019/2020 (Fcfa)
COGES 当たりの計画額平均	1,939,463
COGES 当たりの調達額平均	1,326,258
COGES 当たりの支出額平均	1,109,776

5. 情報共有・コミュニケーション（COGES メンバー会議、住民集会開催状況）

【COGES メンバー会議】

- 対象校における年間の COGES メンバー会議開催数はベースライン調査では平均 3 回、ミッドライン調査では平均 4 回、エンドライン調査では平均 5 回であった。
- 当該回数に関しては、COGES メンバー、校長の回答間にそれほど大きな差はなかった。

【住民集会】

- ベースライン調査においては、約 8 割の COGES メンバーが住民集会を「年に 1 回も開催しなかった」と回答したが、ミッドライン調査では約 6 割の COGES メンバーが「年に 2 回開催した」と回答し、エンドライン調査では 8 割の COGES メンバーが、「年に 3 回以上開催した」と回答した。

ベースライン調査時点では、以下の状況を把握することができた。

組織の実態や規模、機能の度合いに関係なく、ほとんどの学校において、COGES の存在は関係者間で認知されている。これは、中等教育省の前身にあたる高等教育省と、その後の国民教育省が前期中等教育を管轄していた頃から、初等教育分野における COGES もしくは CGDES の発展形として、COGES の設置が省令により、義務付けられてきたからであると推察する（関連省令：①Arrêté n°0125/MESS/R/T/SG/DAF/DEP/DECB2/M du 10 août 2005、② Arrêté n° 0063/MESS/R/S/SG/DGE/DEP/DECB2/ M du 06 avril 2011、③Arrêté n° 000039/MEN/A/PLN/SG du 22 février 2012.）。そのため、「COGES」自体は学校施設に存在することが「前提」となっており、多くの場合、視学官や教育事務所から校長に対して設置の指導が行われている。また、学校現場（特に公立校）においては「COGES」の名のもとに、保護者からの分担金（生徒当たり 2000Fcf 前後）が長年徴収されているため「COGES」という名称の認知されている。

なお、分担金の用途は、授業のレジユメや教科書・教材等のコピーや成績表、模擬試験、教室修繕等であり、教育省から供与される学校運営費が不安定で不十分な状況下、学校運営費のほとんどを保護者の分担金で賄っていることから、分担金の徴収は学校のアドミニストレーション全体で取り組んでいるところも多い。生徒当たりの金額で徴収額を固定している学校が多いことから、初等よりも規模が大きい中等では、一校当たりの金額も比較的大きい。

その一方で、COGES メンバー会議や住民集会の頻度の低さや、その回答に係るアクター間の差異からも明らかなように、COGES の機能性には多くの問題があり、特に情報共有の不足は深刻である。全般的に校長の回答がより高いのは「教育施設の長として望ましい回答」を行う傾向にあるのはもちろんのこと、COGES としての活動や情報をすべて校長が独占している状況の現れともいえる。調査結果から、分担金の額も大きくなり、学校活動計画として様々な活動が実施されているが、中には住民集会等での共有がないまま、学校（校長）もしくは一部の COGES が義務として分担金を徴収し、活動計画を立て、実施するという状況も生まれているので

はないかと推察される。

エンドライン調査では、2019/20年度にすべてのCOGESおよび、COGES連合の設置が完了したことを受け、COGES、COGES連合の設置状況が大幅に向上した。また、メンバー間の情報共有については、COGESメンバー会議や住民集会の開催頻度については、ベースライン調査時と比べると着実に増えている。特に住民集会については8割以上のCOGESメンバーが年間の住民集会開催回数を3回以上と回答しており、機能するCOGES運営が行われている様子が伺える。その一方で、COGES、COGES連合メンバーの中の女性の数については、規定されている最低3名に届いているCOGESとCOGES連合はそれぞれ3割程度に過ぎず、女性の参加は依然大きな課題となっている。

その他、2020年3月と6月に退学率、進級率の改善を目標に全国で州教育フォーラムが開催されたが、エンドライン調査においても、2019/20学年度に退学率が減少傾向にあることが確認された。また、同教育フォーラムの学校レベルの活動として、特に中学1年生に対する補習活動強化が行われたが、補習活動が学校活動計画によって計画、実施される割合が大幅に増え、特にこれまでは卒業試験対策として4年生への補習活動の割合が高かったが、1年生から3年生に対する補習活動実施数が増加したことが確認された。

**b) COGES の定着、COGES に関連した政策・戦略強化のための提言をとりまとめることを目的としたワークショップの開催（活動 1-14）**

**【第2期】**

プロジェクトの終盤である2021年4月に、中等教育省中央局長、全国8州州教育事務所長、州中等COGES監督官、教育分野開発パートナー等が集まり、「COGESの定着、COGESに関連した政策・戦略強化のための提言をとりまとめることを目的としたワークショップ」が開催された。ワークショップでは、①今フェーズにおけるプロジェクト活動の全体総括として活動内容、活動実施における課題、及び優良事例と、②補習強化と学力改善をテーマとして実施したザンデル州教育フォーラムの結果が共有された。

活動総括では、モニタリング委員会設置によって早婚防止が行われた事例、私立校へのCOGES設置に課題が残る州において県教育事務所が介入した事例、COGES連合による補習活動支援、COGES連合間での経験共有の実施などの優良事例が各州から共有された。

その後、今後の中等COGESおよび中等COGES連合の持続可能なモニタリング方法と教育の質の改善にかかる協議が行われた。協議の結果、長年に渡り課題となってきたモニタリング費については政府の来年度予算に組み込むこと、学校運営委員会への補助金については関係者の能力強化をすること、教育の質の向上についてはモニタリング委員会を普及すること、統一の学力試験を実施することなどが提言として採択された。

**c) 中等レベルにおける女子生徒の就学促進州フォーラムを実施する（活動 1-15）**

**【第1回（初等8州）2019年11月】**

2019年11月に、UNICEFとの女子就学促進のための活動連携の枠組みの一環として、「女子就学促進のための州教育フォーラム」が全国8州で開催された。各州フォーラムにおいては、全国および各州の就学全般および女子就学状況にかかる課題と解決策の協議を経て、①今年度新入学児童の増加（前年度比20%増）および女子児童比率の改善（1~2%増）もしくは男女比均衡化の維持、②フォーラム内容の州内関係者への伝達、③目標達成へ向けた州内関係者の協働関係の発展が決議され、地方行政（知事、市長）、教育行政、CGDES 連合、伝統的宗主、宗教指導者、教育組合、支援ドナーがそれぞれ、決議内容の実現へ向けた活動誓約を表明した。

フォーラム実施後の各州における結果は以下の通り。フォーラム実施後の2019/2020年度の新入学児童数は2018/2019学年度の53.7万人と比べて約17.5万人増加し、71.2万人となった（前年度比33%増）。また、新入学児童の女子の割合は46.5%から1%改善し47.5%となった。

表11：新小学1年生児童数- フォーラム前年度（2018/19年度）、フォーラム開催年度（2019/20年度）比較

州	2018/2019年度（フォーラム前）				2019年12月末時点（フォーラム後）				比較（増減）	
	小学1年男子児童数	小学1年女子児童数	小学1年児童数合計	小学1年女子の割合	小学1年男子児童数	小学1年女子児童数	小学1年児童数合計	小学1年女子の割合	小学1年児童数	小学1年女子児童割合
Agadez	11034	9646	20680	46.6%	11661	10540	22201	47.5%	1521	0.8%
Diffa	8928	9167	18095	50.7%	9947	9863	19810	49.8%	1715	-0.9%
Dosso	38964	32820	71784	45.7%	51301	44957	96258	46.7%	24474	1.0%
Maradi	58957	48315	107272	45.0%	84181	73438	157619	46.6%	50347	1.6%
Niamey	23882	23845	47727	50.0%	27020	27174	54194	50.1%	6467	0.2%
Tahoua	52899	40271	93170	43.2%	73161	58590	131751	44.5%	38581	1.2%
Tillabéri	41891	39069	80960	48.3%	57095	57968	115063	50.4%	34103	2.1%
Zinder	50771	46741	97512	47.9%	59365	55636	115001	48.4%	17489	0.4%
<b>National</b>	<b>287326</b>	<b>249874</b>	<b>537200</b>	<b>46.5%</b>	<b>373731</b>	<b>338166</b>	<b>711897</b>	<b>47.5%</b>	<b>174697</b>	<b>1.0%</b>

### 【第2回（初等・中等8州）2020年3月、6月】

2020年3月と6月には、再度UNICEFとの共同支援により、初等・中等合同で全国統一テーマによる州教育フォーラムが8州で開催された。初等・中等ともに（他学年よりも進級基準が低いにもかかわらず）1年生の退学率が非常に高い現状に鑑み、第1回フォーラム結果総括（入学児童数、男女比改善状況）を行ったうえで、「就学維持（初等・中等新入生のドロップアウト減少・進級推進）」にかかる教育課題に対して地域的な取り組みを促進することをテーマとした。また、この課題は初等・中等両分野共に通じる課題であることから、第1回のフォーラムを実施した初等教育分野関係者のみならず、「機能する中等COGES」および「中等COGES連合」の普及を終えた中等教育関係者を新たな参加者として加え、初等・中等それぞれの活動のみならず、両者協働による活動を視野に入れたフォーラム内容、討議進行、協議活動を試みた。

フォーラム実施後の初等教育にかかる結果は、以下の表 12 と表 13 の通り。

表 12：小学 1 年生の退学者・退学率データ - フォーラム前年度（2018/19 年度）、フォーラム開催年度（2019/20 年度）

州	2018/2019 年度（フォーラム前）				2019/2020 年度（フォーラム後）				比較（増減）		
	小学 1 年児童数	小学 1 年退学者数	小学 1 年退学率	小学 1 年退学率（女子）	小学 1 年児童数	小学 1 年退学者数	小学 1 年退学率	小学 1 年退学率（女子）	小学 1 年退学者数	小学 1 年退学率	小学 1 年退学率（女子）
Agadez	20680	3115	15.1%	13.3%	20972	2535	12.1%	12.8%	-580	-2.98%	-0.52%
Diffa	18093	2593	14.3%	13.2%	19810	613	3.1%	0.5%	-1980	-11.24%	-
Dosso	71784	12274	17.1%	15.9%	96258	22156	23.0%	23.6%	+9882	+ 5.92%	7.68%
Maradi	107272	5137	4.8%	5.1%	140440	1766	1.3%	-1.0%	-3371	-3.53%	-6.11%
Niamey	47727	1277	2.7%	-0.4%	42564	-7409	-17.4%	-18.1%	-8686	-20.08%	-
Tahoua	93170	15204	16.3%	16.2%	117378	6270	5.3%	8.2%	-8934	-10.98%	-7.98%
Tillabéri	80960	4461	5.5%	4.0%	110347	41369	37.5%	37.4%	+36908	+ 31.98%	33.46%
Zinder	97512	18903	19.4%	17.5%	121987	7237	5.9%	4.0%	-11666	-13.45%	-
全国	537198	62964	11.7%	10.6%	669756	74537	11.1%	10.8%	+11573	-0.59%	0.27%

表 13：小学 1 年生から小学 2 年制への進級人数・進級率データ - フォーラム前年度(2018/19 年度) とフォーラム開催年度（2019/20 年度）比較

州	2018/2019 年度（フォーラム前）				2019/2020 年度（フォーラム後）				比較（増減）		
	小学 1 年児童数	小学 2 年への進級人数	小学 2 年への進級率	小学 2 年への進級率（女子）	小学 1 年児童数	小学 2 年への進級人数	小学 2 年への進級率	小学 2 年への進級率（女子）	小学 2 年への進級人数	小学 2 年への進級率	小学 2 年への進級率（女子）
Agadez	20680	17,565	84.9%	86.7%	20,972	18,437	87.9%	87.2%	872	2.98%	0.52%
Diffa	18093	15,500	85.7%	86.8%	19,810	19,197	96.9%	99.5%	3,697	11.24%	12.75%
Dosso	71784	59,510	82.9%	84.1%	96,258	74,102	77.0%	76.4%	14,592	-5.92%	-7.68%
Maradi	107272	102,135	95.2%	94.9%	140,440	138,674	98.7%	101.0%	36,539	3.53%	6.11%
Niamey	47727	46,450	97.3%	100.4%	42,564	49,973	117.4%	118.1%	3,523	20.08%	17.75%
Tahoua	93170	77,966	83.7%	83.8%	117,378	111,108	94.7%	91.8%	33,142	10.98%	7.98%
Tillabéri	80960	76,499	94.5%	96.0%	110,347	68,978	62.5%	62.6%	-7,521	-31.98%	-
Zinder	97512	78,609	80.6%	82.5%	121,987	114,750	94.1%	96.0%	36,141	13.45%	13.55%
全国	537198	474,234	88.3%	89.4%	669,756	595,219	88.9%	89.2%	120,985	0.59%	-0.27%

初等教育においては、6 州において退学率と進級率が改善し、州教育フォーラム実施による成果が見られた。残念ながらティラベリ州とドソン州においては退学率や

進級率が悪化してしまいましたが、それは、治安の悪化に伴い教師や児童が学校に来られなかったことや、児童の増加に対して教員の増員が伴わず、教員の不在により児童が登校しなくなったことが挙げられた。一方で、退学率が改善したタウア州やマラディ州では教員が増加しており、国全体の教員配置に関する課題が伺える。前年度比で退学率が減少したものの、未だに退学率が高いアガデス州では、州教育フォーラムで増加した児童数に対して教室数の不足が課題となっている。

フォーラム実施後の中等教育にかかる結果は、以下の表 14 と表 15 の通り。

表 14：中学 1 年生の退学者・退学率データ - フォーラム前年度（2018/19 年度）、フォーラム開催年度（2019/20 年度）

州	2018/2019 年度（フォーラム前）				2019/2020 年度（フォーラム後）				比較（増減）		
	中学 1 年児童数	中学 1 年退学者数	中学 1 年退学率	中学 1 年退学率（女子）	中学 1 年児童数	中学 1 年退学者数	中学 1 年退学率	中学 1 年退学率（女子）	中学 1 年退学者数	中学 1 年退学率	中学 1 年退学率（女子）
Agadez	9,466	2,348	24.8%	20.8%	9,176	1,605	17.5%	11.7%	-743	-7.3%	-9.1%
Diffa	3,608	1,619	44.9%	45.0%	3,845	879	22.9%	19.9%	-740	-22.0%	-25.1%
Dosso	28,425	9,236	32.5%	32.3%	31,022	8,075	26.0%	22.9%	-1,161	-6.5%	-9.4%
Maradi	46,759	15,632	33.4%	34.4%	50,342	10,592	21.0%	20.6%	-5,040	-12.4%	-13.8%
Niamey	28,443	7,775	27.3%	25.4%	32,119	6,735	21.0%	19.6%	-1,040	-6.3%	-5.8%
Tahoua	33,691	13,378	39.7%	41.2%	34,940	7,573	21.7%	18.1%	-5,805	-18.0%	-23.1%
Tillabéri	22,628	8,358	36.9%	35.6%	22,526	4,197	18.6%	17.1%	-4,161	-18.3%	-18.5%
Zinder	29,432	10,819	36.8%	35.8%	28,755	6,998	24.3%	23.6%	-3,821	-12.5%	-12.2%
<b>全国</b>	<b>202,452</b>	<b>69,165</b>	<b>34.2%</b>	<b>33.4%</b>	<b>212,725</b>	<b>33,925</b>	<b>21.9%</b>	<b>20.0%</b>	<b>-22,511</b>	<b>-12.3%</b>	<b>-13.4%</b>

表 15：中学 1 年生から中学 2 年制への進級人数・進級率データ - フォーラム前年度(2018/19 年度) とフォーラム開催年度（2019/20 年度）比較

州	2018/2019 年度（フォーラム前）				2019/2020 年度（フォーラム後）				比較（増減）		
	中学 1 年児童数	中学 2 年への進級人数	中学 2 年への進級率	中学 2 年への進級率（女子）	中学 1 年児童数	中学 2 年への進級人数	中学 2 年への進級率	中学 2 年への進級率（女子）	中学 2 年への進級人数	中学 2 年への進級率	中学 2 年への進級率（女子）
Agadez	9,466	3,837	40.5%	47.7%	9,176	5,578	60.8%	69.0%	1,741	+	+
Diffa	3,608	1,320	36.6%	37.8%	3,845	2,213	57.6%	63.1%	893	+	+
Dosso	28,425	13,832	48.7%	47.7%	31,022	15,806	51.0%	53.0%	1,974	+ 2.3%	+ 5.3%
Maradi	46,759	20,520	43.9%	41.6%	50,342	30,407	60.4%	59.8%	9,887	+	+
Niamey	28,443	16,048	56.4%	58.2%	32,119	17,610	54.8%	56.4%	1,562	- 1.6%	- 1.8%
Tahoua	33,691	13,344	39.6%	35.8%	34,940	18,601	53.2%	57.6%	5,257	+	+

										13.6%	21.8%
Tillabéri	22,628	9,086	40.2%	38.3%	22,526	12,527	55.6%	56.9%	3,441	+	+
										15.4%	18.6%
Zinder	29,432	12,824	43.6%	44.2%	28,755	15,535	54.0%	55.9%	2,711	+	+
										10.4%	11.7%
<b>全国</b>	<b>202,452</b>	<b>90,811</b>	<b>44.9%</b>	<b>44.6%</b>	<b>212,725</b>	<b>118,277</b>	<b>55.6%</b>	<b>57.5%</b>	<b>27,466</b>	<b>+</b>	<b>+</b>
										<b>10.7%</b>	<b>12.9%</b>

中等教育においては、フォーラム実施前年度の2018/2019年度は、全国の中学1年生の生徒数約20万人に対し約7万人(34.2%)が中学1年生のうちに退学をしていたが、フォーラム開催後の2019/2020年度には中学1年生の退学率は21.9%へと大幅に減少し、フォーラム開催前と比べて退学者は約4万7千人へと減少した。また、女子生徒の退学率は2018/2019年度は33.4%であったが、フォーラム開催後には20.0%へとこちらも大幅に減少した。

中学1年生から2年生への進級者については、2018/2019年度は約20万人の中学1年生のうち、約11万人は中学校に入学したものの退学してしまうか留年しており、約9万人(44.9%)の生徒しか中学2年生へと進級できていなかった。しかし、フォーラム開催後の2019/2020年度にはその割合が55.6%へと上昇し、12万人近い生徒が進級した。女子の進級率についても44.6%から57.5%へ大幅に上昇するという大きな成果を得た。

### 【第3回(中等ザンデール州)2020年11月】

上述の通り、前回2020年3月、6月に全国8州で開催した女子就学促進州教育フォーラムにおいては、全国の学校およびコミュニティにおける、保護者、教員、地方行政、教育行政などの協働により、退学率の削減と進級率の向上に関して非常に良い結果を生み出した。

中等教育において、今後も中学1年生の退学率の削減と進級率の向上は非常に重要な取り組みとなるという点を考慮し、退学率の高さにも影響する基礎学習能力向上を地域的な取り組みで解決に導くことを目指し、中等教育関係者のみの開催としては初めてとなる州教育フォーラムを11月にザンデール州で開催した。参加者約250名による協議の結果、①中学1年生の仏語、数学の補習授業を3カ月で各50時間実施すること、②仏語、数学共に、ベースラインテストと比較して、エンドラインテストの中学1年生試験合格者数が3割増加すること、③フォーラム内容の州内関係者への伝達、④目標達成へ向けた州内関係者の協働関係の発展が決議された。

フォーラム実施後、12月にベースラインテストが行われた後に補習授業が開始され、3月末までにエンドラインテストが行われた。その結果、ザンデール州の平均で、フランス語48時間、数学35時間の補習授業が行われ。仏語はベースラインテスト合格率35%に対し、エンドラインテスト合格率は56%(21%ポイント改善)となり数学はベースラインテスト合格率30%に対し、エンドラインテスト合格率は52%(22%ポイント改善)となった。州で決議された数値には今一步及ばなかったものの、3カ月という短期間ながら、関係者の努力により学力向上の結果を得たことは評価に

値する。

#### 【第4回（中等ザンデール州）2021年4月】

2020年11月のザンデール州教育フォーラム開催から約5カ月後となる2021年4月に、第3回フォーラムの結果共有も兼ねて、再びザンデール州中等教育関係者を対象とした女子就学促進州教育フォーラムを開催した。

2020年3月と6月に全国8州で開催した第2回女子就学促進州教育フォーラムの成果を分析するために聞き取り調査を行ったところ、フォーラム後に学校運営委員会により実施された活動の多くは、「学力改善」を図るものと、「社会規範・意識変容」を図るものの2つに分類される傾向が見られ、「学力改善」に分類される活動の中では補習授業の実施、「社会規範・意識変容」に分類される活動の中では、学校運営委員会下部組織としてのモニタリング委員会設置による早婚防止活動等が効果的な事例として言及された。学校運営に関わる活動全般を担う学校運営委員会に対して、モニタリング委員会は特定の課題に焦点を絞り活動を行うものであり、第2回州教育フォーラム後、早期婚防止等の特定課題の解決に向けてモニタリング委員会を独自に設置し、活動を実施した学校の事例が報告されていた。第2回州教育フォーラムは中学1年生のみを対象としていたが、本フォーラムでは、その成果を中学校全4学年（中学1～4年生）に拡大することで、前期中等教育全体における「就学維持（中退減少・進級向上）」の改善を図ることをテーマとして協議を行った上で、モニタリング委員会の設置支援を行う事とした。

コロナ感染症対策によって1会場内に招集できる人数制限が布かれていることを踏まえ、「就学維持（中退減少・進級向上）」の改善を導き出すのにもっとも影響力が強いと考えられたアクター約90名に参加者を絞り開催した。協議の結果、以下の3点が決議された。

- ① 中学校1～3年生における進級率上昇（前年度比において、中学1年生5.0%ポイント（56.5%→61.5%）、中学2年生5%ポイント（63.2%→68.2%）、中学3年生3.3%ポイント（64.7%→68.0%）上昇）
- ② 中学校1～4年生における中退率減少（前年度比において、中学1年生4.4%ポイント（21.9%→17.5%）、中学2年生5.9%ポイント（21.9%→16.0%）、中学3年生3.0%ポイント（20.0%→17.0%）、中学4年生2.7%ポイント（20.7%→18.0%）減少）
- ③ ザンデール州全中学校における中退防止モニタリング委員会の設置

また、フォーラム翌日には中等COGES連合代表者への中退防止モニタリング委員会設置研修を実施し、設置支援を行った。

### 2.3 【成果2に係る業務】質のミニマム・パッケージの普及に係る活動

「質のミニマム・パッケージ」の普及に係る活動として、プロジェクト期間中に次の4つを実施した。

- ① PAEQによる質のミニマム・パッケージ（算数）普及

プロジェクト 1～2 年目に行われた「PAEQ による質のミニマム・パッケージ（算数）普及」は、GPE 資金（世銀管理）を含むコモンファンドによる PAEQ プロジェクト活動として実施され、ティラベリ州全 3500 校を対象とした。（活動 2-1, 2-3～2-6）

#### ② 質のミニマム・パッケージ（算数・読み書き）開発

上記①に識字（読み書き）を統合したモデルを開発するためのパイロット活動である。ティラベリ州において 3 校から 101 校に順次規模を拡大しつつ実施した。（活動 2-1, 2-7～2-11）

#### ③ 質のミニマム・パッケージ（PMAQ）を学力向上プログラム（PMN）に統合するためのパイロット活動

質のミニマム・パッケージ（PMAQ）を初等教育省の「学力向上プログラム」（PMN）へ統合する活動（PMAQ-PMN）で、2019/2020 年度に 4 校でパイロットを実施した後、2020/2021 年度にタウア州、ニアメ市、ドツソ州の計 6,500 校で実施した。（活動 2-1, 2-15）

#### ④ 経済社会開発無償による質のミニマム・パッケージ（算数）普及支援

経済社会開発無償による質のミニマム・パッケージ（算数）普及支援」で、マラディ州全 3500 校を対象として 2020/2021 年度に実施した。（活動 2-3～2-6）

### 2.3.1 研修マニュアル及びガイドの改訂（活動 2-1）

#### 【PAEQ による質のミニマム・パッケージ（算数）普及支援関連】

2016/2017 年度からティラベリ州全校への質のミニマム・パッケージ（算数）普及を支援する予定であったが、プロジェクト開始時点で PAEQ 活動の算数ドリルの調達が遅れており、年度途中でドリルの導入を開始することの効果減少への懸念から、初等教育省関係者、世界銀行ニジェル支所と協議の上、普及支援を 2017/2018 学年度へと繰り越すこととした。

質のミニマム・パッケージ（算数）普及実践後の質のミニマム・パッケージ読み書き・算数統合モデル普及計画については、2018/2019 年度にモデルの導入（約 2000 校）、2019/2020 年度に 1 州全校（約 4000 校）への普及、2020/2021 年度に 2 州への普及を目指す初等教育省 3 ヶ年計画の策定を支援した。

#### 【質のミニマム・パッケージ読み書き・算数統合型モデル開発関連】

##### 1) 2016/2017 学年度

プロジェクトの質のミニマム・パッケージ読み書き・算数統合モデル開発パイロット活動実施へ向け、プロジェクト開始から 2017 年 3 月にかけて、初等教育省関係者とともに質のミニマム・パッケージ（読み書き）ツール（マニュアル・ガイド・児童用ドリル、学力テスト）を開発し、3 校でパイロット活動を実施した。また、プロジェクト支援の読み書きツールは仏語であるのに対し、PAEQ 支援の現地語読み書きツール開発支援にも継続的に取り組み、2017 年 4 月末からツールの活用を試行した。

##### 2) 2017/2018 学年度

2016/2017 年度の質のミニマム・パッケージ（読み書き）パイロット活動の結果、ならびに 2017 年 10 月実施の「10 日間読み書き速習試行活動」の結果をもとに、初等教育省関係者ととともに質のミニマム・パッケージ（読み書き）ツール（マニュアル・ガイ

ド・児童用ドリル、学力テスト)の改訂を2017年11～12月に実施した。また、改訂版ツールを用いて、2017/2018学年度「質のミニマム・パッケージ統合モデルパイロット活動」を53校で実施した。

### 3) 2018/2019学年度

2017/2018年度の質のミニマム・パッケージ読み書き・算数統合モデルパイロット活動の結果と、2018年7～8月にかけて実施された「Pratham TaRLアプローチにかかる研修」の結果を踏まえ、2018年11月および12月に質のミニマム・パッケージモデル改訂ワークショップを開催し、マニュアル、ガイド、学力テストを含む学習ツールの改訂を行った。また、改訂版ツールを用いて、2018/2019年度「質のミニマム・パッケージ統合モデルパイロット活動」を101校で実施した。

### 4) 2019/2020学年度

初等教育省は新学期の3か月間(10月～12月)の授業時間を通常のカリキュラムではなく、読み書き算数の基礎学力向上(既習事項の定着)に充てる「学力向上プログラム」(PMN)を2017/2018学年度から開始していたが、質のミニマム・パッケージ(PMAQ)の一部をPMN内の活動として授業に導入し、並行してコミュニティ支援の補習活動を行うPMAQ-PMNを2019/2020学年度に4校で実施した。その際、普及可能性を高めるため、児童用読みドリルの改訂とCGDESへ配布するツールを削減した。

### 5) 2020/2021学年度

PMAQ-PMNのタウア州、ニアメ市、ドツツ州の6500校への普及にかかり、マニュアル、ガイド、児童用読みドリルの改訂とCGDESでのツール作成に係る指導書の作成を行った。

## 2.3.2 ベースライン調査の実施(活動2-2)

ベースライン調査は、初等教育段階における児童の学習に関し、現状及び課題を把握するため、2017年3月より、文献調査、中央・地方の関係者(中央局、州・県教育事務所長、州・県CGDES監督官、教員、保護者、児童等学校関係者)への聞き取り、児童学力テスト(算数)をティラベリ州を対象に実施し、聞き取りおよび学カスト分析結果をベースライン調査報告書として取りまとめた。

### 【初等分野ベースライン調査結果概要】

#### (1) 調査対象・方法・調査項目

対象	①教育省中央レベル：初等学校分権化課(DGDE)、計画局(DEP)、統計局(DS)等、②教育省州レベル：ティラベリ州教育事務所長(DREP)、州COGES監督官(PFR)③教育省県レベル：ティラベリ州内(2県程度)県教育事務所長(DDEP)、県COGES監督官(PFD)④学校：【聞き取り調査】ティラベリ州の小学校45校(渡航可能県内からランダム)：CGDES代表、校長、保護者・住民、教員、児童【児童学力調査】ティラベリ州の小学校45校児童1～6年生(6学年全数)：3360名対象
調査方法・手法	①質問票による聞き取り調査、②資料・データ収集、③児童学力テスト

調査項目	<p>【教育省関係】CGDES 活動状況、モニタリング実施状況、児童の学力状況、教育統計（男女別指標）、他 PDM 指標関連データ収集</p> <p>【学校現場】</p> <p>①学校運営状況、②CGDES 活動状況、③住民動員状況、④ドナー・パートナー支援の状況（補助金含む）、⑤学習の質改善活動状況（時間数など補習実施状況他）・児童学習状況、⑥アクター間の関係、⑦教育統計（男女別指標：児童数、カテゴリー別教員数、留年数、中退数、進級率）、⑧児童学力テスト（算数）</p>
------	--

(2) 主な調査結果

今回の調査結果にて、質のミニマム・パッケージとの関連において特に注目すべき項目・結果は以下の通り。

1. CGDES の機能状況（CGDES メンバーによる回答）

【2015/2016 年度 CGDES 会議開催状況】

- 回答を得た 44CGDES 中、**27% (12)** の CGDES において CGDES 会議は年間 3 回しか開催されていない。
- **7% (3)** の CGDES は 1 回も会議を開かず、**5% (2)** の CGDES が状況を把握していない。

【2015/2016 年度住民集会開催状況】

- **82% (44 回答中 36CGDES)** が少なくとも年 3 回の住民集会を開催している。（推奨回数は年 3 回）
- **7% (3)** の CGDES は住民集会を 1 回も開いていない。

【質に焦点をあてた活動計画（PAAQ: Plan d'actions axé sur la qualité）策定状況】

- 2015/2016 年：**59%の CGDES (44 中 26)** が PAAQ を策定
- 2016/2017 年：**55%の CGDES (44 中 24)** が PAAQ を策定

2. 質の改善に係る学習支援活動（補習活動）

CGDES メンバー（主に CGDES 代表）による回答	校長による回答
<p><u>2015/2016 年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>30%の CGDES (44 中 13)</b> が学習支援活動（補習活動）を実施</li> <li>• <b>20%の CGDES (44 中 9)</b> は活動自体やその実施について全く何も知らない</li> </ul> <p><u>2016/2017 年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>41%の CGDES (44 中 18)</b> が学習支援活動（補習活動）を実施</li> <li>• <b>14%の CGDES (44 中 6)</b> は活動自体やその実施について全く何も知らない</li> </ul>	<p><u>2015/2016 年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>64%の学校 (45 中 29)</b> が補習活動を実施</li> </ul> <p><u>2016/2017 年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>62%の CGDES (45 中 28)</b> が補習活動を実施</li> </ul>

➤ CGDES 代表（メンバー）と校長間にて回答内容の不一致がある。

3. 学力テスト結果（計 3360 名対象）

	受験児童数	平均点	平均正答率	50%以上正答した児童数	50%以上正答した児童率
1年生(12点満点)	690	0.58	5.7%	35	5%
2年生(24点満点)	530	5.84	22.6%	103	19%
3年生(44点満点)	606	14.13	32.5%	183	30%
4年生(56点満点)	561	21.3	38.6%	204	36%
5年生(61点満点)	520	32.23	55.4%	321	62%
6年生(61点満点)	453	34.08	59.1%	301	66%
合計	3360	-	-	1147	34%

4. 質のミニマム・パッケージ算数ドリル効果

	算数テスト正答率		
	2015/2016 年度後半に PAEQ 支援により PMAQ を実施した学校	PMAQ 対象外 の学校	差（ポイント）
1年生	5.8%	5.6%	+0.2
2年生	<b>33.5%</b>	14.7%	<b>+18.8</b>
3年生	<b>35.5%</b>	30.7%	<b>+4.8</b>
4年生	<b>47.8%</b>	31.5%	<b>+16.3</b>
5年生	<b>61.6%</b>	46.5%	<b>+15.1</b>
6年生	<b>65.6%</b>	53.4%	<b>+12.2</b>

➤ 太枠内：調査対象 45 校中、2015/2016 年度に PAEQ 支援により質のミニマム・パッケージ（算数）が導入され、ドリル活動を実施した学校の中で、質のミニマム・パッケージ活動の対象となった学年児童（調査当時の 1 年生はまだ入学前）。なお、算数ドリル活動実施期間は 2～3 か月程度。

上記調査結果から以下の状況が見受けられる。

▶ CGDES の機能性停滞

活動計画策定率や CGDES 会合と住民集会の開催頻度については、「機能する CGDES」の基準に照らし低い。特に情報共有の場の激減は、CGDES 機能化にとって非常に危い状況であり、ニジェール国全体として CGDES 機能状況が停滞している可能性がある。質のミニマム・パッケージ活動にとって、CGDES が機能している状態が必須であり、CGDES の機能不全により活動が実施されない可能性もあることから、早急な改善が必要といえる。

▶ アクター間のコミュニケーション不足

校長と CGDES メンバーとの情報共有が十分なされず、学習支援活動も校長（もしくは教員）のみで実施されており、住民の関与を促していない。校長と CGDES メンバー（さらには住民）とのコミュニケーション不足が危惧される。

▶ 質のミニマム・パッケージ活動のプラス効果

3 か月程度の実施にも関わらず、質のミニマム・パッケージ活動の実施が児童の基礎学力向上に効果をもたらしたことが窺われる。

### 2.3.3 各種研修の実施支援

#### a) 質の高い教育支援プロジェクト (PAEQ) 実施に係る手続き促進 (活動 2-3)

##### 【PAEQ 実施に係る手続き促進】

PAEQ 支援の質のミニマム・パッケージ (算数) の普及は、関係者への研修実施、活動モニタリングの他、学力テスト (3 回) および算数ドリルの印刷・運搬を行う必要があることから、これらの活動実施に係る手続きの促進を支援した。特に算数ドリルは 96 万冊を手配、配布する必要があることから、国の競争入札となり、これに係る一連の調達手続きが非常に複雑かつ時間を要するものであったことから、適宜、担当部署への技術的支援、初等教育省事務次官ならびに PAEQ 調整部長、調達担当部局等関係者への実施促進に係る働きかけを試みた。しかしながら、最終的に主に同ドリル調達の問題 (業者入札手続き・プロセスの遅れ、不良業者による落札、再調達プロセスの遅延、契約手続きの遅れ等) により、当初予定より 2 年近い遅れが生じることとなった。なお、全てのドリル調達 (印刷・納品) 完了は 2018 年 2 月、現場への運搬完了は 2018 年 3 月中旬であった。

##### 【経済社会開発無償と見返り資金に係る手続き促進】

2019 年 4 月に署名された日本政府の経済社会開発無償による、マラディ州全 3500 校への質のミニマム・パッケージ関連副教材 (算数ドリル、関連マニュアル、学力テスト 2 回分) 供与に関連し、経済社会開発無償には含まれていないマラディ州内の各視学官事務所から学校までの算数副教材の輸送費と副教材使用に係る現場研修費を、初等教育省が見返り資金へ申請することとなり、その手続きの支援を行った。見返り資金の申請書は 2020 年 1 月に提出され、2020 年 5 月に承認が下りた。

またプロジェクトでは、副教材の印刷内容の確認支援や、日本からニジェールへの輸送に係る免税手続き促進支援等を行い、2020 年 11 月にマラディ州内全 47 視学官事務所へのすべての副教材の納品が完了した。

※質のミニマム・パッケージ関連副教材を使用した研修については、活動 2-4, 2-5, 2-6 を参照。

## b) 講師研修の実施（質のミニマム・パッケージ（算数）の普及）（活動 2-4）

### 【PAEQ による質のミニマム・パッケージ普及支援】

PAEQ 支援によるティラベリ州内全 3500 校への質のミニマム・パッケージ（算数）の普及に関しては、活動 2-1 で述べた通り初等教育省による算数ドリルの調達手続きの遅れにより、導入プロセスが中断され、研修を受けたもののその実践には至らないまま 1 年が経過した状態であった。そのような中、2017/18 学年度からの再開の目途が立ったことから、1 年間のブランクからの円滑な再開を支援するため、2017 年 9 月に、質のミニマム・パッケージ（算数）の普及研修講師である視学官・指導主事・CGDES 監督官、総勢約 150 名への「質のミニマム・パッケージ活動計画策定研修」の再研修を実施し、コミュニオン（市）内全 CGDES が参加する CGDES 連合総会、校長会議など、あらゆる機会を通じて 3500 校への情報共有・簡易研修が行われるよう取り組んだ。

また、当普及に係る現場活動開始直前の 2018 年 2 月に、PAEQ 支援として初等教育省により実施された「質のミニマム・パッケージ（算数）ファシリテーター講師研修」（州内 2 箇所、各地 2 日間に渡り実施）を支援した。

現場活動開始後の 2018 年 3 月以降は、質のミニマム・パッケージ（算数）普及講師であるティラベリ州内全視学官（県教育事務所長含む）、指導主事、州・県 CGDES 監督官の活動モニタリング・支援に係る能力強化を図るため、4 月、5 月、6 月の 3 回に渡り、ティラベリ州 CGDES 監督官会合、および視学官会合を開催した。この会合においては、質のミニマム・パッケージ（算数）の現場実施状況の情報収集・分析、問題の抽出と改善へ向けた戦略を検討すると共に、現場状況に基づく活動支援・指導に係る能力強化にも取り組んだ。

これら集中的なモニタリング・指導の甲斐もあり、最終的にティラベリ州の質のミニマム・パッケージ（算数）普及は以下の結果を得た。

### 【ティラベリ州 3500 校質のミニマム・パッケージ（算数）普及結果】

#### 1. 学力テスト概要

- テスト対象児童数（テスト対象児童は質のミニマム・パッケージ活動対象と同様 1～4 年）

	ベースライン 2018 年 1～2 月	エンドライン 2018 年 6 月	差
1 年生	50,496	45,800	-4,696
2 年生	52,682	48,233	-4,449
3 年生	48,530	40,413	-8,117
4 年生	51,020	39,912	-19,225
合計	<b>202,728</b>	<b>174,358</b>	<b>-28,370</b>

- 評価項目：足し算、引き算、2～4 桁の足し算・引き算、掛け算、割り算

2. テスト結果 (1) : 正答率

	ベースライン 2018年1~2月	エンドライン 2018年6月	増加(ポイント)
1年生	34.5%	<b>72.3%</b>	<b>+37.8</b>
2年生	40.1%	<b>72.4%</b>	<b>+32.3</b>
3年生	37.0%	<b>70.6%</b>	<b>+33.6</b>
4年生	36.6%	<b>65.7%</b>	<b>+29.1</b>

3. テスト結果 (2) : 50%以上得点できた児童の割合

	ベースライン 2018年1~2月	エンドライン 2018年6月	増加(ポイント)
1年生	29.0%	<b>79.4%</b>	<b>+50.4</b>
2年生	53.0%	<b>86.1%</b>	<b>+33.1</b>
3年生	39.0%	<b>92.2%</b>	<b>+53.2</b>
4年生	43.0%	<b>91.4%</b>	<b>+48.4</b>
平均	40.1%	<b>86.9%</b>	<b>+46.8</b>

4. 成功要因

- ❖ 現場から中央までの全アクターのコミットメント
- ❖ 関係者への適切な能力強化研修
- ❖ 効果的なツールの導入(算数ドリル)
- ❖ 教員のコミットメント
- ❖ コミュニティの高いモチベーション
- ❖ 児童たちの熱心な取り組み
- ❖ 教育行政官とCGDES監督による集中的なモニタリング・支援、指導
- ❖ CGDES監督官会合と視学官会合を通じたモニタリング・支援従事者の定期的な情報共有
- ❖ 中央によるモニタリング・監督指導

【経済社会開発無償による質のミニマム・パッケージ普及支援(マラディ州 3500校)】

経済社会開発無償によるマラディ州内全 3500 校への質のミニマム・パッケージ(算数)普及に関しては、住民との協働活動が中心となるため、住民動員をよりスムーズに行う事を目的に、2020年12月に州教育フォーラムが開催された。フォーラムでは、まず 2019年11月に実施された小学1年生の入学人数増加に係る州教育フォーラムの結果が共有、評価された。そのうえで州の課題として、増加した入学人数も含めて小学校卒業までに読み書き・算数の基礎学力を身に付けることが出来ない児童が多いという現状が共有され、算数に関しては、算数副教材を活用した基礎学力改善を行う必要性が協議された。関係者の協議を経て、「2021年1月から5月まで、質のミニマム・パッケージ(算数)の活動に係る補習活動を週10時間以上実施すること」、「ベースラインテストと比較して、エンドラインテストの平均点が20ポイント上がるこ

と」、「エンドラインテストで 50%以上を正答した児童の割合が 70%になること」といった具体的な数値目標が決議された。

州教育フォーラム実施後の 2020 年 12 月には、講師研修の講師となる指導主事 9 名、州教育事務所研修担当官 1 名に対して、講師研修は準備会合直後の 12 月中に実施予定であったが、コロナ感染拡大防止措置の発令を受けて延期となり、1 月 28 日から 31 日の 4 日間で視学官 50 名、指導主事 141 名、CGDES 監督官 11 名に対して実施した。

### e) CGDES 活動計画策定研修、補習活動ファシリテーター研修の実施支援（活動 2-5、活動 2-6）

【ティラベリ州 3500 校 質のミニマム・パッケージ（算数）普及】

PAEQ 支援質のミニマム・パッケージ（算数）普及の 2017/2018 年度実施へ向け、2018 年 2 月に「質のミニマム・パッケージ（算数）ファシリテーター研修」が教育省の地方行政官によりティラベリ州内約 3500 校を対象に開催され、プロジェクトからは、中央によるモニタリング支援・指導の実施に係る技術支援を行った。これにより、2018 年 3 月から約 32 万名の児童を対象とした質のミニマム・パッケージ（算数）活動が開始された。

【マラディ州 3500 校 質のミニマム・パッケージ（算数）普及】

マラディ州の質のミニマム・パッケージ（算数）に係る現場研修は、見返り資金により初等教育省によって 2021 年 3 月に開催され、プロジェクトからは、モニタリング支援・指導の実施に係る技術支援を行った。同研修後に、各 CGDES ではベースラインテストが実施され、マラディ州 3500 校において算数教材を使用した補習活動が開始された。

現場における補習活動開始後の 2021 年 3 月には、質のミニマム・パッケージ（算数）の活動モニタリングを行う州・県 CGDES 監督官の能力強化を図るため、マラディ州 CGDES 監督官会合を開催した。この会合においては、質のミニマム・パッケージ算数の現場実施状況の情報収集、ベースラインテストの回収、活動実施における課題とそれに対する解決策に係る経験共有を行った。

同会議内で回収した各 CGDES 及び FCC の活動状況は表 16 の通り。

表 16 : 【マラディ州 CGDES 及び FCC の活動】

	PMAQ の情報 伝達を行うた めの連合総会 実施回数	PMAQ の情報 伝達を行うた めの住民総会 実施回数	PMAQ の活動 が含まれてい る学校活動計 画数	学校あたりの 補習時間 計画数 (13 週間)	学校あたりの 教員ボランテ ィアの数	学校あたりの コミュニティ ボランティア の数	ベースライン テストの回収 数
	44 連合 /47 連合	3312CGDES /3337CGDES	3130 CGDES /3337 CGDES	118 h	7524 人 /3337CGDES	6252 人 /3337CGDES	3226CGDES /3337CGDES
%	93.6%	99.3%	93.8%		平均 2.3 人	平均 1.9 人	96.7%

**d) 講師研修の実施（質のミニマム・パッケージ（算数・読み書き）統合モデル開発のためのパイロット活動）（活動 2-7）**

**【2016/2017 年度】**

質のミニマム・パッケージ（読み書き）パイロット活動を 3 校で実施することから、講師研修を 2017 年 3 月に実施した。

**【2017/2018 年度】**

質のミニマム・パッケージ算数・読み書き統合モデル開発のパイロット活動を 53 校で実施することから、2017 年 11 月および 12 月に、活動計画策定、及びファシリテーションに係る講師研修をそれぞれ実施した。

12 月の算数ファシリテーション講師研修においては、UNICEF が介入するディッファ州内 12 の Alternative Education Centres (CEA) への JICA・プロジェクト開発算数ドリル導入のための「UNICEF との JICA 算数ドリル活用に係る覚書（2017 年 12 月署名）」に従い、プロジェクトからの能力強化支援の一環として、UNICEF が介入するディッファ州の教育行政官 2 名（ノンフォーマル視学官、フォーマル教育指導主事）の参加を受け入れた。

**【2018/2019 年度】**

2018/2019 年度に 101 校において改訂版の質のミニマム・パッケージ算数・読み書き統合モデルパイロット活動を実施することから、活動計画策定およびファシリテーションにかかる講師研修を、2018 年 12 月上旬、2019 年 1 月にそれぞれ実施した。当講師研修の講師は、住民参加・学校保健・環境教育局・学校分権化課が務め、州・県教育事務所長、視学官、指導主事、州・県 CGDES 監督官、州教育事務所研修室長が参加した。

なお、上記の講師研修の一環として、それぞれの参加者（主に指導主事、CGDES 監督官）は、研修後、学校現場で自らファシリテーターとなって児童と TaRL 活動を実施する 2 週間の現場実践演習に取り組んだ。

**【2019/2020 年度】**

質のミニマム・パッケージ統合モデル活動の一部を初等教育省の「学力向上プログラム」授業時間へ導入する発展形モデル（PMAQ-PMN）の試行を 2019/2020 年学年度の新学期 3 か月にわたり実施するため、講師研修に当たる関係者ワークショップを 2019 年 9 月に実施した。参加者は中央教育省関係者および現場講師を務めるティラベリ州コロ県の質のミニマム・パッケージ実践済みの視学官・指導主事。

※ 2020/2021 年度の PMAQ-PMN 普及については活動 1-15 を参照。

**e) CGDES 代表に対する研修の実施（質のミニマム・パッケージ（算数・読み書き）統合モデル開発のためのパイロット活動）（活動 2-8）**

**【2016/2017 年度】**

質のミニマム・パッケージ（読み書き）パイロット活動実施へ向け、2017 年 2 月にパイロット活動対象 3 校の CGDES 代表・校長、管轄連合代表者、管轄教育行政官

(州教育事務所長、県教育事務所長、視学官、指導主事、州・県 CGDES 監督官) 参加の下、2017 年 1 月に実施した学力テスト結果の共有とともに、質のミニマム・パッケージ (読み書き) 活動実施に係る計画策定プロセスに係る協議・研修を行った。

**【2017/2018 年度】**

質のミニマム・パッケージ算数・読み書き統合モデル開発パイロット活動実施へ向け、2017 年 11 月に、パイロット活動対象となるティラベリ州コロ県内 53 校の CGDES 代表・校長、管轄連合代表者に対し、質のミニマム・パッケージ統合モデル活動実施に係る計画策定プロセス研修を行った。

**【2018/2019 年度】**

2018 年 12 月に今年度新規対象となる 48 校の CGDES 代表・校長、及び管轄連合代表者に対し、質のミニマム・パッケージモデル活動の計画策定研修を 1 日半実施した。また、昨年度からの対象 53 校においてもその大半が新校長であることから、53 校の校長も参加した。

**f) 補習活動ファシリテーター研修の実施 (質のミニマム・パッケージ (算数・読み書き) 統合モデル開発のためのパイロット活動) (活動 2-9)**

**【2016/2017 年度】**

質のミニマム・パッケージ (読み書き) パイロット活動実施へ向け、2017 年 3 月にパイロット活動対象 3 校の全ファシリテーター (教員・住民ボランティア) に対するドリル活動ファシリテーター研修を行った。これにより、2017 年 3 月～6 月まで対象 3 校における質のミニマム・パッケージ (読み書き) 活動が実施された。

**【2017/2018 年度】**

質のミニマム・パッケージ算数・読み書き統合モデル開発パイロット活動 2 年目拡大実施へ向け、2017 年 12 月に、パイロット活動対象となるティラベリ州コロ県内 53 校のファシリテーター代表 (各校 2 名 : 校長・住民ボランティア) および管轄連合代表者に対し、読み書き活動および算数ドリル活動のファシリテーター研修を行った。

これにより、2018 年 1 月から対象 53 校において、質のミニマム・パッケージ算数・読み書き統合モデル活動が実施された。なお、パイロット対象 53 校に対しては、質のミニマム・パッケージ統合モデルのプロジェクト期間内における確実な開発へ向けて、活動開始の遅れが生じている PAEQ 支援による質のミニマム・パッケージ (算数) 普及活動とは別途、プロジェクトによる算数・読み書き活動への直接介入を行うため、プロジェクトより約 7000 名の児童へ読み書き学習帳と算数ドリルの配布を支援した。

**【2018/2019 年度】**

質のミニマム・パッケージ算数・読み書き統合モデル開発パイロット活動 3 年目拡大実施へ向け、パイロット対象校である 101 校のファシリテーター代表 (各校 3 名 : 校長、教員代表、コミュニティファシリテーター代表) および管轄連合代表者 (各 2 名) に対し、2019 年 1～2 月に質のミニマム・パッケージファシリテーター研修を実

施した。

【2019/2020 年度】

質のミニマム・パッケージ統合モデル活動の一部を初等教育省の「学力向上プログラム」授業時間に導入する発展形モデル（PMAQ-PMN）の試行として、対象4校の校長に対する簡易型ファシリテーター研修を2019年10月に実施し、学力テスト実施方法および質のミニマム・パッケージのTaRL活動実施方法を研修した。なお、当該研修は、校内研修を通して他の教員と共有するカスケード方式とした。

2.3.4 統合された質のミニマム・パッケージの開発

a) 統合された質のミニマム・パッケージの試行を通じて得られた成果や教訓をとりまとめるための評価調査の実施、研修マニュアル等の改訂（活動2-10）

【2016/2017 年度】

2016/2017 年度に質のミニマム・パッケージ統合モデルパイロット活動を3校で実施した結果を評価するため、2017年6月に、学校運営支援局・学校分権化課（現、住民参加・学校保健・環境教育局・学校分権化課）、視学官、指導主事、州・県 CGDES 監督官により、児童学力テストならびに関係者（CGDES メンバー、教員、保護者・住民、児童）への聞き取り調査を実施し、活動の成果および教訓を取りまとめた。

<2016/2017 年度質のミニマム・パッケージ読み書きモデル開発パイロット校活動結果総括概要>

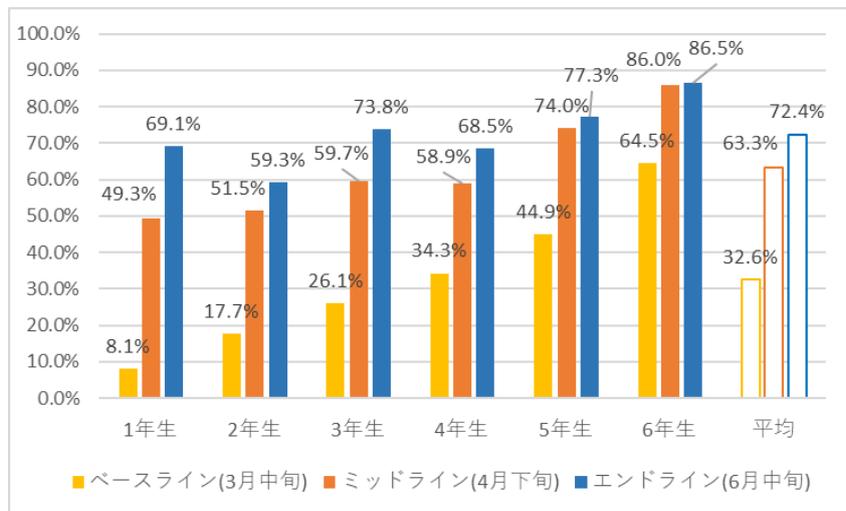
1. 実施状況

対象校	裨益児童	ファシリテーター			児童出席モニタリング担当
		教員	コミュニティ	合計	
コロ市 3校	207名 (男子121名、 女子86名)	11名 (女性5名)	13名 (女性7名)	24名 (女性12名)	7名(女性3名): 学校平均2.3名

- プロジェクトが開発した読み書き教材を使った校外学習は、全学年児童を対象に、週平均9時間、3か月（2017年3～6月）間実施され、合計で約108時間の活動が実施された。
- 週当たり平均11回の活動が実施され、そのうち5回は教員ファシリテーターが夕方の授業後に実施し、6回はコミュニティファシリテーターが夜間に実施した（1回の活動時間は30～60分）。
- 質のミニマム・パッケージ活動にかかり、年間平均5回の住民集会が開催された。
- 児童の活動出席率は94%（昼間学習93%、夜間学習96%）
- いずれのCGDESも活動継続を希望。

## 2. 結果①（読み書き学カテスト結果）

### 【学力テスト正答率変遷】



➤ 3か月の活動にて全学年の結果が改善

### 【100点満点中50点以上獲得した児童の割合】

➤ 特に3年（CE1）～4年（CE2）の結果改善が顕著であり、それぞれ約90%の児童が50点を超えるレベルに達した。

学年	ベースライン 3月	エンドライン 6月	増加
CI（1年生）	0%	61.8%	+61.8ポイント
CP（2年生）	3.2%	42.3%	+39.1ポイント
CE1（3年生）	4.3%	88.5%	+84.2ポイント
CE2（4年生）	6.3%	92.9%	+86.6ポイント
CM1（5年生）	53.3%	100%	+46.7ポイント
CM2（6年生）	66.7%	100%	+33.3ポイント

## 3. 結果②（その他効果）

児童の学カテスト結果のみならず、質のミニマム・パッケージ活動を通して、以下のような点が見受けられた。

- 学習への児童のモチベーション向上
- 通常授業における児童出席率の改善
- 児童への学校外での学習習慣づけ
- 授業内での児童の態度・行動変容（より積極的になった）
- 児童の変化と情報共有を通じた、児童の教育ならびに学習効果に係る保護者の意識向上
- 教員間での互いの能力強化につながる対話強化

これら評価調査、ならびに試行結果をもとに、初等教育省関係者等とともに質のミニマム・パッケージ（読み書き）ツール（マニュアル・ガイド・児童用ドリル、ファシ

リテーターガイド、学力テスト)の改訂を2017年11~12月に実施した。

### 【2017/2018年度】

上述の改訂版モジュールを用いて、2017/2018年度に質のミニマム・パッケージ統合モデルのパイロット活動を53校にて実施した結果を評価するため、学年度末の2018年6月に評価調査ミッションを教育省中央および地方行政官とともに実施した。今年度対象53校中11校のCGDESメンバー、校長・教員、保護者・コミュニティメンバーに対する聞き取り調査を行うと共に、全53校の児童に対する読み書きおよび算数の学力テストを実施した。

### <2017/2018年度質のミニマム・パッケージ読み書き統合モデル開発パイロット校活動結果総括>

#### 1. 実施状況

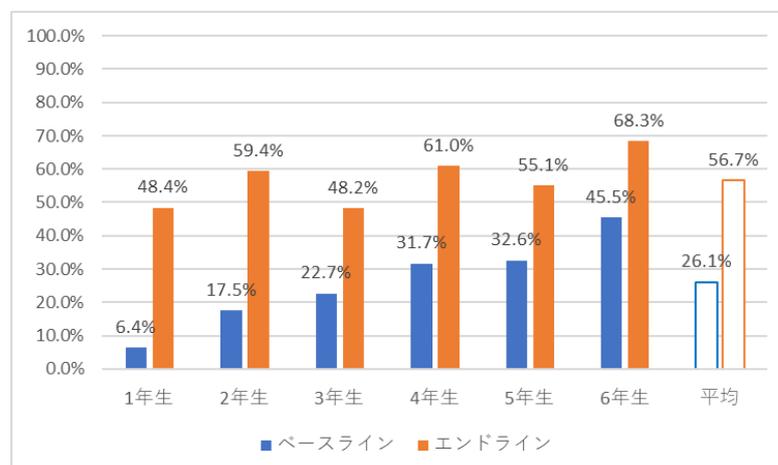
- 対象：農村部53校の全学年約6000名以上
- ファシリテーター：合計388名のファシリテーター（内154名がコミュニティボランティア）。学校当たり平均7.3名（内、コミュニティボランティア2.9名）
- 活動実施時間：6か月間の実施期間中、学校平均231時間の活動が実施された。その内128時間（週5時間）はPMAQ読み書き、103時間（週4時間）はPMAQ算数が実施された
- 児童の出席モニタリング：合計126名（学校平均2.6名）のコミュニティメンバーが児童の活動出席モニタリングに従事した

#### 2. 活動4か月後の結果（学力テスト結果）

##### (1) 質のミニマム・パッケージ算数

- 算数テストを通して8カテゴリー（イニシャル、ビギナー、足し算、引き算、2桁足し算・引き算、掛け算、3桁足し算・引き算、割り算）に児童を配分。カテゴリーごとにドリルのレベルを決定。児童の理解度に併せて進めていく。

#### [学年別正答率平均]

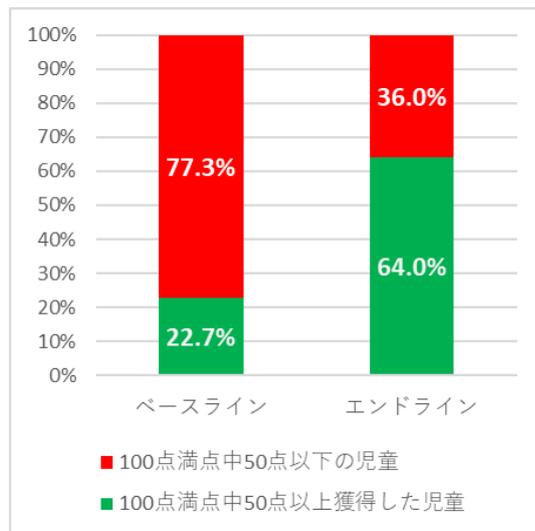


- いずれの学年においても、平均点の上昇がみられた。特に1, 2年生においては、40ポイント以上の伸びが見られた。

[能力カテゴリー別児童の割合]

	ベースライン	エンドライン
1・2年児童：シンプルな足し算ができる	7%	60%
3・4年児童：シンプルな引き算ができる	20%	60%
5・6年児童：シンプルな引き算ができる	40%	80%

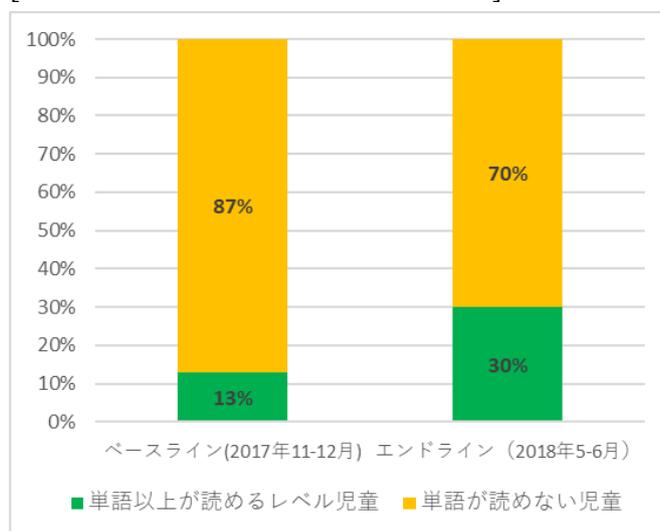
[100点満点中50点以上獲得した児童の割合]



(2) 質のミニマム・パッケージ読み書き

- インド NGO Pratham の ASER 式読みテストをもとに開発したニジェール版を通して6カテゴリー（イニシャル、ビギナー、文字、単語、文、文章）に児童を能力別に振り分け。

[少なくとも単語が読める児童の割合]



[能力カテゴリー別児童の割合]

	ベースライン	エンドライン
1・2年児童：少なくとも文字（Letter）が読める	9%	45%
3・4年児童：少なくとも単語（Word）が読める	8%	35%
5・6年児童：少なくとも単語（Word）が読める	30%	50%

【2018／2019年度】

2018/2019年度の101校における質のミニマム・パッケージ統合モデルパイロット活動での試行経験・結果を評価するため、2019年5月に評価調査ミッションを実施した。対象101校中10校を対象に、中央の初等学校分権化課、地方教育行政官（CGDES 監督官、視学官、指導主事）およびプロジェクトスタッフにより、校長、教員、ファシリテーター、CGDES、保護者等関係者への聞き取りを行うと共に、質のミニマム・パッケージ算数・読み書き活動の視察を行い、実践に係る評価を行い、報告書として取りまとめた。

<2018／2019年度質のミニマム・パッケージ読み書き統合モデル開発パイロット校活動結果総括>

1. 実施状況

- 対象：農村部101校全学年約14000名以上
- ファシリテーター：合計791名のファシリテーター（内309名がコミュニティボランティア）。学校当たり平均7.8名（コミュニティ3.1名）
- 活動実施時間：3.5カ月の実施期間中、学校平均154時間の活動が実施された。その内84時間（週6時間）はPMAQ読み書き、70時間（週5時間）はPMAQ算数が実施された
- 児童の出席モニタリング：合計217名（学校平均2.1名）のコミュニティメンバーが児童の活動出席モニタリングに従事した

2. 活動後の児童や教員への効果

<児童>

- 自分自身に対する信頼、自信
- 学習への意欲の増加、学習への自立的な責任意識
- 授業出席率の改善
- 教員との心理関係の醸成、教員への恐怖心の払拭
- 社会性の発達、他者（児童間（同級生、下級生、上級生）、児童—教員間など）との関係性構築

<教員>

- 同僚教員間でのコンプレックスなしでの意見交換、教え合いの促進

- 先入観なく児童に接する姿勢の醸成
- 授業への教授テクニックの活用
- 個々の児童への目配り、対応
- 同僚、校長、保護者、コミュニティとの良好な関係性

**b) 算数と識字（読み書き）を統合した質のミニマム・パッケージの承認ワークショップの開催（活動 2-11）**

第 1 期

活動 2-12 の経験共有セミナーと合わせて 2018 年 7 月に開催された。参加者からは当該モデルの有効性を高く評価され、同時にこのモデルを広域に普及していく重要性が協議され、普及へ向けた取り組みへの提言が示された。詳細は活動 2-12 参照のこと。

第 2 期

習熟度別の TaRL アプローチを融合させた 2018/2019 年度質のミニマム・パッケージ統合モデルの開発パイロット活動経験・結果、および 4 校での PMAQ-PMN 試行の経験を共有し、今後の展望を検討するワークショップが、活動 2-12 の経験共有セミナーと合わせて 2020 年 2 月に開催された。詳細は活動 2-12 参照のこと。

**c) 質のミニマム・パッケージの普及に係る経験共有会合の開催（活動 2-12）**

第 1 期

**【2016/2017 年度】**

2017 年 9 月に、これまでプロジェクトが取り組んだ「質のミニマム・パッケージ（算数）」の取り組みと、2016/2017 年度の「質のミニマム・パッケージ（読み書き）」パイロット活動の結果を共有し、また将来的な「質のミニマム・パッケージ算数・読み書き統合モデル」の他州への普及・拡大可能性に鑑み、普及する基盤としての必要条件、成功要因等の分析・協議を行う経験共有会合が開催された。参加者は、初等教育省中央関係者、全国 8 州の州教育事務所長および州 CGDES 監督官、全国の県 CGDES 監督官の総勢 130 名。

全般的な CGDES 活動モニタリング体制の弱体化や CGDES の機能性の低下傾向への懸念があり、さらに、CGDES のモニタリングを担当する 83 名の CGDES 監督官のうち、約半数が最近任命された人材であり、不足する経験・知識を補うための能力強化が必要であると考えられたため、会合の 2-3 日目は全国 83 名の州・県 CGDES 監督官を対象とした能力強化研修を実施した。ここでの研修内容は、CGDES 連合総会を通して、連合メンバーや CGDES に共有されることを意図したものであり、これにより、CGDES 監督官による CGDES モニタリング強化を図るとともに、全国 18,000 以上に上る CGDES が、教育の質の改善へ向けて校外学習を通じた児童の学習支援の取り組みを推進していくことが期待された。

**【2017/2018 年度】**

1 回目（2018 年 2 月）

PAEQ 支援による質のミニマム・パッケージ（算数）普及の現場活動が開始される

前の2018年2月上旬に「質のミニマム・パッケージ普及キックオフセミナー」を開催し、今回の質のミニマム・パッケージ（算数）普及に至る経験共有、特に成功要因の共有を初等教育省中央関係者、およびティラベリ州関係者（州・県教育事務所長、視学官、指導主事、CGDES 監督官、CGDES 連合、市長）と行った。

セミナー討議を通して、ティラベリ州における「質のミニマム・パッケージ」普及の成功とそれによる児童の学力向上に向けて、関係者が一丸となって活動することを決意した上で、学年度末の算数テストの結果を州全体で30%上昇させる目標が定められた。また、その目標達成へ向け、CGDES 連合はティラベリ州内全校で質のミニマム・パッケージ・算数ドリル活動を週10時間以上実施すること、教育行政官はその活動をモニタリング支援していくこと、市長はCGDES 連合と連携し校外学習活動推進を支援していくこと等を誓い合った。

このセミナー後、各CGDES 連合にて「報告連合総会」が開催され、目標・誓約を含むセミナー内容がCGDES 代表に伝達された。それを受け、各村落にて住民集会が開催され、連合総会に参加したCGDES 代表によるセミナー内容の住民との共有、教員・住民による誓約への合意が進められた。また同時に、教育行政や市長をはじめとする地方行政においても関係者との情報共有が進み、連合総会をはじめとする連合活動への参加や支援が各地で行われた。

## 2回目（2018年7月）

PAEQ 支援による質のミニマム・パッケージ（算数）普及ならびにプロジェクト直接介入の質のミニマム・パッケージ統合モデル2017/2018年度パイロット試行の結果が出た2018年7月には、①2017/2018年度CGDES・CGDES 連合活動総括共有、②ティラベリ州3500校への質のミニマム・パッケージ（算数）普及実施結果共有、③2017/2018年度に53校で実施した質のミニマム・パッケージ統合モデルのパイロット結果の共有を行う経験共有会合が開催された。参加者は、初等教育省中央関係者、全国8州の州教育事務所長および州CGDES 監督官、教育分野開発パートナーなど。

※②は活動2-13、③は活動2-10を参照。

②③の結果から、ティラベリ州の質のミニマム・パッケージ活動実施後の児童の大幅な学力改善が確認でき、その効果を踏まえ、中央・地方の教育省関係者のみならず、教育分野開発パートナーを含めた参加者からは統合型の普及と他州への一層の拡大を求める声が強く上がった。一方、その普及資金については目途が立っておらず、初等教育省の活動計画に盛り込むのはもちろんのこと、政治的なコミットメントを促すための幅広い広報、初等教育省中央政策決定者への働きかけ、ドナーへの情報発信の必要性が協議された。

## 【2018/2019年度】

2019年7月に、①2018/2019年度全国8州のCGDES/CGDES 連合活動の総括評価と、②質のミニマム・パッケージモデル（算数およびPMAQ-PMN 統合モデル）活動の経験と結果の共有・評価、③質のミニマム・パッケージモデル（算数およびPMAQ-PMN 統合モデル）の今後の普及・拡大可能性、戦略協議を行う事を目的に、初等教

育省中央局長、全国 8 州教育事務所長および州 COGES 監督官の参加のもと「質のミニマム・パッケージモデル経験共有セミナー」が開催された。

CGDES/CGDES 連合の年間総括としては、全国のおよそ 9 割の CGDES が活動計画・年間総括を策定しており、かつ全国で 33 億フランセーファー（約 6 億円）の資金が児童の親からの分担金や PAEQ の補助金によって調達された。国家予算にて計画されていたモニタリング費用が近年執行に至らず、通常通りの巡回モニタリングや定期会議が十分できない中で、コミュニティ側は例年通りの高いパフォーマンスと資源調達を継続し、行政側も可能な資金を使って機能化維持の支援に取り組んだ。

質のミニマム・パッケージモデル開発パイロット活動に関しては、参加者に具体的なイメージを持ってもらうために、当該活動の現場研修講師を務めた指導主事、CGDES 監督官による具体的な活動デモンストレーションを盛り込み、かつ、現場の声として指導主事が当該活動に対する評価を語る機会を設けた。事務次官からは、質のミニマム・パッケージを教育省の児童学習改善の一つの戦略と位置付けた上で、今後の活動に取り込んでいくこと、特に、初等教育省が 3 年前に導入した、新学期 3 か月間の正規授業時間を語学・算数の基礎学力向上に費やす「学力向上プログラム」と統合させること（PMAQ-PMN）が明言された。また、今まで消極的であった中央局長等が、明確に質のミニマム・パッケージの取り組みに賛同する発言をし、女子就学促進局長からは現在協議中の世銀 Learning Improvement for Results in Education（LIRE）プロジェクトにおいて女子教育促進戦略として質のミニマム・パッケージを推していきたい旨が提案された。

#### 【2019/2020 年度】

2020 年 2 月に、今までの質のミニマム・パッケージモデルの活動結果を振り返ると共に、今年度の PMAQ-PMN 試行活動を評価し、今後の方向性・展望を検討するワークショップが開催された。また、質のミニマム・パッケージ活動のベースとなる全国的な CGDES/CGDES 連合の 2019/2020 年度の開始状況総括も合わせて行われた。なお、初等教育省事務次官が、当初より PMAQ-PMN に非常に強い関心を示していたことから、今回のワークショップでは、次官が議長を務め、PMAQ-PMN 活動の結果の総括評価および、今後の展望に係る参加者協議を主導した。

次官が非常に力強くかつ明確に「教育省が進むべき展望、方向性はまさにこれである」と表明し、今後は普及へ向けて体制を整え、進めていくべきであるとの意思が参加者に示された。そのため、当ワークショップ参加者討議においては、今後パイロット対象地域の拡大など普及へ至るまでのプロセスを踏むこととしても、この方向性をとることの有効性、妥当性、またその結果はすでに前提とした上で、普及へ向けたオペレーションの問題などが協議された。

また、質のミニマム・パッケージモデルと、その普及の方向性として、今後「学力向上プログラム」との融合路線（PMAQ-PMN）で進むべき方針が明確に示された。

### 2.3.5 エンドライン調査の実施、戦略・政策の策定

#### a) エンドライン調査の実施（活動 2-13）

##### <ミッドライン調査>

##### （第 1 回）

2017 年 12 月に、2017/2018 年度の質のミニマム・パッケージ（算数）普及活動、および質のミニマム・パッケージ統合モデルパイロット活動の開始に先駆けて、学校現場レベルの聞き取りおよび学力テスト（算数）のミッドライン調査を実施した。当該 45 校は上記活動 2-2 のベースライン調査と同じ学校である。

なお、質のミニマム・パッケージ（算数）普及活動開始が大幅に遅れ、当調査開始時には当該活動がまだ開始していなかったことから、質のミニマム・パッケージ（算数）の効果の計測に際し、実質的なベースラインとなった。実際、学力テストと聞き取り結果の両方が、ベースライン調査時とほぼ同様であった。

##### （第 2 回）

2017/2018 年学年度末となる 2018 年 6 月に、ティラベリ州全校への質のミニマム・パッケージ（算数）普及、および質のミニマム・パッケージ統合モデルパイロット活動の成果を検証するため、対象 45 校の学校現場で、関係者への聞き取りと、全児童を対象とした学力テスト（算数）のミッドライン調査を実施した。なお、当該 45 校は上記のベースライン調査および第 1 回ミッドライン調査と同じ学校である。

#### 【初等分野ミッドライン調査第 1 回、第 2 回結果概要比較】

##### (1) 調査対象・方法・調査項目

対象	①学校：【聞き取り調査】ティラベリ州の小学校 45 校（ベースライン調査と同校）：CGDES 代表、校長、保護者・住民、教員、児童 ②学校：【児童学力調査】ティラベリ州の小学校 45 校児童 1～6 年生（6 学年全数）
調査時期	① 2017 年 12 月：学校レベル調査のみ ② 2018 年 6 月：学校レベル調査のみ
調査方法・手法	① 質問票による聞き取り調査、 ② 児童学力テスト
調査項目	【学校現場】 ①学校運営状況、②CGDES 活動状況、③住民動員状況、④ドナー・パートナー支援の状況（補助金含む）、⑤学習の質改善活動状況（時間数など補習実施状況他）・児童学習状況、⑥アクター間の関係、⑦教育統計、⑧児童学力テスト（算数）

##### (2) 主な調査結果

##### 1. 全般（ミッドライン調査第 1 回・第 2 回の状況比較）

- 87%の CGDES (45 中 39) が 2017/2018 年度の質に焦点を当てた学校活動計画 (PAAQ) を策定。なお、ベースライン調査時 (2016/2017 年度) は 47%。
- 学校活動計画を策定した CGDES のうち、補習を実施した学校の割合が、2016/2017 年度の 62%から 2018 年 6 月に 78%まで上昇。
- PAAQ を策定した CGDES の内、93%の CGDES が少なくとも一つの活動を実現し、また 70%が少なくとも 3 つの活動を実施している。
- 93%の校長が 2018 年に少なくとも 1 回の教員会合を開催 (2016/2017 年

度は78%)。また、平均教員会合の回数は6回に上る。

- 78%の校長が演習や宿題に関して教員にアドバイスを実施(2016/2017年度は60%)。
- 補習に従事した教員の割合は、2017年の29%から2018年に65%に上昇
- 2018年度56%のCGDESが夜間学習を実施(2016/2017年度は40%)
- 98%のCGDESが質のミニマム・パッケージ活動を実施。
- ほぼ全教員(93%)が質のミニマム・パッケージ活動に従事していた。その割合は2016/2017年度では16%のみ。

## 2. 学力テスト結果

### 【平均点・正答率平均】

	第1回ミッドライン調査 (2017年12月)		第2回ミッドライン調査 (2018年6月)		差 (ポイント)
	平均点	平均正答率	平均点	平均正答率	
1年生(12点満点)	0	2%	<b>4</b>	<b>31%</b>	<b>+29</b>
2年生(24点満点)	5	19%	<b>11</b>	<b>47%</b>	<b>+28</b>
3年生(44点満点)	13	29%	<b>23</b>	<b>51%</b>	<b>+22</b>
4年生(56点満点)	22	39%	<b>34</b>	<b>59%</b>	<b>+20</b>
5年生(61点満点)	32	52%	36	59%	+7
6年生(61点満点)	36	59%	42	67%	+8

➤ 太枠：PAEQ支援の質のミニマム・パッケージ(算数)対象学年

### 【50%以上正解した児童】

	第1回ミッドライン調査 (2017年12月)		第2回ミッドライン調査 (2018年6月)		差 (ポイント)
	50%以上正答 した児童数	50%以上正 答児童率	50%以上正答 した児童数	50%以上正 答児童率	
1年生(12点満点)	4	0.7%	<b>239</b>	<b>38%</b>	<b>+37.3</b>
2年生(24点満点)	121	17.5%	<b>308</b>	<b>49%</b>	<b>+31.5</b>
3年生(44点満点)	146	24.8%	<b>362</b>	<b>61%</b>	<b>+36.2</b>
4年生(56点満点)	233	39.2%	<b>401</b>	<b>72%</b>	<b>+32.8</b>
5年生(61点満点)	306	58.6%	328	75%	+16.4
6年生(61点満点)	385	67.1%	419	78%	+10.9
	1195	34.0%	2057	61%	+27.0

➤ 太枠：PAEQ支援の質のミニマム・パッケージ(算数)対象学年

ミッドライン調査の第1回をベースラインとしてミッドライン調査第2回と比較すると以下のような点が確認できた。

- 質のミニマム・パッケージ活動の効果:PAEQの進捗の遅れから、ティラベリ州の質のミニマム・パッケージ普及における現場での活動期間は2か月程度と非常に短かったが、質のミニマム・パッケージ活動が児童の基礎的学力の向上に貢献した。
- アクターのコミットメント:総合的なCGDESの活動やアクター間の関係性の改善、コミュニケーションの強化が認められ、すべての現場アクターが結果を得るために質のミニマム・パッケージ活動に参加していた。
- 質のミニマム・パッケージ活動の結果から、コミュニティ活動が正しく方向づけられ、効果的な戦略をもって強化された場合、児童の学力改善に貢献する。

#### <エンドライン調査>

エンドライン調査はプロジェクト終了前の2021年1月頃に実施予定であったが、初等教育調査はティラベリ州の45校における児童への学力試験実施が調査の重要な項目であったため、2020年11月に危険地図の改訂によりティラベリ州全域がレベル4となり渡航が不可能となったことを受けエンドライン調査は中止となった。

#### **b)CGDESの定着、質のミニマム・パッケージを活用した政策・戦略強化のための提言をとりまとめることを目的としたワークショップの開催(活動2-14)**

2021年4月に初等教育省中央局長、全国8州教育事務所長および州CGDES監督官、教育分野開発パートナーが参加する中、2日間の「CGDESの定着、質のミニマム・パッケージを活用した政策・戦略強化のための提言をとりまとめることを目的としたワークショップ」が開催された。

1日目は、2020年3月と6月に実施した小学1年生の退学率、進級率の改善を目指した全国8州教育フォーラムの結果の共有、協議を行った上で、小学校全学年の退学の理由とその解決策の分析を行った。

退学率、進級率の改善については、今年度PMAQ-PMNの介入を行ったニアメ市のPFRからは、教師たちの教える能力や児童の基礎学力が向上しており、就学維持が今年度も継続する可能性が述べられた。その他、初等教育においては教育統計年鑑で進学率・退学率に係るデータを回収していないが、統計局局長(DS)によって、進学率・退学率を今後調査・計算する必要性が述べられた。また、教員養成・継続研修局の局長(DFIC)からは、JICAなどドナーによる支援がなくなった状況でどのように就学維持を行うかを考えるべきだという問題提起があった。これに対して、CGDESとCGDES連合の活動、特にCGDES連合で就学維持を目的としたテーマ活動を実施することが提案された。

1日目の討議を踏まえ、「就学維持に関するPMAQ及び教育フォーラムモデルの更なるモデルの開発及びその普及」、「技術・財政パートナー(PTF)に対する提言・ロビー活動の実施」、「連合総会の際に、CGDES連合活動計画に就学維持を目的としたテーマ活動を入れ込むことの支援」、などが提言として採択された。

2日目は、質のミニマム・パッケージ関連活動に焦点を当て、①ニアメ市、タウア

州で実施した PMAQ-PMN の結果、②ドッソ州で現在実施中の PMAQ（読み・算数）活動に関する進捗状況、③日本政府の経済社会開発無償によって配布した算数副教材を使用したマラディ州における PMAQ（算数）の進捗状況などが共有された。

PMAQ-PMN の結果に関する協議では、今年度 PMAQ-PMN を実施したニアメ市とタウア州の州教育事務所長から、学力改善において大幅な成果が出たことに対して高い評価が示された。また、タウア州での PMAQ-PMN の成功要因として、連合総会など CGDES 連合活動に市長をうまく巻き込むことができた点が共有された。また、今年度 PMAQ-PMN として介入がなかった州の州教育事務所長からは、ニアメ市とタウア州での結果の共有を受けて、来年度の PMAQ-PMN 介入へ大きな期待が示された。グループ討議では、来学年度における PMAQ-PMN 実施に向けた課題と解決策の討議、及び実施カレンダーの作成を行い、3 か月間の実施期間に最大限の活動が出来るよう準備を進めた。

その上で2日目は、「PMAQ-PMN を他地域へ普及拡大すること」「その普及に関して教育省を支援するための技術・財政パートナー（PTF）へ働きかけること」「本ワークショップの成果を関係者に共有すること」、「市長に対し PMAQ-PMN における CGDES 連合活動を支援するよう働きかけること」が提言として採択された。

#### e) 学力向上プログラム（PMN）への PMAQ 統合に係る活動を実施する。（活動 2-15）

PMN への PMAQ 統合に係る活動（PMAQ-PMN）において、表 17 の通り準備会合と講師研修、現場研修を実施した。本プロジェクトはタウア州とニアメ市を、UNICEF はドッソ州を支援するという分担で合意をし、それぞれが担当する州のマニュアルの印刷・配送、及び講師研修、現場研修の予算を負担した。ただし、講師研修を実施する講師の質を保ちカスケードで行う研修の質を保つため、準備会合についてはプロジェクトが3州の資金・技術支援を行うこととし、ニアメ市、タウア州とドッソ州の指導主事代表と研修担当官を集め、学校分権化課およびプロジェクトコンサルタントが講師となり指導が行われた。

講師研修では、プロジェクトはニアメ市・タウア州の資金・技術支援と、ドッソ州の技術支援を行った。特に PMN は 10 月～12 月に実施期間が限定されているため、PMAQ-PMN 活動期間を最大限確保できるように、各州の現場研修は最大 10 日で実施できるようにスケジュール調整を行った。

PMAQ-PMN はプロジェクトではニアメ市、タウア州の全小学校を対象とし、現場研修の対象校数が膨大であったが、各州の州教育事務所長と視学官との協議により効果的かつ効率的に研修計画が作成され、予定通りに現場研修が行われた。また、現場研修や現場活動で使用するマニュアル等のツールを各小学校まで配布することは不可能であったが、ツールの配送先は現場研修会場近くの視学官事務所とし、現場研修中に必要なすべてのツールの配布が行われるようにし、研修が滞りなく行われるように工夫した。これにより、ニアメ市、タウア州では各学校での活動が行われた。

ドッソ州での活動は、UNICEF 側の手続きの問題によって現場研修実施に必須であるマニュアルとドリルの印刷と配送が遅れ、PMAQ-PMN 活動が 12 月までに実施されなかった。さらに、UNICEF 教育担当者の交替後に、予算執行の目途が立たなくな

ったため、2021年2月にプロジェクトでリフレッシャー研修を開催する形で技術面だけでなく資金面での支援も行う事で、ドゥソ州においては授業時間外の補習活動としてPMAQを実施できるよう支援した。

表 17：PMAQ-PMN 活動に係る準備会合および研修

1. 準備会合				
	ニアメ	タウア	ドゥソ	合計
開催時期	2020年9月上旬			
対象者	指導主事の代表8名 州研修担当官1名	指導主事の代表8名 州研修担当官1名	指導主事の代表6名 州研修担当官1名	指導主事 22名 州研修担当官3名

2. 対象州講師研修				
	ニアメ	タウア	ドゥソ	合計
開催時期	2020年9-10月		(1) 2020年11月に UNICEF資金で開催 (2) 2021年2月にプロ ジェクトにより再研 修	
講師	準備会合に出席した 指導主事代表8 名、州研修担当官1 名	準備会合に出席した 指導主事代表8 名、州研修担当官1 名	準備会合に出席した 指導主事代表6 名、州研修担当官1 名	指導主事 22名 各州研修担当官3名
対象者	視学官 21名 指導主事 131名 CGDES監督官 6名	視学官 50名 指導主事 110名 CGDES監督官 14名	視学官 43名 指導主事 129名 CGDES監督官 10名	視学官 114名 指導主事 370名 CGDES監督官 30名

3. 現場研修				
	ニアメ	タウア	ドゥソ	合計
開催時期	2020年9-10月		2021年2月 (UNICEFが実施)	
対象者	学校数 743校 参加者数 1486名	学校数 2971校 参加者数 5942名		学校数 3714校 参加者数 7428名

これまで実施していた PMAQ は校外学習活動であったが、PMAQ-PMN は初等教育省の授業時間内に実施されるものであり、初等教育省中央局長関係者間の協力体制が欠かせないものである。そのため、PMAQ-PMN の現場研修が完了した後の 2020 年 10 月に、PMAQ-PMN 実施内容の共有、活動の進捗状況の報告、今後の活動の実施に向けた方向性の協議を目的として、事務次官以下、初等教育省中央局長関係者の参加の下、理解浸透ワークショップが開催された。また今後の活動において、事務次官付き担当官や DFIC と連携し活動を実施していくことが協議された。

また、州・県監督官会議を適宜実施し、CGDES 及び CGDES 連合活動状況の把握、テスト結果の確認、課題に対する経験共有およびモニタリング能力強化を行うことで、PMAQ-PMN への住民・保護者の協力促進を図った。(表 18)

表 18：州・県監督官会議開催日程と対象者

1. ニアメ市・タウア州・ドゥソ州合同監督官会議				
	ニアメ	タウア	ドゥソ	合計
開催時期	2020年9月上旬			
対象者	州教育事務所長1名 州CGDES監督官1名	州教育事務所長1名 州CGDES監督官1名	州教育事務所長1名 州CGDES監督官1名	州教育事務所長 3名 州CGDES監督官3名

2. 第1回州・県監督官会議				
	ニアメ	タウア	ドゥソ	合計
開催時期	2020年9月	2020年10月	2021年2月	
対象者	CGDES監督官 7名 CGDES連合代表 10名	CGDES監督官 14名 CGDES連合代表 88名	CGDES監督官 10名 CGDES連合代表 86名	CGDES監督官 31名 CGDES連合代表 184名

3. 第2回州・県監督官会議/視学官会議				
	ニアメ	タウア	ドゥソ	合計
開催時期	2020年11月	2020年11月	2021年4月	
対象者	CGDES監督官 7名 視学官 21名	CGDES監督官 14名 視学官 50名	CGDES監督官 10名	CGDES監督官 31名 視学官 71名

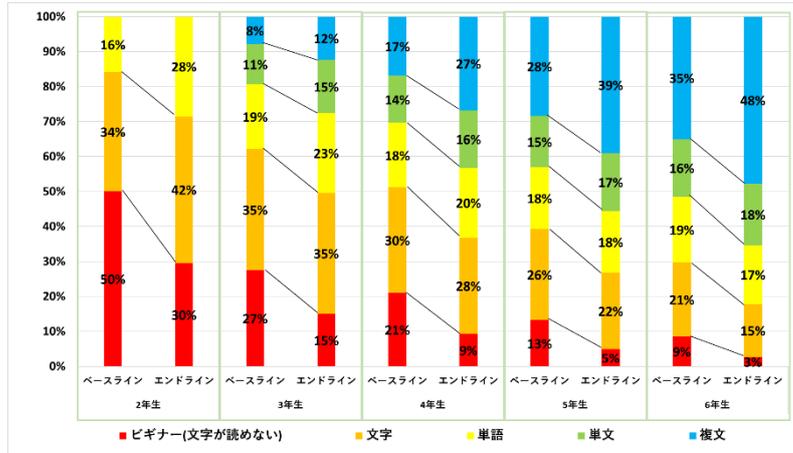
  

4. 第3回州・県監督官会議/視学官会議			
	ニアメ	タウア	合計
開催時期	2021年3月	2021年2月	
対象者	CGDES監督官 7名 視学官 21名	CGDES監督官 14名 視学官 50名	CGDES監督官 31名 視学官 71名

ニアメ市とタウア州における PMAQ-PMN のベースラインテストとエンドラインテストの結果比較は図 6、図 7 の通り。

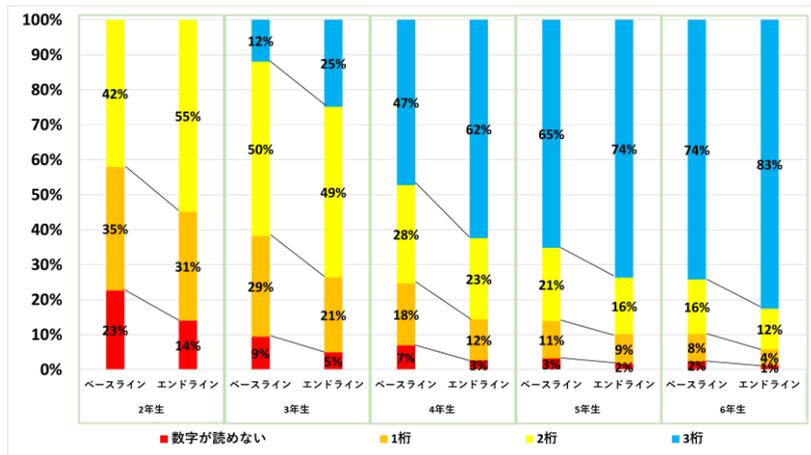
【ニアメ市】

読み



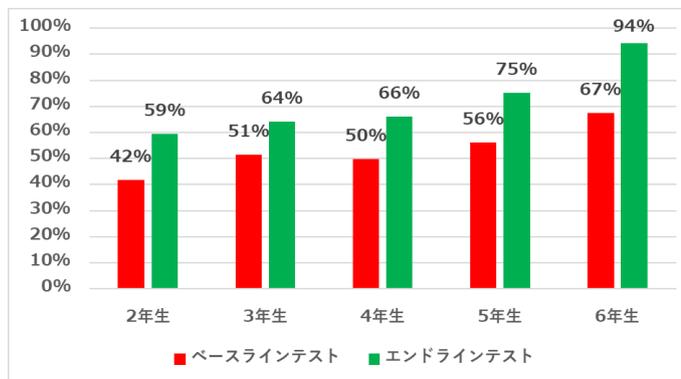
2年生は文字が読めない、文字、単語の3段階、3年生以降はこれらに加えて単文、複文の5段階にレベル分けされる。  
 すべての学年で文字が読めない、児童の割合が減少した。  
 また、3年生以上では単文や複文を読める児童の割合が増加した。

算数  
桁認識



すべての学年で数字が読めない生徒の割合が減少し、3年生以上では3桁を読める生徒の割合が増加した。

算数  
四則計算

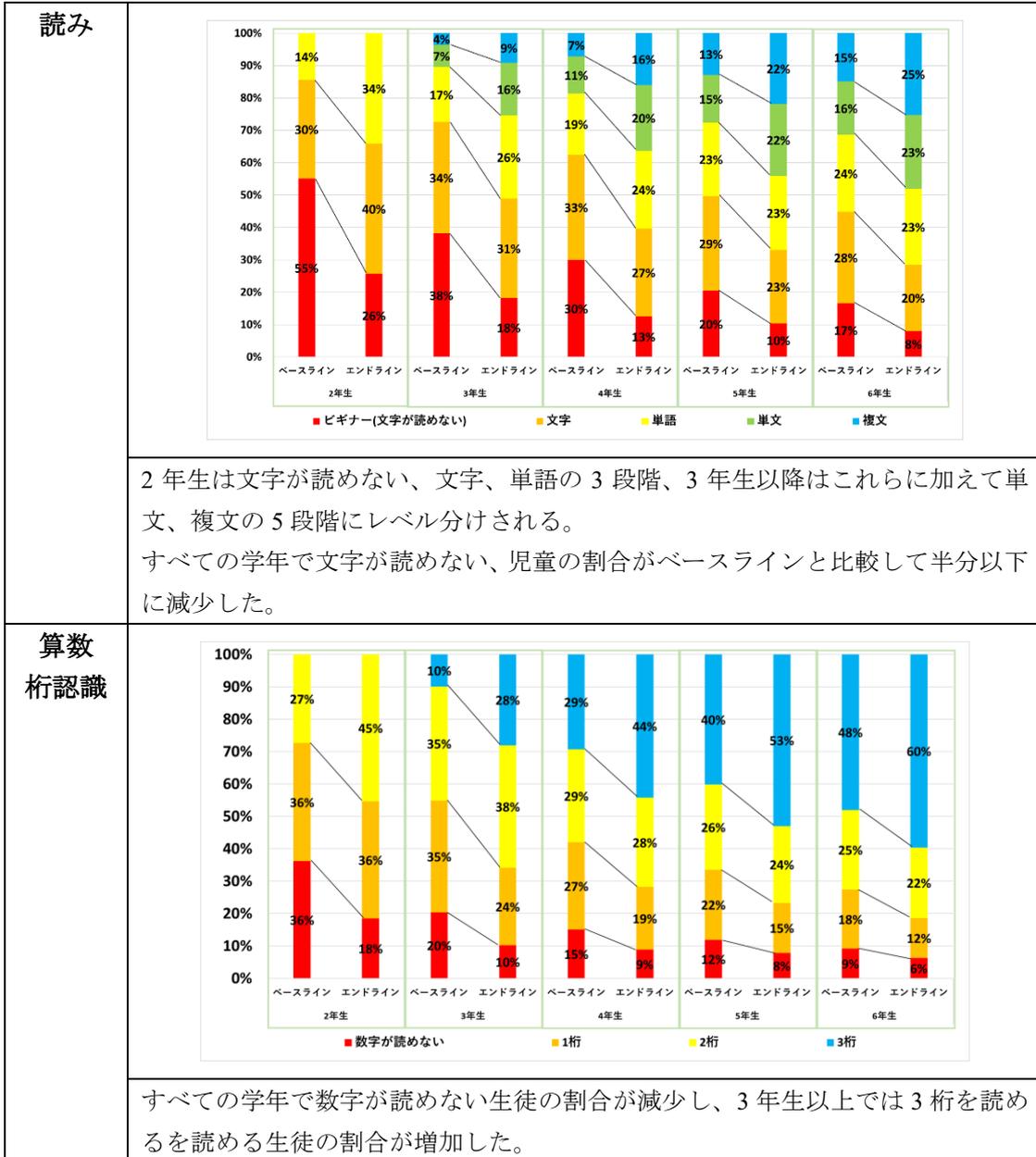


2年生は足し算と引き算、3年生から6年生は四則計算のテストを行い、50%以上の点数をとった児童の割合をグラフに示す。

それぞれの学年で改善が見られたが、ニアメにおいては特に6年生の伸び率が  
高く、67%であったベースラインテストと比較して、エンドラインテストでは  
94%となり、27ポイント上昇した。

図6：ニアメ市におけるPMAQ-PMNの結果

【タウア州】



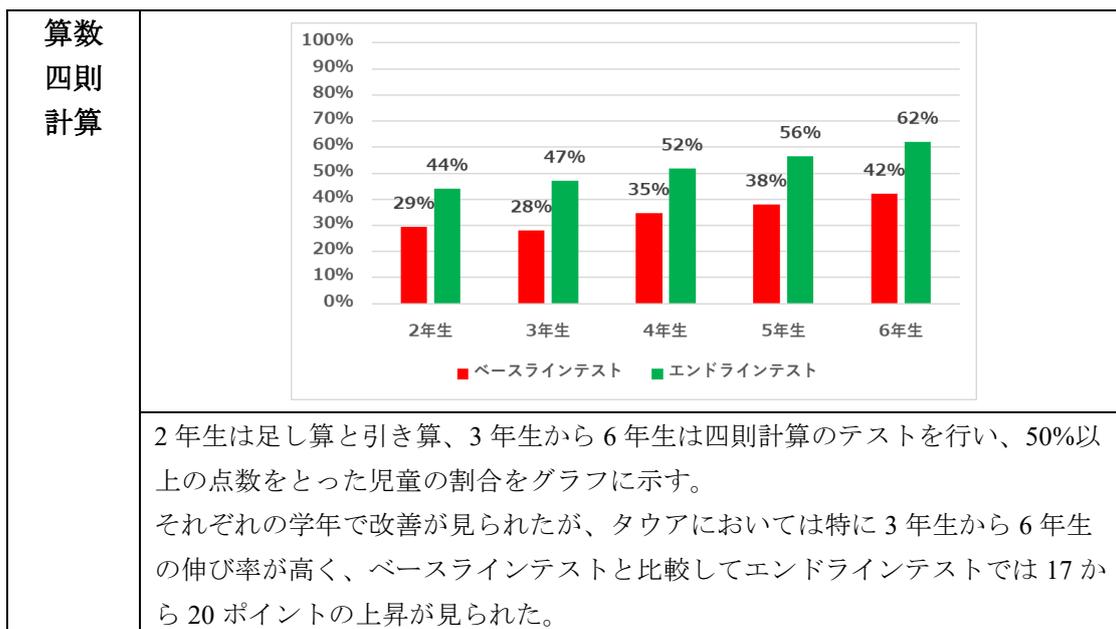


図 7: タウア州における PMAQ-PMN の結果

なお、PMAQ-PMN の開始にあたり、関係者間の調整に時間がかかったことや、PMAQ-PMN 実施期間中にコロナ禍の影響により学校が休校となった期間があったことから、結果として当初予定されていた 3 カ月の実施期間を確保することができず、7 週間の実施期間となった。そのような状況の中で、上記のような結果を達成することができた要因は、監督官・視学官会議等を通して、PMAQ-PMN に関する住民総会・連合総会が確実に実施されるように情報伝達を行った事、また、CGDES や CGDES 連合へのモニタリングが行われるように指導を行った事が挙げられる。また、それによって CGDES や CGDES 連合が活発に機能し、マニュアルや PMAQ-PMN 児童用読みドリルの追加印刷やコミュニティボランティアのための追加の技術研修が行われたことや、補習活動にも使われる仮説教室が建設されたことなどが報告されている。

表 19: ニアメ市 CGDES・CGDES 連合活動

	PMAQ/PMN の情報伝達に関する連合総会の実施回数	PMAQ/PMN の情報伝達に関する住民総会の実施回数	PMAQ/PMN の活動を含む学校活動計画数	CGDES あたり平均補習実施時間数	CGDES に対するモニタリング (のべ回数)	FCC に対するモニタリング (のべ回数)
合計	18 連合 /18 連合	679 CGDES /715 CGDES	625 CGDES /715 CGDES	49 h (週平均 6h)	508 CGDES /715 CGDES	30FCC /18FCC
%	100%	95%	87%		71%	167%

表 20：タウア州 CGDES・CGDES 連合活動

	PMAQ/PMN の情報伝達に関する連合総会の実施回数	PMAQ/PMN の情報伝達に関する住民総会の実施回数	PMAQ/PMN の活動を含む学校活動計画数	CGDES あたり平均補習実施時間数	CGDES に対するモニタリング(のべ回数)	FCC に対するモニタリング(のべ回数)
合計	44 連合 /44 連合	2790CGDES /2974CGDES	2763 CGDES /2974 CGDES	43 h (週平均 6h)	1756CGDES /2954CGDES	86FCC /44FCC
%	100%	95%	87%		59%	195%

### 3. プロジェクト実施運営上の課題・工夫・教訓（業務実施方法、運営体制等）

#### 3.1 安全対策措置下のプロジェクト運営管理・活動進捗

今フェーズは、プロジェクト活動対象地域が広範囲であったのに対し、ニジェールにおける治安状況の課題があり、邦人コンサルタントが移動できる範囲は非常に限られており、ニアメ市外への出張はほぼ不可能であった。このことに加え、2018年5月の Ramadan 期間中と、2020年3月から2021年2月末までのコロナ禍の期間中においては、日本からニジェールへの渡航と現地滞在ができず、邦人コンサルタントの現地不在が余儀なくされる中で活動を実施することとなった。

こうした逆境に対し、プロジェクトは再委託先の団体を効果的に活用し、C/Pとも定期会合など密なコミュニケーションを取り、活動を滞りなく実施することができた。コロナ禍により、約1年間遠隔支援による活動実施となったが、それまでにC/Pとの間に極めて強い関係性が築かれていたこと、またそのことによりC/P側で活動の実施方法などがよく理解されていたため、予定通りに行うことが可能となった。特にこの間、ビデオ会議システムを使った定期的な会合や、SNS アプリを積極的に活用するなど、新たなツールを利用したコミュニケーションを促し、遠隔支援による溝を埋めるよう努めた。

#### 3.2 PDM の枠組みを超えたプロジェクト目標達成、成果拡大への努力とその評価体制

本プロジェクトでは、PDM に定められた水準を越えて相手国の教育開発のために多くの活動を自主的に行い、プロジェクトの成果改善、拡大を行った。

まず特筆すべきが、質のミニマム・パッケージの改善である。本プロジェクトの成果2は、「対象州の小学校における PMAQ 普及」となっており、すでに開発されているモデルを対象州に普及すれば十分この成果を達成できることになっていた。しかし、本プロジェクトは、PMAQ が、算数に限定され、読み書きの手法はないこと、モデルを普及する場合、一人当たりの単価が高くなることなどが、プロジェクト目標達成への成果発現を限定していると認識し、読み書きの手法の開発、普及一人当たりの単価を改善するためのリサーチを独自に開始した。

その結果、インドの NGO Pratham が開発した習熟度別学習法「Teaching at the Right Level」という非常に効率的な読み書き改善の手法を特定した。そして、同 NGO にコンタクトを取り、視察し、その後、他国のみんなの学校や本部の支援を受けつつこの手法を導入し、ニジェールの現場に適応させるための試行を経て、PMAQ-PMN という名で正式に教育省に採用された。同モデルはタウア州とニアメ市に普及されることとなり、さらに、このモ

デルの裨益層を拡大するため、良好な関係にあった UNICEF に働きかけ、ドゥソ州への PMAQ-PMN の普及費用負担が実現した。この結果、PMAQ-PMN で、115 万人の生徒が裨益者となり、大きく読み書き計算能力の改善がなされた。

一方、JICA が開発した自学自習の算数ドリルを使ったオリジナルな PMAQ についても、ドリル費用獲得のために、我が国の経済社会開発無償の資金申請からその交渉過程、担当 JICS から教育省への橋渡しなど、その開始から配布まで支援を行ってきた。さらに、ドリルの現地到着後、本プロジェクトは、学校運営委員会がドリルを使った補習を活動として計画できるよう学校運営委員会代表に対する能力強化研修や、補習でドリル使用を支援するファシリテーター（教員あるいは、コミュニティファシリテーター）への研修を実施し、50 万人に及ぶ生徒の学力改善へ向けた自習活動を支援した。

さらにプロジェクト目標の達成に資する活動として、UNICEF と連携して女子就学改善活動（フォーラム）を行い、全国の小中学生の中退率改善で大きな成果を上げたが、この活動も、自主的に UNICEF との連携を模索した結果としてなされた活動である。

以上のように、本フェーズでは、当初の PDM の定められた水準を越えて相手国の教育開発のために活動し、大きな成果を出した。

### 3.3 外部資金の活用及び他の開発協力機関との連携

PAEQ 支援によるティラベリ州全校への「質のミニマム・パッケージ（算数）」普及関連活動については、非常に複雑かつ時間を要する国の競争入札が適用されたことによりドリル印刷の調達プロセスに遅れが生じ、本来 2016/2017 学年度中に導入される予定が 2017/2018 年度へと繰り越された。そのため、当初 PAEQ 支援の「質のミニマム・パッケージ（算数）」が導入されたところに、プロジェクトの直接介入による「質のミニマム・パッケージ（読み書き）」パイロット活動を導入し、「質のミニマム・パッケージ算数・読み書き統合モデル」開発に取り組む予定であったが、PAEQ 活動の遅延により、統合モデル開発自体への支障が生じることとなった。

このような状況の中、プロジェクト第 1 期完了時点では「質のミニマム・パッケージ統合モデル」の普及目途が立っていなかった。しかし、プロジェクト第 2 期の合同調整委員会において、質のミニマム・パッケージを初等教育省が行う「学力向上プログラム」（PMN）に統合する PMAQ-PMN の導入が承認され、4 校での試行を行い、またプロジェクト履行期間の延長が決まった後も、プロジェクトから初等教育省への働きかけを続けた結果、PMAQ-PMN の普及が先方政府からの要望として挙がってきた。また、以前から質のミニマム・パッケージに興味を示していた UNICEF とも同時期に並行して協議を重ねていた結果、PMAQ-PMN 普及については UNICEF との協働で、タウア州、ニアメ市、ドゥソ州の 3 州の全小学校へと対象学校数を大幅に拡大することが可能となった。

こうした直近の事例や過去のみんなの学校プロジェクトの外部資金の活用、他ドナーとの連携の成功例から得られた教訓は、このような活動が、プロジェクトの枠を超え、成果に大きく貢献することができる可能性があること、しかし、その結果に至るロードマップは定式化できず、時宜をとらえ、臨機応変に迅速に動くことが必要であること、往々にして組織同士の対話よりは、キーパーソンとの良好なコミュニケーションによって得られることが多いということを学んだ。また、これら他国、他機関の援助政策と密接に関連する活動は本来外部要因と認識されるべきであり、PDM のコアに含めることは適切では

ない。しかしながら、実際には、活動の継続、持続性の担保として不可欠であり、PDMの枠を超えて外部資金を獲得することや、他ドナーの連携を促すことが評価や賞賛につながる枠組みを作ることは極めて重要であると思料する。

### 3.4 カウンターパート省による費用負担の未執行

初等教育省・中等教育省共に、プロジェクトに係る協議議事録においては、活動のモニタリング費はニジュール側の負担となっている。しかしながら、中等教育省においては、毎年教育省の予算計画として、担当部署レベルでは中央・地方のCOGES担当行政官に対するモニタリングならびに関連活動を計画・計上していても、実際には執行できていない。

初等教育省においても、中央・地方のモニタリング関連活動が2013年より国庫負担となったが、防衛予算の拡大等を理由に、プロジェクトの今フェーズが開始した後は一度も執行されていない。また、モニタリング費は通常のCGDES活動のモニタリングであり、州・県CGDES監督官はCGDES連合までのモニタリングを実施することを想定しており、CGDESレベルにまで頻繁に行く予算は見込まれていないことから、たとえ執行されたとしても、質のミニマム・パッケージ活動のパイロット校を巡回するほどの予算は確保されていない。新たな活動を導入するプロジェクトにとってもモニタリングは不可欠な活動の一つといえるが、教育省との費用分担の取り決めの関係で常にその実行が不安定な状況にある。

この問題に対し、プロジェクトは、常に教育省に対する働きかけを行いつつも、プロジェクトが担う研修等のフォローアップ支援の一環として補完的な支援を行って対応し、また政策提言ワークショップ等においても提言に盛り込んだが、初等・中等ともにモニタリング費に係る状況が劇的に改善されることは期待できない状況が続いてきた。

今後は、学校運営委員会連合を活用したモニタリングなど、政府の負担を抑えた形でモニタリング方法を確立することが重要であると考えます。

### 3.5 女子就学促進モデルの開発に係る取り組み

今フェーズ中、州教育フォーラム開催を行い、女子就学促進に係る取り組みを行ってきた。前期中等教育においては2020年3月、6月に開催された全国8州州教育フォーラムが、女子就学状況（退学率、進級率）の大幅な改善に寄与したが、その成功要因について調査を行ったところ、補習授業の実施等「学力改善」を図るものと、学校運営委員会下部組織としてのモニタリング委員会設置による早婚防止活動等「社会規範・意識変容」を図る活動がコミュニティで行われたことがわかった。特にプロジェクトではモニタリング委員会設置は、汎用性と普及可能性があり退学率削減への効果が高いと考え、実際にモニタリング委員会を設置した学校関係者により詳細な聞き取り調査を実施した上で、中退防止モニタリング委員会設置に係るガイドを作成し、2021年4月のフォーラム時に連合代表者へのモニタリング委員会設置研修を実施した。

2021年4月のザンデル州女子就学フォーラムにおいては、当初「『女子就学』モニタリング委員会」設置を検討していたが、中等教育省と協議において、男女ともに就学状況に課題を抱えるニジュールにおいて就学促進活動は女子に限定されるべきではなく、全体的な就学状況改善を図る中でジェンダー格差改善にも配慮すべきとの提案があり、「『女子就学』モニタリング委員会」ではなく、男女を対象とした「『中退防止』モニタ

リング委員会」という形で設置し、その活動の一つとして主に女子を対象とする早婚等の就学課題についても取り組めるよう支援することとし、ジェンダーへの配慮を行った。しかしその一方で、その対象が男女に拡大したことで活動の幅も広がり、学校運営委員会の限られた人的・物的資源が拡散してしまう可能性があり、ジェンダー配慮と女子就学促進のバランスを保ちつつ、どのように退学率減少効果を高めるかという点は課題となりそうである。来フェーズにおいてモニタリング委員会を広範囲に普及させる場合、この点について関係者と十分協議を行っていく必要がある。

## 4. プロジェクト目標の達成度

### プロジェクト目標

プロジェクト対象地域において、基礎教育のアクセス及び質の改善に資する住民参加型の教育開発モデルが機能する。

#### 4.1 プロジェクト目標全般について

本プロジェクトは、半期モニタリングシートを活用し、プロジェクト目標の達成状況を確認しながら運営を行ってきた。2019年10月に行われた運営指導調査により、プロジェクト履行期間の2021年3月までの延長が決まり、その後、コロナ禍の影響により2021年6月までプロジェクト履行期間が延長された。プロジェクト目標の指標については、プロジェクト履行期間の延長に伴う活動変更の際に修正が行われなかったため、特に初等に係る指標3から6については、「質のミニマム・パッケージ（読み書き・算数）」パイロットモデル開発に用いられた指標をPMAQ-PMNの普及に用いており、指標自体が延長期間の活動内容を想定したものではないことを認識しておく必要がある。

#### 4.2 指標 1: プロジェクト対象地域の80%の前期中等学校において、学校運営委員会によって策定された学校活動計画が実施される

【2019/20年度：達成済み。2020/21年度：達成済み】

2019/20年度に、対象6州の前期中等学校及び中高併設校への機能する学校運営委員会モデル普及が完了した。2019/20年度において、対象6州の前期中等学校1704校中1567校（92.0%）で、2019/2020学年度の活動総括表の策定と活動実施が確認された。

2020/21年度については現在学年度の途中となり最終データが確定していないが、対象6州の前期中等学校1754校中1492校（85.1%）で、2020/2021学年度の活動総括表の策定と活動実施が確認された。

#### 4.3 指標 2: プロジェクト対象地域の80%のCOGES-ES連合が活動計画を実施する。

【2019/20年度：達成済み。2020/21年度：達成済み】

2019/20年度については、対象6州の中等COGES連合のうち100%（59連合）が、2019/2020学年度の活動総括表を策定し、活動を実施していることが確認された。

2020/21 年度についても、対象 6 州の中等 COGES 連合のうち 100% (59 連合) が、2020/2021 学年度の活動総括表を策定し、活動を実施していることが確認された。

#### 4.4 指標 3: プロジェクト対象地域の 80%の小学校において、学校運営委員会によって策定された質のミニマム・パッケージに基づく活動計画が実施される。

##### 【達成済み】

2017/2018 年度 PAEQ 支援によるティラベリ州内の 1-4 学年がある 3452 校への「質のミニマム・パッケージ (算数)」において、全体の 98%にあたる 3380 校にて質のミニマム・パッケージが実施された。

2018/2019 年度「質のミニマム・パッケージ統合モデル」開発パイロット活動対象 101 校すべて (100%) において活動計画が実施された。

2020/21 年度 PMAQ-PMN においては、ニアメ市とタウア州において、合わせて 3689 校中、3388 校 (92%) の CGDES で、質のミニマム・パッケージに基づく学校活動計画が実施された。

参考 1: 2020/21 年度 PMAQ-PMN 開始に遅れがあったドッソ州においては、2781 校中、2744 校 (99%) の CGDES で、質のミニマム・パッケージに基づく学校活動計画が策定され、現在活動を実施中。

参考 2: 2020/21 年度マラディ州内の 3356 校への「質のミニマム・パッケージ (算数)」普及において、全体の 99%にあたる 3337 校にて質のミニマム・パッケージに基づく学校活動計画が策定、現在活動を実施中。

#### 4.5 指標 4: 70%以上の学校において、補習活動が 150 時間以上実施される。

##### 【一部達成済み】

2017/2018 年度 PAEQ 支援によるティラベリ州内「質のミニマム・パッケージ (算数)」において、対象校中約 3 か月間で 70%以上の学校において、平均 222 時間 (1 週間あたり平均 18.5 時間) の補習活動が実施された。

2018/2019 年度「質のミニマム・パッケージ統合モデル」開発パイロット活動対象 101 校では 3.5 カ月の実施期間で、平均 170 時間 (1 週間あたり平均 12.1 時間) の補習活動が実施された。

2020/21 年度 PMAQ-PMN においては、ニアメ市の 715 校において、約 2 カ月間で、平均 49 時間 (1 週間あたり平均 6.1 時間) の補習活動が実施された。

2020/21 年度 PMAQ-PMN においては、タウア州の 2974 校において、約 1.75 カ月間で、平均 43 時間 (1 週間あたり平均 6.1 時間) の補習活動が実施された。

参考 1: 2020/21 年度 PMAQ-PMN 開始に遅れがあったドッソ州においては、2744 校に

において 3.75 カ月間で平均 92 時間（1 週間あたり平均 6.1 時間）の補習活動が計画され、現在活動を実施中。

参考 2：2020/21 年度マラディ州内の 3356 校への「質のミニマム・パッケージ（算数）」普及において、3 カ月間で平均 118 時間（1 週間あたり平均 9.8 時間）の補習活動が計画され、現在活動を実施中。

#### 4.6 指標 5: 70%以上の学校において、女子と男子の補習活動への出席率が 80%以上となる。

##### 【一部達成済み】

2018/2019 年度「質のミニマム・パッケージ統合モデル」開発パイロット活動対象校のうちの 10 校への聞き取りにおいては、当該活動への参加率は 90%を超える出席率が報告された。

#### 4.7 指標 6-1: 60%の 2 年生（CP）児童がプロジェクトが開発した算数テストで 50%以上の点数を得る。

##### 【一部達成済み】

2018/2019 年度「質のミニマム・パッケージ統合モデル」開発パイロット活動において、66%の 2 年生（CP）児童が、プロジェクト開発のエンドライン算数テストにて 50%以上の点数を得た。これは、同ベースラインテストでの 28%から 38 ポイントの上昇となる。

2020/21 年度 PMAQ-PMN において、49%の 2 年生（CP）児童が、プロジェクト開発のエンドライン算数テストの四則計算にて 50%以上の点数を得た。これは、同ベースラインテストでの 34%から 15 ポイントの上昇となる。

#### 4.8 指標 6-2: 70%の 4 年生（CE2）児童がプロジェクトが開発した算数テストで 50%以上の点数を得る。

##### 【未達成】

2018/2019 年度「質のミニマム・パッケージ統合モデル」開発パイロット活動において、65%の 4 年生（CE2）児童が、プロジェクト開発のエンドライン算数テストにて 50%以上の点数を得た。これは、指標をわずかに 5 ポイント下回り、指標達成には至らなかった。なお、同ベースラインテストでの値は 40%であり、25 ポイントの上昇となる。

2020/21 年度 PMAQ-PMN において 57%の 4 年生（CE2）児童が、プロジェクト開発のエンドライン算数テストの四則計算にて 50%以上の点数を得た。これは、指標を下回り、指標達成には至らなかった。なお、同ベースラインテストでの 42%から 15 ポイントの上昇となる。

#### 4.9 指標 6-3: 60%の 2 年生（CP）児童がプロジェクトが開発した識字（読み書き）テストで 50%以上の点数を得る。

【テスト形式を変更したため指標をそのまま適用できないが、達成済みと判断する】

2017/2018 年度以降の「質のミニマム・パッケージ統合モデル」開発パイロット活動、および PMAQ-PMN においては、テスト形式が点数制ではなく、カテゴリー分けで測定するため指標をそのまま適用できないが、2018/2019 年度「質のミニマム・パッケージ統合モデル」開発パイロット活動対象 101 校ではエンドラインの識字テストにて、62%の2年生 (CP) 児童が CP の合格最低ラインである「アルファベット文字が読める」ようになり、指標は達成されたと判断する。ベースラインの時点ではその割合は 30%であったことから、32 ポイントの上昇となる。

2020/21 年度 PMAQ-PMN においても同様に、エンドラインの識字テストにて、73%の2年生 (CP) 児童が少なくともアルファベット文字が読めるようになり、指標は達成されたと判断する。ベースラインの時点ではその割合は 47%であったことから、26 ポイントの上昇となる。

#### 4.10 指標 6-4: 70%の4年生 (CE2) 児童がプロジェクトが開発した識字 (読み書き) テストで 50%以上の点数を得る。

【テスト形式を変更したため指標をそのまま適用できないが、未達成と判断する】

2017/2018 年度以降の「質のミニマム・パッケージ統合モデル」開発パイロット活動、および PMAQ-PMN においては、テスト形式が点数制ではなく、カテゴリー分けで測定するため指標をそのまま適用できないが、2018/2019 年度「質のミニマム・パッケージ統合モデル」開発パイロット活動対象 101 校ではエンドラインの識字テストにて、59%の4年生 (CE2) 児童が CE2 の合格最低ラインである「単語が読める」ようになったが、指標は未達成であったと判断する。ベースラインの時点ではその割合は 30%であったことから、29 ポイントの上昇となる。

2020/21 年度 PMAQ-PMN においても同様に、エンドラインの識字テストにて、62%の4年生 (CE2) 児童が少なくとも単語が読めるようになったが、指標は未達成であったと判断する。ベースラインの時点ではその割合は 43%であったことから、19 ポイントの上昇となる。

## 5. 上位目標の達成に向けての提言

### 上位目標

プロジェクト対象地域において地方分権化による学校運営を通じて基礎教育のアクセスと質が向上する

指標 1: 初等教育及び前期中等教育レベルの女子及び男子の教育指標 (粗就学率、純就学率、留年率、退学率、修了率) が改善される。

指標 2: CM2 において女子と男子の年次評価の合格率が改善される。

指標 3: PASEC のような国際学力テストにおいて成績と順位が改善される。

上位目標の達成には、プロジェクト目標が達成され、外部条件が満たされることが必要となる。本プロジェクト目標の外部条件は、「初等教育・識字・国語推進・市民教育省（MEP/A/PLN/EC）及び中等教育省（MES）の予算が保証されている」および「経済及び治安状況が著しく悪化しない」の2点である。今フェーズ中に経験共有ワークショップ、政策提言ワークショップなど、様々な機会において、機能する中等 COGES の持続性にかかるモニタリング費の予算確保や、質のミニマム・パッケージの普及予算確保について議論を行ってきたが、これまでのところ教育省での予算確保が難しい状況が続いている。治安については、2020年1月よりティラベリ州では治安の悪化によりバイクでの移動が禁止されており、活動モニタリングをより一層困難にしており、これらが、上位目標の達成の障害となる可能性がある。

また、上位目標の指標については、退学率や修了率、CM2年次評価合格率についてはプロジェクト目標である「前期中等学校における機能する学校運営委員会モデル普及」と「対象州の小学校におけるPMAQ普及」のみではカバーできず、上記2点の外部条件が満たされたとしても、現在の上位目標の指標を達成できるとは考え難い。またコロナ禍において、学校が休校となる可能性なども踏まえ、指標については改訂が妥当であると考えられる。

上位目標である「プロジェクト対象地域において地方分権化による学校運営を通じて基礎教育のアクセスと質が向上する」の達成については、初等教育のアクセス改善については、毎年の入学登録者数を確保するための取り組みを継続する必要がある。また、初等教育ではCGDESによって仮設教室が建設されており、その建設数の変遷を見ると、CGDESの機能度が見えて来る。仮設教室の増加、減少は就学率に影響するため、CGDESの機能度を維持する支援をしていくことも重要である。

前期中等教育へのアクセス改善については、初等教育時点での基礎学力の定着、つまり初等教育における教育の質の改善が必須となる。特に2019年のPASECの結果にあるような学力改善をより確かなものにするため、今フェーズにおいて識字能力と算数の基礎的能力の向上という成果を得たPMAQ-PMNと同様の支援を、今後は対象州を拡大して行うことが考えられる。

前期中等教育においては、学校を退学する主な理由の1つが進級試験に落第することであり、今後も退学率を低く抑え続けるためには、授業についていくことができ、進級試験にも合格できるよう、少なくとも初等教育終了時点で達成されているべき内容を習得することが重要となる。この点については、中等教育への質のミニマム・パッケージの導入が有効であると考えられる。中等COGESにおいては親やコミュニティの参加率が低いという課題が監督官会議や経験共有会合の場などで協議されており、前期中等教育における質のミニマム・パッケージ導入においては、どのように親やコミュニティの関与を強化していくかを十分に検討する必要がある。



## 6. 添付資料

### ① PDM

Project Design Matrix (PDM)

Version 0

プロジェクト名称:ニジェール国みんなの学校:住民参加による教育開発プロジェクトフェーズII

実施機関: 初等教育・識字・国語推進・市民教育省 (MEP/A/PLN/EC)、中等教育省 (MES)

ターゲットグループ(初等教育): 児童、教員、学校運営委員会、校長、保護者、コミュニティ、学校アドミン担当者、地方行政、初等教育・識字・国語推進・市民教育省の学校運営支援局及び州・県の責任者

ターゲットグループ(前期中等教育): 生徒、教員、学校運営委員会、校長、保護者、コミュニティ、学校アドミン担当者、地方行政、中等教育省の学校運営支援局学校分権化課及び州・県の責任者

プロジェクト期間: 3年4か月(1人目のJICA専門家が到着した日から)

ターゲットサイト(初等教育): ティラベリ州

ターゲットサイト(前期中等教育): ティラベリ州、ドッソ州、タウア州、マラティ州、ザンデル州、ニアメ市

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
<p><b>上位目標:</b> プロジェクト対象地域において、地方分権化による学校運営を通じて基礎教育のアクセスと質が向上する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>初等教育及び前期中等教育レベルの女子及び男子の教育指標(粗就学率、純就学率、留年率、退学率、修了率)が改善される。</li> <li>CM2Iにおいて女子と男子の年次評価の合格率が改善される。</li> <li>PASECのような国際学カテストにおいて成績と順位が改善される。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>初等教育・識字・国語推進・市民教育省 (MEP/A/PLN/EC) と中等教育省 (MES) の統計</li> <li>PASEC</li> </ol>	
<p><b>プロジェクト目標:</b> プロジェクト対象地域において、基礎教育のアクセス及び質の改善に資する住民参加型の教育開発モデルが機能する。</p>	<p>(前期中等教育)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト対象地域のXX%の前期中等学校において、学校運営委員会によって策定された学校活動計画が実施される。</li> <li>プロジェクト対象地域のXX%のCOGES-ES連合が活動計画を実施する。</li> </ol> <p>(初等教育)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト対象地域のXX%の小学校において、学校運営委員会によって策定された質のミニマム・パッケージに基づく活動計画が実施される。</li> <li>XX%以上の学校において、補習活動がXX時間以上実施される。</li> <li>XX%以上の学校において、女子と男子の補習活動への出席率がXX%以上となる。</li> <li>6-1. XX%の2年生 (CP) 児童がプロジェクトが開発した算数テストで50%以上の点数を得る。</li> <li>6-2. YY%の4年生 (CE2) 児童がプロジェクトが開発した算数テストで50%以上の点数を得る。</li> <li>6-3. XX%の2年生 (CP) 児童がプロジェクトが開発した識字(読み書き)テストで50%以上の点数を得る。</li> <li>6-4. YY%の4年生 (CE2) 児童がプロジェクトが開発した識字(読み書き)テストで50%以上の点数を得る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校運営委員会活動総括表、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、DGDES/DAGESS-MESモニタリング報告書</li> <li>COGES-ES連合年間活動総括表、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、DGDES/DAGESS-MESモニタリング報告書</li> <li>4. 5. 学校運営委員会年間活動総括表、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、DGDE/DAGE-MEP/A/PLN/ECモニタリング報告書</li> <li>進捗報告書、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書</li> </ol>	<p>初等教育・識字・国語推進・市民教育省 (MEP/A/PLN/EC) 及び中等教育省 (MES) の予算が保証されている。</p> <p>経済及び治安状況が著しく悪化しない。</p>

<p><b>成果</b></p> <p>1. 前期中等学校における機能する学校運営委員会モデルが、対象州の前期中等学校及び中高併設校において普及される。</p> <p>2. 対象州の小学校において質のミニマム・パッケージが普及される。</p>	<p>1-1. プロジェクト対象地域のXX%の前期中等学校及び中高併設校においてCOGES-ESが民主的に設置される。</p> <p>1-2. プロジェクト対象地域のXX%の前期中等学校及び中高併設校において、学校活動計画がCOGES-ESIによって策定される。</p> <p>1-3. プロジェクト対象地域のXX%の県において、COGES-ES連合が民主的に設置される。</p> <p>1-4. プロジェクト対象地域のXX%のCOGES-ES連合が活動計画を策定する。</p> <p>1-5. プロジェクト対象地域のXX%のCOGES-ESフォーカルポイントが少なくとも年に2回モニタリング報告書を作成する。</p> <p>2-1. XX%のCGDESが質のミニマム・パッケージに基づく学校活動計画を策定する。</p> <p>2-2. プロジェクト対象地域においてXX%の教育指導主事及び州・県のフォーカルポイントが少なくとも年に2回、質のミニマム・パッケージ活動のモニタリング報告書を作成する。</p>	<p>1-1. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>1-2. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>1-3. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>1-4. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>1-5. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>2-1. 2-2. 2-3. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、質の教育支援プロジェクト(PAEQ)報告書、DAGE-MEP/A/PLN/ECのモニタリング報告書</p>	<p>経済及び治安状況が著しく悪化しない。</p>
---	---	---	---------------------------

活動	投入		外部条件
	日本側	ニジェール側	
<p>1-1. 前期中等学校の機能するCOGES-ESモデルの普及に係る詳細計画を策定する。</p> <p>1-2. ジェンダーや前期中等学校における分権化された学校運営を含め、ベースライン調査を実施する。</p> <p>1-3. 住民参加を通じた民主的COGES-ESの設置、学校活動計画の策定、資金管理、COGES-ES連合の設置に係る研修マニュアル及びガイドを改定する。</p> <p>1-4. 研修マニュアル等のツール及び普及計画の承認ワークショップを開催する。</p> <p>1-5. 住民参加を通じた民主的COGES-ESの設置、学校活動計画の策定、資金管理、COGES-ES連合の設置に係る研修マニュアル及びガイドに関し、講師研修を実施する。</p> <p>1-6. 住民参加を通じた民主的COGES-ES設置に係る研修を実施する。</p> <p>1-7. 学校活動計画及び資金管理に係る研修を実施する。</p> <p>1-8. COGES-ES連合設置に係る研修を実施する。</p> <p>1-9. 州、県のフォーカルポイント(本件担当者)を対象とし、COGES-ESモニタリング及び技術的助言に係るワークショップを開催する。</p> <p>1-10. COGES-ES活動のモニタリングガイドを作成する。</p> <p>1-11. 機能するCOGES-ES連合のモデル承認のためのワークショップを開催する。</p> <p>1-12. 全州の関係者を対象とし、機能するCOGES-ESモデルに係る経験共有セミナーを開催する。</p> <p>1-13. ジェンダーや前期中等学校における分権化された学校運営を含め、エンドライン調査を実施する。</p> <p>1-14. COGES-ESの定着、COGES-ESに関連した政策・戦略強化のための提言を取りまとめることを目的とし、ワークショップを開催する。</p> <p>2-1. 質のミニマム・パッケージの普及に係る詳細計画の策定、マニュアル及びガイドの改定に関し、技術的助言を行う。</p> <p>2-2. ジェンダー、CGDESによる教育の質改善のための活動、児童の学習成果を含め、ベースライン調査を実施する。</p> <p>2-3. 質の高い教育支援プロジェクト(PAEQ)の実施における手続きを促進する。</p> <p>2-4. 質のミニマム・パッケージの普及のための講師研修の実施に関し、技術的助言を行う。</p> <p>2-5. 質のミニマム・パッケージに基づく活動計画の策定に関し、CGDES代表を対象とした研修の実施において技術的助言を行う。</p> <p>2-6. 質のミニマム・パッケージの普及のため、補習活動のファシリテーター研修の実施に関し、技術的助言を行う。</p> <p>2-7. 質のミニマム・パッケージに識字(読み書き)コンポーネントを統合するためのパイロット活動として講師研修を実施する。</p> <p>2-8. 質のミニマム・パッケージに識字(読み書き)コンポーネントを統合するためのパイロット活動としてCGDES代表に対する研修を実施する。</p> <p>2-9. 質のミニマム・パッケージに識字(読み書き)コンポーネントを統合するためのパイロット活動としてファシリテーター研修を実施する。</p> <p>2-10. 統合された質のミニマム・パッケージの試行を通じて得られた成果や教訓を取りまとめるための評価調査を実施する。</p> <p>2-11. 算数と識字(読み書き)を統合した質のミニマム・パッケージの承認ワークショップを開催する。</p> <p>2-12. 対象州以外の州の代表者を含め、関係者と質のミニマム・パッケージの普及に係る経験を共有するためのワークショップや会合を開催する。</p> <p>2-13. ジェンダー、CGDESによる教育の質改善のための活動、児童の学習成果を含め、エンドライン調査を実施する。</p> <p>2-14. CGDESの定着、質のミニマム・パッケージを活用した政策・戦略強化のための提言を取りまとめることを目的とし、ワークショップを開催する。</p>	<p>1) 短期専門家： - 総括/学校運営 - 副総括/研修、計画、モニタリング - その他の分野(必要な場合)</p> <p>2) 下記の項目に係るプロジェクト実施経費の分担： i) 現地コンサルタントNGOへの再委託費</p> <p>ii) 講師の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、前期中等学校の機能するCOGES-ESモデル普及のための講師研修に係る経費</p> <p>iii) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、前期中等学校の機能するCOGES-ESモデルの研修に係る経費</p> <p>iv) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、研修マニュアル等のツール及び普及計画の承認ワークショップに係る経費</p> <p>v) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、COGES-ESモニタリング及び技術的助言に係るワークショップの経費</p> <p>vi) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、全州の代表者を対象とした機能するCOGES-ESモデルに係る経験共有セミナーの経費</p> <p>vii) 講師の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、質のミニマム・パッケージの普及のための講師研修に係る経費</p> <p>viii) 講師の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、質のミニマム・パッケージに識字(読み書き)コンポーネントを統合するためのパイロット活動に係る研修の経費</p> <p>ix) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、質のミニマム・パッケージの普及に係る経験を共有するためのワークショップや会合に係る経費</p> <p>x) その他の経費(必要な場合)</p> <p>3) 第三国研修或いは本邦研修(必要な場合)</p>	<p>A. 初等教育・識字・国語推進・市民教育省(MEP/A/PLN/EC)</p> <p>1) プロジェクトカウンターパートの配置</p> <p>2) プロジェクト事務所</p> <p>3) マニュアル及びガイドの印刷、CGDESへの教材の配給等、質のミニマム・パッケージ普及に係る経費</p> <p>4) CGDESのモニタリング及び評価に係る経費</p> <p>5) 日本側の投入に含まれていないその他の必要な経費</p> <p>B. 中等教育省(MES)</p> <p>1) プロジェクトカウンターパートの配置</p> <p>2) プロジェクト事務所</p> <p>3) COGES-ESのモニタリング及び評価に係る経費</p> <p>4) 日本側の投入に含まれていないその他の必要な経費</p>	<p>経済及び治安状況が著しく悪化しない。</p> <hr/> <p><b>前提条件</b></p> <p>1. 経済及び治安状況が著しく悪化しない。</p> <p>2. 質のミニマム・パッケージ普及のための予算が保証され、PAEQ/PMEの計画に従って実施される。</p>

Project Design Matrix (PDM)

Version 1

プロジェクト名称:ニジェール国みんなの学校:住民参加による教育開発プロジェクトフェーズII

実施機関:初等教育・識字・国語推進・市民教育省 (MEP/A/PLN/EC)、中等教育省 (MES)

ターゲットグループ(初等教育):児童、教員、学校運営委員会、学校長、保護者、コミュニティ、教育行政官、地方行政、初等教育・識字・国語推進・市民教育省の学校運営支援局・学校分権化課及び州・県の学校運営委員会監督官

ターゲットグループ(前期中等教育):生徒、教員、学校運営委員会、学校長、保護者、コミュニティ、教育行政官、地方行政、中等教育省の学校運営支援局・学校分権化課及び州・県の学校運営委員会監督官

プロジェクト期間:3年4か月(1人目のJICA専門家が到着した日から)

ターゲットサイト(初等教育):ティラベリ州

ターゲットサイト(前期中等教育):ティラベリ州、ドッソ州、タウア州、マラティ州、ザンデル州、ニアメ市

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
<p><b>上位目標:</b> プロジェクト対象地域において、地方分権化による学校運営を通じて基礎教育のアクセスと質が向上する。</p>	<p>1. 初等教育及び前期中等教育レベルの女子及び男子の教育指標(粗就学率、純就学率、留年率、退学率、修了率)が改善される。</p> <p>2. CM2において女子と男子の年次評価の合格率が改善される。</p> <p>3. PASECのような国際学力テストにおいて成績と順位が改善される。</p>	<p>1.2. 初等教育・識字・国語推進・市民教育省 (MEP/A/PLN/EC)と中等教育省 (MES)の統計</p> <p>3. PASEC</p>	
<p><b>プロジェクト目標:</b> プロジェクト対象地域において、基礎教育のアクセス及び質の改善に資する住民参加型の教育開発モデルが機能する。</p>	<p>(前期中等教育)</p> <p>1. プロジェクト対象地域の80%の前期中等学校において、学校運営委員会によって策定された学校活動計画が実施される。</p> <p>2. プロジェクト対象地域の80%のCOGES-ES連合が活動計画を実施する。</p> <p>(初等教育)</p> <p>3. プロジェクト対象地域の80%の小学校において、学校運営委員会によって策定された質のミニマム・パッケージに基づく活動計画が実施される。</p> <p>4. 70%以上の学校において、補習活動が150時間以上実施される。</p> <p>5. 70%以上の学校において、女子と男子の補習活動への出席率が80%以上となる。</p> <p>6-1. 60%の2年生 (CP) 児童がプロジェクトが開発した算数テストで50%以上の点数を得る。</p> <p>6-2. 70%の4年生 (CE2) 児童がプロジェクトが開発した算数テストで50%以上の点数を得る。</p> <p>6-3. 60%の2年生 (CP) 児童がプロジェクトが開発した識字(読み書き)テストで50%以上の点数を得る。</p> <p>6-4. 70%の4年生 (CE2) 児童がプロジェクトが開発した識字(読み書き)テストで50%以上の点数を得る。</p>	<p>1. 学校運営委員会活動総括表、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、DGDES/DAGESS-MESモニタリング報告書</p> <p>2. COGES-ES連合年間活動総括表、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、DGDES/DAGESS-MESモニタリング報告書</p> <p>3. 4. 5. 学校運営委員会年間活動総括表、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、DGDE/DAGE-MEP/A/PLN/ECモニタリング報告書</p> <p>6. 進捗報告書、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書</p>	<p>初等教育・識字・国語推進・市民教育省 (MEP/A/PLN/EC)及び中等教育省 (MES)の予算が保証されている。</p> <p>経済及び治安状況が著しく悪化しない。</p>

<p><b>成果</b></p> <p>1. 前期中等学校における機能する学校運営委員会モデルが、対象州の前期中等学校及び中高併設校において普及される。</p> <p>2. 対象州の小学校において質のミニマム・パッケージが普及される。</p>	<p>1-1. プロジェクト対象地域の90%の前期中等学校及び中高併設校においてCOGES-ESが民主的に設置される。</p> <p>1-2. プロジェクト対象地域の85%の前期中等学校及び中高併設校において、学校活動計画がCOGES-ESによって策定される。</p> <p>1-3. プロジェクト対象地域の90%の県において、COGES-ES連合が民主的に設置される。</p> <p>1-4. プロジェクト対象地域の90%のCOGES-ES連合が活動計画を策定する。</p> <p>1-5. プロジェクト対象地域の90%のCOGES-ESフォーカルポイントが少なくとも年に2回モニタリング報告書を作成する。</p> <p>2-1. 90%のCGDESが質のミニマム・パッケージに基づく学校活動計画を策定する。</p> <p>2-2. プロジェクト対象地域において80%の教育指導主事及び州・県のフォーカルポイントが少なくとも年に2回、質のミニマム・パッケージ活動のモニタリング報告書を作成する。</p>	<p>1-1. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>1-2. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>1-3. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>1-4. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>1-5. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>2-1. 2-2. 2-3. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、質の教育支援プロジェクト(PAEQ)報告書、DAGE-MEP/A/PLN/ECのモニタリング報告書</p>	<p>経済及び治安状況が著しく悪化しない。</p>
---	--	---	---------------------------

活動	投入		外部条件
	日本側	ニジェール側	
<p>1-1. 前期中等学校の機能するCOGES-ESモデルの普及に係る詳細計画を策定する。</p> <p>1-2. ジェンダーや前期中等学校における分権化された学校運営を含め、ベースライン調査を実施する。</p> <p>1-3. 住民参加を通じた民主的COGES-ESの設置、学校活動計画の策定、資金管理、COGES-ES連合の設置に係る研修マニュアル及びガイドを改定する。</p> <p>1-4. 研修マニュアル等のツール及び普及計画の承認ワークショップを開催する。</p> <p>1-5. 住民参加を通じた民主的COGES-ESの設置、学校活動計画の策定、資金管理、COGES-ES連合の設置に係る研修マニュアル及びガイドに関し、講師研修を実施する。</p> <p>1-6. 住民参加を通じた民主的COGES-ES設置に係る研修を実施する。</p> <p>1-7. 学校活動計画及び資金管理に係る研修を実施する。</p> <p>1-8. COGES-ES連合設置に係る研修を実施する。</p> <p>1-9. 州、県のフォーカルポイント(本件担当者)を対象とし、COGES-ESモニタリング及び技術的助言に係るワークショップを開催する。</p> <p>1-10. COGES-ES活動のモニタリングガイドを作成する。</p> <p>1-11. 機能するCOGES-ES連合のモデル承認のためのワークショップを開催する。</p> <p>1-12. 全州の関係者を対象とし、機能するCOGES-ESモデルに係る経験共有セミナーを開催する。</p> <p>1-13. ジェンダーや前期中等学校における分権化された学校運営を含め、エンドライン調査を実施する。</p> <p>1-14. COGES-ESの定着、COGES-ESに関連した政策・戦略強化のための提言を取りまとめることを目的とし、ワークショップを開催する。</p> <p>2-1. 質のミニマム・パッケージの普及に係る詳細計画の策定、マニュアル及びガイドの改定に関し、技術的助言を行う。</p> <p>2-2. ジェンダー、CGDESによる教育の質改善のための活動、児童の学習成果を含め、ベースライン調査を実施する。</p> <p>2-3. 質の高い教育支援プロジェクト(PAEQ)の実施における手続きを促進する。</p> <p>2-4. 質のミニマム・パッケージの普及のための講師研修の実施に関し、技術的助言を行う。</p> <p>2-5. 質のミニマム・パッケージに基づく活動計画の策定に関し、CGDES代表を対象とした研修の実施において技術的助言を行う。</p> <p>2-6. 質のミニマム・パッケージの普及のため、補習活動のファシリテーター研修の実施に関し、技術的助言を行う。</p> <p>2-7. 質のミニマム・パッケージに識字(読み書き)コンポーネントを統合するためのパイロット活動として講師研修を実施する。</p> <p>2-8. 質のミニマム・パッケージに識字(読み書き)コンポーネントを統合するためのパイロット活動としてCGDES代表に対する研修を実施する。</p> <p>2-9. 質のミニマム・パッケージに識字(読み書き)コンポーネントを統合するためのパイロット活動としてファシリテーター研修を実施する。</p> <p>2-10. 統合された質のミニマム・パッケージの試行を通じて得られた成果や教訓を取りまとめるための評価調査を実施する。</p> <p>2-11. 算数と識字(読み書き)を統合した質のミニマム・パッケージの承認ワークショップを開催する。</p> <p>2-12. 対象州以外の州の代表者を含め、関係者と質のミニマム・パッケージの普及に係る経験を共有するためのワークショップや会合を開催する。</p> <p>2-13. ジェンダー、CGDESによる教育の質改善のための活動、児童の学習成果を含め、エンドライン調査を実施する。</p> <p>2-14. CGDESの定着、質のミニマム・パッケージを活用した政策・戦略強化のための提言を取りまとめることを目的とし、ワークショップを開催する。</p>	<p>1) 短期専門家： - 総括/学校運営 - 副総括/研修、計画、モニタリング - その他の分野(必要な場合)</p> <p>2) 下記の項目に係るプロジェクト実施経費の分担： i) 現地コンサルタント/NGOへの再委託費</p> <p>ii) 講師の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、前期中等学校の機能するCOGES-ESモデル普及のための講師研修に係る経費</p> <p>iii) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、前期中等学校の機能するCOGES-ESモデルの研修に係る経費</p> <p>iv) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、研修マニュアル等のツール及び普及計画の承認ワークショップに係る経費</p> <p>v) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、COGES-ESモニタリング及び技術的助言に係るワークショップの経費</p> <p>vi) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、全州の代表者を対象とした機能するCOGES-ESモデルに係る経験共有セミナーの経費</p> <p>vii) 講師の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、質のミニマム・パッケージの普及のための講師研修に係る経費</p> <p>viii) 講師の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、質のミニマム・パッケージに識字(読み書き)コンポーネントを統合するためのパイロット活動に係る研修の経費</p> <p>ix) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、質のミニマム・パッケージの普及に係る経験を共有するためのワークショップや会合に係る経費</p> <p>x) その他の経費(必要な場合)</p> <p>3) 第三国研修或いは本邦研修(必要な場合)</p>	<p>A. 初等教育・識字・国語推進・市民教育省(MEP/A/PLN/EC)</p> <p>1) プロジェクトカウンターパートの配置 2) プロジェクト事務所 3) マニュアル及びガイドの印刷、CGDESへの教材の配給等 質のミニマム・パッケージ普及に係る経費 4) CGDESのモニタリング及び評価に係る経費 5) 日本側の投入に含まれていないその他の必要な経費</p> <p>B. 中等教育省(MES)</p> <p>1) プロジェクトカウンターパートの配置 2) プロジェクト事務所 3) COGES-ESのモニタリング及び評価に係る経費 4) 日本側の投入に含まれていないその他の必要な経費</p>	<p>経済及び治安状況が著しく悪化しない。</p> <hr/> <p><b>前提条件</b></p> <p>1. 経済及び治安状況が著しく悪化しない。</p> <p>2. 質のミニマム・パッケージ普及のための予算が保証され、PAEQ/PMEの計画に従って実施される。</p>

Project Design Matrix (PDM)

Version 2

プロジェクト名称:ニジェール国みんなの学校:住民参加による教育開発プロジェクトフェーズII

実施機関:初等教育・識字・国語推進・市民教育省 (MEP/A/PLN/EC)、中等教育省 (MES)

ターゲットグループ(初等教育):児童、教員、学校運営委員会、学校長、保護者、コミュニティ、教育行政官、地方行政、初等教育・識字・国語推進・市民教育省の住民参加・学校保健・環境教育局学校分権化課及び州・県の学校運営委員会監督官

ターゲットグループ(前期中等教育):生徒、教員、学校運営委員会、学校長、保護者、コミュニティ、教育行政官、地方行政、中等教育省の学校運営支援局・学校分権化課及び州・県の学校運営委員会監督官

プロジェクト期間:4年3か月(1人目のJICA専門家が到着した日から)

ターゲットサイト(初等教育):ティラベリ州及びマラディ州

ターゲットサイト(前期中等教育):ティラベリ州、ドソ州、タウア州、マラディ州、ザンデル州、ニアメ市

ターゲットサイトの定義に関する詳細情報については、協議議事録を参照

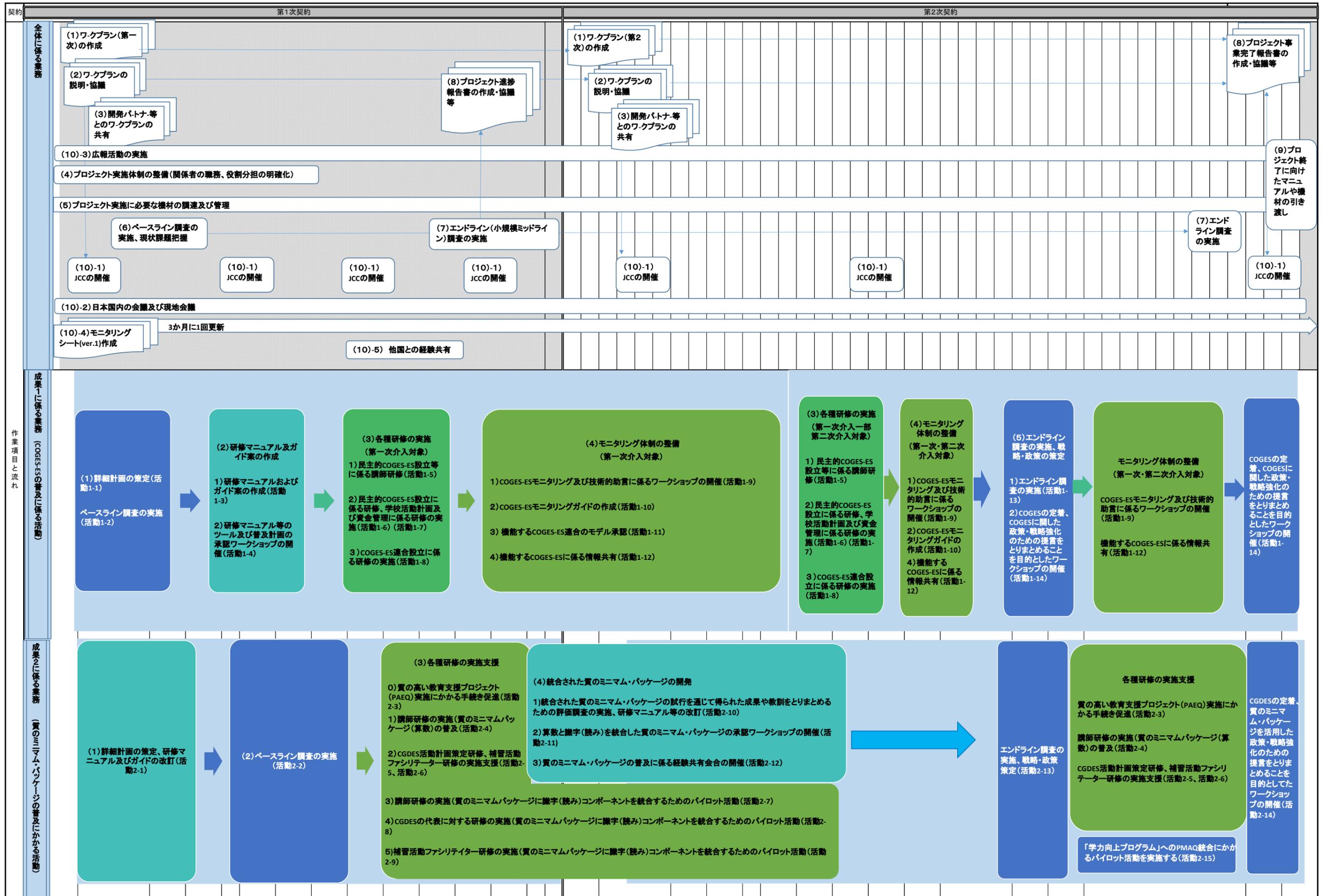
プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
<p><b>上位目標:</b> プロジェクト対象地域において、地方分権化による学校運営を通じて基礎教育のアクセスと質が向上する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>初等教育及び前期中等教育レベルの女子及び男子の教育指標(粗就学率、純就学率、留年率、退学率、修了率)が改善される。</li> <li>CM2において女子と男子の年次評価の合格率が改善される。</li> <li>PASECのような国際学力テストにおいて成績と順位が改善される。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>初等教育・識字・国語推進・市民教育省 (MEP/A/PLN/EC) と中等教育省 (MES) の統計</li> <li>PASEC</li> </ol>	
<p><b>プロジェクト目標:</b> プロジェクト対象地域において、基礎教育のアクセス及び質の改善に資する住民参加型の教育開発モデルが機能する。</p>	<p>(前期中等教育)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト対象地域の80%の前期中等学校において、学校運営委員会によって策定された学校活動計画が実施される。</li> <li>プロジェクト対象地域の80%のCOGES-ES連合が活動計画を実施する。</li> </ol> <p>(初等教育)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト対象地域の80%の小学校において、学校運営委員会によって策定された質のミニマム・パッケージに基づく活動計画が実施される。</li> <li>70%以上の学校において、補習活動が150時間以上実施される。</li> <li>70%以上の学校において、女子と男子の補習活動への出席率が80%以上となる。</li> <li>60%の2年生 (CP) 児童がプロジェクトが開発した算数テストで50%以上の点数を得る。</li> <li>70%の4年生 (CE2) 児童がプロジェクトが開発した算数テストで50%以上の点数を得る。</li> <li>60%の2年生 (CP) 児童がプロジェクトが開発した識字(読み書き)テストで50%以上の点数を得る。</li> <li>70%の4年生 (CE2) 児童がプロジェクトが開発した識字(読み書き)テストで50%以上の点数を得る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校運営委員会活動総括表、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、DGDES/DAGESS-MESモニタリング報告書</li> <li>COGES-ES連合年間活動総括表、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、DGD/ES/DAGESS-MESモニタリング報告書</li> <li>4. 5. 学校運営委員会年間活動総括表、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、DGDE/DPC/SS/EE-MEP/A/PLN/ECモニタリング報告書</li> <li>進捗報告書、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書</li> </ol>	<p>初等教育・識字・国語推進・市民教育省 (MEP/A/PLN/EC) 及び中等教育省 (MES) の予算が保証されている。</p> <p>経済及び治安状況が著しく悪化しない。</p>

<p><b>成果</b></p> <p>1. 前期中等学校における機能する学校運営委員会モデルが、対象州の前期中等学校及び中高併設校において普及される。</p> <p>2. 対象州の小学校において質のミニマム・パッケージが普及される。</p>	<p>1-1. プロジェクト対象地域の90%の前期中等学校及び中高併設校においてCOGES-ESが民主的に設置される。</p> <p>1-2. プロジェクト対象地域の85%の前期中等学校及び中高併設校において、学校活動計画がCOG ES-ESIによって策定される。</p> <p>1-3. プロジェクト対象地域の90%の県において、COGES-ES連合が民主的に設置される。</p> <p>1-4. プロジェクト対象地域の90%のCOGES-ES連合が活動計画を策定する。</p> <p>1-5. プロジェクト対象地域の90%のCOGES-ESフォーカルポイントが少なくとも年に2回モニタリング報告書を作成する。</p> <p>2-1. 90%のCGDESが質のミニマム・パッケージに基づく学校活動計画を策定する。</p> <p>2-2. プロジェクト対象地域において80%の教育指導主事及び州・県のフォーカルポイントが少なくとも年に2回、質のミニマム・パッケージ活動のモニタリング報告書を作成する。</p>	<p>1-1. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>1-2. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>1-3. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>1-4. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>1-5. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、DGDES/DAGESS-MES報告書</p> <p>2-1. 2-2. 2-3. ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、進捗報告書、質の教育支援プロジェクト(PAEQ)報告書、DGDE/DPC/SS/EE-MEP/A/PLN/ECのモニタリング報告書</p>	<p>経済及び治安状況が著しく悪化しない。</p>
---	--	---	---------------------------

活動	投入		外部条件
	日本側	ニジェール側	
<p>1-1. 前期中等学校の機能するCOGES-ESモデルの普及に係る詳細計画を策定する。</p> <p>1-2. ジェンダーや前期中等学校における分権化された学校運営を含め、ベースライン調査を実施する。</p> <p>1-3. 住民参加を通じた民主的COGES-ESの設置、学校活動計画の策定、資金管理、COGES-ES連合の設置に係る研修マニュアル及びガイドを改定する。</p> <p>1-4. 研修マニュアル等のツール及び普及計画の承認ワークショップを開催する。</p> <p>1-5. 住民参加を通じた民主的COGES-ESの設置、学校活動計画の策定、資金管理、COGES-ES連合の設置に係る研修マニュアル及びガイドに関し、講師研修を実施する。</p> <p>1-6. 住民参加を通じた民主的COGES-ES設置に係る研修を実施する。</p> <p>1-7. 学校活動計画及び資金管理に係る研修を実施する。</p> <p>1-8. COGES-ES連合設置に係る研修を実施する。</p> <p>1-9. 州、県のフォーカルポイント(本件担当者)を対象とし、COGES-ESモニタリング及び技術的助言に係るワークショップを開催する。</p> <p>1-10. COGES-ES活動のモニタリングガイドを作成する。</p> <p>1-11. 機能するCOGES-ES連合のモデル承認のためのワークショップを開催する。</p> <p>1-12. 全州の関係者を対象とし、機能するCOGES-ESモデルに係る経験共有セミナーを開催する。</p> <p>1-13. ジェンダーや前期中等学校における分権化された学校運営を含め、エンドライン調査を実施する。</p> <p>1-14. COGES-ESの定着、COGES-ESIに関連した政策・戦略強化のための提言を取りまとめることを目的とし、ワークショップを開催する。</p> <p>1-15. 前期中等学校における女子生徒の就学促進のための州教育フォーラムを開催する。</p> <p>2-1. 質のミニマム・パッケージの普及に係る詳細計画の策定、マニュアル及びガイドの改定に関し、技術的助言を行う。</p> <p>2-2. ジェンダー、CGDESIによる教育の質改善のための活動、児童の学習成果を含め、ベースライン調査を実施する。</p> <p>2-3. 質の高い教育支援プロジェクト(PAEQ)の実施における手続きを促進する。</p> <p>2-4. 質のミニマム・パッケージの普及のための講師研修の実施に関し、技術的助言を行う。</p> <p>2-5. 質のミニマム・パッケージに基づく活動計画の策定に関し、CGDES代表を対象とした研修の実施において技術的助言を行う。</p> <p>2-6. 質のミニマム・パッケージの普及のため、補習活動のファシリテーター研修の実施に関し、技術的助言を行う。</p> <p>2-7. 質のミニマム・パッケージに識字(読み書き)コンポーネントを統合するためのパイロット活動として講師研修を実施する。</p> <p>2-8. 質のミニマム・パッケージに識字(読み書き)コンポーネントを統合するためのパイロット活動としてCGDES代表に対する研修を実施する。</p> <p>2-9. 質のミニマム・パッケージに識字(読み書き)コンポーネントを統合するためのパイロット活動としてファシリテーター研修を実施する。</p> <p>2-10. 統合された質のミニマム・パッケージの試行を通じて得られた成果や教訓を取りまとめるための評価調査を実施する。</p> <p>2-11. 算数と識字(読み書き)を統合した質のミニマム・パッケージの承認ワークショップを開催する。</p> <p>2-12. 対象州以外の州の代表者を含め、関係者と質のミニマム・パッケージの普及に係る経験を共有するためのワークショップや会合を開催する。</p> <p>2-13. ジェンダー、CGDESIによる教育の質改善のための活動、児童の学習成果を含め、エンドライン調査を実施する。</p> <p>2-14. CGDESの定着、質のミニマム・パッケージを活用した政策・戦略強化のための提言を取りまとめることを目的とし、ワークショップを開催する。</p> <p>2-15. 質のミニマム・パッケージを正規授業における基礎学力向上プログラムに統合するためのパイロット活動(講師研修、パイロット校レベルでのファシリテーター研修、モニタリング活動等)を実施する。</p>	<p>1) 短期専門家： - 総括/学校運営 - 副総括/研修、計画、モニタリング - その他の分野(必要な場合)</p> <p>2) 下記の項目に係るプロジェクト実施経費の分担： i) 現地コンサルタント/NGOへの再委託費</p> <p>ii) 講師の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、前期中等学校の機能するCOGES-ESモデル普及のための講師研修に係る経費</p> <p>iii) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、前期中等学校の機能するCOGES-ESモデルの研修に係る経費</p> <p>iv) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、研修マニュアル等のツール及び普及計画の承認ワークショップに係る経費</p> <p>v) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、COGES-ESモニタリング及び技術的助言に係るワークショップの経費</p> <p>vi) 参加者の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、全州の代表者を対象とした機能するCOGES-ESモデルに係る経験共有セミナーの経費</p> <p>vii) 講師の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、質のミニマム・パッケージの普及のための講師研修に係る経費</p> <p>viii) 講師の日当、宿泊費(必要な場合)、交通費を含む、質のミニマム・パッケージに識字(読み書き)コンポーネントを統合するためのパイロット活動に係る研修の経費</p> <p>3) 第三国研修或いは本邦研修(必要な場合)</p>	<p>A. 初等教育・識字・国語推進・市民教育省(MEP/A/PLN/EC)</p> <p>1) プロジェクトカウンターパートの配置 2) プロジェクト事務所 3) マニュアル及びガイドの印刷、CGDESへの教材の配給等、質のミニマム・パッケージ普及に係る経費 4) CGDESのモニタリング及び評価に係る経費 5) 日本側の投入に含まれていないその他の必要な経費</p> <p>B. 中等教育省(MES)</p> <p>1) プロジェクトカウンターパートの配置 2) プロジェクト事務所 3) COGES-ESのモニタリング及び評価に係る経費 4) 日本側の投入に含まれていないその他の必要な経費</p>	<p>経済及び治安状況が著しく悪化しない。</p> <p><b>前提条件</b></p> <p>1. 経済及び治安状況が著しく悪化しない。</p> <p>2. 質のミニマム・パッケージ普及のための予算が保証され、PAEQ/PMEの計画に従って実施される。</p>

## ② 業務フローチャート

業務実施のフローチャート



### ③ 詳細活動計画













## ④ 専門家派遣実績





## ⑤ 機材調達実績



## ⑥ 合同調整委員会議事録

みんなの学校プロジェクトフェーズ2  
第1回合同調整委員会（初等会合）議事録

2017年1月21日開催

2017年1月21日（土）、ニアメのアフリカホールにて「みんなの学校プロジェクト第2フェーズ」第1回合同調整委員会が開催された。初等教育分野の本会合においては、初等教育省事務次官、JICA支所長をはじめ、就学総局長、計画局長、PAEQ調整部長、プロジェクト総括、CGDESの要員3名、プロジェクト専門家が集結した。

委員会は、JICA支所長および初等教育省事務次官の挨拶で開始した。

JICA支所長の挨拶では、14年以上におよぶGDEにかかる日本-ニジェール間の協力を強調するとともに、教育の質向上のために初等教育省に対し様々な支援を継続するというJICAのコミットメントを再確認した。

事務次官は、開会を宣言した後、参加者、特に本フェーズのためにニジェールに戻ってきた原総括・影山総括を熱烈に歓迎し、日本-ニジェール協力への感謝と鼓舞を表明した。ニジェールの児童の特に読み書き・算数におけるパフォーマンスの低さを取り上げた：2014年のPASECの結果によるとニジェール児童の80%以上がフランス語において十分なレベルに達しておらず、算数は60-70%の児童が困難に直面している。PMAQという成果が確かなモデルの試行を通じて、かかる状況への適切な対応策を模索するJICAの努力にも言及し、ニジェール教育の関係者ならびにパートナーの熱い思いを呼びさました。これに関連し、PMAQのティラベリ州3500校への普及においてPAEQが支援をコミットしていることを称えた。本普及にかかる活動は既に開始され、各レベルにおいて関係者研修も実施されている。

事務次官は、今回の「みんなの学校フェーズ2」第1回合同調整委員会の議事次第を述べた後、本フェーズの全関係者、特にティラベリ州でのプロジェクト実施に関わる全学校関係者の責務を喚起した。

続いて司会者がプロジェクトの概要を説明し、今後6か月の計画を述べ、CGDESコーディネーターがプロジェクトの変遷をたどるビデオを見せた後、以下のポイントについて発表した。

- プロジェクトの中等・初等の2つのコンポーネント、PDM詳細ならびに初等における2大活動方針（1.PMAQ算数の拡大・普及および2.PMAQ読み書きモデルのパイロット試行）、プロジェクト実施関係機関の地方分権化まで含めたフローチャート、活動計画に含まれる主な14の活動

- JICA ならびにニジェール政府に期待される貢献、C/P として求められる役割

2 つ目のプレゼンテーションは CGDES の DES によって 2017 年 1 月から 6 月までの活動（方針 1 にかかる 4 つの活動、方針 2 にかかる 5 つの活動の合計 9 活動）が発表された。同発表の後、事務次官により意見交換の場が設けられた。主な内容は以下のとおり。

- PMAQ（算数）拡大・普及の活動のための PAEQ によるコミットメントの確認
- プロジェクト予算（290 百万 Fcfa 以上）
- ベースライン調査の想定実施内容
- ティラベリ州教育事務所長による同州 PMAQ 試行の進捗状況

その他、事務次官および CGDES コーディネーターから前期に行われた本邦での研修の報告があった。また、CGDES コーディネーターより州・県 COGES 監督官のモニタリング用バイク整備のための予算要求（見返り資金）にかかる良好な結果が共有された。

原総括からは、PMAQ 等の学習支援活動については JICA 本部からも支持・支援がある可能性が伝えられた。最後に、事務次官が本プロジェクトフェーズ 2 ならびに PMAQ の成功を祈念し、閉会を宣言した。

#### 書記

- アリ・ンジャイ・イブラヒム
- アブドゥ・ヤハヤ

みんなの学校プロジェクトフェーズ2  
第1回合同調整委員会（中等会合）議事録

2017年1月21日開催

教育の発展は中等教育省の主目的であり、これにかかり、JICA 支援のもと、JICA、初等教育省ならびに中等教育省は、みんなの学校プロジェクトの新フェーズ実施に合意し、2017年1月21日アフリカホールにおいて同新フェーズの中等におけるキックオフセレモニーを開催した。

## 1. プロジェクトの開始

プロジェクトの正式なキックオフは中等教育省大臣によって取り仕切られ、JICA ニジェール支所長、中等教育省事務次官、内閣府局長、プロジェクト総括が出席し、初等教育省の事務次官補も立ち会いのもと、中等教育省の中央・地方の責任者が一同に会した。

大臣のスピーチにおいては、中等教育へのコミュニティー巻き込みにおける中等教育省関係者のコミットメントを強調しつつ、日本-ニジェール協力のはかり知れない努力を称えた。

JICA ニジェール支所長は、ニジェールの初等学校運営委員会がマリ、ブルキナファソ、マダガスカルなどニジェール近隣国における教育システム発展に影響したことをあげ、これらの国の教育関係者の高い意識を呼びさますであろう中等 COGES-ES の重要性について述べた。最後に、住民参加による教育開発の枠組みにおいて日本は今後もニジェールを支援していくことを再度表明した。

プロジェクトのキックオフセレモニーに引き続き、第1回合同調整委員会が中等教育省事務次官が議長を務め開催された。同会合は、事務次官、計画局長、COGES 調整部コーディネーター、COGES 調整部要員、地方8州の教育事務所長で構成され、プロジェクト概要とともに今後6か月の活動計画が発表された。

## 2. プレゼンテーション

プロジェクトの発表の序章として、ニジェールの COGES のイメージを得られるビデオ鑑賞があった。本編では、女子就学、貧困、教員給与の遅配、コミュニティーの巻き込み、COGES 設立、その機能化、コミュニティーの有志による活動（藁葺教室の建設、机イスの購入、教員への住居・食料提供、補助教材の購入）などが説明された。

#### a) プロジェクト概要

「みんなの学校」と称される「住民参加による教育開発プロジェクトフェーズ 2」は 2016 年 12 月 24 日に開始し、3 年 4 か月の活動をもって 2020 年 4 月に終了する。初等ティラベリ州、中等はドツソ州、マラディ州、ニアメ州、タウア州、ティラベリ州、ザンデール州を対象とする。

#### b) PDM

プロジェクトの目標、上位目標が発表された後、以下の活動計画が発表された。

- 1、2 年目：ドツソ州、ニアメ州、マラディ州、タウア州
- 3 年目：ザンデール州、ティラベリ州
- 4 年目：COGES-ES モニタリングシステムの構築

#### c) プロジェクトの実施機関の構成

本プロジェクトでは異なるレベルでの活動実施において、日本人専門家チーム、初等教育省、中等教育省の 3 者が中心となる。

#### d) プロジェクトの活動

中等において予定されている活動は 14 項目であり、3 年 4 か月の予定である。

#### e) 各実施機関による貢献

活動実施中、中等教育省ならびに EPT/JICA はそれぞれ費用分担を行う。プロジェクトは、対象 6 州における研修開催にかかる参加者日当宿泊費、交通費、COGES-ES/FDC 普及ワークショップ等の費用等、また中等教育省は、カウンターパート要員配置、プロジェクト事務所、COGES-ES モニタリング評価費用を負担する。

#### f) 支払規定

本プロジェクトにおいて適用する日当宿泊等の規定は、JICA、中等教育省、初等教育省により署名されており、同規定内容について大まかに参加者に説明され、理解された。

### 3. 活動計画

活動計画の概要、特に 2 つの活動方針と直近 6 か月の活動予定が発表された。

- 活動方針 1：機能する COGES-ES モデルの普及
- 活動方針 2：機能する COGES-ES のモニタリングシステム構築

予定されている主な 4 つの活動：

- 機能する COGES-ES モデル普及の活動詳細計画策定

- ベースライン調査の実施
- 研修マニュアル・ガイドの改訂
- ツール承認ワークショップの開催

#### 4. 意見交換

プレゼンテーションの後、発表内容のみならずプロジェクト実施にかかる様々な内容、初等レベルでの機能する COGES 設置における成功・失敗、COGES-ES への巻き込みにかかる保護者の啓発などについて意見交換がなされた。

また参加者により本プロジェクトの活動に高校が含まれないことについて討議されたが、これについては、事務次官及び COGES 調整部コーディネーターによると省庁の負担となるとのことである。

アガデス州・ディファ州はプロジェクトの対象地域ではなく、PAEQ の枠組みにおいて実施される。

委員会は 13 時 44 分に閉会した。第 2 回合同調整委員会は 2017 年に開催予定。

書記

ファティマ バヨロ COGES 調整部要員  
アユバ・ブラー アガデス州教育事務所長

みんなの学校プロジェクトフェーズ2  
第2回合同調整委員会（初等会合）議事録

2017年9月5日開催

2017年9月5日、アフリカホールにて「みんなの学校プロジェクト第2フェーズ」第2回合同調整委員会が、2016年9月24日のJICA-初等教育省のRD合意に従って開催された。

合同調整委員会はみんなの学校プロジェクトフェーズ2の調整と方針決定の機関であり、これまで実施された活動及び次期活動の確認を行った。

議事次第は次のとおり：

- 最初の6か月の活動進捗状況と結果の発表。
- 学校分権化発展にかかり開催された国内・国外ワークショップの結果の発表。
- PDMの初等教育に関連する「プロジェクト目標・成果」にかかる指標の提案および承認。
- 次期6か月間の活動案の発表と承認。

参加者の自己紹介後、JICA ニジェール支所長からの挨拶では、ニジェールとニジェールの発展に寄与する日本が良好な関係にあることが語られた。初等教育省事務次官が、開会の挨拶を行った。

## 1. 最初の6ヶ月間の活動の進捗状況および結果の発表

プロジェクトの活動は2つの軸に分かれている。

活動方針1：質のミニマム・パッケージ（PMAQ）普及支援

活動方針2：質のミニマム・パッケージ（PMAQ）統合型モデル（算数・読み書き）の開発

### 1.1. 活動方針1において計画ならびに実施された活動

- PMAQ 普及の詳細計画の策定およびマニュアルとガイドの作成/改訂のための技術支援
- 小学校レベルでのさまざまな側面の状況に関する基礎調査実施
- PAEQによる学校分権化関連活動の円滑な実施手続にかかる技術的支援

### 1.2. 活動方針1において計画されたが実施されなかった活動

- （PAEQ支援による）PMAQ 普及のための追加的質の改善活動にかかる講師とファシリテーターの研修実施のための技術支援

本活動は、次の理由により実施されなかった：PMAQ関連のPAEQによる活動は、PMAQ算数ドリルNo.2の調達プロセスの遅延により2017/2018年度に延期されたため。

### 1.3. 活動方針 2 において計画ならびに実施された活動

- PMAQ における「読み書き」統合のためのパイロット活動として講師研修実施
- PMAQ における「読み書き」統合のためのパイロット活動として CGDES 代表研修実施
- PMAQ における「読み書き」統合のためのパイロット活動としてファシリテーター研修実施
- PMAQ 統合モデルの試行結果の評価ミッションを実施

### 1.4. 活動方針 2 において計画されたが実施されなかった活動

PMAQ 統合モデル試行と PMAQ 算数普及の進捗状況を評価するための中間調査実施：同活動は、ティラベリ州での PMAQ 算数普及の実施遅延により、2017/2018 年初めに延期。

## 2. GDE の開発の枠組みの中で開催された国内外のワークショップの結果の発表と評価

これらのワークショップに参加したチームメンバーによって結果が発表された。

- 2017 年 8 月 8～9 日にドツツで開催された CGDES 活動モニタリングナショナルセミナー（ANASAC）
- 2017 年 7 月 17～22 日にインドのデリーで開催された児童の学力改善のための「JICA-NGO プラサム連携」経験共有ワークショップ

### 2.1. ANASAC の結果は次のとおり：

ANASAC へは、初等教育省の中央・地方の局長レベル、学校地方分権化運営に係る関係者、CGDES 監督官、FCC 代表、コミュニティ代表（市長）、その他招待者の出席があった。

テーマ：学校補助金（直接）の用途は？

以下について意見交換・ディスカッションが行われた。

- CGDES と FCC の活動の 2016/2017 年度総括の発表。
- 特に補助金に係る経験とイノベーションの共有。
- 補助金（SAE）の有効活用のための戦略策定。
- CGDES と FCC の活性化のための戦略策定。

結果は全参加者によって非常に好意的に評価され、例として、全国の CGDES が総額 2,515,778,700Fcfa を動員（CGDES あたり平均 166,700Fcfa）したことが挙げられた。また、FCC においては、116,857,150Fcfa が動員された。その内訳は、CGDES による拠出金が 63.89%、コミュニティ（自治体）：20.17%、技術・財政支援パートナー：16.47%となっている。

学校への直接補助金については、児童の学習の質改善にかかる校外学習活動を 250 時間以上行った CGDES の例が発表された。

参加者は、ワークショップの作業を通じて、補助金の有効活用、CGDES・FCC の再活性化のための戦略を策定することができた。

## 2.2. 「JICA-NGO プラサム連携」経験共有ワークショップ

本ワークショップでは主に 2 つの活動が行われた：1 つ目が、学習改善活動の状況における児童の観察であり、2 つ目は意見交換と経験共有である。

それぞれの活動のアプローチ、ツール、およびテクニックに焦点を合わせ意見交換され、二つのアプローチの間の類似点と相違点が明らかになった。

	プラサムアプローチ	EPT/JICA アプローチ
コンセプト	<b>Learning Camp</b> :習熟度別教授法	<b>質のミニマム・パッケージ (PMAQ)</b> : (導入時の) 学力テストで評価したレベルから開始する学習改善
類似点	目標：児童の学習改善	目標：児童の学習改善
	学力テストによる開始	学力テストによる開始
	ファシリテーターによる活動 (学習支援) (プラサム講師、コミュニティボランティア)	ファシリテーターによる活動 (学習支援)
	学校・村落での活動	学校・村落での活動
	ツール：音節表、数字表	ツール：ドリル
	校正・添削アプローチ	校正・添削アプローチ
	校正・添削アプローチ	校正・添削およびミス予防アプローチ
差異	対象：3 年生 (CE) 以上	対象：全学年:1 年生～6 年生 (CI～CM2)
	様々な学習ツールを使用したセッション	ドリルを使ったセッション
	学校アドミニ関係者は不関与	学校アドミニ関係者の強い関与
	コミュニティの弱い関与	コミュニティの強い関与
	活動への教員の弱い関与	活動への教員の強い関与
	ファシリテーターへの謝礼等有 (プラサムインストラクター)	有志 (金銭的謝礼なし)
	活動実施にはファシリテーターの高い能力が必要	ファシリテーターに高い能力は不要
	正規授業時間での活動	正規授業時間外での活動
	短期間 (40 日間)	平均 5 か月

統合された PMAQ モデルの改善のため、プラサムのアプローチを試行し、特にレベルテスト技術、学習改善活動の実施や期間等のいくつかの良いポイントを取り入れることが推奨された。

### 3. 初等教育の PDM に関連する「プロジェクト目標および成果」にかかる指標の提案および承認

上位目標：

プロジェクト対象地域において、地方分権化による学校運営を通じて基礎教育のアクセスと質が向上する。

プロジェクト目標：

プロジェクト対象地域において、基礎教育のアクセス及び質の改善に資する住民参加型の教育開発モデルが機能する。

提案指標：

- プロジェクト対象地域の 80%の小学校において、学校運営委員会によって策定された質のミニマム・パッケージに基づく活動計画が実施される。
- 70%以上の学校において、補習活動が 150 時間以上実施される。
- 70%以上の学校において、女子と男子の補習活動への出席率が 80%以上となる。
- 60%の2年生（CP）児童がプロジェクトが開発した算数テストで50%以上の点数を得る。
- 70%の4年生（CE2）児童がプロジェクトが開発した算数テストで50%以上の点数を得る。
- 60%の2年生（CP）児童がプロジェクトが開発した識字（読み書き）テストで50%以上の点数を得る。
- 70%の4年生（CE2）児童がプロジェクトが開発した識字（読み書き）テストで50%以上の点数を得る。

成果2：初等教育

対象州の小学校において質のミニマム・パッケージが普及される。

提案指標：

- 90%のCGDESが質のミニマム・パッケージに基づく学校活動計画を策定する。
- プロジェクト対象地域において80%の教育指導主事及び州・県監督官が少なくとも年に2回、質のミニマム・パッケージ活動のモニタリング報告書を作成する。

これらの指標を合同調整委員会は承認した。

### 4. 今後6ヶ月の活動の発表と承認

活動方針1：PMAQ 普及支援

- PMAQ マニュアルおよびガイドの改訂にかかる技術支援：2017年9月～12月
- 小学校レベルのさまざまな側面の状況に関する中期調査（質問票と学力テスト）実施：10月下旬～11月初旬
- PAEQによるGDE関連活動の円滑な実施手続にかかる技術的支援：2017年9月～2018年2月
- PMAQ普及にかかる講師の再研修実施とFCC連合総会を通じたCGDESへの共有のための技術支援：2017年9月18～19日
- PAEQの計画に基づいたPMAQ普及のための追加的質の改善活動にかかるファシリテーター講師の研修実施のための技術支援

#### 活動方針2：質のミニマム・パッケージPMAQ統合型モデル（算数・読み書き）の開発

- PMAQモデルの普及にかかる関係者能力強化（CGDES監督官研修）を合わせた経験共有セミナーの開催：9月26日（ワークショップ）、27～28日（研修）
- PMAQ統合モデルを改善する革新的なアプローチ（Learning Camp）の試行と評価ならびにツールの改訂：2017年10月～11月
- PMAQ（算数・読み書き）統合モデルのパイロット試行活動としての講師研修：2017年11月
- PMAQ（算数・読み書き）統合モデルのパイロット試行活動としてのCGDES代表研修：2017年11月
- PMAQ（算数・読み書き）統合モデルのパイロット試行活動としてのファシリテーター研修：2017年12月

#### その他に計画された活動：

- CGDES監督官へのバイク供与を通じたCGDES活動のモニタリング体制強化の支援：2017年9月26日
- マダガスカルにおける住民参加による教育開発の枠組みにおける地域経験共有セミナー：2018年2月末

#### 提言

今後のモデル普及へ向けPMAQ活動普及の成果やインパクトを適切に測定して立証するには以下が不可欠である：

- 一貫したデータ収集の計画と準備
- 評価に必要な情報および収集経路にかかるすべての関係者への情報共有

- 信頼できるデータを収集するために、中央レベルから学校レベルまでのすべての関係者の強いコミットメント

議事次第の全項目を終え、事務次官が本会合を閉会した。

書記：

- ジボ・ムムニ BIRE/EPT
- マハマドゥ・イブラヒム・サンディ DGDE/DAGE

みんなの学校プロジェクトフェーズ2  
第2回合同調整委員会（中等会合）議事録

2017年9月11日開催

日時：2017年9月11日

場所：アフリカホール（ニアメ）

参加者：

<議長> 中等教育省事務次官

<メンバー> 計画局長（DEP）、中等学校運営支援局長（DAGESS）、中等学校分権化課メンバー（DGDES）、全8州中等教育事務所長、JICA ニジェール支所、EPT プロジェクト専門家

<招待> 初等学校運営支援局代表者

「みんなの学校プロジェクトフェーズ2」第2回合同調整委員会・中等分野会合が、2017年9月11日（月）アフリカホールにて開催された。開催の目的は以下のとおり：

1. プロジェクトの最初の6か月の活動の進捗状況と結果を評価する
2. COGES-ES モデル普及に枠組みにおける研修計画および改定モジュールの承認ワークショップの結果を評価する。
3. 中等教育にかかるプロジェクト PDM の「プロジェクト目標」と「成果」指標の提案を検討し、承認する。
4. 次期の活動計画を承認する。

DAGESS 局長からの歓迎の挨拶、DGDES 課長より議事次第の発表の後、JICA ニジェール支所長がスピーチを行った。ニジェール支所長は、前フェーズで実施したニアメ・ドッソ州での COGES-ES/FDC のモデル開発の試行による成果をあげると共に、これまでのプロジェクトの成果により、近隣アフリカ諸国関係者が学校分権化運営を取り入れるためにニジェールを訪問していること、また中等教育においてもニジェールがパイオニアであることに言及した。また、住民参加による教育開発の枠組みにおいて日本は今後もニジェールを支援していくことを再度表明した。

中等教育省事務次官は最初に、6 か月ごとに開催されるこの会議の性質について言及した。事務次官は COGES-ES に対する明白な関心を述べ、それは機能的 COGES/ES モデルの普及に関する講師研修のキックオフセミナーにおける大臣のスピーチでも証明された。また、ドッソ州での省庁職員の年次会合における、学校管理への COGES の貢献に関する DAGESS からの重要なコミュニケーションによっても証明されている。事務次官は JICA と日本政府に対し、このプロジェクトを通じて提供されたすべての支援に対して感謝の意を表した。また、ニジェールのすべての中学校への COGES-ES 普及を成功させるために、この新しいプロジェクトに対する JICA の支援継続

への期待を述べた。さらに出席者へは、プロジェクトのこの段階で達成された結果を分析し、意思決定のための有用な推奨事項を策定するように求めた。

## 1. プロジェクトの最初の 6 か月の活動進捗状況と結果の発表と評価

2017 年 1 月から 8 月までのプロジェクトの活動総括が、DGDES 課長によって発表された。プロジェクト PDM の成果 1「前期中等学校における機能する学校運営委員会モデルが、対象州の前期中等学校及び中高併設校において普及される」においては、同 6 か月の間に 4 つの活動が計画され実施された：

- 前期中等学校の機能する COGES-ES モデルの普及に係る詳細計画を策定する：詳細計画は 2017 年 6 月 1 日に承認された。
- ジェンダーや前期中等学校における分権化された学校運営を含め、ベースライン調査を実施する：中央・地方（州・県）及び学校（6 州 30 校）関係者を対象に実施、今月最終報告が共有される予定。
- 住民参加を通じた民主的 COGES-ES の設置、学校活動計画の策定、資金管理、COGES-ES 連合の設置に係る研修マニュアル及びガイドを改定する：研修マニュアルの改訂および承認のワークショップは 8 月に開催され承認された。今月最終化。
- 研修マニュアル等のツール及び普及計画の承認ワークショップを開催する：ワークショップは 2017 年 6 月 1 日に開催され、承認された。

## 2. 2017 年 6 月 1 日に開催された COGES-ES 普及にかかる研修マニュアル等のツール及び普及計画の承認ワークショップの成果発表

機能する COGES-ES 普及にかかる研修マニュアル等のツール及び普及計画の承認ワークショップの成果がティラベリ州中等教育事務所長より発表された。発表後、参加者は以下の点について意見交換を行った：

- 背景と目的
- みんなの学校プロジェクトフェーズ 2 の概要
- 普及のためのロードマップ
- 研修計画
- 地方におけるデータ収集の進捗状況
- モジュールの改訂

また、以下にかかる状況についても言及した。

- 1998 年 6 月 1 日のニジェール教育制度（LOSEN）のオリエンテーションに関する法律 98-

- 教育セクタープログラム (PSEF 2014-2024)
- 教育システムのパフォーマンス向上プログラムにおける中等教育省のコミットメント
- 2015-2016 年に JICA 支援により実施されたドッソ・ニアメ州の 83 校における機能する COGES モデル試行と承認
- 「住民参加による教育開発プロジェクトフェーズ 2 (EPT/JICA フェーズ 2)」 (2016 年 12 月 - 2020 年 4 月) の開始

みんなの学校プロジェクトフェーズ 2 の発表：

2016 年 12 月 24 日～2020 年 4 月末 (3 年 4 ヶ月) を予定している本プロジェクトは、中等および初等への介入であり、中等教育は 6 州 (ドッソ、マラディ、ニアメ、タウア、ティラベリ、ザンデル) を対象とする。

中等教育は以下 2 つを活動方針とする。

- 活動方針 1：機能する COGES-ES モデルの普及
- 活動方針 2：機能する COGES-ES のモニタリングシステム構築

以下の 7 つの主な活動が想定されている。

- ・ 研修マニュアル等のツール及び普及計画の承認ワークショップ
- ・ 講師研修
- ・ 学校長/教員対象の COGES-ES 設置研修
- ・ 学校活動計画、資金管理、COGES-ES 連合設置に係る研修
- ・ COGES-ES 連合のモデル承認ワークショップ
- ・ COGES-ES モニタリングにかかる COGES 監督官会議
- ・ 機能する COGES-ES モデルにかかる経験共有セミナー

普及計画 (2017/2018 年対象 4 州：ドッソ、マラディ、タウア、ニアメ) は承認され、8 月に実施が開始されている。

ワークショップにおける提言：

#### 1) COGES-ES 設置の普及

- ・ 中等教育省に対して：
  - COGES-ES 機能モデルの普及過程のスケジュールを遵守するために必要な準備をする。
  - 高校レベルで機能的 COGES-ES モデル普及を確実にする。
  - 機能する COGES-ES モデルの普及過程の長期的な成功を保証するため、学校長の安定的な配置と勤務を保証する。
- ・ EPT に対して：

- COGES-ES 機能モデルの普及プロセスの実施において中等教育省を支援する。
  - DRES、DDES および IESFA に対して：
    - 機能する COGES-ES モデルの普及プロセスが各地で効果的に実施されるよう監督する。
    - ワークショップの結果を関係者に共有し伝える。
  - 学校現場レベル関係者（学校長、教師、親、生徒）に対して：
    - COGES-ES モデルの普及プロセスに効果的かつ積極的に参加する。
- 2) COGES-ES モニタリングシステムの構築
- MES に対して：
    - DAGESS や州・県 COGES 監督官のモニタリングに必要な手段を確保し、モニタリングシステムの機能を保証する。
  - DRES、DDES、および IESFA に対して：
    - 州・県 COGES 監督官を定期巡回に参加させる。
    - 学校訪問時に必ず COGES 活動モニタリングを含める。
  - 中等教育省とパートナーに対して：
    - COGES-ES 活動の効果的なモニタリングのための州・県 COGES 監督官の移動手段（バイク）確保を支援する。
    - GDE 政策発展にかかる活動の効率化のためのロジ手段の確保により DAGESS を支援する。
- 3) 教育の質改善にかかる COGES-ES 活動
- 学校アドミニ関係者に対して：
    - 学習の質の改善に寄与する COGES 活動の実施に関与（監督）する。
  - 学校長と教員に対して、
    - すべての COGES 活動、特に教育の質改善にかかる活動を調整し、監督する。
    - COGES 設置および COGES 活動の実施プロセスに学生を関与させる。

**3. 中等教育の PDM に関連する「プロジェクト目標および成果」にかかる指標の提案および承認**  
 みんなの学校プロジェクトフェーズ 2 の PDM におけるプロジェクト目標及び成果 1 「前期中等学校における機能する学校運営委員会モデルが、対象州の前期中等学校及び中高併設校において普及される」にかかる指標の提案が、DGDES 課長により次のとおり参加者に発表された。

<成果 1 にかかる指標>

1-1. プロジェクト対象地域の 90% の前期中等学校及び中高併設校において COGES-ES が民主的に設置される。

1-2. プロジェクト対象地域の 85%の前期中等学校及び中高併設校において、学校活動計画が COGES-ES によって策定される。

1-3. プロジェクト対象地域の 90%の県において、COGES-ES 連合が民主的に設置される。

1-4. プロジェクト対象地域の 90%の COGES-ES 連合が活動計画を策定する。

1-5. プロジェクト対象地域の 90%の COGES-ES フォーカルポイントが少なくとも年に 2 回モニタリング報告書を作成する。

これらの指標は以下によって確認する：

- ・ ベースライン調査及びエンドライン調査報告書
- ・ 進捗報告書
- ・ 中等教育省報告書

<プロジェクト目標にかかる指標>

1. プロジェクト対象地域の 80%の前期中等学校において、学校運営委員会によって策定された学校活動計画が実施される。

- ・ 学校運営委員会活動総括表、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、モニタリング報告書によって確認する。

2. プロジェクト対象地域の 80%の COGES-ES 連合が活動計画を実施する。

- ・ COGES-ES 連合年間活動総括表、ベースライン調査及びエンドライン調査報告書、モニタリング報告書によって確認する。

質疑の後、これら様々な指標が合同調整委員会によって承認され、また、これら指標測定の実条件も確認された。

機能する COGES-ES モデルの普及とプロジェクトの結果を測定し検証するためには、以下が不可欠である。

- データ収集を事前に慎重に計画し準備する。
- 評価に必要な情報および収集経路にかかるすべての関係者へ情報を共有する
- 信頼できるデータを収集するために、中央レベルから学校レベルまでのすべての関係者の強いコミットメントを得る。

(本会合に参加の) 中央・地方レベルの責任者は、そのプロセスに関わる強いコミットメント表明した。

#### 4. 来期の活動予定の発表と承認

本プロジェクトの2017年9月～2018年2月の予定がDGDES課長より以下のとおり発表された。

活動方針1：機能するCOGES-ESモデルの普及にかかる4つの活動

- 住民参加による民主的COGES-ESの設置、学校活動計画の策定、資金管理、COGES-ES連合の設置に係る研修マニュアル及びガイドに関し、講師研修を実施する。
- 対象4州（ニアメ、ドッソ、マラディ、タウア）においてCOGES-ES設置にかかる研修を学校長・教員対象に実施する。
- 学校活動計画及び資金管理に係る研修を実施する。
- COGES-ES連合設置に係る研修を実施する。

活動方針2：機能するCOGES-ESのモニタリングシステム構築にかかる2つの活動

- 対象4州において州・県COGES監督官（本件担当者）を対象とし、COGES-ESモニタリング会合を開催する。
- COGES-ESモニタリングガイドを策定する。

#### 5. 閉会

事務次官は、日本の協力と、これらの継続を強固にするために尽力する全関係者に感謝の意を表した。また、ニジェールの学校発展のための日本の継続的な支援への期待を述べ、閉会した。

報告者：

ママドゥ・ハミドゥ：ニアメ市教育事務所長補

ガルバ・インサ：課長 CGDES/DAGESS

みんなの学校プロジェクトフェーズ2  
第3回合同調整委員会（初等会合）議事録

2018年7月18日開催

2016年9月24日に署名された JICA と初等教育・識字・国語推進・市民教育省間の議事録の定めに従い、2018年7月18日に GMK 会場にて、みんなの学校プロジェクトフェーズ2の合同調整委員会が開催された。

参加メンバーは別添リストの通り。

当会合は質推進標準化総局長の議事進行にて進められた。

合同調整委員会は JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2の活動調整と運営・管理にかかり6か月毎に実施するものである。そこでは、実施した活動の評価と今後半年の計画活動の承認を行う。

今回の会合議事次第として定められたのは以下の点

- ・ 2018年7月13日開催の経験共有セミナー総括発表
- ・ 2017年9月から2018年7月に実施した活動進捗と結果の発表
- ・ 今後6か月の活動計画の発表と承認

なお、今回の会合には JICA 本部より、プロジェクト活動のモニタリングにかかりニジェールに滞在している2名の調査団の参加を得た。

### 1. 2018年7月13日の経験共有セミナー総括発表

2018年7月13日ニアメにて経験共有セミナーを開催した。セミナーの参加者は、SG、大統領府教育分野技術顧問、首相府教育分野技術顧問、国会教育分野技術顧問、初等教育省技術顧問、視学官総長、就学総局長、質推進・標準化総局長、中央局長、学校分権化課、8州の州教育事務所長、8州の州 CGDES 監督官、JICA みんなの学校プロジェクト専門家、ドナー関係者。

テーマ：住民参加による教育開発のための質のミニマム・パッケージモデルの経験共有

主な討議内容：

- 2017/2018年 CGDES と連合の活動年間総括結果発表
- PAEQ 活動におけるティラベリ州への質のミニマム・パッケージ算数普及活動実施結果の共有

- EPT の支援により実施された 2017/2018 年質のミニマム・パッケージ読み書き・算数統合モデルパイロット活動実施結果共有
- EPT プロジェクトの中間評価調査の結果共有
- 質のミニマム・パッケージの普及とその展望にかかるアクターの役割と活動についての討議

#### a) 2017/2018 年 CGDES と連合の活動年間総括結果発表

- ✓ 2017/2018 年活動計画と総括表回収状況

全般的には各州共に活動計画の回収状況は例年通り。しかしながら、総括表の回収率（97%）はデッファ州の状況（6%のみ）により低下。

- ✓ 2017/2018年総括結果

総括表回収分析数	児童数	実施活動数	CGDES当たりの実施済み活動数	CGDES 動員額総計 Fcfa	CGDES当たりの動員額総計 Fcfa	児童当たりの動員額 Fcfa
15,480	2,282,083	83,631	5	2,625,372,827	166,743	1,125

・学校のための住民動員は依然と継続されている。この5年間、コミュニティ動員額は常に毎年20億 Fcfa を超える

- ✓ 学校補助金活動結果

CGDES 総計	学校補助金裨益校	計画額 (Fcfa)	支出額 (Fcfa)	執行率
19 932	3 250	955 569 794	605 687 849	63%

・実施率は州により変動：ティラベリ州100%、ザンデール州12%、デッファ、ニアメ州0%

#### 教訓：

全般的には、いくつかの障害（一部のアクターへの研修不足。国家予算にて計画された活動予算執行の不安定さ。一部地域の治安悪化）は依然としてあるものの、学校分権化は良好に維持されている。補助金に関して言うと、学校分権化により以下が可能となった。

- ・ 学校にかかるコミュニティ負担の減少
- ・ 学校にて十分な質と数のマニュアル、ガイドの保有
- ・ アクターの能力強化により学習の質改善にかかる活動が増加、学習時間が増加（補助金供与のない学校で191時間の校外学習に対し、補助金対象校は215時間）

**b) PAEQ活動におけるティラベリ州への質のミニマムパッケージ算数普及活動実施結果の共有**  
初等教育省とEPTプロジェクトは、コミュニティに実施可能な学習支援活動、特に算数分野においてパイロット活動を実施してきた。質のミニマム・パッケージ（算数）のポジティブな結果を踏まえ、教育省とそのパートナーは、PAEQ資金とEPTプロジェクトの技術支援により、この

活動をティラベリ州全校に拡大することとした。この質のミニマム・パッケージのティラベリ州への拡大・普及は当初2016/2017年に予定されていた。

- 対象：30のDDEPと視学官にまたがる3519校（1～4年の児童320,000名）
- 7128名（DREP、DDEP、IECP、指導主事、州・県CGDES監督官、校長、CGDESメンバー、州内45連合）が実施に関与
- ドリル調達プロセスにかかる問題から、この計画は2017/2018年に延期

### 活動実施プロセス

- 2016年10月：準備ワークショップ
- 2016年11月：活動計画策定講師研修
- 2017年2月：ベースライン学力テスト手配
- 2018年3月：算数ドリル調達
- 2018年2月：キックオフセミナー開催
- 2018年3月：算数ドリル配布
- 2018年3月：学校での活動開始
- 2018年3月～6月：学校現場、県・州レベル、中央レベルによるモニタリング支援
- 2018年6月：エンドライン学力テスト手配

### 結果

- ・PMAQ活動のポジティブ効果：2か月という非常に短い期間でありながら、ティラベリ州でのPMAQ算数活動普及はすでに児童の基礎学力改善に貢献。
- ・関係者の強いコミットメント：すべての現場関係者（教員、ファシリテーター、CGDES、コミュニティメンバー、児童）がPMAQの活動に積極的に参加した。

### 教訓

- ・住民活動は効果的な戦略をもって指導・支援されれば、児童の学力が向上する。

### 討議：

- ・発表された内容にかかる参加者との質疑応答、討議がおこなれた。セミナー参加者全体から結果は非常に高く評価された。

## 2. 2017年9月から2018年7月に実施した活動進捗と結果の発表

この期間内に予定されていたすべての活動は実施済み。

### 活動方針1：PMAQ普及支援

<p>1. PMAQモデル普及にかかる経験共有セミナー＋CGDES 監督官の能力強化研修開催</p>	<p><b>実施済:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2017年12月26日にセミナー開催</li> <li>- 研修は12月27～28日の2日間にわたり開催、全国の州・県CGDES監督官が受講</li> </ul>
<p>2. プロジェクトミッドライン調査</p>	<p><b>実施済:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2017年12月と2018年6月の2回実施</li> </ul>

3. PAEQによる学校分権化関連活動の実施プロセス促進支援	<b>実施済:</b> - 3月末までにティラベリ州の全校にドリル配布済み
4. PMAQ普及にかかる講師再研修支援、および連合総会を通じたCGDESへの情報伝達にかかる技術支援	<b>実施済:</b> - 2017年9月18-19日に再研修実施 - ティラベリ州全DDEP/視学官、指導主事、CGDES監督官受講
5. PAEQ支援のPMAQ普及にかかり、算数ドリル活動ファシリテーションの講師研修実施への技術支援	<b>実施済:</b> - 2018年2月に研修実施 - ティラベリ州全DDEP/視学官、指導主事、CGDES監督官受講
6. PAEQ支援のPMAQ普及にかかり、算数ドリル活動ファシリテーター研修実施への技術支援	<b>実施済:</b> - 2月に各視学官レベルにて研修実施 - 全対象校受講
7. PMAQモデル普及セミナー：ティラベリ州PMAQ算数普及キックオフセミナー開催	<b>実施済:</b> - ティラベリ州PMAQ算数普及キックオフセミナー開催 - 中央局長、DREP、DDEP/視学官、PFR/PFD、連合代表、市長参加。質のミニマム・パッケージ普及活動成功へ向けた活動誓約宣誓
8. ティラベリ州PMAQ算数普及にかかり講師能力強化：CGDES監督官会議、視学官会議	<b>実施済:</b> - 質のミニマム・パッケージ普及にかかる活動モニタリング、支援の能力強化のために、CGDES監督官会合3回、視学官会合3回開催
9. PMAQ普及にかかる経験共有セミナー開催	<b>実施済:</b> - PMAQ関連活動結果共有にかかるセミナーは2018年7月13日開催 - ティラベリ州の質のミニマム・パッケージ（算数）普及結果および統合型モデルパイロット結果、ミッドライン調査結果ともに参加者から高く評価

## 活動方針2：読み書き算数統合型PMAQモデルパイロット活動

10. PMAQ統合型モデル改善にかかる革新的アプローチLearning campの試行とツール改訂	<b>実施済:</b> - アプローチの試行を10日間にわたりコロにて実施
11. PMAQのマニュアルガイド改訂	<b>実施済:</b> - 2017年12月マニュアル改訂ワークショップ開催 - 読み書きPMAQの児童ツール・ガイド改訂
12. PMAQ統合型モデルパイロット活動の講師研修実施	<b>実施済:</b> - 2017年12月11～14日 - 州レベル（州CGDES監督官、研修サービス長）、県レベル（DDEP、視学官、指導主事、県CGDES監督官）受講
13. PMAQ統合型モデルパイロット活動にかかるCGDESメンバー研修	<b>実施済:</b> - 2017年11月16日コロ、18日クレにて開催 - 53校の代表（各校2名）受講

14. PMAQ統合型モデルパイロット活動にかかるファシリテーター研修	<b>実施済:</b> - 2017年12月19～22日コロ、26～29日クレにて開催 - 53校の代表（各校2名）受講
15. PMAQ統合型モデル評価調査実施	<b>実施済:</b> - 2018年6月に現場関係者（校長、CGDES、住民）からの聞き取り実施 - 読みおよび算数の学力テスト年間3回実施（ベースライン、ミッドライン、エンドライン）

### その他実施済み活動

- 1) CGDES監督官へのバイク供与を通じたCGDES活動モニタリング体制強化支援
  - ・ 2017年9月26日にバイク供与式開催支援
  - ・ 全国8州83名の州・県CGDES監督官へのバイク供与
- 2) NGOプラサムとJICAみんなの学校プロジェクトの連携発展
  - ・ 児童の学力改善のための活動にかかるNGOプラサムとJICAみんなの学校プロジェクト経験共有セミナー開催：2018年2月19～23日マダガスカル開催
  - ・ ニジェルからの参加：教育省4名(DAGE、DECP、DGDE課長、DREP Tillabéri)

### 3. 今後6か月の活動計画の発表と承認

この期間に予定する活動は以下の通り

#### 活動方針1：初等教育省により拡大普及の活動が計画された場合には、質のミニマム・パッケージ普及支援

1. PMAQ普及にかかるプロセス実施支援
2. PMAQ普及にかかる講師研修実施支援
3. PMAQ普及にかかるCGDESへの質のミニマム・パッケージ活動計画策定研修実施にかかる技術支援
4. PMAQ普及にかかるファシリテーターへの質のミニマム・パッケージ活動ファシリテーター研修実施にかかる技術支援

#### 活動方針2：読み書き算数統合型質のミニマム・パッケージモデル開発パイロット活動

5. PMAQモデル改善へ向けたインドのNGOプラサムのアプローチにかかる講師研修：2名のプラサム講師受け入れ（2018年7月20日～8月4日）
6. 質のミニマム・パッケージマニュアル・ガイド改訂（2018年9月～12月）
7. 質のミニマム・パッケージ統合モデル開発パイロット活動の講師研修（2018年12月-2019年1月）
8. 質のミニマム・パッケージ統合モデルにかかるCGDESへの活動規格策定研修（2018年12月）
9. 質のミニマム・パッケージ統合モデルにかかるファシリテーター研修（2019年1月）
10. 質のミニマム・パッケージ統合モデル開発パイロット活動にかかるベースライン学力テ

スト実施（2018年12月）

### 結論

ティラベリ州の質のミニマム・パッケージ普及の高い成果に鑑み、ニジェールの児童の学力改善のために、教育省は質のミニマム・パッケージ普及活動を必要なリソースを動員しつつ継続することが重要

### 提言

- ・ 初等教育省へ
- 質のミニマム・パッケージ活動を省の2019年度年間計画に入れ込む
- ・ JICAへ
- 他州への質のミニマム・パッケージ普及が可能となるよう教育省を支援する

書記：

サンディ・イブラヒム

タヒル・アルハジ・ムサ

みんなの学校プロジェクトフェーズ2  
第3回合同調整委員会（中等会合）議事録

2018年7月18日開催

1. 実施概要

日時：2018年7月18日

場所：GMK（ニアメ）

参加者：

<議長> 中等教育省事務次官補（開会後退席、ニアメ州教育事務所長が代理）

<メンバー> JICA ニジェール支所長、計画局長（DEP）、中等学校運営支援局長（DAGESS）、中等学校分権化課メンバー（DGDES）、全8州中等教育事務所長、JICA ニジェール支所、EPTプロジェクト専門家

<ゲスト> JICA 本部調査団

2018年7月18日ニアメ GMK 会場にてみんなの学校プロジェクトフェーズ2の合同調整委員会第3回中等会合が開催された。今会合の主な目的は以下の通り

- 1) 2018年7月17日に開催された中等 COGES と COGES 連合活動にかかる経験共有セミナーの結果評価
- 2) 前回合同調整委員会後に、機能する中等 COGES モデル普及にかかり実施された活動の進捗とその結果の評価
- 3) JICA 本部調査の目的の共有とプロジェクトの展望にかかる協議
- 4) 今後6か月の活動計画案の評価と承認

議長である中等教育省事務次官補の下、合同調整委員会は DAGESS 代理、学校分権化課課長の挨拶にて開始した。その後、JICA 本部調査団を含め、参加者による自己紹介が行われた。

JICA ニジェール支所長の挨拶においては、過去のフェーズにおいてドッソ、ニアメにて試行された「機能する中等 COGES モデル」開発パイロット活動を通して得た結果の有効性が語られた。また、過去のみんなの学校プロジェクトが学校分権化の分野において示してきた多くの結果のおかげで、他国から様々な視察が訪れるほどにまでなったが、今度は中等分野でもパイオニアとなる点が強調された。そして、JICA を通して日本政府が教育の質改善へ向けてニジェールを支援していく意向である旨が伝えられた。また、本来 2018/2019 年の予定であったザンデルとティラベリ州への介入を 2019/2020 年に送らせることに対し、教育省の承認が得られた点にかかり、教育省の理解に対して感謝の意が表明され、合同調整委員会が成果を生むことを願うコメントがなされた。

中等教育省次官補においては、まずこの会合が 6 か月ごとに行われるものである点が確認された。また、COGES にかかる中等教育省の関心は言うまでもなく、州教育事務所長が全員参加していることからわかるように、州、県の関係者のさらに上層部による関与がある点が示された。この機会をとおして、現プロジェクトにかかる JICA および日本政府に対する中等教育省の感謝の意が示された。またプロジェクトに対しても、その多種多様な支援に対する感謝が述べられるとともに、ニジェールの全中等教育施設、特にティラベリ州、ザンデール州への普及が成功するよう、2018/2019 年度に継続的な支援を願う旨が表明された。

最後には、参加者に対して、現時点での結果をよく分析した上で、省が適切な意思決定ができるよう有効な提言を示すように要望した。

事務次官補は開会のあいさつ後退席し、ニアメ州教育事務所長が議長を務める形で会合が進められた。

以下、実施された発表は以下の通り。

1. 2018 年 7 月 17 日に開催された経験共有セミナーの結果発表：ニアメ州教育事務所長により、評価しうる結果が示された前日のセミナーのまとめが発表された。
2. 第 2 回合同調整委員会後の機能する中等 COGES モデル普及にかかるプロジェクトの活動進捗および結果発表と評価：この内容に関しては、目標値は 9 割程度達成したとは言え、さらに、従事すべきことが多くあることから、様々な改善案も協議された。
3. JICA 本部調査団の発表：ティラベリ州、ザンデール州の介入延期にかかる確認。
4. プロジェクト活動の展望にかかる協議：COGES の機能化のために、全国に対するメッセージ発信、特に住民が理解できるように現地語での研修、映像ツールなどの作成が提案された。また、COGES 監督官に対しては再研修の必要性が挙げられ、指標達成に対する障害に関しては、私立高を巻き込み、県教育事務所長が監督し、教育省が省としての指示を州教育事務所長に正式文書として発出することが提案された。ニアメにて COGES を設置せず、第 2 回研修を受講していない半数に対しては、リストを作った上で、補完研修を行うことがザンデール州教育事務所長により提案された。
5. 今後半年の活動計画発表、承認：今後半年の活動計画に関しては問題なく参加者により承認された。今後より詳細の計画を策定することとなる。

閉会時には会合の成功にかかる積極的な会合への参加に対する参加者への感謝の意が示された。

提言

- ・機能する COGES にかかる責務を怠る校長に対しては罰則を課す

- ・経験共有セミナーにおいては、全 8 州の COGES 監督官（プロジェクト介入有無にかかわらず）が各州の COGES 活動進捗情報を提供する
- ・COGES と連合の活動モニタリング費用の国負担に関して国が誓約を守る

書記：

アイ・アマドゥ 中等学校運営支援局

カイガマ・イブラヒム ザンデール州教育事務所長

みんなの学校プロジェクトフェーズ2  
第4回合同調整委員会（初等会合）議事録

2019年2月6日開催

2019年2月6日に、2016年9月24日に署名されたJICAと初等教育・識字・国語推進・市民教育省間の協議議事録の定めに従い、みんなの学校プロジェクトフェーズ2の活動に関する合同調整委員会がアフリカホールで開催された。

出席者は以下の通り。

- 事務次官
- JICA ニジェール支所長
- 就学総局局長
- コミュニティ参加、学校保健、環境教育局局長
- ティラベリ州教育事務所長
- JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2 総括
- 研究・計画局担当官
- 学校分権化課課長および課内部門長3名
- JICA ニジェール支所教育部門担当者
- JICA ニジェール支所員2名
- JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2 専門家2名

当会合は、初等教育・識字・国語推進・市民教育省事務次官の議事進行にて進められた。

合同調整委員会はJICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2の活動調整と運営・管理にかかり6か月毎に実施するものである。そこでは、実施した活動の評価と今後半年の計画活動の承認を行う。

今回の議事次第として定められたのは以下の点である。

- ・2018年7月の第3回合同調整委員会以降に実施した活動進捗と結果の発表
- ・今後6か月の活動計画の発表と承認
- ・その他：PMAQ推進にかかるJICAの活動に関する情報

会議は参加者によるお祈りで始まり、JICA ニジェール支所長によるスピーチの後、初等教育・識字・国語推進・市民教育省事務次官による開会スピーチが続いた。

スピーチにおいて JICA ニジェール支所長は、コミュニティが効果的に役割を果たすことを可能にするような適切なモデルを提供することで、教育/学習の質の追求において初等教育・識字・国語推進・市民教育省を支援するという JICA のコミットメントを確約した。

事務次官は、省を代表して教育制度への着実な支援に対する JICA の協力に感謝した。また、JICA の協力のおかげで、ニジェールはコミュニティ参加の分野におけるパイオニアであり続けていることを想起し、ニジェールの学校の未来のためにこの協力の継続を願った。

議事は、2つの軸となる活動にかかる JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2のプレゼンテーションから始まった。

活動方針1：PMAQ 普及支援

活動方針2：読み書き算数統合型 PMAQ モデルパイロット活動

### 1. 第3回合同調整委員会以降に実施した活動進捗と結果の発表

#### 活動方針1：PMAQ 普及支援

リソース不足によって PMAQ 普及が行われなかったため、計画されていた4つの活動は行われなかった。4つの活動とは次の通り。

1. 手続きの円滑化
2. 講師研修
3. 学校運営委員会メンバーへの研修
4. ファシリテーターへの研修

#### 活動方針2：読み書き算数統合型 PMAQ モデルパイロット活動

5. PMAQ モデル改善のためのインド NGO プラサムアプローチに関する講師研修の実施	<b>実施済:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- プラサムから2名の講師が招待された;</li> <li>- 中央、州、県のアクターが研修を受講した (DGDE、視学官、指導主事、監督官、学校運営委員会代表)</li> </ul>
6. PMAQ のマニュアルガイド改訂支援	<b>実施済:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- PMAQ モデル改訂のためのセミナーと会議が2018年11月と12月に開催された</li> <li>- PMAQ のツールとガイドが改訂された</li> </ul>
7. PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット活動の講師研修実施	<b>実施済:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2018年12月6日 計画研修実施</li> <li>- 2018年12月27日～2019年1月2日 ファシリテーター研修実施</li> <li>- 州のアクター (州監督官、研修担当官) と県のアクター (県教育事務所長、視学官、指導主事、県監督官) が研修を受講した</li> </ul>

<p>8. PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット活動にかかる CGDES メンバーへの研修実施</p>	<p><b>実施済:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2018年12月11日リボレ開催</li> <li>- 新しく対象となる48校96名の代表者（1校あたり2名）、以前からの対象である53校の校長、4名の学校運営委員会連合代表（1連合あたり2名）が研修を受講した</li> </ul>
<p>9. PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット活動にかかるファシリテーター研修</p>	<p><b>実施済:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2019年1月22日～26日ンドウंगा開催</li> <li>- リボレ、ンドウंगा、コロの59校177名のファシリテーター（1校あたり3名）と6名の学校運営委員会連合代表が研修を受講した</li> <li>- 2019年1月29日～31日に研修のフィードバックセッションが、各対象校において実施された</li> </ul> <p><b>実施中:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2019年2月5～9日クレの42校への研修</li> </ul>
<p>10. PMAQ 読み書き・算数統合モデルの経験蓄積のためのベースラインテストの実施</p>	<p><b>実施済:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- クレ、コロ、リボレ、ンドウंगाの対象101校で、算数と読みのベースラインテストが実施された</li> </ul>

過去6か月間に実施された活動評価として、PMAQ（算数・読み書き）統合モデルの中間テスト結果が共有された。これは、TaRLアプローチを組み込む形でモデルを改訂したものである。

- 対象：101の農村部の学校（コロ、クレ、リボレ、ンドウंगाのコミュニティ）の小学1年生から6年生までの13,000人以上の児童
- ファシリテーター：コミュニティファシリテーター387人を含む、818人のファシリテーターがトレーニングを受けた。学校あたり平均8.1人のファシリテーター（その内3.8人はコミュニティファシリテーター）。
- 学校ごとの活動計画時間：平均週12時間の活動が計画されている（数学6時間、読み書き6時間）
- 生徒の活動出席モニタリング：PMAQ活動への生徒の出席をモニタリングする責任者として、180人のコミュニティメンバー（学校ごとに平均2人）が任命されている。
- 101校の生徒に学力テスト（プレテスト）を実施済み。

学力テストの結果により、実際の学習レベルに沿って児童を分類することが可能になった。

#### 読み

- 1年生、2年生

2つのグループに分類される：初級（文字を読むことができない児童）とビギナー（テストで10文字のうち少なくとも5文字を読むことができる児童）。

- 3年生から6年生

初級、ビギナー、文字、単語、文章の5つのグループに分類される。

### 算数

児童は、数字の認識（1桁、2桁、3桁）と四則計算能力をテストされ、数字の認識に基づいて分類される。

- 1年生、2年生：初級、1桁または2桁

- 3年生から6年生：初級、1桁、2桁、または3桁。

学力テストにより、次のベースラインが確認された。

### 読み

・小学3年生から6年生までの児童の過半数は文を読むことができない。

### 算数

・小学3年生と4年生の児童の73%、小学5年生と6年生の児童の45%は3桁の数字を理解できない。

・小学3年生から6年生の児童の過半数は、四則計算のすべて、特に減法、乗法、除法ができない。

したがって、プロジェクトが追求する目標は次の通りである。

### 読み

・小学3年生から6年生までの児童の過半数が、単文または複文が読めるようになる

### 算数

・小学3年生から6年生までの児童の過半数が、3桁の数字を理解できるようになる

・小学3年生から6年生までの児童の過半数が、四則計算ができるようになる

## **2. 今後6カ月の活動計画の発表と承認**

この期間中に計画された活動も2つの活動に分けられます。

### **活動方針1：初等教育省によって普及が計画された場合のPMAQ普及支援**

1. PMAQ普及のための手順の円滑化のための技術支援提供
2. PMAQ普及のための講師研修での技術支援提供
3. PMAQ普及のための学校活動計画策定にかかるCGDES代表者研修での技術支援提供
4. PMAQの普及のための補習活動にかかるファシリテーター研修での技術支援提供

## 活動方針 2：読み書き算数統合型 PMAQ モデル開発

番号	計画されている活動	計画されている期間
5	PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット活動 にかかるファシリテーター研修実施	2019年2月 (クレの42対象校)
6	PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット活動 モニタリング	2019年2月～7月
7	PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット活動 にかかる評価ミッション	2019年3月～6月
8	PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット承認 ワークショップの開催	2019年7月
9	PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット活動 にかかる経験共有ワークショップの開催	2019年7月

### 3. その他

1 つ目のポイントは、PMAQ 普及の枠組みの中で日本からの協力支援の可能性についてニジェール支所長から情報があった。現在 2 つの組織間で協議が進んでおり、来学年度において、JICA が 1 つの州への PMAQ 普及に資金を提供する可能性が非常に高い。

2 つ目のポイントは、コミュニティ参加、学校保健、環境教育局局長からプロジェクトへの、学校運営委員会 (CGDES) および学校運営委員会連合 (FCC) 活動のモニタリングと支援のための全国ワークショップ (ANASAC) への支援要請であった。この活動は国家予算で計画されているが予算が執行されていない。プロジェクトは、2019 年 7 月に予定されている PMAQ モデル経験共有ワークショップと組み合わせることにより、この活動を財政的に支援することに同意した。

### 結論

ティラベリ州における PMAQ 普及の説得力のある結果を鑑みると、ニジェールの教育の質を向上させるために、必要な資源を動員することにより、PMAQ の普及活動を継続することが重要である。

### 推奨事項

初等教育省および JICA へ

- 他の州でも PMAQ 活動を普及させるため、パートナー (PTF) へのアドボカシーを継続すること。

書記：サンディ・イブラヒム、タヒル・アルハジ・ムサ

みんなの学校プロジェクトフェーズ2  
第4回合同調整委員会（中等会合）議事録

2019年2月6日開催

## 1. はじめに

機能的な COGES-ES 活動実施の一環として、6 か月ごとに合同調整委員会と呼ばれる明確に定義された構造が計画されている。アフリカホールがこの会議の会場となり、2019年2月6日水曜日、中等教育省事務次官が議長を務めた。

会議の目的は、2018/2019 年度に実施された活動の結果を評価し、中長期的な活動について理解することである。中等学校運営支援局（DAGESS）、JICA みんなの学校プロジェクトチーム、JICA ニジェール支所長、JICA 職員、そして ONEN の代表が出席した。

## 2. プロセス

### 2.1 責任者による挨拶

開会式は、JICA ニジェール支所長の挨拶から始まった。支所長は、会議が過去6か月の活動を共有し、意見交換するための場であると述べた。また支所長は、ニジェールは、良好な結果とすべての利害関係者のコミットメントにより、中等は初等のように学校運営委員会の設置においてパイオニアとなるだろうと述べた。また、コミュニティの参加により、学校運営委員会活動実施についてニジェールを支援するという JICA のコミットメントを述べた。

中等教育省事務次官は、日本政府のたゆまぬ支援と、学校運営委員会の結果と活動総括を発表されるような基礎を築いたことに感謝を示した後、開会を宣言した。さらに、すべての関係者の動員を成功させるには全員の関与が必要であり、州教育事務所長は結果を分析し、行動の相乗効果を確保する責任があることも強調した。

### 2.2 : プレゼンテーション

プレゼンテーションは、中等学校運営支援局（DAGESS）の学校分権化課（DGDES）課員によって行われた。

#### 2.2.1 2018/2019 年度の学校運営委員会（COGES-ES）の学校活動計画（PAAQ）の結果発表

PAAQ については、958 の COGES-ES のうち、908 が PAAQ を回収した。これは、プロジェクトで設定された 85% の回収率と比較して、満足のいく回収率（93.32%）を示している。

州別の PAAQ に関しては、ニアメ市は COGES-ES あたり動員計画平均額が最も多く（2,113,024Fcfa）、マラディ州は州毎の動員計画額が最も多い（407,336,033Fcfa）。ニアメ市の学校が COGES-ES 設置に参加することにより、コミュニティ動員額が 50 億 Fcfa に増加した。

補習活動に関しては、90%以上の学校が科学の補習活動を計画し、また、学生1人あたり平均70時間のフランス語の課外授業を計画しており、質が高い傾向にある。

学校運営委員会連合（FDC）に関しては、1回目の連合総会を開催したのは、ニアメ市はニアメ5区のみだったが、その他の州では1回目の連合総会が開催されている。ドゥソ州では、1つのFDCだけが1回目の連合総会を開催していなかった。その他の4つの州では、設置された36のFDCのうち、31が1回目の連合総会を開催した。FDCの活動計画で示された活動資金については、回収率が79%に過ぎず、COGES-ESに返還される資金を考慮に入れると、資金の23%のみしか動員されておらず、その不十分さが指摘された。

表1：COGES-ESの状況

州	COGES-ESの数	回収された活動計画の数	回収率	資金動員予定額 (Fcf)	COGESあたり資金動員平均予定額 (Fcf)
ドゥソ州	265	248	93.58%	218,845,225	885,021
マラディ州	314	295	93.95%	407,336,033	1,297,249
ニアメ市	121	93	76.86%	195,511,216	2,113,024
タウア州	273	272	99.60%	240,739,592	885,072
合計	958	908	93.32%	1,064,072,065	1,171,886

表1では、活動計画に対する資金動員は十分である。

表2：FDCの活動計画状況

州	FDCの数	第1回目連合総会を実施したFDC数	FDCメンバーであるCOGES-ESの数	寄付金を支払ったCOGES-ESの数	FDCに参加したCOGES-ESの数	FDCへの参加率	FDC活動計画における動員予定額 (Fcf)	動員額 (Fcf)	FDCあたりの平均動員額 (Fcf)
ドゥソ州	8	7	199	162	181	91%	21,429,515	3,466,750	433,344
マラディ州	11	11	314	283	288	92%	9,171,675	1,533,470	139,406
ニアメ市	5	1	22	5	12	55%	961,000	125,000	125,000
タウア州	12	12	272	185	256	94%	12,293,135	5,133,850	427,821
合計	36	31	807	635	737	91%	43,019,325	10,259,070	330,938

表2では、1回目の連合総会の開催に関して、ニアメ市の大幅な遅延が示されている。1回目の連合総会を予定通りに開催したニアメ5区を除いて、4つのFDCはまだ1回目の連合総会を開催していない。

## 2.2 活動実施状況とプロジェクト結果の達成状況

プロジェクトの目標と期待される結果を想起した後、中等教育にかかるプロジェクトコンポーネントの内容が DGDES の課員によって説明された。このコンポーネントには、機能する COGES-ES の普及にかかる軸 1 と機能する COGES-ES のモニタリング/支援システムの確立という軸 2 を含む 2 つの軸があります。これらは 2016 年 12 月に開始された JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ 2 の活動であり、その目標は「プロジェクト介入州における基礎教育と機能する教育へのアクセスと質を改善するためのコミュニティ参加による教育開発モデル」である。

軸 1 については、2019 年に 2 つの主要な活動が予定されている。それは、4 州での COGES-ES と FDC の活動からの情報や優良事例の収集に関連する活動と、機能する COGES-ES および FDC モデルの改訂と承認で、2 つ目の活動は、ティラベリ州とザンデル州の学校に関する情報に基づく。これらの活動のいくつかは実行されており、他は進行中である。

軸 2 には 2 つの活動があり、1 つはモニタリング/支援に関する会議の開催で、もう 1 つは COGES-ES モニタリング/支援ガイドを完成させて共有することである。

### 2.3 予定される活動の発表

2 番目のプレゼンテーションは、2019 年 2 月から 7 月までのプロジェクト活動予定に関するものである。軸 1 には 5 つ活動がある：2019 年 6 月から 7 月まで学校の状況に関するミッドライン調査、2019 年 7 月の FDC 承認ワークショップ、2019 年 2 月から 7 月までは今後の研修のための機能する COGES-ES モデルのモジュール、ガイド、研修ツールの改訂、2019 年 4 月から 7 月までティラベリ州とザンデル州での機能する COGES-ES 普及のための計画案とロードマップの作成、2019 年 7 月の経験共有ワークショップである。

軸 2 には 2 つの活動がある：2019 年 3 月から 7 月の間の 2 回の監督官会議（1 回は県教育事務所長まで拡大）、もう 1 つは 2019 年 2 月から 7 月までのモニタリングガイドの作成である。

## 3. 協議と全般的な見解

### 3.3.1 : 協議

さまざまなプレゼンテーションに続いて、協議が行われた。論点は主に以下に基づいている：

- 省令を通じて寄付を義務化する。
- COGES-ES 資金を横領する加害者を罰する。
- COGES-ES および FDC に資金動員を任せる。
- ニアメ市やドッソ州などの特定の州では、県教育事務所へ調達資金の 8%を渡していない。
- 上記を受け取った県教育事務所は、年次報告書にその支出を含める必要がある。
- 州での研修の重複を避ける。
- 横領に関するマハマン・ラウアリ・ダンダ前大臣の省令を普及させる。
- ニアメ市には 218 の私立校と 79 の公立校があり、「触れられない」学校長のケースがある。

- 補習活動を行った学校と行わなかった学校の比較をする。
- DGDE が COGES-ES の標準的な内規を準備する。

### 3.3.2 : 全般的な見解

COGES-ES については、一般的に、特にニアメ市においての結果が改善した。マラディ州とタウア州では県レベルで学力テストを行っている。FDC 活動実施に係る保証が欠如している。FDC と州評議会との間のパートナーシップの枠組みが欠如している。FDC の活動カレンダーが尊重されていない。

## 4. 結論

合同調整委員会では、ニアメ市、ドッソ州、マラディ州、タウア州における機能する COGES-ES および FDC 活動を実施する際に、様々な関係者が行った取り組みを確認することができた。

中等事務次官は、監督官の努力を認識し、省の計画において監督官の予算を確保することにより、監督官の業務を遂行するための手段の提供を提唱した。彼はまた、COGES-ES および FDC 資金の横領に関して免責があってはならないことを繰り返した。

構造を活性化し、結果を改善するために、省令が採択されなければならない、良い慣行は倍増され、永続化されなければならない。

JICA ニジェール支所長は、コミュニティ参加による教育の地方分権化の過程で省を支援する意欲を改めて表明した。JICA みんなの学校プロジェクトは、ザンデル州とティラベリ州の監督官への FDC 設置研修で、ディッフア州とアガデス州の監督官にも研修を行う予定である。

於：ニアメ 2019年2月6日

書記：

中等教育省 学校運営支援局 学校分権化課

ニアメ州教育事務所長

バヨロ・ファティマ

ザカリ・ヒマ・バルキレ

みんなの学校プロジェクトフェーズ2  
第5回合同調整委員会（初等会合）議事録

2019年8月8日開催

2019年8月8日に、2016年9月24日に署名されたJICAと初等教育・識字・国語推進・市民教育省間の協議議事録の定めに従い、みんなの学校プロジェクトフェーズ2の活動に関する合同調整委員会がアフリカホールで開催された。

出席者は以下の通り。

- 事務次官
- JICA ニジェール支所長
- みんなの学校プロジェクトフェーズ2 総括
- 質推進・標準化総局局長
- 就学総局局長
- コミュニティ参加、学校保健、環境教育局局長
- ティラベリ州教育事務所長
- 研究・計画局担当官
- 学校分権化課課長および課内部門長3名
- JICA ニジェール支所教育部門担当者
- JICA ニジェール支所員2名
- JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2 専門家2名

合同調整委員会は JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2 の調整および運営機関である。実施された活動を評価し、計画された活動を承認するため、6 か月毎に開催される。当会合は初等教育・識字・国語推進・市民教育省事務次官の議事進行にて進められた。

今回の議事次第として定められたのは以下の点

- ・2019年7月24-25日にニアメで開催された経験共有ワークショップの結果発表
- ・第4回合同調整委員会以降に実施した活動進捗と結果の発表
- ・今後6か月の活動計画の発表と承認

会議は参加者によるお祈りで始まり、JICA ニジェール支所長によるスピーチの後、初等教育・識字・国語推進・市民教育省事務次官による開会スピーチが続いた。

スピーチにおいて JICA ニジェール支所長は、JICA の介入において、コミュニティが効果的に役割を果たせるような活動モデルの提供を通じて教育/学習の質を追求する初等教育・識字・国語

推進・市民教育省を支援するという JICA のコミットメントを確約した。2020 年にマラディ州において PMAQ 普及によって同省を支援するという決定が、これを示している。

それに対し事務次官は、省を代表して、JICA が教育システムへの支援を継続していることに感謝を示した。また、JICA の協力のおかげで、ニジェールはコミュニティ参加の分野におけるパイオニアであり続けていることを想起し、ニジェールの学校の未来のためにこの協力の継続を願った。

議事は、2つの軸となる活動にかかる JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2のプレゼンテーションから始まった。

活動方針1：PMAQ 普及支援

活動方針2：読み書き算数統合型 PMAQ モデルパイロット活動

## 1. 2019年7月24-25日にニアメで開催された経験共有ワークショップの結果発表

コミュニティ参加、学校保健、環境教育局局長とティラベリ州教育事務所長は、2019年7月24日と25日にJICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2からの資金提供により、プロジェクト活動と併せて開催された学校運営委員会（CGDES）と学校運営委員会連合（FCC）の活動モニタリング・支援全国ワークショップ（ANASAC）／経験共有ワークショップの結果を発表した。このワークショップによって、CGDES と FCC の活動を毎年確認できる。また、コロの小学校での PMAQ 読み書き・算数統合モデル活動が実施されていることが確認できた。次の結果が発表された。

### 1.1. 2018/2019 学年度の CGDES および FCC 活動結果

#### a) 2018/2019 学年度活動結果：

回収・分析された学校活動計画総括表数	児童数	実施された活動数	CGDES あたりの平均活動実施数	資金動員総額 (Fcfa)	CGDES あたりの平均資金動員額 (Fcfa)	児童あたりの支出額 (Fcfa)
16,746	2,795,662	90,103	5	3,302,708,242	197,224	1,181

学校活動にかかるコミュニティ動員は、質的に安定している。実際、過去5年間でコミュニティによって動員された金額は、年間平均20億Fcfaを超えている。今年、CGDESの動員額は数10億を超えた。この並外れた偉業には、PAEQ助成金が含まれる。

#### b) FCC 活動総括：

✓ 連合総会（AG）開催状況

連合数	年3回以上AGを開催した連合数	年3回以上AGを開催した連合の割合	AGへのCGES参加率平均
266	239	90%	78%

✓ FCCによる資金動員状況

連合の資金動員総額 (Fcfa)	CGDESによる拠出金総額 (Fcfa (%))	市長による支援額 (Fcfa (%))	その他パートナーによる支援額 (Fcfa (%))
212 936 550	194 312 775 (91%)	13 485 300 (6%)	5 138 475 (3%)

c) 3000校での補助金管理状況総括 :

✓ 2018/2019年度の補助金執行率

補助金対象CGDES数	計画額 (Fcfa)	補助金を受領した学校数	支出額 (Fcfa)	執行率
3 000	841 221 000	2 979	838 764 000	99.7%

✓ 教育の質に貢献する活動への補助金拠出

活動	補助金対象CGDES数	活動を実施したCGDES数	活動を実施したCGDESの割合	補習活動時間総合計	CGDESあたりの平均補習活動時間数
補習活動	3 000	2 702	90%	356 636	132
夜間学習活動	3 000	2 588	86%	351 701	136
合計	3 000	2 645	88%	708 337	268

d) 教訓 :

- ❖ 学校分権化 (GDE) は、モニタリングの有効性、学校支援構造に対するローカルサポートからその本質を引き出すダイナミックなシステムである。
- ❖ すべての行政官 (州教育事務所長、視学官、指導主事、監督官など) の効果的な関与は、GDE活動の成功の必須条件である。
- ❖ CGDES および FCC 活動を通じたコミュニティの参加は、教育と学習の質の向上に大きく貢献できる。
- ❖ CGDES を通じた学校への直接補助金により、次のことが可能になった。
  - 学校の問題に関するコミュニティの動員強化。
  - アクターの能力強化。
  - 学校への教科書や学用品の提供。

## 1.2. 2018/2019年度の習熟度別教授（TaRL）アプローチを組み合わせたティラベリ州における PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット活動結果の発表

- 対象：101 の農村部の学校（コロ、クレ、リボレ、ンドウンガのコミュニティ）の小学1年生から6年生までの13,000人以上の児童
- 実施期間：2019年2月中旬から6月上旬（3.5か月）
- 学校ごとの活動実施時間：年間平均170時間、週平均11時間の活動が実施された（数学5時間、読み書き6時間）
- ファシリテーター：コミュニティファシリテーター309人を含む、791人のファシリテーター。学校あたり平均8人のファシリテーター（その内3人はコミュニティファシリテーター）。
- 生徒の活動出席モニタリング：PMAQ活動への生徒の出席をモニタリングする責任者として、217人のコミュニティメンバー（学校ごとに平均2人）が任命された。

### a) 結果

#### ❖ 読み

##### 小学1-2年生

事前テスト：1年生の1%と2年生の30%だけが、少なくとも文字を読むことができた。

事後テスト：1年生の37%と2年生の62%が、少なくとも文字を読むことができた。

##### 小学3年生から6年生

事前テスト：3年生の25%、6年生の30%のみが、少なくとも単語を読むことができた。

事後テスト：3年生の50%以上が少なくとも単語を読むことができ、6年生の50%以上が文章を読むことができた。

#### ❖ 算数

##### 小学1-2年生

事前テスト：1年生の17%だけが1桁の数字を読むことができ、2年生の30%は2桁の数字を読むことができた。

事後テスト：1年生の80%は少なくとも1桁の数字を読むことができ、2年生の56%は少なくとも2桁の数字を読むことができた。

##### 小学3年生から6年生（四則計算）

3.5か月のPMAQ活動後、四則計算のすべてで15~20%の結果の改善が見られた。

b) PMAQ 活動によるその他の効果

児童への効果	先生への効果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信</li> <li>・学習に対する責任意識</li> <li>・授業への出席</li> <li>・学習の動機付け</li> <li>・児童同士、教師との間の信頼関係</li> <li>・社会的相互関係の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同僚教員間での複雑でない意見交換</li> <li>・児童に対する慈悲深い行動（児童に対する新しい見方）</li> <li>・学生サービスの個別処理</li> <li>・授業内での教育学的技術とアプローチの実践</li> <li>・校長、同僚教員、両親、コミュニティーとの良好な関係</li> </ul>

1.3. ワークショップの推奨事項

初等教育省へ

- ❖ PMAQ モデルを質改善の戦略計画に統合する。
- ❖ 来年以降の年間活動計画作成時に、PMAQ を考慮に入れる。
- ❖ 年間活動および州年間活動で、CGDES の活動のモニタリング/支援に必要な資源を計画し、コミュニティ活動の成果を永続させるための資金を確保する。
- ❖ 他州への PMAQ 普及に関して初等教育省を支援してもらえるように、技術・財政パートナー（PTF）へ陳情する。
- ❖ 一般的なコミュニティの動員時、特にファシリテーターの能力開発において、ジェンダーの側面を考慮に入れる。
- ❖ PMAQ 活動の実施においては、フランス語-アラビア語のバイリンガルの側面とノンフォーマル教育の側面を考慮に入れる。

JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ 2 へ

- ❖ PMAQ の普及プロセスを支援するために、初等教育省を引き続き支援する。
- ❖ ワークショップの推奨事項の実施結果のモニタリングと共有に関して、コミュニティ参加、学校保健、環境教育局を技術支援する。
- ❖ プロジェクトのコミュニティアプローチを拡大するために、すべての活動にジェンダーの側面を統合する。
- ❖ モデルの有効性の証明のため、PMAQ の外部評価を開始する。

技術・財政パートナー（PTF）へ

- ❖ 初等教育省を支援し、他州で PMAQ を普及させる。

2. 過去 6 カ月のプロジェクト活動総括

活動方針 1：PMAQ 普及支援

PMAQ モデル普及にかかる活動への技術支援を提供することが計画されている。この活動は、リソース不足によって初等教育省による PMAQ 普及が行われなかったため実施されなかった。

活動方針 2：読み書き算数統合型 PMAQ モデルパイロット活動

次の表に示すように、計画された 6 つの活動のうち、1 つは来期へ延期されている。

2. PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット活動にかかるファシリテーター研修実施	<b>実施済：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- クレで 2 月 5 日～9 日に実施された。</li> <li>- クレの 42 対象校の 126 名のファシリテーター（各校 3 名）と 2 名の連合代表者が研修を受講した。</li> <li>- 2 月 14 日～16 日に研修のフィードバックセッションが、各対象校において実施された。</li> </ul>
3. PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット活動モニタリング	<b>実施済：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 研修のフィードバックセッションのモニタリングが学校分権化課、視学官、監督官、指導主事、プロジェクトによって実施された。</li> <li>- 対象地域の指導主事がプロジェクトの追加支援によってモニタリングを実施した。</li> <li>- プロジェクトの技術チームが何度かモニタリングを実施した。</li> </ul>
4. PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット活動にかかる評価ミッション	<b>実施済：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 算数と読みのエンドラインテストが、クレ、コロ、リボレ、ンドウンガの対象 101 校で実施された。</li> <li>- 活動視察とアクター（校長、ファシリテーター、児童、CGDES、両親／コミュニティー）への聞き取り調査が 10 校で実施された。</li> </ul>
5. PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット承認ワークショップの開催	<b>来期へ延期</b>
6. PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット活動にかかる経験共有ワークショップの開催	<b>実施済：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2019 年 7 月 24 日～25 日にニアメで実施された</li> <li>- PMAQ 普及にかかる推奨事項が採択された。</li> </ul>

PMAQ 普及の一環として、過去 6 か月間に次の見通しが立った。

- ニジェールの他州への PMAQ モデル拡張と普及。
- 効果をより強めるための、正規授業時間への PMAQ モデル要素の統合。
- 児童の学習のための他のプログラム/イニシアチブとの相乗効果の醸成。

- ニジェールの他の地域での PMAQ モデルの拡張と普及

- 1) 日本政府の支援によって算数ドリルおよびツールが調達され、JICA みんなの学校プロジェクトの技術・資金支援により関係者の能力開発が行われ、2020/2021 年度にマラディ州で PMAQ 算数が普及する。
- 2) 初等教育省の要請により、PMAQ を世界銀行の新しい「LIRE」プロジェクトに統合する強い意向がある（世界銀行と JICA の間で協力についての協議が進行中）。

- 効果をより強めるための正規授業時間への PMAQ モデル要素の統合。

統合モデルを安定化させるため、大臣のリーダーシップの下で 2019/2020 年度の学力向上プログラムへ PMAQ 要素を統合する試行の計画

- 児童の学習のための他のプログラム/イニシアチブとの相乗効果の醸成。

ユニセフと JICA のパートナーシップの一環として：

- 1) ユニセフが支援する「教育復興プログラム」を補完するものとして PMAQ を導入し、コミュニティの参加に基づく学校支援を通じて補習活動を行う試行を行う。
- 2) ディファ州およびザンデル州のユニセフが支援するいくつかのオルタナティブ教育センターでの PMAQ 算数ドリルの導入を行う。

### 3. プロジェクトの活動計画

#### 活動方針 1：PMAQ 普及支援

以下の表に示すように、これには 2 つの活動が計画されている。

番号	計画されている活動	計画されている期間
1	2020/2021 年度のマラディ州への PMAQ 算数普及活動準備のための技術支援を提供する	2019 年 8 月からプロジェクト完了（2020 年 4 月）まで
2	PMAQ を世界銀行の新しい「LIRE」プロジェクトに統合するための技術支援を提供する	2019 年 8 月からプロジェクト完了（2020 年 4 月）まで

#### 2：読み書き算数統合型 PMAQ モデル開発

以下の表に示すように、ユニセフとのパートナーシップによる 3 つの活動を含む合計 6 つの活動が予定されている。

番号	計画されている活動	計画されている期間
3	学力向上プログラムへ PMAQ 要素を統合する試行の実施支援	2019 年 8 月～2020 年 1 月

4	PMAQ 読み書き・算数統合モデルパイロット承認ワークショップの開催	2020年2月
5	CGDES/FCC 活動の成果、特に PMAQ の成果の持続可能性のために、プロジェクトの経験を活用するための政策提言ワークショップの開催	2020年4月
6	8州における女子教育改善のための州教育フォーラム開催支援	2019年9月～11月 2020年3月
7	「教育復興プログラム」の補完としての PMAQ を導入する試行への技術支援	初等教育省とユニセフの計画による
8	オルタナティブ教育センターでの PMAQ 算数ドリル導入拡大への技術支援	ユニセフの計画による

## 結論

3,000校への直接補助金の一環として PAEQ が支援する CGDES と FCC の活動のモニタリング/支援により、2018/2019 学年度に学校を支援するコミュニティ構造を活性化することができた。コロにおける PMAQ 統合モデル試行は、49 の新しい学校に拡張され、合計 101 校で行われた。PMAQ によって得られた説得力のある結果によって、PMAQ の普及必要性がさらに促進された。この点に関して、称賛に値するイニシアチブはすでに進行中である。(i) 2019/2020 学年度の初めから、PMAQ の学力向上プログラムへの統合が事務次官によって承認された。(ii) コモンファンドからの資金提供によって、ティラベリ州教育事務所による 465 人の学校長のトレーニングへの資金提供が行われる。最後に、次の 9 か月にプログラムされたすべての活動が満場一致で承認され、SG は閉会を宣言しました。

書記：タヒル・アルハジ・ムサ

みんなの学校プロジェクトフェーズ2  
第5回合同調整委員会（中等会合）議事録

2019年8月8日開催

1. はじめに

学校分権化実施の一環として、6か月ごとの合同調整委員会が、2019年8月8日にアフリカホールで開催された。中等教育省事務次官が議長を務めた。中等教育省は、JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2のプロジェクト支援と合致する学校分権化を通じて政府のビジョンを実現する。会議の目的は、2018/2019年度に実施された活動の結果を評価し、中長期的な活動について理解することである。中等学校運営支援局（DAGESS）、学校分権化課（DGDES）、8州の州教育事務所長、JICA ニジェール支所長、プロジェクト調整員が出席した。

1. プロセス

1.1 責任者による挨拶

JICA ニジェール支所長がニジェール国の努力を評価し、コミュニティの参加を通じた学校分権化活動の実施においてニジェールを支援するという JICA のコミットメントを繰り返した後、中等教育省事務次官は、開会を宣言することにより、日本政府の教育全般、特に学校分権化におけるニジェール政府への途切れることのない支援を感謝し、州関係者に結果と今後の活動計画を評価するよう要請した。

1.2: プレゼンテーション

プレゼンテーションは、2019年8月6日に開催された COGES-ES と FDC の活動に関する経験共有ワークショップの結果、2019年8月7日に開催された FDC モデル承認ワークショップの結果、第4回合同調整委員会後の活動の進捗状況とプロジェクトの結果の達成状況の発表、および次の6か月間の活動計画の発表と承認であった。プレゼンテーションは、DAGESS 局の DGDES 課員、ザンデル州教育事務所長、ドゥソ州教育事務所長によって行われた。

2. 2018/2019年度の学校運営委員会（COGES-ES）の学校活動計画（PAAQ）と年間活動実績結果

2019年8月6日に開催された COGES-ES および FDC 活動に関する経験共有ワークショップの結果のプレゼンテーション、および2019年8月7日に開催された FDC モデル承認ワークショップの結果のプレゼンテーション。全体として、4州（ニアメ市、マラディ州、ドゥソ州、タウア州）で1028のCOGES-ESが設置され、970のPAAQと、894の年間活動実績表が回収され、回収率はそれぞれ94.4%と87.0%であった。これにより、次の結論が導き出される。みんなの学校プロジェクトの対象4州で、PAAQと年間活動実績表の回収率は、JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2で設定された90%と85%の指標を上回っており、かなり高い。

894 の年間活動実績表では、8,605 の活動が実行され、資金の総動員額は 777,157,449Fcfa であった。補習授業と修復演習 (CA/ER) は、フランス語、数学、物理化学、生命科学、地球科学、英語、アラビア語などの科目で実施された。

プレゼンテーションでは、フランス語と数学の CA/ER の指標が取り上げられた。894 の活動実績表によると、フランス語は 680 の COGES-ES が CA/ER を実行し、数学は 679 の COGES-ES が CA/ER を実行した。

対象 4 州で平均 75%以上の COGES-ES (マラディ州とタウア州の COGES-ES の 90%以上) が、数学と仏語という基礎科目で生徒の成績を向上させるために CA/ER を行っていることは注目に値する。これらの活動により、学習時間は 1 科目あたり年間約 60 時間に増加した。

FDC に関しては、合計 37 の FDC が設置され、996 の COGES-ES のうち、886 が 4 州で 20,698,955Fcfa の分担金を支払った。

表 1 : COGES-ES の状況

4 州(ニアメ市、ドゥソ州、マラディ州、タウア州)	COGES-ES の数	活動計画回収数	回収率	年間活動実績表回収数	回収率	資金動員総額 (Fcfa)
合計	1028	970	94.4%	894	87.0%	777,157,449

表 1 では、活動計画と年間活動実績表の回収率は十分である。

表 2 : FDC の活動計画状況

4 州(ニアメ市、ドゥソ州、マラディ州、タウア州)	FDC の数	3 回の連合総会を実施した FDC 数	3 回の連合総会を実施した FDC 率	FDC メンバーである COGES-ES の数	寄付金を支払った COGES-ES の数	分担金額 (Fcfa)	総動員額 (Fcfa)	FDC あたりの平均動員額 (Fcfa)
合計	37	27	73%	996	866	20,698,955	25,342,105	684,922

COGES-ES メンバーの 85%以上が、FDC に完全にまたは部分的に貢献している。COGES-ES の貢献は、今のところ FDC 運営の唯一の資源である。

テーマ別活動については、FDC によって 53,173,420Fcfa が計画され、25,342,105Fcfa が動員されたのみ、つまり動員率は 45.6%であった。それにもかかわらず、FDC は計画されたテーマ別活動の 80%以上を実行した。

### 3. 2019 年 8 月 7 日に開催された FDC モデル承認ワークショップの結果

FDC モデル承認ワークショップは、FDC 設置、構成員、および FDC の機能に関する法令草案の内容を提示することを目的とした。したがって、参加者へは、FDC の定義、果たすべき役割、および COGES-ES モニタリングシステムについての情報が提供された。

#### 4. 予定される活動

プロジェクトの目標と期待される結果を想起した後、中等教育にかかるプロジェクトコンポーネントの内容が DGDES の課員によって説明された。このコンポーネントには、機能する COGES-ES の普及にかかる軸 1 と機能する COGES-ES のモニタリング/支援システムの確立という軸 2 を含む 2 つの軸がある。これらは 2016 年 12 月に開始された JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ 2 の活動であり、その目標は「プロジェクト介入州における基礎教育と機能する教育へのアクセスと質を改善するためのコミュニティ参加による教育開発モデル」である。軸 1 には 7 つの活動が、軸 2 には 3 つの活動がある。

#### 5. 全般的な見解

a) COGES-ES : 対象 4 州の評価結果を考慮して、関係者の能力開発を通じた機能する COGES-ES モデルの導入は、教育におけるコミュニティの動員、質の向上に貢献しながら活動を行うなど、中等教育に徐々に成果をもたらしている。

COGES-ES の機能を維持するには、機能する COGES-ES モデルの要素の 1 つであるモニタリング/支援が不可欠である。

b) FDC : FDC の目新しさにもかかわらず、COGES-ES とコミュニティは徐々に彼らの興味を示し、FDC に参加している。

FDC は、中等学校の分権管理や県レベルでの教育開発において重要な役割を果たすことができる。

#### 結論

会議の終わりに、参加者によっていくつかのポイントが共有され、議論され、今後の活動が承認された。それらは主に、ザンデル州とティラベリ州の活動に関連している。

JICA ニジェール支所長は、コミュニティ参加による学校分権化の過程で省を支援する意欲を改めて表明した。JICA みんなの学校プロジェクトは、ザンデル州とティラベリ州の監督官への FDC 設置研修に、ディッフア州とアガデス州の監督官を招致し、また、ニアメ市、マラディ州、タウア州、ドッソ州の新任監督官も、機能する COGES-ES および FDC の設置、管理、計画策定研修に招致する。

於：ニアメ 2019 年 2 月 6 日

書記：

中等教育省 学校運営支援局 学校分権化課

ニアメ州教育事務所長

バヨロ・ファティマ

ザカリ・ヒマ・バルキレ

## みんなの学校プロジェクトフェーズ2（中等）

## 第6回合同調整委員会 議事録

2021年4月15日開催

みんなの学校プロジェクトフェーズ2の中等教育にかかる合同調整委員会は、2021年4月15日にニアメのアフリカホールで開催された。

お祈りの後、参加者は自己紹介をし、歓迎の言葉の後、JICA ニジェール支所長は、ニアメの幼稚園で起こった悲劇の結果、20人の児童が亡くなったことに対し哀悼の意を表した。また、アクセスと公平性の面で説得力のある結果を得るだけでなく、中学生の学力向上にも貢献した、機能するCOGESの全中学校への普及に言及した。

その後事務次官からの開会のスピーチがあり、中等教育の苦痛な状況と直面する課題を想起し、教育の新しい視点を振り返った。また、プロジェクトの結果を発表し評価するためにこの会議を開催することの重要性を主張した。

事務次官のスピーチの後、マラウイからプロジェクト総括の原氏の介入が続き、ニジェールでの非常に良い結果を評価し、今後ニジェールから他国へ優良事例が共有されていくだろうと保証した。その後、みんなの学校プロジェクトフェーズ2で作成されたモジュールが事務次官に引き渡された。

この引き渡しの後、5回目の合同調整委員会後の活動内容（機能するCOGESの普及とモニタリングシステムの確立、教育の質の向上にかかるその他の活動）とその活動達成状況が発表された。

そして別のプレゼンテーションでは、退学率を減らした8州での優良事例（各アクターがコミットメントを尊重することにより学力改善と社会的規範と意識の変化が見られた州教育フォーラムの優良事例）が発表された。その後、2020年11月に開催された第2回中等教育フォーラムの結果の発表、そして2021年4月に予定されているフォーラムにかかる発表が行われた。

その後、参加者はこれらの結果を評価するために意見交換を行った。休憩の後は政策提言ワークショップとその推奨事項に関する発表が行われた。最後はお祈りによって閉会された。

書記：

オスマン・マリアマ 中等学校分権化課

アムサトゥ・ザカレイニ 中等学校分権化課

みんなの学校プロジェクトフェーズ2  
第6回合同調整委員会（初等会合）議事録

2021年4月29日開催

2021年4月28日に、2016年9月24日に署名されたJICAと初等教育・識字・国語推進・市民教育省間の協議議事録の定めに従い、みんなの学校プロジェクトフェーズ2の活動に関する合同調整委員会の第6回最終会合がアフリカホールで開催された。

出席者は以下の通り。

- 事務次官
- JICA ニジェール支所長代理
- みんなの学校プロジェクトフェーズ2 総括
- 就学総局局長
- コミュニティ参加、学校保健、環境教育局局長
- 研究・計画局代表
- 8州州教育事務所長
- 研究・計画局担当官
- 学校分権化課課長および課内部門長3名
- JICA ニジェール支所員
- JICA ニジェール支所員2名
- JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2 専門家3名
- JICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2 コンサルタント2名

合同調整委員会はJICA みんなの学校プロジェクトフェーズ2の調整および運営機関で、半年ごとに開催され、その期間に実施された活動を評価し、次の期間に計画された活動を承認する。今回の合同調整委員会は最後であり、JICA みんなの学校プロジェクト活動を締めくくる。当会合は初等教育・識字・国語推進・市民教育省事務次官が議長を務めたが、閉会式の後、事務次官は別業務のため就学総局局長に議長代理を務めるように指示した。

今回の議事次第として定められたのは以下の点

- ・2021年4月27日、28日にニアメのアフリカホールで開催された共有ワークショップの結果の発表
- ・同ワークショップの推奨事項の発表
- ・第5回合同調整委員会以降に実施した活動状況と結果の発表
- ・小学1年生、特に女子の就学維持にかかる州教育フォーラムの結果の発表

会議は参加者によるお祈りで始まり、JICA ニジェール支所長によるスピーチの後、初等教育・識字・国語推進・市民教育省事務次官による開会スピーチが続いた。

スピーチにおいて JICA ニジェール支所長は、JICA の介入において、コミュニティが効果的に役割を果たせるような活動モデルの提供を通じて教育/学習の質を追求する初等教育・識字・国語推進・市民教育省を支援するという JICA のコミットメントを確約した。

事務次官は、省を代表して、JICA が教育システムへの支援を継続していることに感謝の意を示した。また、JICA の協力のおかげで、ニジェールはコミュニティ参加の分野におけるパイオニアであり続けていることを想起した。事務次官は、ニジェールの児童の学習能力の改善と学校改善のためのコミュニティ動員を目指す、PMAQ の学力改善プログラムへの統合活動（PMAQ-SRP）と州教育フォーラムの普及に焦点を当てた来フェーズプロジェクトにかかる協議議事録の署名が行われたことを歓迎した。その後、マラディ州教育事務所長、学校分権化課課員、そしてプロジェクトコンサルタントによって次の内容の発表が行われた。

## 1. 2021 年 4 月 27-28 日に開催されたワークショップの結果発表

この報告は、マラディ州教育事務所長によって行われた。ニアメ市、タウア州の結果と、マラディ州、ドッソ州の途中結果に焦点を当てた。

PMAQ-SRP は、JICA みんなの学校プロジェクトからの技術的・財政的支援を受けて、ニアメ市とタウア州で効果的かつ適切に実施された。関係者の能力開発が行われ、監督官会議と視学官会議がモニタリングの一環として 2 回開催され、学力テストの結果と州における活動結果総括を作成することを目的とした。結果を以下の表に示す。

### 1) 読みの結果

州	学年	事前テスト	事後テスト	差
ニアメ市	2 年生	50%の児童が文字や単語を読むことができる	70%の児童が文字や単語を読むことができる	20%
	3 年生-6 年生	36%の児童が単文や複文を読むことができる	47%児童が単文や複文を読むことができる	11%
タウア州	2 年生	44%の児童が文字や単語を読むことができる	74%の児童が文字や単語を読むことができる	30%
	3 年生-6 年生	23%の児童が単文や複文を読むことができる	39%の児童が単文や複文を読むことができる	16%

### 2) 算数の結果

#### a. 数字（桁）の認識

州	学年	事前テスト	事後テスト	差
ニアメ市	2年生	42%の児童が2桁の数を理解できる	55%の児童が2桁の数を理解できる	13%
	3年生-6年生	48%の児童が3桁の数を理解できる	60%の児童が3桁の数を理解できる	12%
タウア州	2年生	27%の児童が2桁の数を理解できる	45%の児童が2桁の数を理解できる	18%
	3年生-6年生	31%の児童が3桁の数を理解できる	47%の児童が3桁の数を理解できる	16%

b. 四則計算ができた児童の割合

州	学年	内容	事前テスト	事後テスト	差
ニアメ市	2年生	足し算	42%	58%	16%
		引き算	30%	49%	19%
	3年生-6年生	足し算	64%	78%	14%
		引き算	47%	62%	15%
		掛け算	35%	55%	20%
タウア州	2年生	足し算	33%	51%	18%
		引き算	24%	41%	17%
	3年生-6年生	足し算	49%	64%	15%
		引き算	37%	54%	17%
		掛け算	25%	43%	18%
		割り算	15%	32%	17%

これらの表から、2つのテストの結果を比較すると、すべての学年で正の差が出たことが見られる。PMAQ-SRPの実施後、改善が見られたと結論付けられた。

マラディ州とドゥソ州については、PMAQの実施であり、エンドラインテストは学年度末の2021年6月に予定されているため、ベースラインテストの結果のみが出ている。ただし、次の点に注意。

- ドゥソ州は当初、ユニセフの支援とJICAみんなの学校プロジェクトの技術支援でPMAQ-SRPを実施する予定だったが、ツールの配布が遅れたため、PMAQ-SRPの代わりにコミュニティでPMAQを実施することで巻き返すことにすべての関係者が同意した。
- マラディ州では、学年度中の授業時間外に活動が行われるタイプのPMAQである。

コミュニティ動員にかかる結果は注目に値することを付け加えておく必要がある。実際、4州ではCGDESとFCCがうまく機能しており、モニタリングを担当するすべての関係者がモニタリングを完全に実行した。

## 2. 前回の合同調整委員会後のプロジェクト活動の状況と結果の発表

プロジェクトコンサルタントによるこの発表では、初等教育レベルのさまざまな側面の状況に関するエンドライン調査は、治安と健康（コロナ禍）の影響によって実施することができなかったが、男女の平等な教育へのアクセスや、CGDES によって実施された教育の質改善にかかる活動を含む、計画されたすべての活動が実施されたことが明らかになった。

## 3. 1年生児童、特に女子の就学維持に関する州教育フォーラムの結果発表

学校分権化課のメンバーが、フォーラムの結果を発表した。ユニセフは JICA みんなの学校プロジェクトと協力して、新1年生児童の登録、特に女子の登録に焦点を当てた最初の州フォーラムの開催のために初等教育省を支援した。その結果は並外れており、国内の8州で開催されたこれらのフォーラムに続いて708,005人以上の児童たちが、新1年生として登録された。

第2回目の州フォーラムは、中等教育省と共同で開催され、コミュニティの参加と女子就学を担当する4つの局が協働した。8州でのテーマは、小学1年生と中学1年生の就学維持であった。ここでも、得られた結果は中等教育と初等教育の両方で評価できる。退学率は、ティラベリ州とドッソ州を除くすべての州で大幅に削減された（プレゼンテーションを参照）。

## 4. 協議

協議の中で、日本に駐在する JICA みんなの学校プロジェクト総括の原雅裕氏が遠隔から介入した。彼は委員会を欠席したことを謝罪し、また、実施された活動の妥当性を称賛し、プロジェクトフェーズ2や前フェーズの実施における、二者（教育省と JICA）の継続した誠実なパートナーシップを称賛した。彼は、教育省が PMAQ の普及とコミュニティ動員によるフォーラム開催に必要な資金を調達するために、PTF へのアドボカシーを行う事を強く望んだ。彼は、コミュニティの参加が私たちの教育システムを悩ませている学習の危機を克服する上で大きな役割を果たすことができるという信念を繰り返し述べた。

議論は、プロジェクト活動を州の政策に合わせる方法に焦点を当てて行われた。

JICA ニジェール支所長代理は、パイロット活動を行い、それらを承認し、省が使えるようにするという JICA の哲学を想起した。しかし、JICA は、PTF や国際機関に対して、開発されたモデルについてロビー活動を行っている。

JICA 代表代理は、PMAQ マラディ州、PMAQ ドッソ州での活動を実現するために、JICA が日本政府、ニジェール日本大使館、カウンターパート基金、ユニセフを動員したことを想起した。

議論はまた、近年国家予算によって十分に資金が供給されていない CGDES および FCC 活動モニタリングシステムに焦点を合わせた。

議論の中で、合同調整委員会は、成果の持続可能性の観点から、毎年 CGDES の機能を測定することの重要性を主張した。この意味で、州レベル（DREN）がデータを収集して総括し、中央レベル（MEN）がそのデータの要約を統合して処理することが推奨された。

最後に、PMAQ とフォーラムの有効性に関するデータからの明確な証拠に基づいて、さらに効率的なモデルを開発し続けながら、新しい州で PMAQ を普及させる必要性が言及された。

## 5. 合同調整委員会の推奨事項

2021 年 4 月 29 日の合同調整委員会の作業の最後に、参加者は次の推奨事項を作成した。

### MEN へ

- GDE（学校分権化）データベースを作成する
- CGDES モニタリングシステムの資金調達を確保する
- PMAQ-SRP の別州への普及を支援するために、技術および財務パートナー（PTF）を動員する。

### DREN へ

- 2021 年 5 月 15 日までに、監督官の CGDES に係る確認データの要約を統合する
- GDE データベースの作成を支援する

### JICA へ

- GDE データベースの作成を支援する
- 州における PMAQ とフォーラム普及を技術的および財政的に支援する

書記：タヒル・アルハジ・ムサ

## ⑦ その他活動実績

Proposed Program of Pratham-JICA Experience Sharing Seminar (Draft v.3 [updated on July 14])

**PART I: Field Trip**

Date & Time	Group A	Date & Time	Group B
<b>Sunday, July 16</b>			
	To arrive in Varanasi <i>(Night in Varanasi)</i>		
<b>Monday, July 17 [Field Trip Day 1]</b>			
07:00 AM	Leave from hotel Rural “Learning Camp” schools (one school for each subgroup); Rural “Community Library” sites <i>(Night in Varanasi)</i>		
PM			
<b>Tuesday, July 18 [Field Trip Day 2]</b>			
07:00 AM	Leave from hotel Rural “Learning Camp” schools (one school for each subgroup); Rural primary schools w/o Pratham (one school for each subgroup); Rural community general assembly to interview parents/community members <i>(Night in Varanasi)</i>		To arrive in Delhi <i>(Night in Delhi)</i>
AM			
PM			
<b>Wednesday, July 19 [Field Trip Day 3]</b>			
08:30 AM	Leave from hotel Urban “Learning Camp” schools (one school for each subgroup); Urban primary schools w/o Pratham (one school for each subgroup) To move to Delhi	09:00 11:00 15:00	To visit J-PAL South Asia To visit Pratham (meeting w/ CEO) To visit JICA India Office <i>(Night in Delhi)</i>
AM			
PM			

Proposed Program of Pratham-JICA Experience Sharing Seminar (Draft v.3 [updated on July 14])

**PART II: Seminar (With revised day 1 plan as proposed by Arjun)**

Time	Activity	Moderator/Presenter
<b>Thursday, July 20 [Seminar Day 1]</b>		
08:00 – 08:30	Registration	
08:30 – 08:50	Welcome Address - Pratham - JICA	Dr. Banerji (Pratham) Mr. Kunieda (JICA)
08:50 – 09:00	Introduction of the participants	
09:00 – 09:30	<b>Session 1:</b> Brief & rapid feedback from the participants of field trip in Uttar Pradesh	
09:30 – 10:30	<b>Session 2:</b> Pratham – An Overview - The Problem - Pratham's attempts to manage the solution (includes evolution of approach) - Current models (includes Government Partnership vs. Learning Camps)	To be moderated by Pratham Team
10:30 – 10:45	Tea/Coffee break	
10:45 – 13:00	<b>Session 3:</b> Key teaching-learning elements of Teaching at the Right Level (TaRL) - Aspects to be covered: Assessment, Grouping, Methods-Materials, Classroom Processes, Trainings	To be moderated by Pratham Team
13:00 – 14:15	Lunch & Prayer Break	
14:15 – 15:00	<b>Session 3 (continued):</b> Key teaching-learning elements of Teaching at the Right Level (TaRL) Aspects to be covered: Assessment, Grouping, Methods-Materials, Classroom Processes, Trainings	To be moderated by Pratham Team
15:00 – 16:00	<b>Session 4:</b> Tracking progress and understanding impact - Pratham's internal measurement, monitoring and evaluation (MME) - J-PAL	To be moderated by Pratham Team
16:00 – 16:30	Tea/Coffee & Prayer Break	

## Proposed Program of Pratham-JICA Experience Sharing Seminar (Draft v.3 [updated on July 14])

Time	Activity	Moderator/Presenter
16:30 – 17:00	<p><b>Session 4:</b> Tracking progress and understanding impact</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Pratham's internal measurement, monitoring and evaluation (MME)</li> <li>- J-PAL</li> </ul>	To be moderated by Pratham Team
17:00 – 18:00	<p><b>Session 5:</b> Adapting TaRL to different contexts Case study of Zambia</p>	To be moderated by Pratham Team
<b>Friday, July 21 [Seminar Day 2]</b>		
08:00 – 08:30	Registration	
08:30 – 09:45	<p><b>Session 1:</b> Introduction to JICA “School for All” Model</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Presentation on the context of educational development in francophone Africa and JICA “School for All” Model</li> <li>- Questions</li> </ul>	To be presented by Mr. Hara & Mr. Kunieda (JICA)
09:45 – 11:15	<p><b>Session 2:</b> Simulation of the process of setting up a School Management Committee (SMC)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Introduction</li> <li>- Simulation of a Community general assembly for awareness raising for democratic SMC establishment</li> <li>- Wrap-up</li> <li>- Discussions</li> </ul>	To be moderated by Mr. Kunieda, with support of Niger & Madagascar Teams (JICA)
11:15 – 11:45	Tea/Coffee break	
11:45 – 13:15	<p><b>Session 3:</b> Introduction to “Minimum Package for Quality Learning (PMAQ)”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Presentation</li> <li>- Questions</li> </ul>	To be presented by Ms. Kageyama (JICA)
13:15 – 14:45	Lunch & Prayer Break	

## Proposed Program of Pratham-JICA Experience Sharing Seminar (Draft v.3 [updated on July 14])

Time	Activity	Moderator/Presenter
14:45 – 16:00	<p><b>Session 4:</b> Simulation of the process of PMAQ activity planning</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Introduction</li> <li>- Simulation of a Teachers’ meeting and a Community general assembly for the sharing of test results</li> <li>- Wrap-up</li> <li>- Discussions</li> </ul>	To be moderated by Ms. Kageyama, with support of Niger & Madagascar Teams (JICA)
16:00 – 16:30	Tea/Coffee & Prayer Break	
16:30 – 17:30	<p><b>Session 5:</b> Simulation of remedial activities with math exercise books</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Introduction</li> <li>- Simulation of remedial activities with math exercise books</li> <li>- Wrap-up</li> <li>- Discussions</li> </ul>	To be moderated by Ms. Kageyama, with support of Niger & Madagascar Teams (JICA)
<b>Saturday, July 22 [Seminar Day 3]</b>		
08:00 – 08:30	Registration	
08:30 – 10:30	<p><b>Session 1:</b> Feedback from the participants</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- JICA Team</li> <li>- Pratham Team</li> </ul>	To be moderated by Dr. Banerji (Pratham)
10:30 – 11:00	Tea/Coffee break	
11:00 – 12:00	<p><b>Session 2:</b> Way forward</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Discussions on the possibility and strategy of collaboration between Pratham &amp; JICA</li> </ul>	To be moderated by Mr. Kunieda (JICA)
12:00 – 12:15	<p>Closing remarks</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Pratham</li> <li>- JICA</li> </ul>	


**School For All Project:**  
 Project on Support for Educational Development  
 through Community Participation



**Minimum Package for Quality (PMAQ)**  
 model to improve educational foundations  
 through community participation


 21, July 2017  
 Expert of Japanese International Agency (JICA)/  
 School For All Project in Niger

## School For All Project «Minimum Package for Quality»




### Examples of achievement Tests in numeracy : 4 basic operations

**SECTION 1: Simple addition**

- 2 + 1 = 7) 7 + 3 =
- 2 + 3 = 8) 4 + 6 =
- 4 + 0 = 9) 5 + 5 =
- 3 + 4 = 10) 9 + 2 =
- 7 + 2 = 11) 6 + 6 =
- 4 + 4 = 12) 8 + 5 =

**SECTION 2: Simple subtraction**

- 3 - 2 = 19) 10 - 5 =
- 4 - 1 = 20) 10 - 8 =
- 5 - 5 = 21) 10 - 0 =
- 8 - 6 = 22) 12 - 3 =
- 7 - 2 = 23) 10 - 5 =
- 9 - 9 = 24) 17 - 9 =

**SECTION 3: addition/subtraction 2 digits**

$$\begin{array}{r} 36 \\ + 52 \\ \hline 88 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 21 \\ - 15 \\ \hline 6 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 21 \\ - 15 \\ \hline 6 \end{array}$$

**SECTION 4: multiplication**

$$\begin{array}{r} 366 \\ \times 22 \\ \hline 732 \\ 7320 \\ \hline 8016 \end{array}$$

**SECTION 5: addition/subtraction 3-4 digits**

$$\begin{array}{r} 623 \\ + 283 \\ \hline 906 \end{array}$$

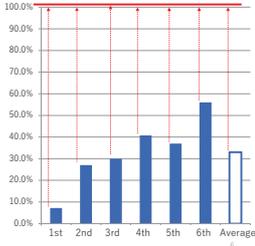
$$\begin{array}{r} 438 \\ - 174 \\ \hline 264 \end{array}$$

**SECTION 6: Division**

$$571 \div 7 = 81 \text{ R } 4$$

### Examples of results : achievement test (4 basic operations)

grade	Average per grade	
	score	% correct answer
1st	0.86/12	7%
2nd	6.49/24	26%
3rd	13.19/44	30%
4th	22.84/56	41%
5th	22.57/61	37%
6th	34.15/61	56%

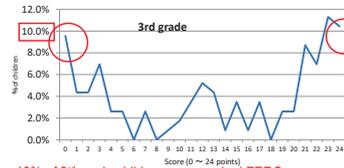


## Community General Assembly (Community Meeting) for information-sharing of test results



7

## Ability Gaps inside the class

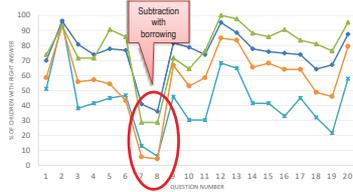


- 10% of 3<sup>rd</sup> grade children were marked ZERO
- No chance to catch up : causing drop-outs and repeating classes.

1) 2 + 1 =	13) 3 - 2 =
2) 2 + 3 =	14) 4 - 1 =
3) 4 + 0 =	15) 5 - 5 =
4) 3 + 4 =	16) 8 - 6 =
5) 7 + 2 =	17) 7 - 2 =
6) 4 + 4 =	18) 9 - 9 =
7) 7 + 3 =	19) 10 - 5 =
8) 4 + 6 =	20) 10 - 8 =
9) 5 + 5 =	21) 10 - 0 =
10) 9 + 2 =	22) 12 - 3 =
11) 6 + 6 =	23) 10 - 5 =
12) 8 + 5 =	24) 17 - 9 =

A key for change : individual learning/coaching adapted to student's abilities and competencies

## Chronic mistakes in basic skills



1) 52	2) 21	3) 9
+ 5	+ 43	+ 34
4) 69	5) 36	6) 79
+ 16	- 14	- 39
7) 43	8) 70	9) 38
- 27	- 44	+ 91
10) 17	11) 91	
+ 98	+ 9	
12) 2 X 2 =	17) 3 X 6 =	
13) 5 X 1 =	18) 6 X 6 =	
14) 4 X 9 =	19) 7 X 7 =	
15) 8 X 3 =	20) 1 X 5 =	
16) 9 X 4 =		

- Tendency of mistakes remain in spite of the upper grades
- Discord between students' grades and competencies in basic skills

A key for change : focus on basic skills learning based on one's own pace in learning progress

## Workbook Activity in Numeracy



10

## Key factors of Community based Group Studies « Workbook Activity »

- Self-study: the progress in student's learning is based on her/his own abilities and competencies, not based on her/his grade
- Supporting/leading by facilitators (teachers, community volunteers) : explaining, correcting, coaching for each student on each page
- Start from a beginning workbook to make fundamentals in numeracy.
- Small steps and repeating method : with a mistake on a page, a student should start it again; without a mistake, s/he can go to the next page
- Mixed grade study group : creating NON CLASS atmosphere

11

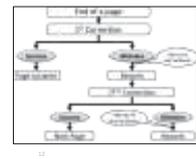
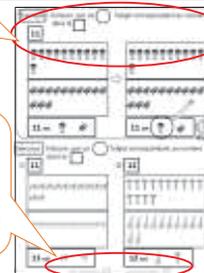
## How to support individual Learning?

**Example and Illustration**  
Helping student's self-study

**Instruction**  
A facilitator explains individually based on the progress of each student

**Correction/Evaluation**  
A facilitator makes a correction individually for each page:  
With full marks, they can go to the next page

1st correction  2nd correction



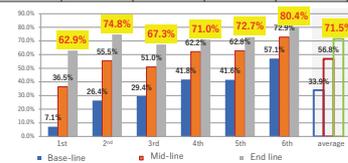
12

## “Minimum Package for Quality” Results of Workbook Activities in Numeracy

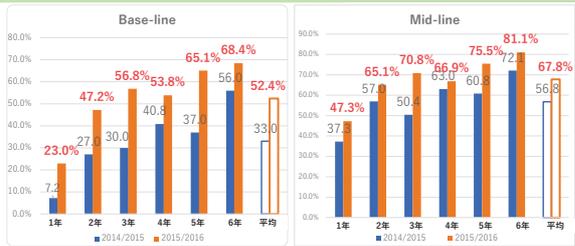


## Example results of achievements tests: targeted schools in 2014/2015 (beneficiary: 4000 children)

Grade	1st (out of 100)	2nd (out of 100)	3rd (out of 100)	4th (out of 100)	5th (out of 100)	6th (out of 100)	Average % of correct answers
Base-line (Dec. 2014)	7.1	26.4	29.4	41.8	41.6	57.1	33.9%
End-line (Jun.2015)	62.9	74.8	67.3	71.0	72.7	80.4	71.5%
gain	+55.8	+48.4	+37.9	+29.2	+31.1	+23.3	+37.6%



## Results of targeted school for 2 years: 1st year 2014/2015 – 2nd year 2015/2016



The results of the 2nd year are better than that of 1st year for both tests, baseline and mid-line.

## Evolution per basic competency in numeracy



## Other impacts

- ◆ Reinforced relationships between schools and communities: virtuous circle of information sharing
- ◆ Improved student attendance
- ◆ Increased study time for children
- ◆ Raised awareness and the commitments of parents for children's learning
- ◆ Changed behaviours of teachers toward children in the class
- ◆ Changed behaviours of children in the class



## Prospects of « Minimum Package for Quality »

- Scale up to **all the schools (about 3500 schools) in a region**
- On-going pilot activity in development of “**Minimum Package for Quality**” in Literacy
- Development and scale up of a model of “**Minimum Package for Quality**” integrating Numeracy and Literacy

What's brought by « Minimum Package for Quality »  
of School For All Project . . . .



19

【JICA youtube sites】 School For All Project:  
Minimum Package for Quality

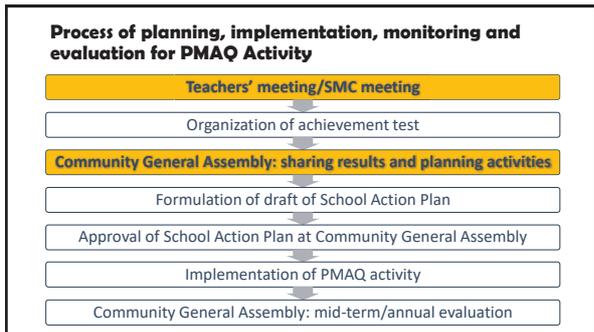
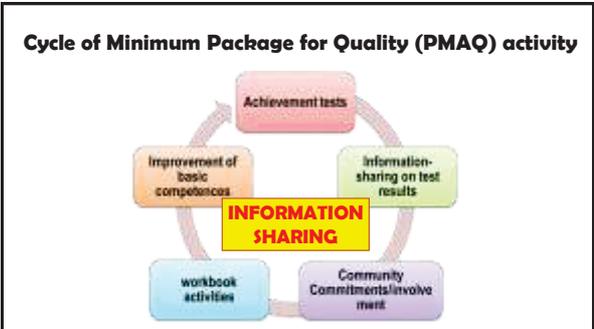
- [https://www.youtube.com/watch?v=EfPpAL\\_PyXc](https://www.youtube.com/watch?v=EfPpAL_PyXc)(English)
- <https://www.youtube.com/watch?v=TzdCguiF2DY> (French)
- <https://www.youtube.com/watch?v=EFDTK3T9CcE> (Japanese)

20



Thank you for your  
attention

**Day2-session 4**  
**Simulation**  
**Planning of Minimum Package for Quality (PMAQ) activity:**  
**(1) Teachers' meeting**  
**(2) Community General Assembly**



**Why Teachers' meeting ?**

**What we want and need**

**Involvement and engagement of teachers in:**

- Achievement tests
- Supplementary studies

**BUT**

- These are additional duties for teachers
- Teachers may feel that they and their work will be evaluated by achievement test
- They may not be willing to do something without compensation

**HIGHLY POSSIBLE TO HAVE TEACHERS' RESISTANCE**

**NEED TO BUILD A CONSENSUS WITH TEACHERS**

**Key actors for this simulation**

- School headteacher:
  - Expected to play a facilitating role by sharing the contents and the process of the PMAQ activity, moderating discussions on the problem of student competencies and strategies to solve the problems etc.
- Teacher 1:
  - May not be willing to organize the achievement test and especially share the results with the community because s/he doesn't want to be evaluated and is afraid of being blamed by the community.
  - May be complaining about the parents who don't take any responsibilities for children's education
- Teacher 2:
  - May be against the idea of supplementary studies outside the school without being paid
- Teacher 3:
  - May understand the importance of taking action such as supplementary studies to improve the present situation
  - May find some benefits from the activity even if it's extra work.

**Why Community General Assembly for the sharing of test results ?**

**What we want and need**

**Involvement and engagement of the entire community in order to:**

- Mobilize the resources (human, material, financial) for this activity
- Ensure children's participation in the activity

**BUT**

- Community may think that only the teachers can improve the children's competencies
- Community has already invested their resources but there is little effects for learning

**NEED TO LEAD THE COMMUNITY TO ENGAGE IN EFFECTIVE ACTIONS**

### **Key actors for this simulation**

- School headteacher:
  - Expected to play a facilitating role by sharing the test results, the contents and the process of the PMAQ activity, moderating discussions on the problem of student competencies and strategies to solve the problems etc.
- President SMC:
  - Expected to play a facilitating role by sharing the contents and the process of the PMAQ activity, moderating discussions on the problem of student competencies and strategies to solve the problems etc.
- Parent 1:
  - May not be happy about the test results and be complaining about the teachers' absenteeism
- Parent 2:
  - May understand the importance of taking action to improve the children's competencies but may not know how to contribute as s/he is not educated.

## **Simulation plays**

**(3) Remedial activities with math exercise workbooks (PMAQ activity)**

**How to facilitate remedial activities with math exercise workbooks...?**

## COMPTE RENDU DE L'ATELIER INTERNATIONAL DE PARTAGE D'EXPERIENCES EN INDE DU 17 AU 22 JUILLET 2017

2017年7月17～22日インド開催経験共有セミナー報告

## I. NOTE INTRODUCTIVE

**Date :** 17 au 22 juillet 2017

**Lieux :** Varanasi, Delhi en INDE

**Participants :**

- Equipe de l'ONG PRATHAM-IN
- Equipe J-PAL (3) ;
- JICA siège (3);
- Experts des Projets EPT/JICA Niger et Madagascar (2);
- Equipe Niger: DGDE(2), DECP (1) ;
- Equipe Madagascar (5) ;

**1) 概要**  
 日程: 2017年7月17～22日  
 場所: バラナシ、デリー  
 参加者: NGO Prathamチーム、J-PALチーム、JICA本部、EPT 専門家、ニジェールチーム、マダガスカルチーム

## Note Introductive (suite)

### Les grandes lignes d'échanges :

- **Visites des activités Pratham dans la région de Vārānasī ;**
  - ✓ Observer les activités de « Learning Camps » et leurs résultats;
  - ✓ Echanger directement avec les acteurs locaux.
- **Atelier de partage d'expériences**
  - ✓ Présentation des approches et expériences de PRATHAM et de « Learning Camps »;
  - ✓ Présentation des approches et expériences de projet EPT/JICA ;
  - ✓ Discussions/échanges.

**1) プログラム概要**  
**【Pratham活動の訪問視察(バラナシ)】**  
 ・Learning camp活動・結果視察  
 ・現場アクターからの聞き取り  
**【経験共有ワークショップ】**  
 ・ONG PrathamとLearning campのアプローチと経験発表  
 ・EPTのPMAQのアプローチと経験発表  
 ・ディスカッション

## II. Les résultats des visites sur le terrain

**1. Période:** 17 au 19 juillet 2017

**2. Nombre d'écoles visitées:** 5 écoles

- 3 portant l'approche du « Learning Camps » (2 rurales et 1 urbaine)
- 2 écoles témoin (1 urbaine et 1 rurale)
- 1 AG
- Visite des activités dans les villages « community library (bibliothèque communautaire) »

**2) 現場視察結果**  
 日付: 2017年7月17～19日  
 訪問校数: 5校  
 ・Learning camp実施3校(農村部2校、都市部1校)  
 ・対象外校(1都市部、1農村部)  
 ・住民集会  
 ・村落内での「コミュニティライブラリー」活動視察

## Learning Camps (camps d'apprentissage)

- **Période:** total 40 jours (10 jours par semaine de Math et Lecture (90mn/jour/chaque matin) + 10 jours de temps d'étude officielle);
- **Formation des groupes** selon les capacités de l'élève : 5 niveaux (débutant, lettre, moyen, avancé, expert);
- **Facilitateurs:** Instructeurs de Pratham et enseignants de classe (observateurs)
- **Activités:** travail en petit groupe, individuel, ensemble

**Learning camp**  
 ・期間: 計40日(10日x4セッション)  
 ・グループ分け: 児童能力別、5段階(ビギナー、文字、単語、文、文章)  
 ・ファシリテーター: Pratham インストラクター+ボランティア  
 ・活動: 小グループ活動、個人、全員



## Impressions

- Il est clairement ressorti que les apprentissages des élèves et leurs environnements, sur les « Learning Camps », est plus de finir un programme que des compétences chez les élèves.
- Les prestations pédagogiques des enseignants ont été très appréciées.
- La continuité des activités dans les villages sous la tutelle des mères-tutrices a amélioré les compétences des élèves.

**印象**  
 ・完全に児童中心型学習であり、Learning camp活動の場は、カリキュラムを終わらせることが目的化している通常の授業とは異なり、児童の学力を養い上げることを目的としている  
 ・ボランティアが実施する教育内容は評価できる  
 ・村落で母親の下実施される継続活動は子どもの学力向上につながる

### III. De l'atelier de partage des expériences

#### Objectifs de l'atelier

- Partager les expériences et les pratiques de l'ONG PRATHAM et celles de l'EPTJICA dans le cadre des actions développées pour l'amélioration des compétences fondamentales des élèves
- Echanger sur les points forts et les points faibles des 2 modèles en vue de développer des actions et des stratégies d'intégration et complémentarité des modèles.

経験共有ワークショップ  
＜目的＞  
・児童の基礎学力改善に向け開発された活動に関する ONG Pratham と JICA-EPT の経験の共有  
・両モデルの統合的・補完的 活動と戦略開発のための二つのモデルの強みと弱みの協議

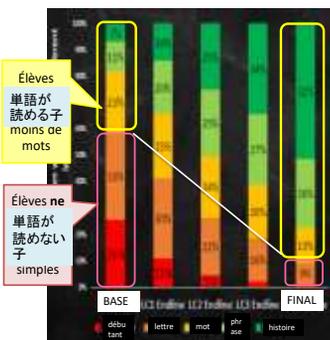
### Principaux éléments d'Intervention de l'ONG Inde « Pratham »

- « Teaching at the Right level (TaRL) » : enseignement basé sur le niveau propre des élèves
- Évaluation simple, rapide et individuelle des élèves (TEST de niveau) pour mesurer le niveau des élèves et former les groupes de compétences;
- Focus sur l'amélioration de bases pour comprendre, exprimer et arithmétique
- Stratégies intensives et efficaces pour les élèves de combler leurs lacunes dans de base sur une période très courte
- Approche Pratham : combinaison de activités dans l'apprentissage

インド NGO Pratham 介入の 要点  
1) TaRL : 習熟度別学習  
2) シンプル・早く・個々の評価 : 児童レベルを早く計測し、能力に応じたグループ分けを可能にする学力テスト  
3) 読む、理解する、表現する、計算するという基礎の改善に焦点  
4) 短期間で学習が遅れている子を引き上げる集中的で効果的な戦略  
5) フラサムアプローチ : 学習における様々な活動の組み合わせ

### Exemple des résultats de « Learning Camps » Pratham en 2015-2016

- Learning camp の結果例
  - 対象 : 5000校の3～6年生 337000名
  - 59%がベースラインにて簡単な単語も読めなかった
  - 30～50日後、77%の児童が文章を読めるようになった。
- 59% élèves ne pouvaient pas lire un mot simple lors d'étude de base
- Après 30-50 jours, 77% élèves sont capables de lire couramment des textes.



### IV. Points forts

#### Sur le plan pédagogique des activités de « Learning camps » :

- Organisation spatiale des classes
- Apprentissage basé sur la vie quotidienne des enfants;
- Niveau et disponibilité appréciables des volontaires ;
- Apprentissage actif des élèves et des pairs ;
- Variété d'exercices pratiques (cartes de nombres, centre d'intérêt...);
- Continuité des activités dans les groupes de travail au village sous la surveillance des mères tutrices ;

利点: Learning camp 活動の 教育的視点から  
・Pratham 活動における教室空間の使用法(床など)  
・子ども日常に基づいた学び  
・ボランティアの能力の高さとコミットメント  
・子どもの積極的なまなびと子ども同士での学びあい  
・多様な実践演習  
・母親のサポートによる村落内での活動継続

### Points forts (suite)

#### Au plan résultats

- Amélioration tangible et éprouvée des acquisitions des élèves ;
- Reconnaissance des résultats par les parents
- Approche innovante (la place du tableau de circulation des nombres et de tableau de numération) : mesure de progrès par une démarche de suivi-évaluation scientifique et rassurante (évaluation interne et évaluation externe)

結果の面から  
・児童の学習能力の確実な改善  
・関係者による結果の周知  
・革新的なアプローチ(学力テスト、ナンバー表の使い方、評価の仕方)

### V. Points à améliorer dans le cadre d'intégration des approches Pratham au Niger:

- Implication dans les activités de l'approche Pratham :
  - de la communauté;
  - des enseignants ;
  - de l'administration scolaire
- Renforcement des capacités des enseignants pour s'approprier les approches.

Pratham アプローチのニジェールへの適用にかかる改善点  
・Pratham アプローチにおける活動へのコミュニティ、教員、行政官の関与  
・アプローチの習得にかかる教員の能力強化

## VI. Conclusion

L'atelier de capitalisation a permis aux participants de s'imprégner des théories, des méthodes et de bonnes pratiques qui sous-tendent les 2 approches mais aussi de partager les démarches pédagogiques types d'initiatives : le paquet la qualité (PMAQ), « le Learning sur le TaRL.

**結論**  
今回のワークショップの機会により、参加者はLearning campとPMAQ二つのアプローチのセオリー、手法そして優良事例を吸収することができた。  
また、二つのタイプのイニシアティブの教育的なやり方を共有することができた



## Agenda for Pratham-JICA Experience Sharing Workshop

### Antananarivo - Madagascar, 19 to 23 February 2018 (5 days)

Hours	Activities	Key players	Venue
<b>Saturday 17 February 2018</b>			
Afternoon	Arrival of participants: Pratham team, Niger team, JICA HQ team		Airport (Ivato) Louvre Hotel
<b>Sunday 18 February 2018</b>			
Afternoon	Arrival of participants		Airport (Ivato) Louvre Hotel
15H00 (tentative)	Introductory meeting	Pratham, Japanese experts	Meeting room (Louvre Hotel)
17h00 (tentative)	Briefing meeting	All Japanese experts	Meeting room (Louvre Hotel)
<b>Day 1: Monday 19 February 2018</b>			
8H15 – 8H30	Registration and welcoming of participants completed by 8H30 sharp	Tafita (administration)	Meeting room (Louvre Hotel)
8H30 – 8H50	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Introduction of participants</li> <li>➤ Introductory presentation (Objectives, agenda, etc.)</li> </ul>	MC (Romain) JICA (Kuniéda)	
8H50 – 10H00	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Overview presentation of JICA TAFITA project</li> <li>➤ Discussion</li> </ul>	Madagascar team (DREN) Analamanga	
10H00 – 10H20	Coffee break		
10H20 – 10H45	Briefing about the programme for the field visits on the 19 and 20 February 2018:	Madagascar team (Lina)	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>Information about the sites and the people to meet</li> <li>Organisation visits to the target schools</li> </ul>		
10H45 – 11H45	<ul style="list-style-type: none"> <li>Presentation of PMAQ mathematics exercise books</li> <li>Clarification questions</li> </ul>	Niger Team	
11H45 – 12H45	Lunch break		Restaurant (Louvre Hotel)
12H45 – 14H00	Travel for the field to EPP Antsahamaro, Talata Volonondry Nord		
14H00 – 16H00	<p><b>Field visit (1)</b> : Antsahamaro school (PMAQ target: Mid-term review GA)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Observing the mid-term review GA</li> <li>Interviews/discussions with the stakeholders: members of the FEFFI, teachers, facilitators, community members, students (in plenary and per group), chiefs of ZAP</li> </ul>	Participants	EPP Antsahamaro
16H00 – 17H15	Return to Antananarivo		Louvre Hotel
17H15 – 17H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>Summary of Day 1 by country</li> <li>Briefing about the programme for the Day 2</li> </ul>	Participants	Louvre Hotel
17H30	End of 1 <sup>st</sup> day		
<b>Day 2: Tuesday 20 February 2018</b>			
7H15 – 7H45	Registration and welcoming of participants completed by 7H45 sharp	Tafita (administration)	Reception hall (Louvre Hotel)
7H45 – 9H00	Travelling for the field visit of EPP Ampanobe, Masindray		
9H00 – 11H30	<p><b>Field visit (2):</b> Ampanobe School (PMAQ target: PMAQ reading activities)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Observing PMAQ reading activities</li> <li>Interviews/Discussion with stakeholders: members of FEFFI, teachers, facilitators, community members, students (in plenary and per group)</li> </ul>	Participants	EPP Ampanobe
11H30 – 12H00	Travel time		

12H00 – 13H30	Lunch break		Batou Beach
13H30 – 14H00	Travel to the field visit to the ZEPP Aminampanga, Masindray		
14H00 – 16H00	<b>Field visit (3):</b> Aminampanga School (PMAQ target: PMAQ math activities) Observing the PMAQ math activities (exercise textbooks) ➤ Interviews/Discussion with stakeholders: members of FEFPI, teachers, facilitators, community members, students (in plenary and per group)	Participants	EPP Aminampanga
16H00 – 17H15	Travel to Antananarivo		Louvre Hotel
17H15 – 17H30	➤ Summary of Day 2 by country ➤ Briefing about the programme for Day 3	Participants	Louvre Hotel
17H30	End of day		
<b>Day 3: Wednesday 21 February 2018</b>			
8H00 – 10H00	<u>Country group work</u> ➤ Summary of Day 1 and 2 ➤ Compiling lessons learned during the visit ➤ Preparation of the presentation of field visit results by country	Participants	Group work rooms (Louvre Hotel)
10H00 – 10H20	« <b>Each country delegates</b> » 7H30-8H00 : Travel to the Ministry of Education 8H00 – 9H00 Curtesy visit to Ministry of National Education (MEN) by the country delegations (2 by country) 9H-9H30 : travel to Louvre Hotel	Each country delegates	Ministry of Education
10H20 – 12H00	Coffee break Country group work continued		
12H00 – 13H00	Lunch break	Participants	Group work rooms (Louvre Hotel)

13H00 – 13H30	Registration and welcoming of participants completed at 13H30 sharp	Tafita (administration)	Meeting room
13H30 – 13H40	Remarks by the Country Representative of JICA Madagascar	Country representative of JICA Madagascar	(Louvre Hotel)
13H40 – 13H50	Opening remarks for the workshop	SG of MEN Madagascar (to be confirmed)	
13H50 – 14H50	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Presentation of observations/notes from the field visit per team (Pratham, Niger, other) (10mn per team)</li> <li>➤ Clarification questions and Discussion</li> </ul>	Participants	
14H50 – 15H10	Coffee break		
15H10 – 16H45	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Presentation of NGO Pratham: Experiences of Pratham activities (approaches, strategies, experiences in India and other countries results, challenges, future prospects etc.)</li> <li>➤ Clarification questions</li> <li>➤ Discussion</li> </ul>	Pratham team	Meeting room (Louvre Hotel)
16H45 – 17H00	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Summary of Day 3 by country</li> <li>➤ Briefing of the programme for Day 4</li> </ul>	Participants	
17H00	End of Day 3		
17h30	<p>Cocktail</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Remarks by the Ambassador of Japan to Madagascar</li> <li>➤ Remarks by the Ambassador of India to Madagascar</li> <li>➤ Remarks by the secretary general of the Ministry of Education Madagascar</li> </ul>	Louvre Hotel	
<b>Day 4: Thursday 22 February 2018</b>			
8H00 – 8H30	Registration and welcoming of participants completed by 8H30 sharp	Tafita (administration)	Meeting room
8H30 – 10H00	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Presentation on JICA's approach to improving the learning of students</li> </ul>	JICA Headquarters (M.	(Louvre Hotel)

	through community participation ➤ Clarification questions ➤ Discussion	Kuniéda)	
10H00 – 10H20	Coffee break		
10H20 – 12h00	➤ Presentation by Madagascar: Experiences on the experimenting of Reading PMAQ ➤ Clarification questions ➤ Discussion on the experiences Lunch break	Madagascar Team Participants	Meeting room (Louvre Hotel)
12H00 – 13H00			Restaurant (Louvre Hotel)
13H00 – 14h40	➤ Presentation by Niger: Experiences on the experimenting of Reading PMAQ ➤ Clarification questions ➤ Discussion on the experiences	Niger Team Participants	Meeting room (Louvre Hotel)
14H40– 15H30	➤ Discussion on the experiences of JICA/Pratham	Participants	Meeting room (Louvre Hotel)
15H30-15H40	Instruction of Country group work/reporting	Facilitator	Meeting room (Louvre Hotel)
15H40– 16H00	Coffee break		
16H00 – 17H00	<u>Country group work</u> ➤ Summary of Day 3 and 4 ➤ Compiling lessons learned during the workshop ➤ Future prospects on the improving of models/approaches ➤ Preparing the presentation on the results of the workshop by country	Participants	Group work rooms (Louvre Hotel)
17H00	End of Day 4		

**Day 5: Friday 23 February 2018**

	Registration and welcoming of participants completed by 8H30 sharp	Tafita (administration)	Meeting room (Louvre Hotel)
8H00 – 8H30 8H30 – 9H40	Reporting of the countries group work (10mn by country) <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Pratham</li> <li>➤ Niger</li> <li>➤ Madagascar</li> </ul>	Rapporteurs for the countries	
9H40 – 10H00	Feedback from the participants /guests (3 to 5mn per person) <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ J-PAL</li> <li>➤ JICA Headquarters</li> </ul>	Participants	
10H00 – 10H20	Coffee break		
10H20 – 11H50	Discussion on future prospects regarding the partnership between Pratham-JICA <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Objectives of the partnership and actions to be carried out</li> <li>➤ Programming future activities</li> </ul>	Facilitator (M. Kuniéda) Participants	Meeting room (Louvre Hotel)
11H50 – 12H10	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Presentation of the draft recommendations of the workshop</li> <li>➤ Validation of the recommendations</li> </ul>	Rapporteurs, participants	
12H10 – 12H30	Closing ceremony <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Reading of recommendations</li> <li>➤ Closing remarks</li> </ul>	Rapporteurs SG MEN Madagascar	
12H30 – 14H00	Lunch break	Participants	
14H00 – 15H00	Meeting: review of the workshop	JICA HQ, Pratham team	Meeting room (Louvre Hotel)



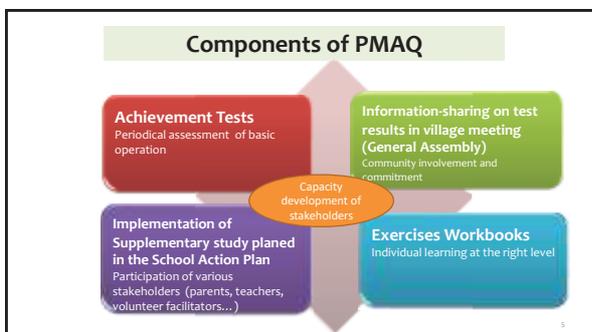
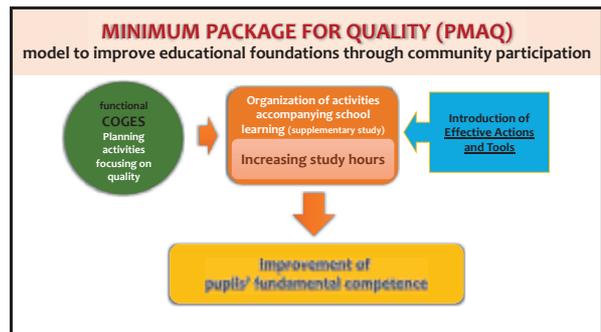
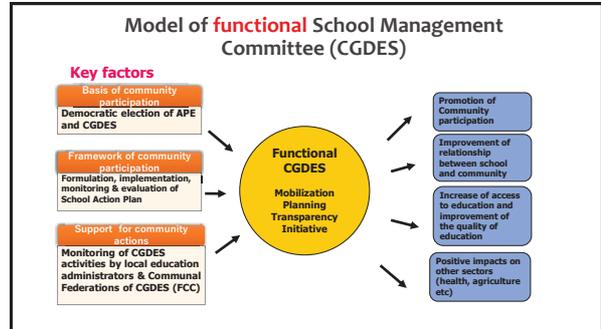
School For All Project:  
Project on Support for Educational Development  
through Community Participation



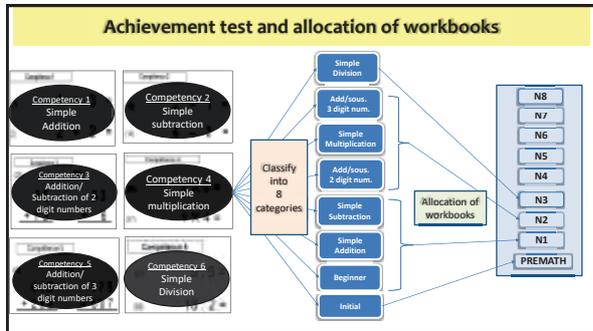
## Minimum Package for Quality(PMAQ) - MATHS -

model to improve educational foundations  
through community participation

Pratham-JICA Experiences Sharing Workshop  
19, February 2018



- ### Principles of approaches in workbook-activity of PMAQ Math
- to improve the competencies of every students**
- Start by an **achievement test** and **allocation of workbooks at the right level** according to the results of baseline test
  - Respect for **rhythm/pace of progress** and **ability of each student**
  - Each student studies by himself (self-learning) and advance according to his own capacity ;
  - Focus on **fundamental competencies** (Number sense, 4 operations)
  - Individual and personal "Exercise Workbook" for each student
  - Progressive Learning step by step (small step)** to strengthen the knowledge with the repetitive method of notions
  - Pedagogical procedure and approaches based on **teaching/learning at the right level** through various activities for **active and participatory learning**



### How to support individual Learning?

**Example and Illustration**  
Helping student's self-study

**Instruction**  
Facilitators explain individually based on the progress of each student

**Correction/Evaluation**  
Facilitators make corrections individually for each page: With full marks, they can go to the next page

1st correction  2nd correction

### Contents of PMAQ Math Workbooks

- Degree of difficulty of exercises gradually progresses ;
- Various exercises are repeated to strengthen the knowledges ;
- Progress page by page and book by book according to students' works and results.

**Workbook PREMATH**

- Introductory handwriting practices

**Workbook N°1**

- Number sense: 0 - 10
- Composition/decomposition of numbers

**Workbook N°2**

- Number sense: 11 à 20
- Addition/Subtraction without carrying/borrowing
- Addition/Subtraction with carrying/borrowing

**Workbook N°3**

- Addition and subtraction of 3 numbers
- Number sense: 21 - 79

**LIVRET N°4**

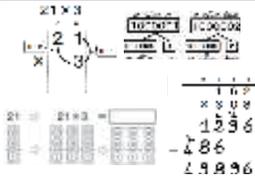
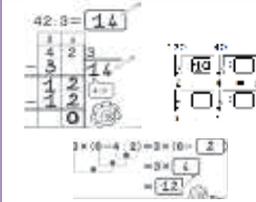
- Addition and subtraction of 2 digit numbers ;
- Number sense: 80 to 120 ;
- Addition and subtraction : vertical ;
- Number sense : until 1000

**Workbook N°5**

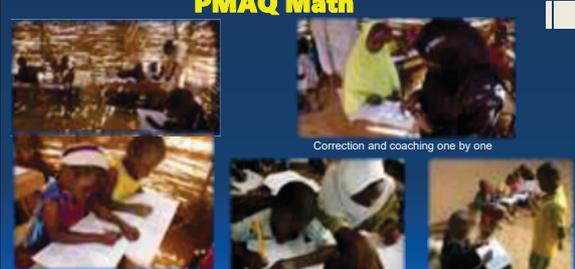
- Addition and subtraction of 3 - 3 digit numbers ;
- Number Sense : until 10000 ;
- Addition and subtraction of 2 - 3 digit numbers: vertical

**Workbook N°6**

- Multiplication
- Division : basic
- Division with remainders

<p><b>Workbook N°7</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Number sense 10000 - 100000000</li> <li>▶ Multiplication : vertical</li> </ul> 	<p><b>Workbook N°8</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Division : vertical</li> <li>▶ Rules and techniques of calculation</li> </ul> 
--	---

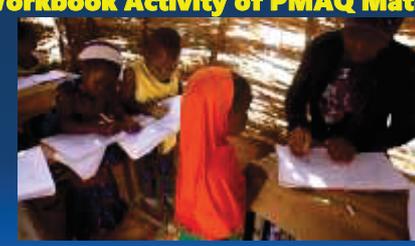
**PMAQ Math**



Correction and coaching one by one

Working individually according to their own abilities      Working at the mixed grade group      Working at the village

**VIDEO:**  
**Workbook Activity of PMAQ Math**



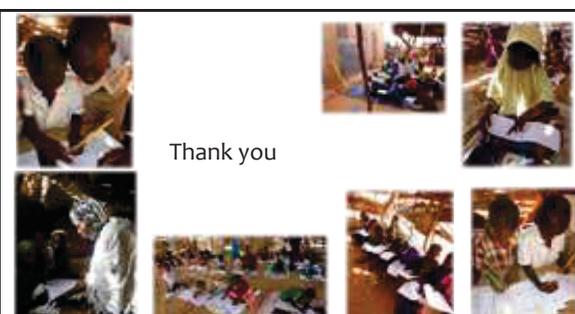
**Key factors of Community based Group Studies « Workbook Activity »**

- Learning at the right level : **the progress in student's learning is based on her/his own abilities and competencies**, not based on her/his grade
- Supporting/leading/coaching by facilitators (teachers, community volunteers) : **explaining, correcting, coaching for each student on each page**
- Focus on key competencies to build the fundamental basis of numeracy
- Various type of different exercises in the workbook to strengthen the knowledge step by step
- Mixed grade study group : **creating NON CLASS atmosphere**
- **Information-sharing with the community** : check/monitoring of attendance at the activity, motivation/encouragement for all concerned, resource mobilization (human, material, finance)

**Simulation**

Session of the workbook activity of PMAQ Math:  
instructions, correction, evaluation and encouragement

Thank you





School For All Project:  
Project on Support for Educational Development  
through Community Participation



## Minimum Package for Quality(PMAQ) - Literacy: Reading/Writing- model to improve educational foundations through community participation

Pratham-JICA Experiences Sharing Workshop  
22, February 2018

## Summary

1. Testing « Learning Camp – Literacy »;
2. Revision and improvement of PMAQ Model ;
3. Pilot Activity of revised PMAQ Math-Lecture integrated model in 2017-2018;
4. Mid-line results of revised PMAQ Literacy model ;
5. Prospects and challenges of PMAQ model.

## « 10 days trial activity » of “Learning camps” approach

12 – 25, October 2017





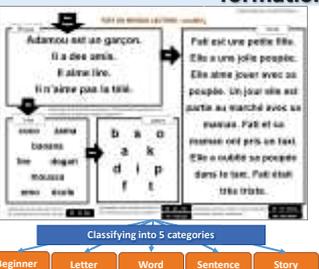
Trial activity based on « Learning camps » of Pratham after the seminar in India in July 2017

## Outlines of « 10 days trial activity »

- Target School: 1 primary school in rural area
- Target pupils : Total 81 students from 3rd to 6th grade (girls 41 boys 40 )
- Period : **90min per day for 10 days** from 12th to 25th oct. 2017 (Day 1 and Day 10 : level tests (based on ASER test method), Day 2: demonstration of the activities ; Day 3 to Day 9 (7 days): Group activity according to the students' levels)
- Contents of activities: combination of different activities/exercises based on the 4 principals activities - « Loud Reading », « phonetic activities », « vocabulary exercises » and « Writing »
- Average attendance rate at the activity : **96%**



## TEST (ASER test method) and Working group formation

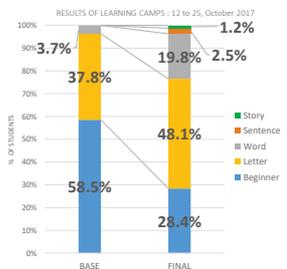


**Working Group formation :**  
3 groups based on the results of reading test (PRETEST)

GROUPS	Number of the students
Beginner (1)	23 (Girls 13 Boys 10)
Beginner (2)	24 (Girls 13 Boys 11)
Letter and Word	34 (Girls 15 Boys 19) : Letter-31, Word-3

## Tests Results: Baseline - End-line

		PRETEST : Oct. 12, 2017				
Grade	Beginner	Letter	Word	Sentence	Story	
3rd	15	4	0	0	0	
4th	12	10	1	0	0	
5th	13	3	0	0	0	
6th	8	14	2	0	0	
TOTAL	48	31	3	0	0	
%	58.5%	37.8%	3.7%	0%	0%	
		POSTTEST : Oct. 25, 2017				
Grade	Beginner	Letter	Word	Sentence	Story	
3rd	15	4	0	0	0	
4th	5	13	2	2	0	
5th	3	12	1	0	0	
Grade 0	10	13	0	1		
TOTAL	23	39	16	2	1	
%	28.4%	48.1%	19.8%	2.5%	1.2%	
(Gain)	-30.1%	+10.3%	+16.1%	+2.5%	+1.2%	



### Remarks (1): effectiveness

#### GENERAL

- **Making fast progress**
- **Changing behaviours of children** (more active) through the participatory activities ;
- **Highly interesting the students** in learning aroused by participatory and play activities : good attendance rate ;

#### ASSESSMENT (ASER test)

- Easy and practical for analysing the results (students' levels) and working group formation ;

#### WORKING GROUP BASED ON STUDENTS' COMPETENCES

- Meeting better to the actual needs of students based on their actual abilities (if working group formation has been correctly formed done) ;

### Remarks (1): effectiveness

#### WORKING METHOD: plenary, in sub-groups, individual

- Keeping interests/attention of the students with various types of learning activities ;
- Learning by helping each other among students

#### ACTIVITIES

- **Loud Reading** : helping the students to learn the notion and the principles of "READING" by themselves ;
- **Syllable (phonetic) chart** : simple and effective to learn letters, syllabic, phonetic and also the mechanism of combination
- **Mind map/words(letters)games** : arousing children's interest in learning; encouraging children to develop their own thoughts
- **Writing in script and writing on the floor** : more comfortable for children to practice writing exercises with effective use of direct environment of the classroom;

### Remarks (2): Challenges

- **Gaps among the students' abilities even in the same group of « Beginner » level** : the majority of students were classified into « beginner » level, then there were the significative gaps in their abilities between the students ;
- **Unavailability of qualified persons as instructor/facilitators** (very limited capacity of teachers and community volunteers) ;
- **Unavailability of classroom with cement floor**: only 40% of classrooms are concrete building ;
- **Teaching language is not mother tongue** : very limited stock of knowledge even 3<sup>rd</sup> grade students ;
- **Extremely poor writing skills/ability and limited vocabularies(French)** : too difficult to develop "mind map" for many children by themselves
- **Strong needs to improve the learning of 1<sup>st</sup> and 2<sup>nd</sup> grade students** : poor "pre-acquisition" of students, necessary to have the involvement and the commitment of every members of the community

### Strategies for adaptation based on lessons learned

- **Add another level of group « INITIAL »** for the students who don't have any notion of letter nor writing ;
- **Reform regularly the working-groups** based on the result of periodic tests ;
- **Involve strongly the teachers into the activity** to ensure enough number of the instructors(facilitators) and to have some positive effects at the school ;
- **Systemize a session and provide the framework of the activities in the workbooks and the instructor-guide** for proper application/implementation and quality-control ;
- **Use/combinate National languages as well as French in the workbooks and the activities** to help the students to learn letters, syllabic, phonetic senses in reinforcing the vocabulary of French ;
- **Introduce "Writing of letters in script"** : easily assimilated by children ;
- **Apply the approach into supplementary study out of school through community participation** to increase learning time for students.

## Revision and improvement of PMAQ Literacy Model

### Principal points of PMAQ Literacy revised Model (1)

Aspects	Strategies/elements adopted
<b>Targets</b>	❖ <b>All grades' students</b> in combining the activities for learning and for remediation for 1 <sup>st</sup> and 2 <sup>nd</sup> grade students
<b>Duration/ timetable</b>	❖ Flexible <b>according to the program made and validated by the community</b> with ensuring regularity and time of the activities ; ❖ <b>Supplementary studies outside of the school (Extra school)</b> (after school, Night study)
<b>Facilitators</b>	❖ <b>Teachers and community members</b> chosen by the community ❖ <b>Volunteer work</b>
<b>Achievement tests</b>	❖ Start by an achievement test (baseline) and periodical assessment ❖ <b>ASER method</b> ❖ Frequency : every 10 sessions ❖ <b>Classifying 6 Categories</b> : initial, beginner, letter, word, sentence, story
<b>Group formation</b>	❖ <b>Group formation of students into 6 groups</b> according to their abilities based on the results of achievement tests : <b>initial, beginner, letter, word, sentence, story to ensure "learning/teaching at the right level"</b> ❖ <b>Frequent groupe Re-formation</b> after each periodic test according to the number of sessions

Principal points of PMAQ Literacy revised Model (2)	
Aspects	Strategies/elements adopted
<b>Proceeding in session</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ <b>Systemizing</b> the activities/proceeding of the sessions to ensure the quality of the activities for "active and participatory learning"</li> <li>❖ Combination of 4 <b>moments of principal activities</b> : Loud Reading, Phonetic Activity, Vocabulary, Writing</li> </ul>
<b>Contents/ Principal activities</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ <b>Basic Competencies</b> : alphabets, syllabics, literacy</li> <li>❖ 4 moments principal activities :               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ <b>Loud Reading</b> with a short story of the day</li> <li>➢ <b>Phonetic Activities</b> with the syllabic charts</li> <li>➢ <b>Vocabulary Activities/games</b> : mind map, word-card games, ....</li> <li>➢ <b>Writing</b> in script</li> </ul> </li> </ul>
<b>Working method</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ Combination of 3 <b>different working methods</b> : in plenary, in sub-group, in individual (4 moments of principal activities are carried out by these 3 working methods)</li> </ul>
<b>Use of working tools (workbooks)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ <b>Individual and personal workbook for each student</b></li> <li>❖ Facilitating students' works and guiding the activity process by facilitators</li> <li>❖ Supplementing insufficiencies of learning environment/materiel and abilities/competencies of facilitators</li> <li>❖ Contents: activities of each session, short story of the day, alphabet chart, syllabic charts</li> </ul>

**Workbook: Initial/beginner**

Session subject

Today's Short story: Loud Reading

Vocabulary Game

Alphabet chart and syllabic chart

Writing Exercises

Syllabic formation

**Workbook: Letter/Word**

Session subject

Today's Short story: Loud Reading

Vocabulary Game: mind map

syllabic chart

Vocabulary Game

Writing Exercises

**Pilot activity for PMAQ Integrated model « Lecture – Math » in 2017/2018**

PMAQ Literacy Part

**TEST (ASER test method) and Working group formation according to the competencies of students**

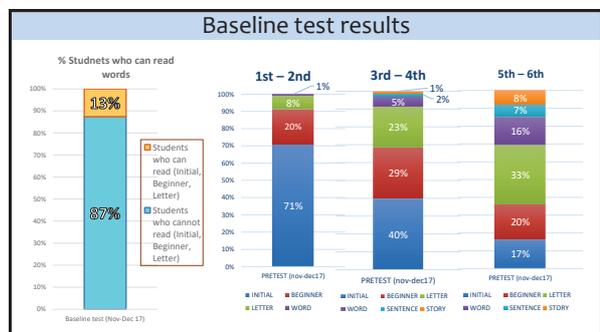
Reading

PRETEST : nov-dec 2017

Grade	% of students per category					
	Initial	Beginner	Letter	Word	Sentence	Story
1st	89%	8%	3%	0%	0%	0%
2 <sup>nd</sup>	58%	29%	11%	2%	0%	0%
3 <sup>rd</sup>	48%	29%	17%	4%	1%	0%
4 <sup>th</sup>	31%	28%	29%	6%	3%	2%
5 <sup>th</sup>	23%	17%	35%	15%	6%	4%
6 <sup>th</sup>	11%	22%	32%	17%	8%	11%
<b>Total</b>	<b>44%</b>	<b>23%</b>	<b>21%</b>	<b>7%</b>	<b>3%</b>	<b>3%</b>

Classifying into 6 categories and forming working groups according to the results

Initial Beginner Letter Word Sentence Story



### Outline of the PMAQ Literacy Activities in the integrated PMAQ model

- **Targets:** more than **7700 students** of 53 schools in rural area
- **Facilitators:** in total **388 facilitators (154 community volunteers)**; 7.3 facilitators (2.9 community volunteers) per school
- **Activity Hours per school:** 231 hours per year; **120 hours per year (5H per week) for the PMAQ Literacy activities**
- **Student Monitoring:** **126 members of the communities, on average 2.6 per school**, are in charge of monitoring of students' attendance at PMAQ activities

### PMAQ Literacy



Mutual aide among the students



Sub-Group discussion led by a group leader called "Village chief"



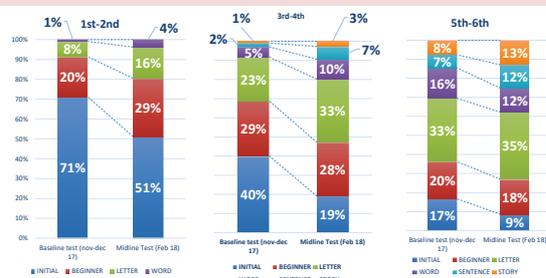
Active and participatory learning with various exercises/games

### VIDEO:PMAQ Lecture



### Mid-line Results of the revised PMAQ Literacy Model

#### Mid-line test Results



#### Other positive effects

- ❖ Reinforced relationships between schools and communities
- ❖ Changed behaviours of teachers toward students especially those who are behind the others in the class
- ❖ Improved student attendance in the regular class
- ❖ Increased study time for students
- ❖ Raised awareness and the commitments of parents for children's learning.....

## Prospects and challenges

### Prospects

- Scale up and spread the PMAQ Math-Reading integrated Model all over the country of Niger ;
- Reinforcement of communication and advocacy to Ministry of Education and donors in order to have political commitments and realize the scale-up and the generalization of the model ;
- **Improvement of the effectiveness of the PMAQ Model** to guarantee the conclusive results in a large scale in the country.

### Challenges (1)

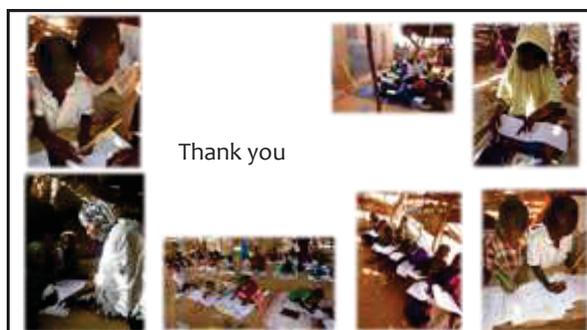
DIFFERENTIATE LEARNING ET ACTIF-PARTICIPATIF LEARNING (Learning/teaching at the right level)		
1	<b>Effective Learning of students behind the others</b>	❖ How to ensure the progress and the active-participatory learning for all the students, especially for students who are behind the others in the working group in spite of limited quality and quantity of facilitators ?
2	<b>Quality/effectiveness of “(sub) group work” in working method</b>	❖ How to ensure the quality and the effectiveness of “sub-group work” in the activity to enable all the students to participate ? ❖ What techniques, mechanism, system or methods should be installed ?

### Challenges (2)

FACILITATORS		
3	<b>Abilities of facilitators</b>	❖ How to ensure the quality of the activities which makes the remarkable outcomes in spite of the limited competencies of facilitators?
4	<b>Capacity development of facilitators</b>	❖ How to develop enough capacity of all the facilitators to ensure the quality of the activities in spite of limited resources? ❖ What strategies and contents have to be applied to the training for facilitators in order to ensure and maintain the quality of activities, especially for the scale-up of the model in the large scale implementation ?
5	<b>Motivation of facilitators</b>	❖ How to maintain motivations and commitments of volunteer facilitators?

### Challenges (3)

GENERALIZATION (ACTIVITIES IN THE LARGE SCALE)		
7	<b>Quality of the activities for convincing results/outcomes</b>	❖ How to ensure the activities of each school and each working-group which make the convincing outcomes/results in the large scale implementation ?
8	<b>Cost and logistics of learning tools</b>	❖ How to ensure the cost of learning tools and the logistics related to the tools in the large scale implementation and the generalization of the PMAQ model ?
9	<b>monitoring/support and date/information gathering</b>	❖ How to ensure the effective and sustainable monitoring/support of activities in spite of the context of limited resources ? ❖ How to gather and ensure reliable information in the large scale implementation?



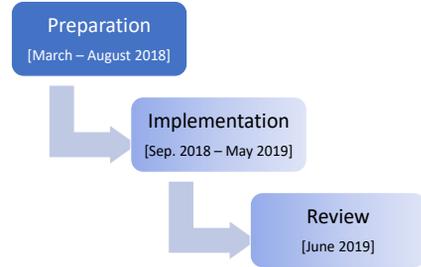
## Recommendation of the seminar

The two models, Pratham’s “Learning Camp” and JICA’s “Minimum Package for Quality Learning (PMAQ)”, both aim to improve learning outcomes in reading and arithmetic and thus can technically complement each other.

It is therefore recommended for Pratham and JICA to exchange their respective expertise and eventually to implement small-scale pilot projects in India, Niger and Madagascar in order to have refined models enabling the respective countries to fight against the “Learning Crisis”.

1

## Tentative action plan for the overall process of implementing pilot projects



Remarks: The above-proposed action plan is subject to approval of all relevant parties.

2

## Tentative action plan for preparation of pilot projects

	Month in 2018							
	3	4	5	6	7	8		
Workshop for improving the “Learning Camp” model in India:								
- Approx. 12 days		X						
- JICA experts (2 persons) to be dispatched		X						
- Activities to be done according to the needs		X						
Workshop for improving the PMAQ model in Madagascar:								
- Approx. 10 days				X				
- Pratham experts (2 persons) to be invited				X				
- Training materials to be revised				X				
- Training of trainers to be provided								
Workshop for improving the PMAQ model in Niger:								
- Approx. 10 days					X			
- Pratham experts (2 persons) to be invited					X			
- Training materials to be revised					X			
- Training of trainers to be provided								

Remarks: The above-proposed action plan is subject to approval of all relevant parties.

3

# JICA community-based “well-functioning SMC MODEL”: Training of master trainers

Feb. 3rd to 7th 2020

## Questions

“Do the SMCs work well?”

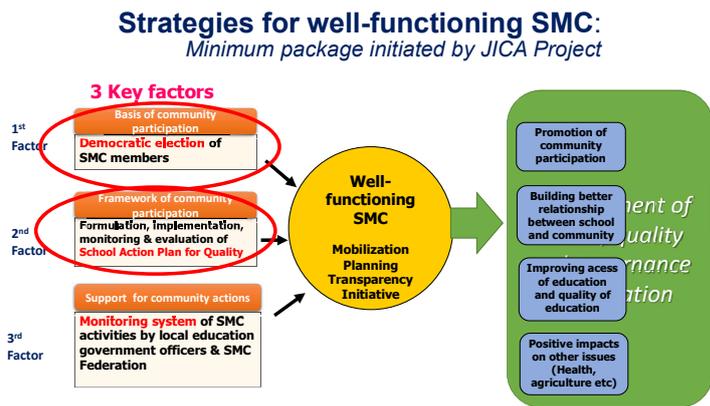
1) What kind of problems your schools have ? Who can solve the problems?

2) Why SMC doesn't work ? Why people don't participate in school activity?

3) How what can be the solution?

### Experiences in Niger

- Outline of the SMC policy in Niger
- How was the situation in school in Niger before introduction of well-functioning SMC model ?
- What was the causes of the situation ?
- How the JICA SMC model can be the solution for the cause? Why?
- What kind of differences/changes was occurred in the school after introducing the JICA SMC model ?
- How is the situation after the nation-wide scale up? Any change? Effects?



Agenda	
Day	Topics
Monday, Feb. 3rd	Topic 1: Establishment of community-based SMC through democratic election
Tuesday, Feb. 4th	Topic 2: Process of formulation, implementation monitoring & evaluation of SMC school action plan for quality
Wednesday, Feb. 5th	Topic 3: SMC Resource management/ community audit
Thursday, Feb. 6th	Training System Preparation of ToT (preparation of simulation)
Friday, Feb. 7th	Simulations of Training session for 3 topics

## Goals

To learn the JICA community based well-functioning SMC model and the approaches

To learn the training contents and the skills for the training on the JICA SMC model approach

To develop the ideas about the future training plan in your country

## Strategies and techniques of JICA well-functioning SMC training

Techniques of capacity development for effective community involvement

### Key elements of well-functioning SMC model pour la community wide support and collaboration

- Establishment of community-based democratic school management committee through democratic election with secret vote ;
- Community-wide participation in the PDAC cycle of School Action Plan;
- Transparency and accountability in Resource Management.

*How to lead the actors to develop these points?*

Capacity development of principal actors to lead the community members into the involvement/commitment in the matters of school

### Objectives of main SMC trainings

- (1) Establishment of community-based SMC through democratic election
  - To lead the participants (the headmasters) into promoting and well facilitating the election of qualified humane resources that can lead the SMC
- (2) Process of formulation, implementation and monitoring/evaluation of School Action Plan
  - To lead the SMC into mobilizing the community to solve the problems of the school ;
  - To lead the SMC to turn the community's resources into outcomes for improving the education in village
- (3) SMC Resource Management/community audit
  - To lead the SMC and the community member to internalize the mechanism of transparent and accountable resource-management

### WHAT STRATEGIES FOR CAPACITY DEVELOPMENT OF ACTORS, especially the community members ?

Techniques for carrying out the trainings and the information-sharing with communities:

- Simulations (role-playing) by the participants at the training sessions
- Sketches;
- Case study ;
- Simulations (role-playing) with the community members during General Assemblies

### Why simulation? Why so useful ?

- Adapting a training session to the communication way for communities
- helping the participants to acquire the contents of trainings
- Helping the participants to learn the technical skills of promotion and facilitation in discussion for better involvement of the community
- Leading the participants to acquire the skills of informing the community about the contents of the trainings in practical ways (case study, short plays)
- Leading the participants to preparer the community meetings for the communication/information in considering with peoples' reaction ;
- Helping the community to understand and acquire the contents of the training session (ex. mechanism and the process of resource management)
- Leading the community to be aware of their role and responsibility toward the school

### Example of simulation : Meeting with the village chief



## Example of simulation : Criteria of SMC member



## SIMULATIONS OF TRAINING SESSIONS BY THE PARTICIPANTS (DAY5, LAST DAY)

### Instruction for the session on Friday, Day 5

- Prepare and Simulate the training session for 3 topics :
- 1) Training on the establishment of community-based SMC through democratic election
  - 2) Training on the Process of formulation, implementation monitoring & evaluation of quality-oriented SMC school action plan
  - 3) Training on SMC Resource management/ community audit

### Grouping (to be confirmed)

Group	# of participants	Participants	Topic	Sub topics
1			<b>SMC member Election</b>	
2			<b>School Action Plan</b>	
3			<b>Resource Management</b>	

- Preparation : Feb 6<sup>th</sup> (2 hours)
- Presentation : 20 min per group
- Discussion and Wrap up : 20 min per group

# JICA community-based “well-functioning SMC MODEL”: Training of master trainers

Feb. 3rd to 7th 2020

## Questions

“Do the SMCs work well?”

1) What kind of problems your schools have ? Who can solve the problems?

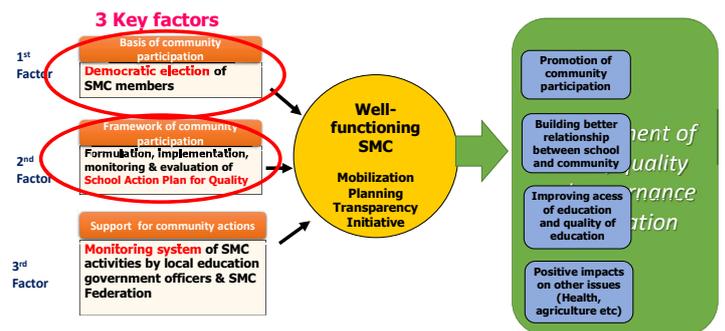
2) Why SMC doesn't work ? Why people don't participate in school activity?

3) How what can be the solution?

## Experiences in Niger

- Outline of the SMC policy in Niger
- How was the situation in school in Niger before introduction of well-functioning SMC model ?
- What was the causes of the situation ?
- How the JICA SMC model can be the solution for the cause? Why?
- What kind of differences/changes was occurred in the school after introducing the JICA SMC model ?
- How is the situation after the nation-wide scale up? Any change? Effects?

## Strategies for well-functioning SMC: Minimum package initiated by JICA Project



## Agenda

Day	Topics
Monday, Feb. 3rd	Topic 1: Establishment of community-based SMC through democratic election
Tuesday, Feb. 4th	Topic 2: Process of formulation, implementation monitoring & evaluation of SMC school action plan for quality
Wednesday, Feb. 5th	Topic 3: SMC Resource management/ community audit
Thursday, Feb. 6th	Training System Preparation of ToT (preparation of simulation)
Friday, Feb. 7th	Simulations of Training session for 3 topics

## Goals



To learn the JICA community based well-functioning SMC model and the approaches



To learn the training contents and the skills for the training on the JICA SMC model approach



To develop the ideas about the future training plan in your country

## Strategies and techniques of JICA well-functioning SMC training

Techniques of capacity development for effective community involvement

### Key elements of well-functioning SMC model pour la community wide support and collaboration

- Establishment of community-based democratic school management committee through democratic election with secret vote ;
- Community-wide participation in the PDAC cycle of School Action Plan;
- Transparency and accountability in Resource Management.

*How to lead the actors to develop these points?*

Capacity development of principal actors to lead the community members into the involvement/commitment in the matters of school

### Objectives of main SMC trainings

- (1) Establishment of community-based SMC through democratic election
  - To lead the participants (the headmasters) into promoting and well facilitating the election of qualified humane resources that can lead the SMC
- (2) Process of formulation, implementation and monitoring/evaluation of School Action Plan
  - To lead the SMC into mobilizing the community to solve the problems of the school ;
  - To lead the SMC to turn the community's resources into outcomes for improving the education in village
- (3) SMC Resource Management/community audit
  - To lead the SMC and the community member to internalize the mechanism of transparent and accountable resource-management

### WHAT STRATEGIES FOR CAPACITY DEVELOPMENT OF ACTORS, especially the community members ?

Techniques for carrying out the trainings and the information-sharing with communities:

- Simulations (role-playing) by the participants at the training sessions
- Sketches;
- Case study ;
- Simulations (role-playing) with the community members during General Assemblies

### Why simulation? Why so useful ?

- Adapting a training session to the communication way for communities
- helping the participants to acquire the contents of trainings
- Helping the participants to learn the technical skills of promotion and facilitation in discussion for better involvement of the community
- Leading the participants to acquire the skills of informing the community about the contents of the trainings in practical ways (case study, short plays)
- Leading the participants to preparer the community meetings for the communication/information in considering with peoples' reaction ;
- Helping the community to understand and acquire the contents of the training session (ex. mechanism and the process of resource management)
- Leading the community to be aware of their role and responsibility toward the school

### Example of simulation : Meeting with the village chief



## Example of simulation : Criteria of SMC member



## SIMULATIONS OF TRAINING SESSIONS BY THE PARTICIPANTS (DAY5, LAST DAY)

### Instruction for the session on Friday, Day 5

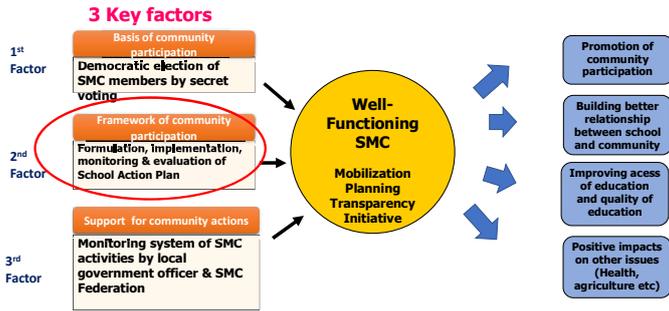
- Prepare and Simulate the training session for 3 topics :
- 1) Training on the establishment of community-based SMC through democratic election
  - 2) Training on the Process of formulation, implementation monitoring & evaluation of quality-oriented SMC school action plan
  - 3) Training on SMC Resource management/ community audit

### Grouping (to be confirmed)

Group	# of participants	Participants	Topic	Sub topics
1			<b>SMC member Election</b>	
2			<b>School Action Plan</b>	
3			<b>Resource Management</b>	

- Preparation : Feb 6<sup>th</sup> (2 hours)
- Presentation : 20 min per group
- Discussion and Wrap up : 20 min per group

## Strategies for well-functioning SMC: Minimum package initiated by JICA Project



JICA well-functioning SMC model : Topic (2)

# SCHOOL ACTION PLAN FOR QUALITY IMPROVEMENT

Community participatory planning process:  
formulation, implementation and monitoring/evaluation of school actions plan

## Examples of achievement Tests in numeracy : 4 basic operations

**SECTION 1: Simple addition**

- $2 + 1 = 7$ )  $7 + 3 =$
- $2 + 3 = 8$ )  $4 + 6 =$
- $4 + 0 = 9$ )  $5 + 5 =$
- $3 + 4 = 10$ )  $9 + 2 =$
- $7 + 2 = 11$ )  $6 + 6 =$
- $4 + 4 = 12$ )  $8 + 5 =$

**SECTION 3: addition/subtraction 2 digits**

$$\begin{array}{r} 25) 52 \\ +5 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 26) 21 \\ +4.3 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 27) 9 \\ +3.4 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 28) 6.9 \\ +1.6 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 29) 3.6 \\ -1.4 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 30) 7.9 \\ -3.9 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 31) 4.3 \\ -2.7 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 32) 7.0 \\ -4.4 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 33) 3.8 \\ +9.1 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 34) 1.7 \\ +9.8 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 35) 9.1 \\ +9 \\ \hline \end{array}$$

**SECTION 5: addition/subtraction 3-4 digits**

$$\begin{array}{r} 45) 523 \\ +17.4 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 46) 283 \\ +40.7 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 47) 425 \\ +29.8 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 48) 879 \\ +36.5 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 49) 335 \\ -13.2 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 50) 508 \\ -20.6 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 51) 997 \\ -96.3 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 52) 640 \\ -41.8 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 53) 791 \\ -49.3 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 54) 505 \\ -26.9 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 55) 7524 \\ +587.6 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 56) 9231 \\ -395.8 \\ \hline \end{array}$$

**SECTION 2: Simple subtraction**

- $3 - 2 = 19$ )  $10 - 5 =$
- $4 - 1 = 20$ )  $10 - 8 =$
- $5 - 5 = 21$ )  $10 - 0 =$
- $8 - 6 = 22$ )  $12 - 3 =$
- $7 - 2 = 23$ )  $10 - 5 =$
- $9 - 9 = 24$ )  $17 - 9 =$

**SECTION 4: multiplication**

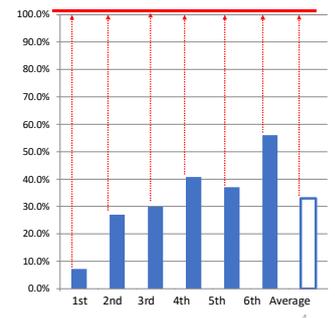
- $2 \times 2 = 41$ )  $3 \times 6 =$
- $5 \times 1 = 42$ )  $6 \times 8 =$
- $4 \times 9 = 43$ )  $7 \times 7 =$
- $8 \times 3 = 44$ )  $1 \times 5 =$
- $9 \times 4 =$

**SECTION 6: Division**

- $2 / 2 =$
- $15 / 5 =$
- $24 / 8 =$
- $16 / 3 =$
- $48 / 7 =$

## Examples of results : achievement test (4 basic operations)

Average per grade		
grade	score	% correct answer
1st	0.86/12	7%
2nd	6.49/24	26%
3rd	13.19/44	30%
4th	22.84/56	41%
5th	22.57/61	37%
6th	34.15/61	56%



**SECTION 1: Simple addition**

- $1 + 3 =$
- $3 + 2 =$
- $0 + 4 =$
- $5 + 2 =$
- $2 + 7 =$
- $4 + 3 =$
- $7 + 3 =$
- $2 + 8 =$
- $4 + 7 =$
- $8 + 6 =$

**SECTION 2: Simple subtraction**

- $4 - 1 =$
- $3 - 2 =$
- $5 - 5 =$
- $8 - 2 =$
- $9 - 6 =$
- $7 - 0 =$
- $10 - 7 =$
- $10 - 0 =$
- $19 - 4 =$
- $16 - 9 =$

**SECTION 3: addition/subtraction 2 digits**

$$\begin{array}{r} 32 \\ +2.6 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 74 \\ +3 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 8 \\ +8.4 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 26 \\ +5.7 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 89 \\ -4.8 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 63 \\ -1.9 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 53 \\ -4.4 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 45 \\ -8 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 70 \\ +8.3 \\ \hline \end{array}$$

**SECTION 4: multiplication**

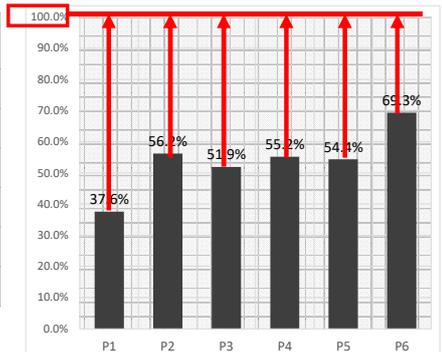
- $2 \times 3 =$
- $1 \times 7 =$
- $4 \times 6 =$
- $8 \times 7 =$
- $0 \times 2 =$
- $9 \times 9 =$
- $5 \times 10 =$
- $3 \times 11 =$
- $59 \times 6 =$
- $74 \times 8 =$

**SECTION 5: Division**

- $8 + 2 =$
- $7 + 7 =$
- $0 + 9 =$
- $36 + 6 =$
- $9 + 1 =$
- $80 + 2 =$
- $69 + 3 =$
- $30 + 9 =$
- $2 \overline{) 97}$
- $8 \overline{) 75}$

## Example of diagnostic test results : Math

grade	Section	Average score	Correct response rate
1	1	3.8/10	37.6%
2	1, 2	11.2/20	56.2%
3	1,2,3,4	20.8/40	51.9%
4	1,2,3,4	22.1/40	55.2%
5	1,2,3,4,5	27.2/50	54.4%
6	1,2,3,4,5	34.6/50	69.3%



Test date: March

**TEST Reading**

**1<sup>st</sup> step**

**Para**

Kofi is a boy.  
He has many friends.  
He loves to run.  
He doesn't like to sing.

**OR**

**Para**

Efua is a little girl. She had a pretty doll. She loved playing with her doll. One day the doll fell from her hand to the floor. It broke into many pieces. Efua was very sad. She cried a lot. Her mother gave her another doll. Now she is happy again.

**Word**

ring bad  
ball  
cold king  
foot  
fun clap

**Letter**

b s o  
a k  
d i p  
f t

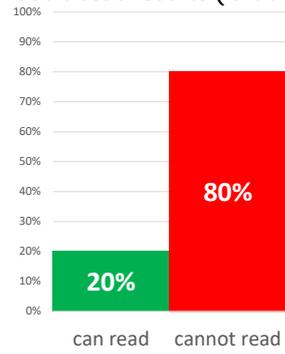
Can she read correctly and fluently with less than 3 mistakes?

Can she read correctly at least 4 words?

Can she read correctly at least 5 letters?

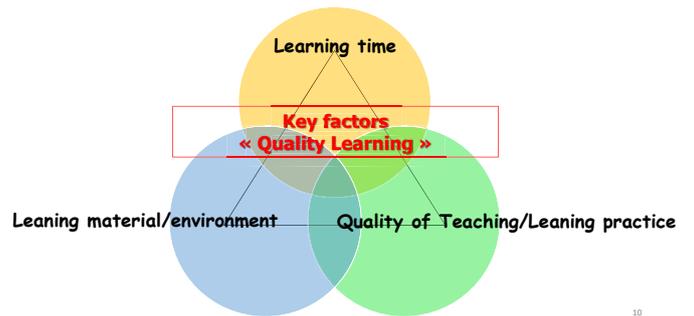
Can she read correctly and fluently without more than 3 mistakes?

Example of diagnostic test results (Grade 4 –Grade 6) : Reading



What is the problem?  
Why children have problem in learning?

Three key factors influencing on the quality of education



Factors	Problems	Solution/Activities realisable and relevant in local level
Leaning time		
Leaning materiel/evironement		
Quality of Teaching/leaning practice		

- To realize the solutions, what to do? What we need?
- Community participation/mobilization
  - Resource mobilization
  - Planning
  - School Action Plan for quality improvement

## Question

• The people don't participate in school activities. Then also the resource mobilized from the community is not enough to implement the activity of School Action Plan

- What is the cause of this situation?
- What can be a solution?
- Why it can be the solution?

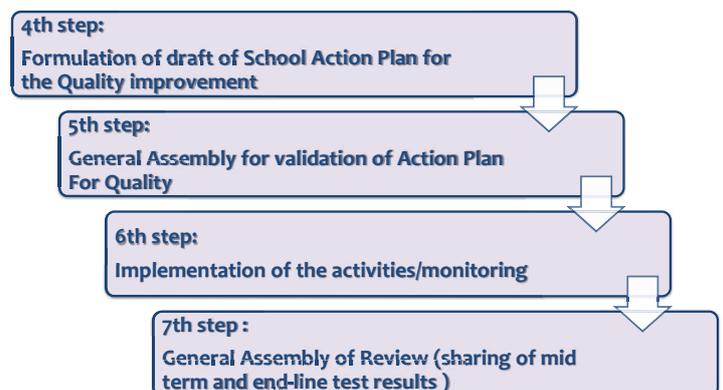
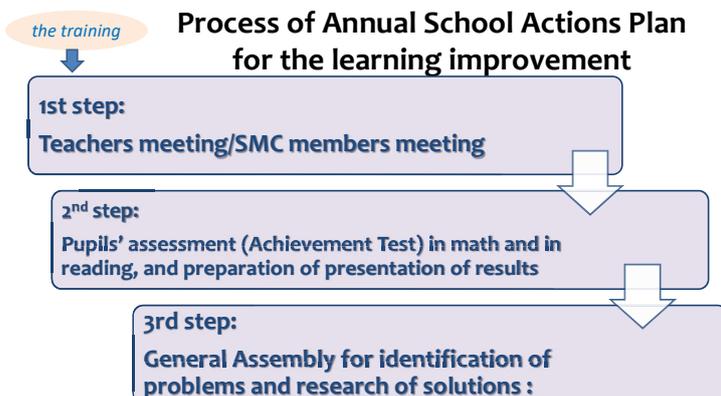
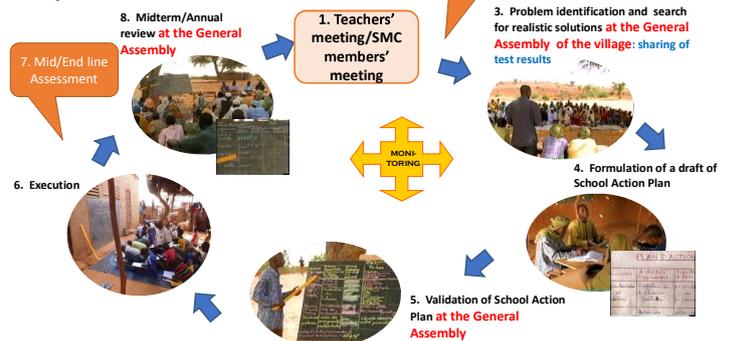
## Experiences of Niger

- The situations and the problems in the community mobilization before introducing « well-functioning SMC model »?
- The causes/reasons and the challenges of these situation?
- The changes/differences occurred in community mobilization after introducing « well-functioning SMC model »?
- the reasons of the changes?
- What kind of community actions taken for the problems?

## VIDEO: MINIMUM PACKAGE FOR LEARNING QUALITY



## How does the community participate in education improvement? The process of School Action Plan



**1st step:**  
**Teachers meeting/SMC members meeting**

**Step1 (1): Teachers meeting**

**Principal discussion points:**

- **Concept of School Action Plan for Quality integrating the learning support activities;**
- **Issues/problems of the school, especially pupils' low performance;**
- **Vision and goals** to be reached through School Action Plan for Quality integrating the learning support activities;
- **Interests** for teachers in improving the performance of their pupils;
- **Usefulness** to take effective actions to improve pupils' performance, especially basic skills;
- Explanation of Let's play the simulation (role-playing)!
- **Process of formulating the School Action Plan for Quality integrating the learning support activities through the Community General Assemblies with all of community members**
- **Necessity** to conduct pupils' assessment (achievement test) and to share the results with the community
- **Importance** to organize remedial activities using effective tools and approaches for the pupils in all grades ;
- Detailed explanation of all the steps in the organization of the achievement tests;]
- Planning the assessment schedule and the remedial activities calendar to be shared with the community.

**Example of Simulation: Teacher's meeting**

**Actors :** Head teacher who received the training, teachers

**Sketch: Teachers' meeting**  
**Introduction by the head teacher:** outlines of the contents of the training, explication of contexts, importance to organize the remedial activity at the school, importance of the pupils' assessment etc.  
**Teachers:**  
 A teacher who reject the idea of planning the **School Action Plan for Quality** with the community in discussing how to use the school grant and other resources in the school;  
 2<sup>nd</sup> teacher who reject the idea of participating in the pupils' assessment and also in remedial activity out of school hours  
 3<sup>rd</sup> teacher who find some interests for the teachers to participate in remedial learning support activities out of school hours;  
 The headteacher tries to convince the teachers who are reluctant. Then in the end, the headteacher convinces his teachers to make a commitment to participate in the planning process of the **School Action Plan for Quality** , the assessment and the remedial learning support activities

**Step1 (2): SMC member meeting**

**Principal subjects of discussion :**

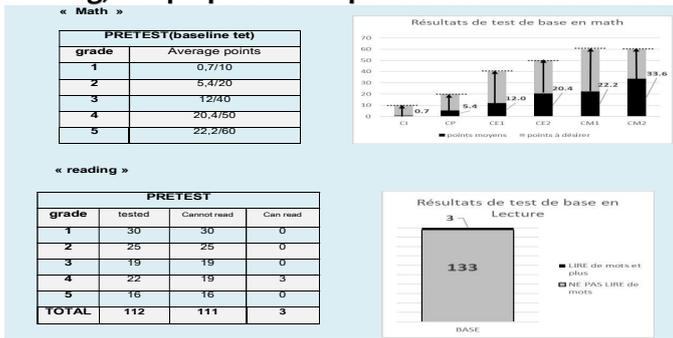
- **Concept of School Action Plan for Quality integrating the learning support activities;**
- **Issues/problems of the school, especially pupils' low performance;**
- **Vision and goals** to be reached through **School Action Plan for Quality** integrating the learning support activities;
- **Usefulness** to take effective actions to improve pupils' performance, especially basic skills; Let's play the simulation (role-playing)
- Explanation of innovative learning support activities;
- **Process of formulating the School Action Plan for Quality integrating the learning support activities through the Community General Assemblies with all of community members**
- **Necessity** to conduct pupils' assessment (achievement test) and to share the results with the community
- **Importance** to organize remedial activities using effective tools and approaches for the pupils in all grades;
- **Project of a calendar** of learning support activities to be proposed to the community.

**Example of Simulation: SMC meeting**

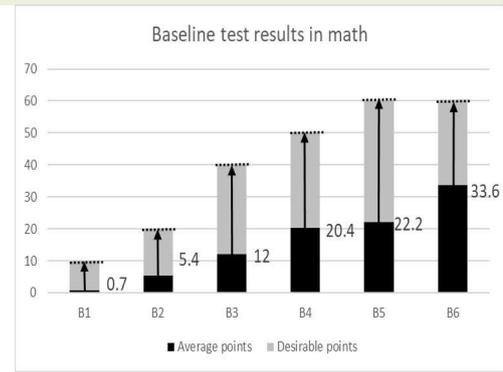
**Actors :** Head teacher and SMC chairperson who received the training, other SMC members

**2<sup>nd</sup> step:**  
**Pupils' assessment (Achievement Test) in math and in reading, and preparation of presentation of results**

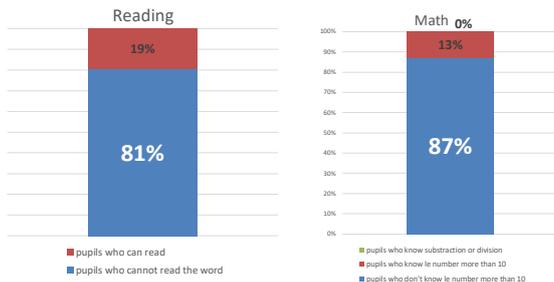
## Step2: Organization of pupils' assessment in math and in reading, and preparation of presentation of the results



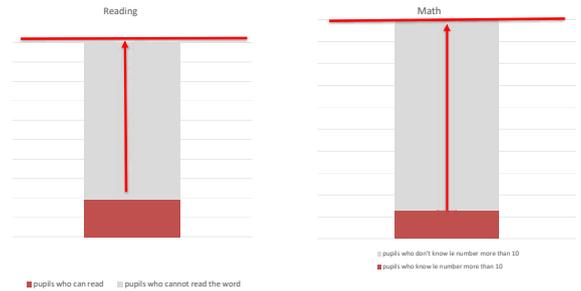
## Examples of the graphs of assessments' results



## Examples of the graphs of assessments' results



## Examples of the graphs of assessments' results



### 3rd step:

**General Assembly for identification of problems and research of solutions :  
sharing the assessment results and identifying learning support activities**

### Step 3: General Assembly

#### Identification of problem and research of solutions – planning of Learning Support Activities

##### 5 sub steps during the General Assembly :

- 1) Discussion on the community's expectations toward the school;
- 2) Presentation and comments on the table of the baseline assessment results;
- 3) Identification of relevant activities: explication of a community-based learning support activity
- 4) Prioritization - Choice of activities to be carried out (decision-making by the community) and commitment of the actors;
- 5) Discussion on the elements of planification of learning support activities.

Let's play the simulation (role-playing)

Example of Simulation:  
**General Assembly**  
**Identification of problem and research of solutions – planning of Learning Support Activities**

**Actors :** Headteachers, teachers, SMC members, village chief, parents of pupils, community members

(1) Discussion on the expectations of the community toward to the school

- To stimulate the discussion and also to show the importance of the basic skill of reading and calculation, the sketches are useful.
- For example....

**Sketch 1 : calculation (shopping case)**  
 Samira is a grade 5 pupil. Her mother sends her to the market with 500 yen to buy some ingredients," 100 yen of flour, 100 yen of salt, I will give you 500 yen. Do you have any other things to buy? Her mother said, "I will give you 500 yen, so you can buy 100 yen of flour, 100 yen of salt, and 100 yen of sugar. You have 80 yen of change left."

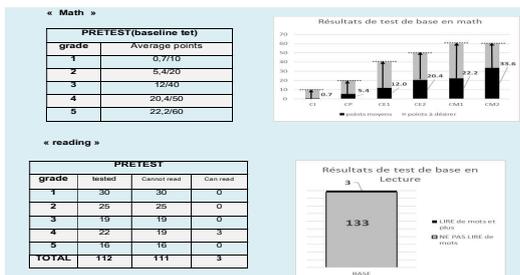
**essential abilities for children in their life**

- Reading ;
- Writing ;
- ± Calculation

**Sketch 2 : reading (text message)**  
 A head of the family received a text message from his grandchild who was studying abroad, he asked his grand son to read it, who is attending at the 3rd grade, he said "a a e...I don't know". Then he asked a grand daughter, 4th grade, she said, "I've never learned this kind of things"; he asked another grand son, who is at the 5th grade, "uuu....m.....oh....well...I think it's foreign language, probably Chinese. Not English"

(2) Presentation and comments of test results

- How to explain the results to the community members to make them understand and raise their awareness ?



(3) Identification of relevant activities : Explication on community-based learning support activities

- How to lead the community into the effective activities to contribute to the improvement of pupils' learning?
- What kind of framework can be used?
- How to explain the key factors for the quality of learning to the community members to convince them?

1- Explication of Three key factors influencing on the quality of education



Need to act on these three factors, through :

- ✓ Increasing learning time through the organization of para-school learning activities (outside official school hours);
- ✓ Providing minimum learning materials
- ✓ Using effective learning tools and approach during remedial activities: exercises workbooks, community based approaches for learning, TaRL (Teaching at the Right Level) etc

(3) Identification of relevant activities : Explication on community-based learning support activities

2-Explication of the concept of leaning support activities

- Para school Remedial activities** planed in **School Action Plan for Quality** in the GA and supported by the community (material, human, moral...)
- Participation of **volunteer facilitators (teacher, community members)** chosen by the community during the GA to support pupils' learning
- Use effective learning tools and approach for the improvement of basic learning skill:** effectives teaching/leaning tools and approaches to improve the pupils' basic competencies

(3) Identification of relevant activities : Make a list of relevant activities

- What is the problems in our shool for each factor ?
- What activities are more relevant and realisable for us to directly act on the children in order to improve their basic learning skills ?

3- Make a list of relevant activities

Factors	Problems related to key factors	Relevant and achievable activities by the community
Learning time	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Absenteeism of pupils</li> <li>- Some pupils are always late in school</li> <li>- teachers are sometimes absent or late</li> <li>- school is sometimes closed because of teachers' strike</li> <li>- pupils don't study at home</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Organizing remedial learning activities for all grade pupils (para-school);</li> <li>- Organizing supplementary group studies</li> <li>- Monitoring Pupils' attendance;</li> <li>- Monitoring by headteacher,</li> </ul>
Learning Material and environment	<ul style="list-style-type: none"> <li>- some pupils don't have stationery</li> <li>- lack of manual</li> <li>- lack of learning material</li> <li>- lack of equipment</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Purchase of additional school supplies;</li> <li>- Purchase of manuals and guides,</li> <li>- Purchase of exercise workbook,</li> </ul>
Quality of Teaching/learning Practices	<ul style="list-style-type: none"> <li>- lack of teacher training</li> <li>- ineffective learning approach</li> <li>- lack of teacher monitoring/coaching</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Remedial learning activities with exercises workbooks;</li> <li>- Homework exercises;</li> <li>- Introducing effective learning tools</li> <li>- Introducing innovative learning activities (TaRL, M-PAQ tutoring, etc.);</li> <li>- Periodical assessment (achievement)</li> <li>- Class monitoring/coaching by head teacher</li> </ul>

#### (4) Prioritization – choice of activities (Decision making by the community)

- What activities take first priority?
- What activities can be realized based on our capacities and our resources?

Factors	Problems related to key factors	Relevant and achievable activities by the community
Learning time	- Absenteeism of pupils - Some pupils are always late in school - teachers are sometimes absent or late - school is sometimes closed because of teachers' strike - pupils don't study at home	- Organizing remedial learning activities for all grade pupils (para-school); - Organizing supplementary group studies - Monitoring Pupils' attendance - Monitoring by headteacher.
Learning Material and environment	- some pupils don't have stationery - lack of manual - lack of learning material - lack of equipment	- Purchase of additional school supplies; - Purchase of manuals and guides. - Purchase of exercise workbook.
Quality of Teaching/Learning Practices	- lack of teacher training - ineffective learning approach - lack of teacher monitoring/coaching	- Remedial learning activities with exercises workbooks; - Homework exercises; - Introducing effective learning tools - Introducing innovative learning activities (TaRI, M-PAQ tutoring, etc.); - Periodical assessment (achievement) - Class monitoring/coaching by head teacher

#### (5) Discussion on the elements for planification of learning support activities and commitment of actors

- What should we decide to implement the learning support activity?

- 1) **Target pupils:** for example, all pupils from P1 to P6;
- 2) **Schedule of the activity:** date, hours, period place, grouping;
- 3) **Provision of working materials:** school supply;
- 4) **Nomination of volunteer facilitators:** teachers, community members, past students, retirees, etc.;
- 5) **Nomination of persons in charge of pupils' participation in the activity**

#### (5) Discussion on the elements for planification of learning support activities and commitments of actors

- What is the role of each actors in learning support activities?

- 1) SMC members
- 2) Headteacher
- 3) Parents of pupils/community members
- 4) Teachers/facilitators
- 5) pupils

**4th step:**  
**Formulation of draft of School Action Plan for the Quality improvement**

### Step 4: Formulation of draft of School Action Plan for the Quality improvement

- What elements/information should be included in School Action Plan to facilitate the implementation and monitoring/evaluation?

- Domain
- Activities
- Period
- Tasks
- Cost
- Source of funding
- Actors of implementation
- Person in charge of the monitoring
- Total amount (community contribution, subventions)
- Note

#### Case study (Group work) : Formulation of a draft of School Action Plan for Quality

GA for identification of problems and solutions was organized by a SMC then the community decided to take the followings activities for this year's **School Action Plan for Quality**

List of the activities prioritized by the community :

1. Organisation of remedial learning activities for all grades pupils;
2. Purchase of textbooks and teacher's guides ;
3. Repair of desks and chairs ;
4. Organisation of periodic achievement tests (assessment)
5. Purchase of stationary for SMC (a 100 pages notebook, a stamp for SMC, ink)

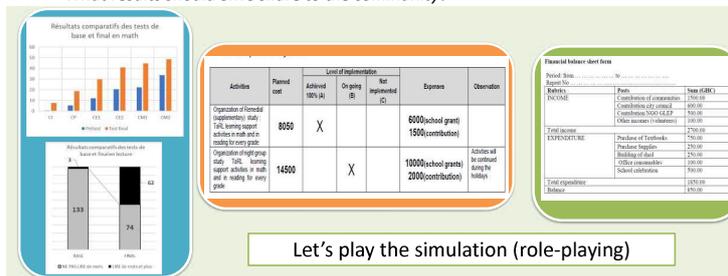
Instruction :

1. Formulate the draft of School Action Plan for Quality of SMC Naruto according to the framework



## Step 7: General Assembly of Review (sharing of mid term and end-line test results)

- What is the objective of this General Assembly?
- To achieve the objective, what should they discuss?
- What results should SMC share to the community?



## Example of the Review report

### Annual review sheet

- Domains
- Planned activities
- Planned amount
- Achievement level of activities
- Amount spent by activity
- Comments/observations

SAC Past Year/Current		Planned	Actual	Remarks	Expenses	Observations
Learning time	1. Conducting math exercises / remedial activities (AP/AR) for pupils in all grades (1-7)	245 Cedis	X		100 pencils 100 pens 20 glue 20 Cedis	The classes were regularly performed. The community decided to continue during summer holiday.
Learning Environment/Infra	2. Purchase of exercise workbook in grade	452 Cedis	X		10 reading booklets Transportation	Transport fee is cheaper than expected.
Quality Teaching/Learning Practices	3. Implementation of pupil assessment	178 Cedis	X		2 clip charts 40 pens 540 alignment copies 100 Cedis	
Operation cost	4. Participation in General Assembly of SAC Federation	49 Cedis	X		Annual Contribution fee 20 Cedis Transportation fee for vehicles 28 Cedis	Decision was postponed and general meeting will start from next month.
Total number of activities implemented : 3				Total amount of expenses : 983 Cedis		

## Simulations of steps by the participants

### Instruction of simulation

- Prepare and simulate the following steps
  - 1) Teachers' meeting
  - 2) SMC members' meeting
  - 3) Community General Assembly to identify problems and search for solutions
  - 4) Community General Assembly for validation of **School Action Plan for Quality**
  - 5) Community General Assembly of Review: mid-term review and annual review

### Groups

Group	Number of participants	participants			Simulation
1	3				(1)
2	3				(2)
3	3				(3)
4	2				(4)
5	2				(5)

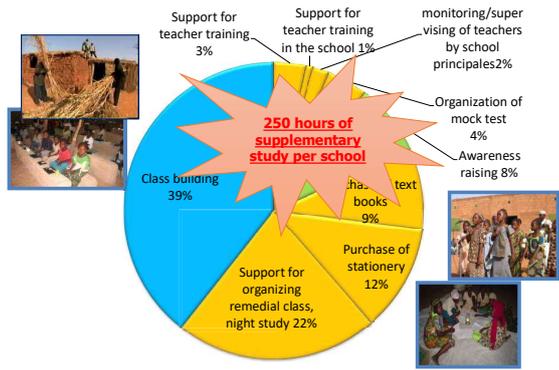
- Preparation : 30mins
- Presentation: 5 to 10 mins per group
- Discussion : 10mins per group

## Minimum Package for Quality(PMAQ)

- **MATHS** -  
model to improve educational foundations through community participation



### Realized activities of School Actions Plans Focusing on Quality (PAAQ)



### Examples of achievement Tests in numeracy : 4 basic operations

**SECTION 1: Simple addition**

1)  $2 + 1 = 7$     $7 + 3 =$   
 2)  $2 + 3 = 8$     $4 + 6 =$   
 3)  $4 + 0 = 9$     $5 + 5 =$   
 4)  $3 + 4 = 10$     $9 + 2 =$   
 5)  $7 + 2 = 11$     $6 + 6 =$   
 6)  $4 + 4 = 12$     $8 + 5 =$

**SECTION 3: addition/subtraction 2 digits**

25)  $\begin{array}{r} 52 \\ +5 \\ \hline \end{array}$    26)  $\begin{array}{r} 21 \\ +43 \\ \hline \end{array}$    27)  $\begin{array}{r} 9 \\ +34 \\ \hline \end{array}$   
 28)  $\begin{array}{r} 69 \\ +16 \\ \hline \end{array}$    29)  $\begin{array}{r} 36 \\ -14 \\ \hline \end{array}$    30)  $\begin{array}{r} 79 \\ -39 \\ \hline \end{array}$   
 31)  $\begin{array}{r} 43 \\ -27 \\ \hline \end{array}$    32)  $\begin{array}{r} 70 \\ -44 \\ \hline \end{array}$    33)  $\begin{array}{r} 38 \\ +91 \\ \hline \end{array}$   
 34)  $\begin{array}{r} 17 \\ +98 \\ \hline \end{array}$    35)  $\begin{array}{r} 91 \\ +9 \\ \hline \end{array}$

**SECTION 5: addition/subtraction 3-4 digits**

45)  $\begin{array}{r} 523 \\ +174 \\ \hline \end{array}$    46)  $\begin{array}{r} 283 \\ +407 \\ \hline \end{array}$    47)  $\begin{array}{r} 425 \\ +298 \\ \hline \end{array}$   
 48)  $\begin{array}{r} 879 \\ +365 \\ \hline \end{array}$    49)  $\begin{array}{r} 335 \\ -132 \\ \hline \end{array}$    50)  $\begin{array}{r} 508 \\ -206 \\ \hline \end{array}$   
 51)  $\begin{array}{r} 997 \\ -963 \\ \hline \end{array}$    52)  $\begin{array}{r} 640 \\ -418 \\ \hline \end{array}$    53)  $\begin{array}{r} 791 \\ -493 \\ \hline \end{array}$   
 54)  $\begin{array}{r} 505 \\ -269 \\ \hline \end{array}$    55)  $\begin{array}{r} 7524 \\ +5876 \\ \hline \end{array}$    56)  $\begin{array}{r} 9231 \\ -3958 \\ \hline \end{array}$

**SECTION 2: Simple subtraction**

13)  $3 - 2 = 19$     $10 - 5 =$   
 14)  $4 - 1 = 20$     $10 - 8 =$   
 15)  $5 - 5 = 21$     $10 - 0 =$   
 16)  $8 - 6 = 22$     $12 - 3 =$   
 17)  $7 - 2 = 23$     $10 - 5 =$   
 18)  $9 - 9 = 24$     $17 - 9 =$

**SECTION 4: multiplication**

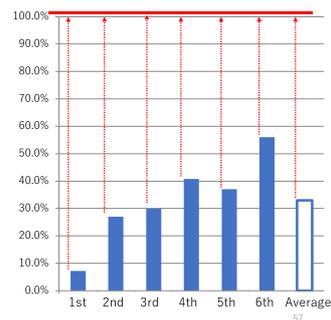
36)  $2 \times 2 = 41$     $3 \times 6 =$   
 37)  $5 \times 1 = 42$     $6 \times 8 =$   
 38)  $4 \times 9 = 43$     $7 \times 7 =$   
 39)  $8 \times 3 = 44$     $1 \times 5 =$   
 40)  $9 \times 4 =$

**SECTION 6: Division**

57)  $2 / 2 =$   
 58)  $15 / 5 =$   
 59)  $24 / 8 =$   
 60)  $16 / 3 =$   
 61)  $48 / 7 =$

### Examples of results : achievement test (4 basic operations)

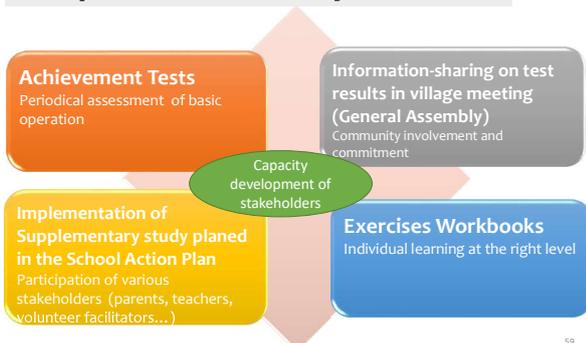
Average per grade		
grade	score	% correct answer
1st	0.86/12	7%
2nd	6.49/24	26%
3rd	13.19/44	30%
4th	22.84/56	41%
5th	22.57/61	37%
6th	34.15/61	56%



### MINIMUM PACKAGE FOR QUALITY (PMAQ) model to improve educational foundations through community participation



### Components of PMAQ

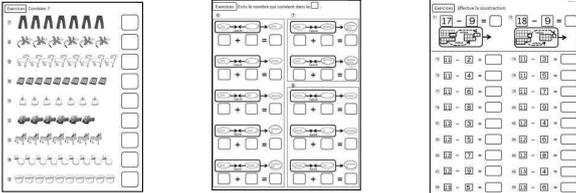


### Principles of approaches in workbook-activity of PMAQ Math to improve the competencies of every students

- Start by an **achievement test** and **allocation of workbooks at the right level** according to the results of baseline test
- Respect for **rhythm/pace of progress and ability of each student**
- Each student studies by himself (self-learning) and advance according to his own capacity ;
- Focus on **fundamental competencies** (Number sense, 4 operations)
- Individual and personal "Exercise Workbook" for each student
- **Progressive Learning step by step (small step)** to strengthen the knowledge with the repetitive method of notions
- Pedagogical procedure and approaches based on **teaching/learning at the right level** through various activities for **active and participatory learning**

## JICA workbook remedial activities : Principles

- The objective is improving pupils' fundamental competence, especially the notion of number and the four basic operations of arithmetic;
- Each pupil studies by himself (**self-learning**) and advances to the following pages according to his own capacity;
- Facilitators (teachers/community volunteers) accompany the pupils, providing individualized helps to each for the comprehension of instructions, checking their work and giving feedback



61

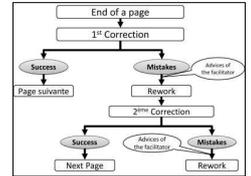
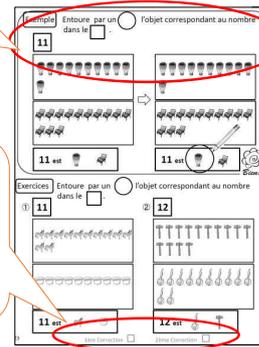
## How to support individual Learning?

**Example and Illustration**  
Helping student's self-study

**Correction/Evaluation**  
Facilitators make corrections individually for each page:  
With full marks, they can go to the next page

1st correction  2nd correction

**Instruction**  
Facilitators explain individually based on the progress of each student



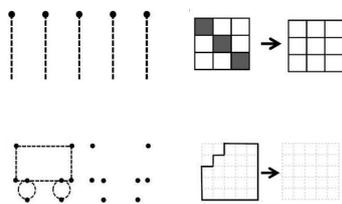
62

## Contents of PMAQ Math Workbooks

- Degree of difficulty of exercises gradually progresses;
- Various exercises are repeated to strengthen the knowledges;
- Progress page by page and book by book according to students' works and results.

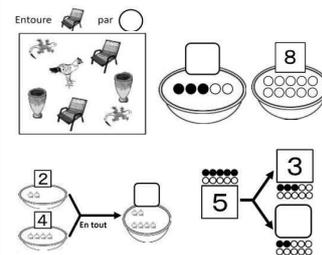
### Workbook PREMATH

- Introductory handwriting practices



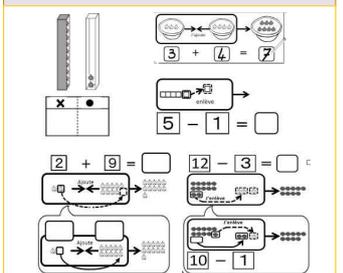
### Workbook N° 1

- Number sense: 0 - 10
- Composition/decomposition of numbers



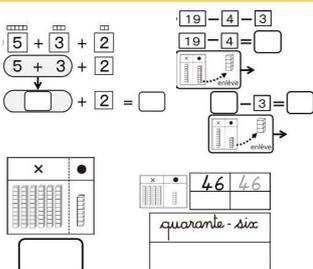
### Workbook N° 2

- Number sense: 11 - 20
- Addition/Subtraction without carrying/borrowing
- Addition/Subtraction with carrying/borrowing



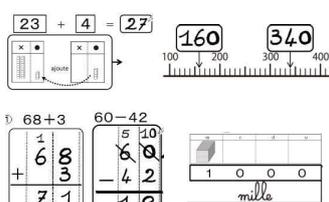
### Workbook N° 3

- Addition and subtraction of 3 numbers
- Number sense: 21 - 79



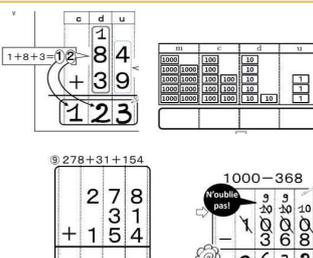
### Workbook N° 4

- Addition and subtraction of 2 digit numbers;
- Number sense: 80 to 120;
- Addition and subtraction: vertical;
- Number sense: until 1000



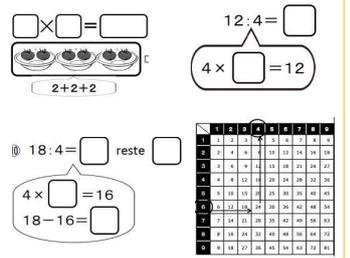
### Workbook N° 5

- Addition and subtraction of 2-3 digit numbers;
- Number Sense: until 1000;
- Addition and subtraction of 2-3 digit numbers: vertical



### Workbook N° 6

- Multiplication
- Division: basic
- Division with remainders



## Workbook N° 7

- ▶ Number sense 10000 - 100000000
- ▶ Multiplication : vertical

$21 \times 3 = 63$   
 $10000001$     $10000002$   
 $21 \times 3 = \square$   
 $1296 + 486 = 1782$

## Workbook N° 8

- ▶ Division : vertical
- ▶ Rules and techniques of calculation

$42 : 3 = 14$   
 $120 : 40 = 3$   
 $12 : 4 = 3$   
 $3 : 1 = 3$   
 $3 \times (6 - 4 : 2) = 3 \times (6 - 2) = 3 \times 4 = 12$

## PMAQ Math



Correction and coaching one by one



Working individually according to their own abilities



Working at the mixed grade group



Working at the village

## VIDEO: Workbook Activity of PMAQ Math



## Key factors of Community based Group Studies « Workbook Activity »

- Learning at the right level : **the progress in student's learning is based on her/his own abilities and competencies**, not based on her/his grade
- Supporting/leading/coaching by facilitators (teachers, community volunteers) : **explaining, correcting, coaching for each student on each page**
- Focus on key competencies to build the fundamental basis of numeracy
- Various type of different exercises in the workbook to strengthen the knowledge step by step
- Mixed grade study group : **creating NON CLASS atmosphere**
- **Information-sharing with the community** : check/monitoring of attendance at the activity, motivation/encouragement for all concerned, resource mobilization (human, material, finance)

70

## (6) Implementing workbooks

## Experiences of Niger

- The problems and the situation in Niger on the 3 factors of quality : learning time, learning environment and material, quality of learning/teaching
- What kind of community actions can work for the 3 factors? example?
- What kind of reactions/hesitation/refuse by the teachers did you get for the out of school learning activity?
- How did you convince them? What kind of discussion made?
- The advantage of this PMAQ activity? : the differences from other approaches or practices?
- The results/effects of the activity PMAQ?
- The challenges?

71

【JICA youtube sites】 School For All Project

- [https://www.youtube.com/watch?v=EfFpAL\\_PyXc](https://www.youtube.com/watch?v=EfFpAL_PyXc)(English)



Thank you



# SMC RESOURCE MANAGEMENT: Community Audit

mechanism of appropriate management and effective use for learning improvement for well-functioning SMC

GENERITIES OF RESOURCE MANAGEMENT OF SCHOOL MANAGEMENT COMMITTEE (SMC)

## Resources of SMC and schools

- What kind of resources can be available for the SMC and schools to implement their school action plans ?

Financial resources	Material resources	Human resources
<ul style="list-style-type: none"><li>☞ Contributions from parents of pupils;</li><li>☞ Contributions from community members;</li><li>☞ School grants/subsidies from state, local government, municipalities, and technical and financial partners. etc (cf. Capitation grants);</li><li>☞ Contributions from associations, local NGOs and goodwill;</li><li>☞ Proceeds of bazaars and events organized by SMC;</li><li>☞ Resources produced from income-generating activities : gardening, community common field, livestock, etc.</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>☞ school supplies;</li><li>☞ textbooks;</li><li>☞ school canteens;</li><li>☞ educational materials;</li><li>☞ Furniture/equipment (tables, chairs, desks, cabinets, blackboard, etc.)</li><li>☞ school infrastructure (classrooms, housing for teachers, latrines, storehouse, etc.);</li><li>☞ Computer, etc..</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>☞ Parents of pupils who participate in school and/or SMC activities ;</li><li>☞ Teachers ;</li><li>☞ Members of the SMC;</li><li>☞ Community members;</li><li>☞ Pupils.</li></ul>

- Why resource management ? Why this topic is necessary ?
- What is the risks if not?
- It is necessary to ensure and keep community's active participation and sufficient mobilization, how ?

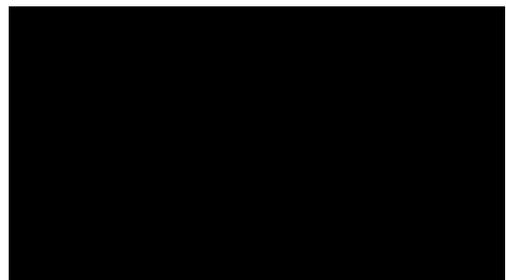
## Principles

1. Ensure transparency and accountability in Management
2. Respect to the objectives assigned for funds collected
3. Avoiding waste of resources
4. Ensuring legitimate expenses

Necessary to introduce the mechanism which ensures the accountability and transparency based on the principles in local level

COMMUNITY AUDIT

## VIDEO : Community Audit



## What is Community Audit?

### Definition

- **Community Audit** is a process through which the community ensures the transparent use and justification of SMC's financial and material resources management. This practice is carried out through a **mechanism of information sharing and periodic monitoring by the community in General Assembly (GA) at all stages**. As a result, it creates a climate of confidence between the community's beneficiaries and members of the SMC.

## Why Community Audit?

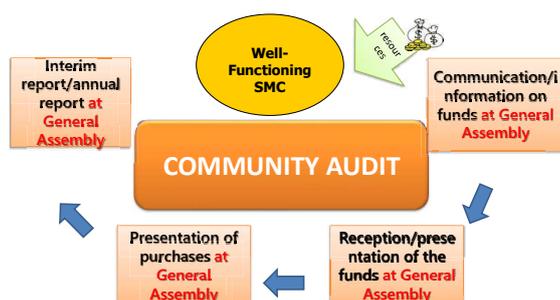
Why Community audit is useful? II what is the merits?

- Introduce transparency in the management of all kinds of funds for the school/SMC (contributions, school grants, etc);
- Build confidence between SMC members and community members;
- Avoid internal conflicts among SMC members;
- Have a clear situation, facilitate control and avoid frustrations at the SMC and community level;

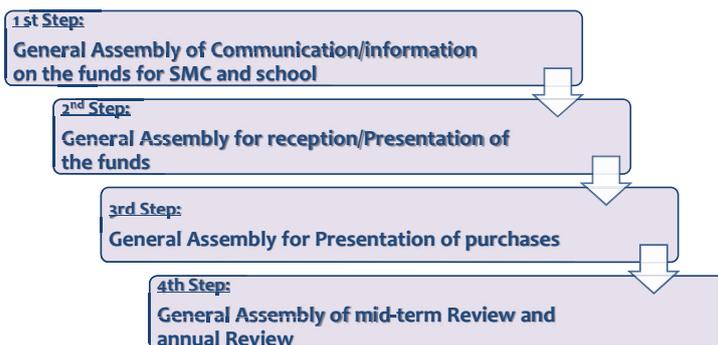


Sustainable community mobilization and participation

### Mechanisms of Community Audit



### Community Audit Process



### 1st Step : General Assembly of Communication/information on the funds

- What is the objective of this GA?
- What topics should be discussed to meet the objective?
- How to facilitate this GA ?

#### objectives

- let the community members learn about the nature of the funds, the amount and especially the objectives to be achieved;
- raise awareness for a collective commitment on the proper management of all resources.

#### Contents

1. **Annonce/communication about the financial resources (internal/external)**
  - for example, the expected total amount of the community contributions (internal)
  - and, the school grants to be allocated to the school from the government (external)
2. **Explanation about the concept and the process of « Community Audit »**
  - The responsibility of the parents and the community members to the management of all of the funds allocated to the schools
  - Application of information-sharing and monitoring mechanism in the community at the all stage in resource management through General Assemblies to ensure the accountability and the transparency of all resources for the school.
3. **Discussions on the management, the security and the use of the funds**
  - the sketches related to the security and the management of funds

## Simulation 1: General Assembly of Communication/information on the funds

**Table 2: A Night at the financial secretary's home**

Introduction of the moderator: through the discussion in GA, the population of Naruto Village decides to keep the funds to the SMC's Financial Secretary.

a Thief is breaking in the Financial Secretary's house and takes all of the SMC money.

-the financial secretary (prosecuting the thief): she shouts "Stop thief! Thief! »

Julia's neighbors arrive for help and the panicked thief throws the bag containing the SMC money.

-the financial secretary (trembling): "Chairperson, I don't want to keep this money anymore; tomorrow, we must call the people for an extraordinary General Assembly to decide what to do with this money."

In view of the events at the financial secretary, the community of Naruto village has, in extraordinary General Assembly, proposed to open a bank account or buy all of materiel in bunk as soon as possible.

### • Lessons from the sketches?

- ❖ School grant funds and/or other funds, especially when it is a big amount, should not be kept at home. It must be secured by making bulk purchases or by opening an account in a nearest bank or microfinance institution depending on the situations;
- ❖ In the case that the SMC has a bank account, the chairperson and financial secretary, who are the co-signers, are to be in charge of making withdrawals;

## Contents

1. **Announcement of receipt of external and internal funds** (school grant funds, contributions, other funds)
  2. **Recall of objectives of school grant and others to be achieved**
  3. **Presentation of the documentary evidences for the receipt of grants and other funds:** contribution register, discharge, cheque, slips, bank booklet, etc ;
- ❖ **Reception of funds during the GA**
- Count the funds in the front of the community member (SMC chairperson, Financial Secretary)
  - Sign the discharge in public by the SMC chairperon and Financial Secretary ;

## Sketch 1: security of funds

• **Actors:** the SMC Chairperson, the SMC Financial Secretary, the Headteacher, the thief, the neighbors, the other members of the SMC, a bookseller

**Table 1: In the General Assembly for presentation of school grant, contributions and other funds**

The population of Naruto Village are eagerly awaiting the start of the General Assembly.

A moment later, the SMC Chairperson speaks and addresses the community:

"Population of Naruto Village, as you know we have just received the donation from a NGO whose amount is calculated on the basis of our 100 pupils. So we received an amount of 100,000 yen. Also, until today, an amount of 500,000 yen contributions from parents of pupils is in our fund."

At this level the chairperson shows the community, according to the case, the money or the documents which evidence the amount of the funds announced.

-**The headteacher of the school:** "Chairperson, where will we keep the money?"

-**Financial Secretary :**"Chairperson, you don't have to ask such a question, of cause, I will keep that money. I am a Financial Secretary of the SMC. it's my role. People of Naruto, don't worry, our money will be kept safe in my home"

-**A member of the Community:** No my friend, don't take this risk, I think it is better to put our money in the bank or we can buy all of necessary material in bulk ; it's more secure and....

-**Another member of the community :** "my friend, we always trust you, you can actually keep our money at home; the bank is complicated, we are not going to bring our money to the city and we have to pay an account-keeping fee to the bank. »

-**The community:** that's it!! we agree. (clapping hands)

## 2<sup>nd</sup> : General Assembly for reception/presentation of founds

- What is the objective of this GA?
- What topics should be discussed to meet the objective?
- How to facilitate this GA ?

### Importance of this GA

- It's a framework which allows all stakeholders to be informed and to bear witness to the receipt of school grant funds and other funds; external funds (school grants from the gov. or other partners) and internal funds (total amount of parents/community contribution);
- It is a meeting of testimony, awareness raising, and engagements/commitments for the appropriate management of allocated funds to the school/SMC

## Simulation 2: GA Reception/presentation of funds

• **Actors in the scene:** the Chairperson, the Financial Secretary, the headteacher, the other members of the SMC

**Table: In General Assembly for grant presentation**

- SMC Chairperson: "Population of Naruto village, Good Morning and thank you for coming today. As you know, we were the district education office to receive the school Grant. And as you also know we are required to show you the amount received for our school. And see with you the steps you need to take to secure it."

- a member of the community: "Mr. Chairperson, so from now on we will no longer have to make parents' contributions for our school?";

- another member of the community: "No my friend, I believe that at the General Assembly for Fund Information, the members of the SMC made it clear that this is a support for our efforts and that contributions must continue"

- SMC Chairperson: "Yes, as he said, I think we had already this at the General Assembly for Fund Information, that not only is the grant a support and does not exclude routine contributions; but also that it must be used to improve the basic learning performance of our pupils and that the amount is calculated on the basis of the official number of pupils due to 500 yen per pupil. For our school the headteacher will tell you the overall amount."

- Headteacher of the school: "Thank you Chairperson, for our school, the total number of pupils is 100. Who will tell us the exact amount that our school should receive?";

- Tiana: "Director! you said it's 500 yen per pupil no! So that's 50,000 yen."

- SMC Chairperson: "Indeed, we received exactly 50,000 yen, as Mrs Tiana said, and as the discharge and copy of the cheque (the Chairperson showing the discharge and copy of the cheque) attests. Besides, can someone come and check it out? Starting next week, we will go to the Bank to withdraw our 50,000 yen. Maybe we'll even make some purchases"

- Applause from the community!!

### 3rd Step : General Assembly for Presentation of Purchases

- Why present the purchase in public?

#### Presentation of purchase, Why ?

- To ensure the climate of confidence by being accountable and transparent in management: in order to fulfil accountability and transparency of the use of funds, the actual amount of the total price of the items purchased requires to be perfectly corresponding with the funds used and the accounting record

#### In GA, for the purchase in bulk or the service delivery and in the SMC meeting, for the small quantity of purchases

- Presentation of items purchased or services delivered
- Explanation of every procedure in the purchase (withdrawing the money, travel for shopping, choice of items/shops)
- Presentation of all of documentary evidence(receipt, bills, etc.)

### Simulation 3: GA Presentation of purchase

- **Table:** In General Assembly presentation of purchased supplies
- **Introduction:** the Chairperson and the Financial Secretary are now back home, the Chairperson convenes a General Assembly to present the purchased items to the community.
- **SMC Chairperson:** "As you know, we went to town to purchase the supplies planned in our School Action Plan ; Here we are today to present the items we have purchased; I therefore ask the Financial Secretary to proceed with the presentation of the items and receipts for purchases"
- the Financial Secretary after reporting on the mission, present supplies and receipts. Community members conduct an effective audit of the quantity of supplies and compliance of the documents submitted.
- **SMC Chairperson:** "Thank you the financial secretary for this faithful report of our mission, we will now hand over these supplies to the Headteacher"
- The school headteacher recording the articles in the subject accounting book.

### 4th Step : General Assembly of Review

- Why the GA mid-term review and annual review is necessary?
- What should the SMC present to the community during these GA?

#### Necessity for the presentation of the reviews

##### ☐ Mid-term Review

- To ensure that all the members of the community have information to the extent about the management of all school/SMC funds as well as the results of activities carried out for a certain period

##### ☐ Annual Review

- To show the revenue, the expenditure and the final balance of this year. The annual balance sheet works as evidence of transparency in financial resource management.

#### Presentation topics during GA reviews

##### 1. Financial situation (mid-term and annual) by the SMC Financial Secretary

he must prepare in advance :

- Mid-term or annual Balance sheet (financial report);
- All of documentary evidence and accounting tools (account book, bank booklet, achieve book, etc.);

##### 2. During each GA, the SMC must inform the participants:

- The amount of receipts, expenses and balance;
- physical achievements (purchased items, supplies, manuals, additional study materials, etc.) as part of their activities;
- Documentary evidences of purchases
- Situation/results of the control by SMC M&E/Auditor

NB: During the GA of Review, there are 3 topics should be presented :

- 1) Pupils' assessment/achievement test results (comparative)
- 2) Review of activities
- 3) Financial review (balance sheet)

## OUTLINE OF SMC FINANCIAL MANAGEMENT

### Roles and responsibilities in SMC resource management

#### SMC chairperson

- Authorizing payment/expenses
  - To sign the authorisation of expenditure of funds
  - To approve the expenses

#### Financial secretary

- Keeping SMC funds (petty cash);
- Keeping SMC's resource management tools up to date;
- Ensuring effective and transparent management of SMC's petty cash and bank account;
- Paying the expenses of the SMC in accordance with the School Action Plan validated after the authorization of SMC chairperson;
- Ensuring compliance in each transaction and obtaining the corresponding documentary evidences;
- Archiving and making available all documentary evidences for expenses or payments made;
- Presenting SMC's financial situation whenever requested

## Sketch 2: the receipts and expenses operation of funds

**Actors in the scene:** the Chairperson, the Financial Secretary, a parent of pupils, a member of the SMC, the supplier.

**Introduction:** the Financial Secretary is a first responsible for the management of SMC's financial resources. To do this, he must keep a record that will be very useful for accountable and transparent management of financial resources throughout the year. Through this sketch, we will see how the Financial Secretary should keep a record, fill in, archive the various management tools."

### Table 1: At the house of the Financial Secretary

- A member of the community : "Mr. Financial Secretary, this is 500 yen, the contribution of our family."
- Financial Secretary: "Thank you Mary! Wait, please. I'll write in the contribution register . (he writes in the notebook) that's OK! thank you goodbye! »
- Marie: "Wait! no receipt to justify my payment? I did not sign the register either!?" »
- Treasurer: "Ah! Sorry, Mary!! You are right! here's your receipt and sign here"

### Table 2: At the house of the SMC Chairperson

- A member of the SMC, responsible for repairing the desks : "Mr. Chairperson, as you know we planed the purchase of boards that will be used to fix the desks, I need the certificate of deposit for 1000 yen to take the money from the Financial Secretary."
- Chairperson: "Ah well! we are planning to buy boards in our school Action Plan? I'll see in my copy" (the Chairperson is desperately looking for his copy of the Action Plan in the mess, then finally finds it and signs the certificate).
- Mike: "Thank you, I'm going to the Financial Secretary"
- Chairperson: "Wait for Mike! Don't forget to go to the headteacher first to pick up his signature for "via" ! »
- Mike: "That's right! I'm going to go to the headteacher first and continue with Financial Secretary."

### Table 3: At the house of Financial Secretary

- Mike: "Mrs. Financial Secretary, I am here to take the sum of 1000 yen for the purchase of boards in our School Action Plan to fix the desks."
- The Chairperson: "Where is the certificate signed by the Chairperson via the headteacher?"
- Mike: "Here it is"
- The Financial Secretary: "Okay! I check the Chairperson's signature and the objective for which the certificate was."
- Mike: "Okay, that's normal!"

After verification, the Financial Secretary hands over the authorized amount and Mike goes to the market.

### Table 4:

- After making the purchase, Mike brings back boards and a supplier's bill for the Financial Secretary
- Financial Secretary: "But, Mike, your supplier didn't sign up on the bill for the payment, in addition, the number of boards purchased is not mentioned. You have to go back to correct it. »
- Mike: "Oh my god! You are right. Wait for me here I'll be right back" (Mike comes out and comes back with a valid bill that he gives back to the Financial Secretary)
- The financial Secretary: "That's it, this one's good! I'm going to record it in my account book and staple it to the archive book" (the Financial Secretary out).

### • Lessons from the sketches?

- ❖ The Financial Secretary is responsible for the management of petty cash
- ❖ The withdrawal of petty cash must always be made with the certificate of deposit signed by the Chairperson of the SMC and agreement by the headteacher of the school;
- ❖ The receipts and/or expenses of money must be written in the account book;
- ❖ The receipts and/or expenses of money should be always proved by the documentary evidences in accordance with the expenses made.

## Sketch 3 : Use and management of funds

Introducing the moderator:

The Naruto SMC now has the school grant and community/parents' contributions. It was planned in its School Action Plan ,the purchase of 150 notebooks and 2 packs of pens for an amount of 2500 yen. To do this, the Chairperson and the Financial Secretary were in charge of the purchase of these supplies planned by the School Action Plan. The Chairperson and the Financial Secretary then travel by a bus to make purchases in the city. They appear in front of a bookseller and begin to exchange:

### Table 3: on the way to the bookstore

- The Financial Secretary (scratching his head):** "Chairperson, my son asked me to buy him a nice bag, I will borrow 1000 yen which I will pay back as soon as we return."
- Chairperson (determined attitude):** "No, no, Julia, there is no question! This money is intended for the purchase of our children's supplies as we planned in the School Action Plan, no more! Again, after the return, we have to present the purchases and balance sheet to the community! you should never do a few things that you can't explain to them and lose their confidence!! »
- Financial Secretary:** "Excuse me, Mr. Chairperson, you are right."
- Chairman:** "Julia! Look over there, this is the bookstore we chose after the price comparison. There, their goods are cheaper and of good quality! »
- The Financial Secretary:** "But, Chairperson. Your cousin has a bookstore, doesn't he? Even if the goods are more expensive in your cousin's bookstore, won't it be better to buy the supplies from your cousin? because he is your family..."
- Chairperson:** "No, no!!La community gave us his confidence to manage our school's funds. We need to use all resources effective and efficiently! The prices have already been compared between several bookstores; it's out of the question to buy the most expensive supplies! it's a waste !!! »
- The Financial Secretary:** "Sorry, you're right! it's down there! »

### Tableau 4 : at the bookstore

- **Chairman:** "Mr. Bookseller, we need some supplies: 50 notebooks of 200-pages, 50 notebooks of 100-page, 50 notebooks of 50-page and 2 packs of pens; Do you have these items? ».
- **The bookseller (showing the shelves):** "Of course, we can complete your needs; the 200-page notebooks are at 150 yen per unit, those 100 pages at 100 yen and the 50 pages at 50 yen. a pack of pens sells for 500 yen. So the total amount is 8000 yen."
- **The bookseller makes a packet of the purchased items. The Financial Secretary makes the payment. The Chairperson and the Financial Secretary take the packet and leave the bookstore.**
- **Financial Secretary:** "Chairperson, we did not take a receipt for purchase; how are we going to justify these purchases when we get back."
- **Chairperson:** "Ah yes! You're right, let's go back to the bookstore and get the receipt."
- **Financial Secretary:** "Mr. Bookseller, we came back to get a receipt for the purchases we made at your shop."
- **The bookseller takes his notebook and establishes and hands the receipt to the SMC of Naruto.**

### • Lessons from the sketches?

- ❖ Only purchases validated in the School Action Plan are permitted;
- ❖ Before making purchases, price comparison is important to use the funds effective and efficiently;
- ❖ Any purchase made from the SMC fund must be justified by a receipt or bill ;
- ❖ The Financial Secretary must ensure the quality of the items to purchase before making the payment;
- ❖ Never forget to take a receipt or bill after purchases;
- ❖ Check the validity of the receipt or bill before leaving the seller.

## FINANCIAL MANAGEMENT TOOLS

## Management tools (account documents)

Main financial management tools in 5 categories :

- 1) **Tools of contribution record :** contribution register ;
- 2) **Tools of authorisation of expenses :** certification of deposit ;
- 3) **Tools of documentary evidence of expenses :** receipt, bill, invoice, withdraw/deposit slips ;
- 4) **Tools of traceability:**
  - Account book
  - Balance sheet ;
  - Bank booklet, etc
- 5) **Tools of archiving:** archiving book for receipt, bills

## (1) Contribution register

Region: Tokushima  
District: Naruto  
SMC: Naruto North

Parents of pupils' Contributions register  
School year : 2019-20

Date of payment	Name of parents	Amount of payment	Sign of payer
15/10/2019	Mike XXX	100	
15/10/2019	Boubacar VVV	100	
22/10/2019	Mary OOO	200	
22/10/2019	Adam WWW	500	
30/10/2019	Michael YYY	100	
<b>Total amount in month October 2019</b>		<b>1000</b>	
05/11/2019	.....	100	

## (2) Request form/certificate of deposit

Region: Tokushima  
District: Naruto  
SMC: Naruto North West

Request Form No.1

Item for: 20 notebooks  
Request amount: Thousand yen (1000 yen)  
Handed over to: Adam Samuel  
Date: 07/04/19

Signature:

(Requester) (Headteacher) (SMC Chairperson)

## (3) Receipt/bill

What kind of elements must be shown in the documents?

1. The date
2. Supplier's first and last name
3. The seller's address and contact number
4. SMC name
5. Quantity
6. Description/item
7. Unit cost
8. Total amount
9. The sum in letter
10. The seller's signature and stamp
11. "Paid" stamp/date/signature

Customer name (SMC of ...)

date

Information of the supplier/provider such as: Supplier/provider name, Precise address, Phone number.

purchase information such as: Quantities, Descriptions, unit cost, Total amount of price, sum

Supplier signature

Example of a receipt:

Region: Tokushima  
District: Naruto  
SMC: Naruto North  
School year: 2019-20

Customer name (SMC of ...): Naruto North West  
Receipt No. 009

Specific purchase information such as:  
Quantity, Description, Unit cost, Total price, sum

Description	Quantity	Unit cost	Price
Box of chalk	2	1000	2000
Pencil	50	20	1000
<b>Total</b>			<b>3000</b>

Total amount: 3000 yen  
Set this bill at the sum of: Three thousand (3000) yen

Supplier signature: Mike Toon

## (3) Receipt/bill

Example of a bill issued by a supplier:

Region: Tokushima  
District: Naruto  
SMC: Naruto North  
School year: 2019-20

Customer name (SMC of ...): Naruto North West  
Bill No. 019

Specific purchase information such as:  
Quantity, Description, Unit cost, Total price, sum

Description	Quantity	Unit price	Sum
packet of chalk	2	800	1600
Pencil	50	20	1000
<b>Total</b>			<b>2600</b>

Total amount: 2600 yen  
Set this bill at the sum of: Two thousand six hundred (2600) yen

Supplier signature: Mike Toon

Example of a receipt:

Region: Tokushima  
District: Naruto  
SMC: Naruto North  
School year: 2019-20

Customer name (SMC of ...): Naruto North West  
Receipt No. 009

Specific purchase information such as:  
Quantity, Description, Unit cost, Total price, sum

Description	Quantity	Unit price	Sum
packet of chalk	2	800	1600
Pencil	50	20	1000
<b>Total</b>			<b>2600</b>

Total amount: 2600 yen  
Set this bill at the sum of: Two thousand six hundred (2600) yen

Supplier signature: Mike Toon

## (4) Account book

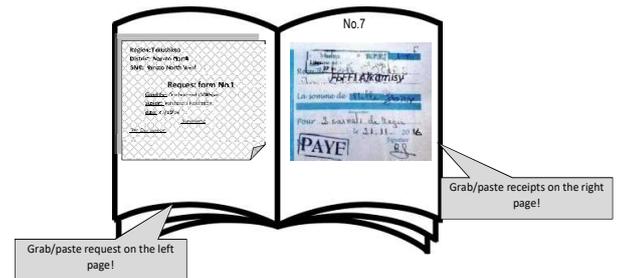
Region: Tokushima, School year: 2019-2020  
District: Naruto North  
SMC: Naruto North West

Account book

Date	Document No.	Description	Petty cash			Bank		
			Income	Expenses	Balance	Deposit	Withdrawal	Balance
10/10/19		brought forward			5500			0
12/10/19	Receipt No.001	Purchase of small materials for remedial studies		2000	3500			0
15/10/19	Receipt No.002	Payment supplement book of pupils		1900	2000			0
19/10/19	bankbook	Receiving School capitulation grants to the account			2000	2000/0		20000
17/10/19	Withdrawal slip No.1	Withdrawal from the bank			2000		7000	19000
17/10/19	Withdrawal slip No.1	Withdrawal to the petty cash	7000		9000			19000
20/10/19	Contribution register book	Contributions from parents of pupils	5000		14000			19000
		Total balance carried forward			14000			191000

## (5) Archive file/book

Example of an archive book page



## (6) Balance sheet (financial report)

Region: Tokushima  
District: Naruto North  
SMC: Naruto North West  
School year: 2019-2020

Balance Sheet

Inputs	Contents	Amount (yen)
Revenue	Contribution from parents of pupils	100,000
	Community contributions	50,000
	School grant	150,000
	Donation from NGO (Wale)	50,000
<b>Total revenue</b>		<b>450,000</b>
Expense	Purchasing Materials	100,000
	Purchasing Supplies	90,000
	Reading materials	100,000
	Purchasing office supplies	30,000
	Organization-related routine	50,000
	Participation in GA Federation	10,000
<b>Total expense</b>		<b>470,000</b>
<b>Balance</b>		<b>80,000</b>

The 1st Financial Statement of Naruto North West SMC (Naruto)  
Naruto North West - 10/20/2019

## CASE STUDY: MANAGEMENT TOOLS

### Case study (1)

SMC Naruto (Tokushima region, Naruto District) has decided to implement the activity to purchase 5 reading books for student's group studies. The price for each book is 500 yen. Two members of SMC, Ms. Mary and Mr. Adam, were appointed to purchase the books and they are going to buy the books on 20 October 2019.

**Instruction:** Complete a Request form (certificate of deposit) by filling necessary information.

### Case study (2)

- October 1, 2019, the balance in petty cash is 4,500 yen and The bank balance is 0 yen;
  - October 15, 2019: income to the petty cash of 9,000 yen of parental contributions;
  - October 20, 2019: receiving funds 100,000 yen School Grant in the bank account;
  - October 21, 2019: Disbursement of 600 yen in the petty cash for the assumption of travel expenses of the Chairperson and Financial Secretary to make a withdrawal at the bank and make purchases of the workbooks;
  - October 21, 2019: Withdrawal: 80,000 yen from the bank
  - October 21, 2019: Purchase 200 exercise workbooks: 70,000 yen
  - October 21, 2019: Deposit 10,000 yen in petty cash back
- Instruction:** Record all transactions in the Account book of SMC Naruto (Tokushima region, Naruto District)

### Case study (3)

SMC Naruto purchased the school supplies as follows at the ABC shop on October 5, 2019.

- 2 packets of chalk (1000 yen each) ;
- 20 pencils (10 yen each) and
- 5 notebooks (200 yen each).

**Instruction:** Complete the receipt by filling the necessary information

### Case study (4)

The 2 representatives of SMC Naruto (Tokushima region, Naruto District) are going to the bank to buy some reading books for pupils on 25 February, 2019 following the school action plan made by SMC.

In order to reach the bank, they took the public bus and the cost was 200 yen per person. However, the driver did not have receipts and they have decided to use the receipt elaborated by their SMC.

**Instruction:** Complete a Receipt by filling necessary information in the case above.

## Case study (5)

<p>During the 2019-2020 school year, the Naruto SMC (Tokushima region, Naruto District) carried out the following operations:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2018-2019 school year balance (carried forward) : 21200 yen</li> <li>- Raising contributions from parents of pupils and the community for 128000 yen;</li> <li>- Repairing of desks 45500 yen;</li> <li>- Receiving a school grant of 188000 yen;</li> <li>- Purchase of 100 pupil workbooks for a cost of 99000 yen</li> <li>- Receiving a contribution from Local Association for 15000 yen;</li> <li>- Purchase of material for in-school teachers' training 9500 yen;</li> <li>- Support for Remedial Studies for pupils at a total cost of 7500 yen</li> <li>- A school security guard salary for 12 months at an overall cost of 120000 yen</li> </ul> <p><b>Instruction: Make the SMC Financial report</b></p>
--

## Case study :Groups

Groups	# participants	participants			case
		Ghana	Mali	Mozambique	
1					(1) to (5)
2					(1) to (5)
3					(1) to (5)
4					(1) to (5)

- Preparation : 20 mins
- Presentation of groups : 5 mins per group
- Discussion : 10mins

# SIMULATIONS OF COMMUNITY AUDIT PROCESS BY THE PARTICIPANTS

## Instruction of groupwork

- Prepare and Simule the following stapes:
- 1) GA of communicatio/information on the funds
  - 2) GA for presentation of funds
  - 3) GA for presentation of purchases
  - 4) GA annual review

## Simulations: groups

Groups	Num participants	Participants			Simulation
1	3				(1)
2	2				(2)
3	2				(3)
4	2				(4)

- Preparation : 25 mins
- Presentation of groups : 5 to 10 mins per group
- Discussions : 10mins per group

# JICA Training System for the well-functioning SMC model

Strategies and Techniques of capacity development for effective community involvement

## Somme key factors in the functionality of SMC

- Entire support of the whole community through the democratic election;
- Community participation through the process of formulation, implementation and monitoring/evaluation of School Action Plan;
- **Transparent management** of resources and results through information-sharing
- **Sustainable community participation** through the system of monitoring/mentoring

*How to lead the actors to develop these points?*

Introduction of the **mechanism** into the community-school which can facilitate the **sustainable community participation**

**Capacity development** of principal actors for **leading the communities to be involved** in the matters of school

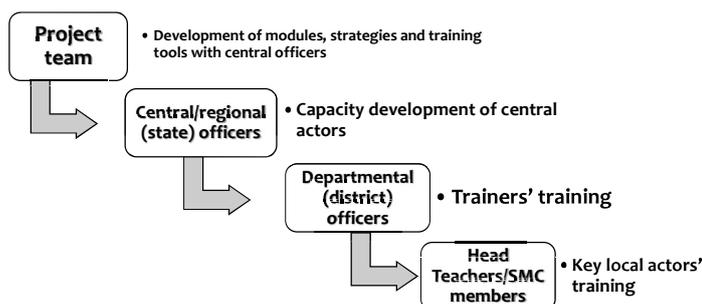
## What kind of training is provided for the JICA model of well-functioning SMC?

1. Democratic Establishment of SMC
2. Community participatory Planning of School Action Plan : Process of formulation, implementation and monitoring/evaluation of School Action Plan for the Quality
3. Resource Management: Community Audit and management tools
4. Democratic Establishment of Federation of SMC
5. SMC Monitoring System

## WHAT STRATEGIES FOR CAPACITY DEVELOPMENT OF ACTORS OF WELL-FUNCTIONING SMC ?

- Targets for the training
  - Education officers in different level as a trainer and a monitor/mentor
  - the keys actors in the community (head teachers, SMC members)
- Information-sharing in cascade mechanism
  - Cascade training
  - Information-sharing through SMC meetings, teachers' meeting and General Assemblies
- Techniques for carrying out the trainings and the information-sharing with communities
  - Simulations (role-playing) and sketches by the participants at the training sessions
  - Sketches with the community members during General Assemblies.

## System of the training (cascade training)



## Mains Objectives of the trainings

Topics	Objectives
Democratic election for the establishment of SMC	• To lead the headteachers into promoting the election of qualified human resources to lead and activate the SMC and the community participation
Process of formulation, implementation and monitoring/evaluation of School Action Plan	• To lead the SMC into mobilizing the community to solve the problems of the school ; • To lead the SMC to turn the community's resources into outcomes for improving the education in village
Resource-management: Community Audit	• To lead the SMC and also the community to acquire the mechanism of transparent and accountable resource-management

## Agenda (1): Democratic establishment of SMC

### Trainers' Training

- Duration: 2 days
- Trainers: central trainers (officers and project team)
- Participants: regional/departmental level education officers in charge of SMC
- Tools: training support materials, manual, election kit, tentative agenda for local actors' training
- Agenda Day1:
  - Necessity of well-functioning SMC
  - Process of SMC establishment
  - Role-playing of Meetings and General Assemblies by trainers and trainees
- Day2: Simulation of training sessions and preparation of local actors' training

### Key local actors' training

- Duration : 1 day
- Trainers: regional/departmental level education officers in charge of SMC
- Participants: headteacher (+)
- tools: training support materials, manual, election kit
- Agenda
- Day 1
  - Necessity of well-functioning SMC
  - Process of SMC establishment
  - Simulation(Role-playing) of Meetings and General Assemblies by trainers and trainees

## Agenda (2): School Action Plan and Resource Management

### Trainers' Training

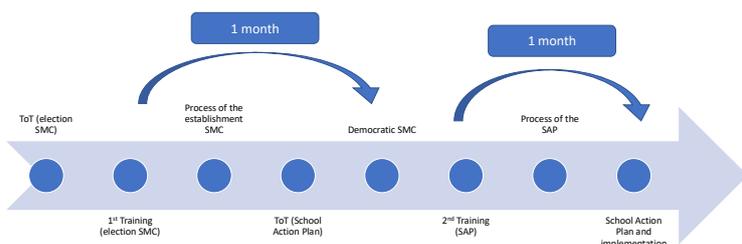
- Duration: 3 to 4 days
- Trainers: central trainers (officers and project team)
- Participants: regional/departmental level education officers in charge of SMC
- Tools: training support materials (examples of assessment results, School Action Plan, account documents), manual, tentative agenda for local actors' training etc
- Agenda
- Day1: School Action Plan
  - Process of School Action Plan
  - Simulation/Role-playing of teachers/SMC Meetings and General Assemblies by trainers and trainees
- Day2: Resource Management/community audit
  - Overview of resource management
  - Community audit and the process
  - Simulation/Role-playing of General Assemblies on community audit by trainers and trainees
  - Resource management tools
- Day3: Simulation of training sessions and preparation of local actors' training

### Key local actors' training

- Duration : 2 days to 3 days
- Trainers: regional/departmental level education officers in charge of SMC
- Participants: chairperson SMC, headteacher, person in charge of resource management
- Tools: training support materials (examples of assessment results, School Action Plan, account documents), manual, etc
- Agenda
- Day1-2: School Action Plan
  - Process of School Action Plan
  - simulation/Role-playing of teachers/SMC Meetings and General Assemblies by trainers and trainees
- Day2-3: Resource Management/community audit
  - Overview of resource management,
  - Community audit and the process
  - Simulation/Role-playing of General Assemblies on community audit by trainers and trainees
  - Resource management tools

NOTE: BETTER TO USE A LOCAL LAUNGAGE, if possible

## Overview schedule



## Preparation of ToT

### Technical preparation for organizing training sessions

1. Identify :
  - trainers and participants per topic
  - duration and time-schedule (date) per topic
2. Prepare the manuals/guides for the trainings
3. Prepare the agenda for the trainings including the parts of *discussions, demonstration and simulation/role-play*
4. Prepare the training materials with locally available materials
5. prepare other logistics

### Main Points of ToT Agenda :

#### Establishment of SMC

1. **Interactive explanation through discussion, sketches, Q&A, etc :**
  - Necessity of well-functioning SMC and democratic election by secret vote
  - SMC establishment process (stages) : objectives of each stage, discussion points, facilitation skills, ...
2. **Simulation/role-play (demonstration) by the trainers :** meetings with key stakeholders, GA for information, GA for election
3. **Simulations/role-play by the participants:** meetings with key stakeholders, GA for information, GA for election
4. **Planning of the future activities :** meetings, GA for information, GA for election, establishment of SMC, collect of minutes
5. **Simulation and preparation of headteachers' training:** tentative agenda

## Training support materials/tools

- Definition, objectives, Composition, Roles/attributions of SMC and the members,
- Diagram of the process for SMC democratic establishment ;
- Main points of each stage for establishment : objectives, discussion points, etc.
- Diagram of the steps in GA for election
- List of Election kit (ballot box, ballots, list of voters, voting booth, dustbin, envelops, minute)
- Scenario of sketches, simulations (if necessary)
- etc.

## Main Points of ToT Agenda :

### formulation, implementation and monitoring/evaluation of School Action Plan

1. **Interactive explanation through discussion, sketches, Q&A, etc :**
  - The concept of School Action Plan for the Quality
  - The steps of formulation, implementation and monitoring/evaluation process of School Action Plan for the Quality : objectives of steps, discussion points, facilitation skills
2. **Simulation/role-play (demonstration) by the trainers :** teachers' meeting, SMC meeting, GA for problem solving, GA for validation of School Action Plan, GA of review
3. **Case study :** making a draft of School Action Plan
4. **Simulations/role-play by the participants :** teachers' meeting, SMC meeting, GA for problem solving, GA for validation of School Action Plan, GA of review
5. **Planning of the future activities :** : teachers' meeting, SMC meeting, GA for problem solving, GA for validation of School Action Plan, collect of School Action Plan
6. **Simulation and preparation of SMC training**

## Training support materials/tools

- Diagram of the formulation, implementation and monitoring/evaluation process of School Action Plan for the Quality;
- Main points of each stage for establishment : objectives, discussion points, etc.;
- Tables and graphs of pupils' assessment (achievement test) results (baseline, end-line);
- Forms of School Action Plan for the Quality and the review ;
- Examples of School Action Plan and the review ;
- Case study
- Scenarios of sketches, simulations (if necessary)
- etc.

## Main Points of ToT Agenda :

### Ressource management/Community Audit

1. **Interactive explanation through discussion, sketches, Q&A, etc :**
  - The Outline of SMC ressource management
  - The concept of Community Audit
  - the steps of Community Audit Process : objectives of steps, discussion points, facilitation skills
  - Management tools (account tools)
2. **Simulation/role-play (demonstration) by the trainers :** GA for communication, GA for presentation of funds, GA for presentation of purchases, GA of review
3. **Case study :** Management (account) tools
4. **Simulations/role-play by the participants :** GA for communication, GA for presentation of funds, GA for presentation of purchases, GA of review
5. **Simulation and preparation of SMC training**

## Training support materials/tools

- Diagram of Community Audit Process ;
- Main points of each stage for establishment : objectives, discussion points, etc.;
- Kit for the sketches : notes, purchases, etc...;
- Forms and examples of mangement tools (account tools) ;
- Case study ;
- Scenarios of sketches, simulations (if necessary)
- etc.

Simulations of training sessions by the participants (Day5)

## Instruction for the session on Friday, February 7th

➤ Prepare and Simulate the training session for 3 topics :

- 1) Training on the establishment of community-based SMC through democratic election
- 2) Training on the Process of formulation, implementation monitoring & evaluation of quality-oriented SMC school action plan
- 3) Training on SMC Resource management/ community audit

**Note:**

- (1) The training sessions (simulations) must be conducted without PC (power point);  
(2) The necessary tools for the training session (simulation) must be prepared with craft paper to conduct the training sessions (simulation).*

## Grouping (to be confirmed)

Group	# of participants	Participants	Topic See the details
1			<b>SMC Election (1)</b>
2			<b>SMC Election (2)</b>
3			<b>School Action Plan (1)</b>
4			<b>School Action Plan (2)</b>
5			<b>Resource Management</b>

- Preparation : Feb 6<sup>th</sup> (2 hours)
- Presentation : 20 min per group
- Discussion and Wrap up : 20 min per group

## ⑧ DAC 評価 5 項目

(1) 妥当性：非常に高い

ニジェール国の政策

ニジェール国政府は、「教育及び研修・職業訓練セクター計画戦略文書（PSEF）2014～2024」の中で、初等教育の3つの主要な柱の一つに生徒間の公平性の改善を打ち出し、前期中等教育の重点として、就学率及び残存率の向上や、学習の質の改善を掲げ、横断的なテーマとして、女子の就学促進と女子のための教育の質の改善を強調しているが、これらを推進するために、校長、教員代表、保護者会代表、母親会代表から編成される学校運営委員会（初等教育では「CGDES」、前期中等教育では「COGES-ES」）の役割や能力、学校運営に関する権限の強化を図ることが明記されており、プロジェクトの目的はニジェールの国家政策に合致している。

ニジェール国民のニーズ

前期中等教育総就学率はプロジェクト開始前の2014/2015年度では29.5%であり、総就学率のジェンダー平等指数は0.7と低く、地域間の格差が大きかった。同じ学年度において前期中等教育修了率も17.8%と極めて低い状況であり、教育のアクセスおよび質の向上へのニーズは非常に高い。

初等教育においては、総就学率は近年改善の傾向にあり、例えば2014/2015年度においては74.2%であった。しかし、児童の学習達成度は非常に低い水準にあり、2014年の仏語圏アフリカ共通学力テスト（PASEC）において、調査対象の2年生及び6年生において言語・算数ともに全10カ国中最下位であった。このような状況において、同国における児童の学びの改善へのニーズは非常に高い。

日本政府の援助政策

日本政府は、教育へのアクセスと質の向上をニジェール国への援助政策重点分野の1つとしており、女子就学率の向上にも配慮しつつ、初等・中等教育へのアクセス改善や、教育内容及びマネジメントの質的向上に貢献することを目指しており、プロジェクトは日本の援助政策と合致している。

またプロジェクト期間中に日本政府の経済社会開発無償によりマラディ州への算数副教材配布が決定し、プロジェクトではこの援助政策に沿って、講師研修、現場研修、行政官の能力強化への技術支援を行った。

(2) 有効性：高い

本プロジェクトのPDMは、プロジェクト達成のために、成果1「前期中等学校における機能する学校運営委員会モデルが、対象州の前期中等学校及び中高併設校において普及される」と成果2「対象州の小学校において質のミニマム・パッケージが普及される」から構成される。これらの成果は、プロジェクト目標の中での基礎教育の範囲が初等教育と前期中等教育であること、さらにそれぞれの段階におけるプロジェクトからの介入範囲が違うことを示している。そのため、プロジェクト目標の指標1と2が成果1、指

標 3 から 6 - 4 が成果 2 の達成度を測る指標となった。

これらの指標でそれぞれの成果の達成度を確認すると、成果 1「前期中等学校における機能する学校運営委員会モデルが、対象州の前期中等学校及び中高併設校において普及される」では、目標である「学校運営委員会モデル普及」を達成したのみならず、普及後も COGES および COGES 連合が機能していることが示されている。成果 2 についての指標の達成度をみると、7 つある指標の 2 つだけ未達成となっているが、その指標は、テストスコアは改善しているが、設定されていた改善度より低いといった指標であり、成果 2 についてもほぼ達成されたと評価できる。

なによりも重要なことは、プロジェクト履行期間が延長となった 2020 年 6 月以降の活動が、それぞれの成果に付加価値を加え、プロジェクト目標の達成度を高めたことである。具体的には初等教育省の要請により、質のミニマム・パッケージの対象州を増やし、飛躍的に裨益者を増加させたこと、新しく開発した学力改善モデル（PMAQ - PMN）をニジェール政府が承認し、当初の対象州以外 2 州（タウア州、ニアメ市）へ普及したことにより、対象児童の学力が改善されたこと、さらに初等及び中等教育省の要請により、女子就学改善モデルを開発、全小中学校に UNICEF と連携、普及し、女子のみならず、男子の中退者の大幅な減少させたことなど、プロジェクトの達成度を大幅に改善した。

### （3）効率性：高い

本プロジェクトは、2016 年 12 月から 2020 年 5 月までの履行期間で計画されていたが、2019 年 10 月に行われた運営指導調査により、前期中等教育における継続的な学校運営委員会モニタリング支援の必要性、および初等教育における経済社会開発無償によるマラディ州への質のミニマム・パッケージ普及の必要性からプロジェクト履行期間が 2021 年 3 月まで延長され、その後、コロナ禍の継続的な影響により 2021 年 6 月までプロジェクト履行期間が延長された。この延長により、初等対象校は 3500 校から 11000 校へと大幅に拡大し、それに伴い日本側の投入である事業費および日本人専門家の投入を追加することとなった。

活動費用については、前期中等教育の機能する COGES 普及については計画通りで、1 生徒あたり約 700 円であった。初等教育の PMAQ 普及についてはモデル開発時点では 1 児童あたりにかかるコストは約 1500 円であったが、普及モデルとするために試行錯誤の上でコストを削減し、1 児童あたり約 200 円までコストを落とすことに成功した。

ニジェール側の投入については、初等、前期中等教育の学校運営委員会にかかるモニタリング費の負担は初等教育の一部のみ今フェーズ中に行われ、来年度以降は、国家予算に組み込むことが政策提言として採択された。また、プロジェクト事務所についてはプロジェクト開始当初は初等教育省から、その後は中等教育省から提供を受けた。

### （4）インパクト：高い（ただし上位目標の指標の改訂が妥当である）

2019/2020 年度に行った初等教育フォーラムによって新小学 1 年生の入学登録者数の増加に非常に大きく貢献したことが、今後初等就学率の向上に貢献する可能性がある。

また、2019/2020 年度の州教育フォーラム実施によって小学 1 年生、中学 1 年生の退学率と進級率の改善に貢献している。また、2019 年の PASEC においては、2014 年と比べてニジェールの成績と順位が改善し、小学 6 年生のうち、単語さえ読めない児童の割合は 31.7%から 9.1%、四則計算などの基礎的な学力を身に付けていない児童の割合は 68.4%から 43.7%まで大幅に減少している。

しかし、上位目標の達成には、プロジェクト目標が達成され、外部条件が満たされることが必要となる。本プロジェクト目標の外部条件は、「初等教育・識字・国語推進・市民教育省（MEP/A/PLN/EC）及び中等教育省（MES）の予算が保証されている」および「経済及び治安状況が著しく悪化しない」の 2 点であるが、政府の予算確保は難しい状況が続いており、治安については、2020 年 1 月よりティラベリ州では治安の悪化によりバイクでの移動が禁止されているなど、活動モニタリングが困難である地域もあり、これらが、上位目標の達成の障害となる可能性はある。

また、上位目標の指標については、退学率や修了率、CM2 年次評価合格率についてはプロジェクト目標である「前期中等学校における機能する学校運営委員会モデル普及」と「対象州の小学校における PMAQ 普及」のみではカバーできず、上記 2 点の外部条件が満たされたとしても、現在の上位目標の指標を達成できるとは考え難い。またコロナ禍において、学校が休校となる可能性なども踏まえ、指標については改訂が妥当である。

#### （5）持続性：中程度

「教育及び研修・職業訓練セクター計画戦略文書（PSEF）2014～2024」において、校長、教員代表、保護者会代表、母親会代表から編成される学校運営委員会（初等教育では「CGDES」、前期中等教育では「COGES-ES」）の役割や能力、学校運営に関する権限の強化を図ることが明記されている。また、初等教育においては、CGDES および CGDES 連合は既に省令化されている。前期中等教育においては、すでに省令化がされていた中等 COGES に加え、中等 COGES 連合の設置、役割・責務、機能にかかる省令案が今フェーズ中にプロジェクト支援により発令されており、政策面からのバックアップがある。

また、前期中等教育、初等中等教育においては、初等学校運営委員会（CGDES）、CGDES 連合、中等学校運営委員会（COGES-ES）、COGES 連合の活動総括分析を毎年行っているが、それぞれが機能している（活動が計画され、情報が共有され、活動に必要なリソースが動員され、活動が実施されている）ことが確認されており、活動実施体制及び実施技術は十分に備わっている。

初等教育の PMAQ-PMN は、初等教育省が行っている「学力向上プログラム（PMN）」にプロジェクト開発の質のミニマム・パッケージ（PMAQ）を統合する取り組みであり、PMN については来年度以降も持続的に実施される可能性が高い。

政府の予算確保については、今フェーズ中に経験共有ワークショップ、政策提言ワークショップなど、様々な機会において、機能する中等 COGES の持続性にかかるモニタリング費の予算確保や、PMAQ 普及予算の確保について議論を行ってきたが、これまでのところ教育省での予算確保は難しい状況が続いている。